



2025 年度 東北大学会計大学院シラバス

(PDF 版)

2025 年 4 月 1 日 現在

注意

- ・本会計大学院のシラバスは学務情報システムで掲載されております。本 PDF 版はシステムからプリントアウトしたものであるため、一部、体裁が乱れている箇所がございます。
- ・本 PDF 版のシラバスは 2025 年 4 月 1 日現在のものとなります。最新版は学務情報システムでご確認ください。
- ・授業方法、Google Classroom のコード、オフィスアワーなどのシラバスの追加情報はシラバス補遺で掲載しております（Google スプレッドシート、学内生のみ閲覧可能・要東北大 ID）

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1HNwLxubVOaZ-XescR3R-PEptKhrUsFOD6Xv6kaASLFw/edit?gid=1417069089#gid=1417069089>

目次

財務会計 1 / Financial Accounting 1	1
財務会計 2 / Financial Accounting 2	4
財務会計 3 / Financial Accounting 3	7
財務諸表分析 / Financial Statements Analysis	10
企業評価 / Firm Valuation	12
簿記 1 / Bookkeeping 1	14
簿記 2 / Bookkeeping 2	16
簿記 3 / Bookkeeping 3	18
公会計 1 / Public Accounting 1	20
I F R S 1 / International Financial Reporting Standards 1	23
I F R S 2 / International Financial Reporting Standards 2	25
財務会計の理論と実証 / Financial Accounting Theory and Analysis	27
事例研究 (I F R S) / Case Study (International Financial Reporting Standards)	30
管理会計 1 / Management Accounting 1	32
管理会計 2 / Management Accounting 2	34
管理会計 3 / Management Accounting 3	36
原価計算 1 / Cost Accounting 1	38
原価計算 2 / Cost Accounting 2	41
事例研究 (管理会計) / Case Study (Management Accounting)	44
事例研究 (原価計算) / Case Study (Cost Accounting)	46
監査 1 / Auditing 1	49
監査 2 / Auditing 2	51
監査 3 / Auditing 3	53
監査実務 I / Audit Practice I	56
監査実務 II / Audit Practice II	59
事例研究 (監査制度) / Case Study (Auditing System)	62
監査計画の編成法 1 / Audit Planning 1	64
監査計画の編成法 2 / Audit Planning 2	66
内部統制の実務 / Internal Control Practice	68
マクロ経済学 / Macro Economics	70
経営管理 / Business Management	72
経営戦略 / Management Strategy	74
コーポレートファイナンス 1 / Corporate Finance 1	76
コーポレートファイナンス 2 / Corporate Finance 2	78
グローバル経営 / Global Management	80
企業情報システム / Enterprise Information System	82
情報システム設計 / Information System Design	84

戦略情報システム導入／Introduce Strategic Information System	86
事例研究（情報システム設計）／Case Study（Information System Design）	88
情報セキュリティ／Information Security	90
統計学／Statistics	92
計量経済分析 1／Econometric Analysis 1	94
計量経済分析 2／Econometric Analysis 2	96
金融行政 I／Financial Administration I	97
金融行政 II／Financial Administration II	100
財務行政／Treasury Administration	103
企業法 1／Corporate Law 1	106
企業法 2／Corporate Law 2	109
法人税法 1／Corporate Tax Law 1	112
法人税法 2／Corporate Tax Law 2	114
消費税法／Consumption Tax 1	116
所得税法／Individual Income Tax	118
企業開示制度と実務／Corporate Disclosure System	120
事例研究（金融行政）／Case Study（Financial Administration）	123
事例研究（企業法）／Case Study（Corporate Law）	125
事例研究（法人税法）／Case Study（Corporate Tax Law）	128
会計職業倫理／Accounting Profession Ethics	131
ビジネス倫理／Business Ethics	134
事例研究（会計職業倫理）／Case Study（Accounting Profession Ethics）	136
ビジネス・コミュニケーション／Business Communication	139
ビジネス・プレゼンテーション／Business Presentation	141
ビジネス・コミュニケーション／Business Communication	143
英文外書講読 b／Academic Reading b	145
ワークショップ a／Workshop a	148
ワークショップ b／Workshop b	150
プロジェクト調査（財務諸表） a／Project Research（Financial Statements）a	152
プロジェクト調査（財務諸表） b／Project Research（Financial Statements）b	154
プロジェクト研究（財務諸表） a／Project Study（Financial Statements）a	156
プロジェクト研究（財務諸表） b／Project Study（Financial Statements）b	158
プロジェクト調査（財務会計） a／Project Research（Financial Accounting）a	160
プロジェクト調査（財務会計） b／Project Research（Financial Accounting）b	161
プロジェクト研究（財務会計） a／Project Study（Financial Accounting）a	162
プロジェクト研究（財務会計） b／Project Study（Financial Accounting）b	163
プロジェクト調査（財務諸表分析） a／Project Research（Financial Statements Analysis）a	164
プロジェクト調査（財務諸表分析） b／Project Research（Financial Statements Analysis）b	165
プロジェクト研究（財務諸表分析） a／Project Study（Financial Statements Analysis）a	166
プロジェクト研究（財務諸表分析） b／Project Study（Financial Statements Analysis）b	167
プロジェクト調査（管理会計） a／Project Research（Management Accounting）a	168

プロジェクト調査 (管理会計) b/Project Research (Management Accounting)b	169
プロジェクト調査 (コストマネジメント) a/Project Research (Cost Management)a	170
プロジェクト調査 (コストマネジメント) b/Project Research (Cost Management)b	171
プロジェクト研究 (コストマネジメント) a/Project Study (Cost Management)a.....	172
プロジェクト研究 (コストマネジメント) b/Project Study (Cost Management)b.....	174
プロジェクト調査 (コーポレートファイナンス) a/Project Research (Corporate Finance)a	176
プロジェクト調査 (コーポレートファイナンス) b/Project Research (Corporate Finance)b	178
プロジェクト研究 (コーポレートファイナンス) a/Project Study (Corporate Finance)a.....	180
プロジェクト研究 (コーポレートファイナンス) b/Project Study (Corporate Finance)b.....	182
プロジェクト調査 (監査) a/Project Research (Audit)a	184
プロジェクト調査 (監査) b/Project Research (Audit)b	186
プロジェクト研究 (監査) a/Project Study (Audit)a.....	188
プロジェクト研究 (監査) b/Project Study (Audit)b.....	189
プロジェクト調査 (法人税法) a/Project Research (Corporate Tax Law)a	190
プロジェクト調査 (法人税法) b/Project Research (Corporate Tax Law)b	191
プロジェクト研究 (法人税法) a/Project Study (Corporate Tax Law) a	192
プロジェクト研究 (法人税法) b/Project Study (Corporate Tax Law) b	193
会計・監査実務/Accounting and auditing practice	194

財務会計1 / Financial Accounting 1

担当教員 [Instructor] : 吉永 裕登 / YUTO YOSHINAGA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 水曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC501J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義の目的は、財務会計の基礎概念を理解することです。本講義は公認会計士試験における財務会計論の理論分野に関する基本的な知識の習得を目的とした科目であり、公認会計士試験・財務会計論（理論）の出題範囲のうち、主に財務会計全体の概念的な理論や考え方を扱います。

The purpose of this lecture is to understand the basic concepts of financial accounting. This lecture is a course designed to help students acquire basic knowledge of the theoretical area of financial accounting theory in the Certified Public Accountant examination, and it mainly covers the conceptual theories and ideas of financial accounting as a whole, from among the topics covered in the Certified Public Accountant examination, Financial Accounting Theory (Theory).

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

財務会計の基礎概念や概念フレームワーク、企業会計原則のような日本の会計基準の背後にある全体的な考え方を理解すること。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第14回以外の通常の講義日には講義資料と講義動画をアップロードするので、都合の良い時間や場所で動画を視聴して、学習していただきます。

講義内容に関する習熟度の確認のために正誤問題を出题し、成績評価に反映させます（提出期限あり）。また、復習のための練習問題も、合わせて配布します。

講義後に理解を深めるために財務会計に関する研究論文の紹介動画を開示し、公認会計士試験の範囲を超えた財務会計の理解を深めます。

その他、授業に関連する論点を提示して、自分の頭で考える機会や、様々な背景を持つ周囲の学生の考えを理解することで多面的な視点を養う機会を設けます（提出期限あり）。

理解度確認セッションの日には、講義室で時間割の時間内で理解度確認セッションを実施する予定です。

第1回：オリエンテーション / Orientation

オリエンテーションとして、講義の概要や対象範囲、進め方、成績評価などについて説明します。

第2回：財務会計の基礎概念 / Basic Concept of Financial Accounting

財務会計の基礎概念について学びます。

第3回：概念フレームワーク / Conceptual Framework for Financial Reporting

概念フレームワークについて学びます。

第4回：企業会計制度と会計基準 / Financial Accounting System and Financial Accounting Standards

企業会計制度と会計基準について学びます。

第5回：資産会計総論 / Assets

資産会計総論について学びます。

第6回：流動資産 / Current Assets

流動資産について学びます。

第7回：棚卸資産 / Inventories

棚卸資産について学びます。

第8回：有形固定資産 / Tangible Fixed Assets

固定資産の定義と分類、有形固定資産について学びます。

第9回：無形固定資産と投資その他の資産、繰延資産 / Intangible Assets, Investments and Other Assets, and Deferred Assets

無形固定資産と投資その他の資産、繰延資産について学びます。

第10回：負債 / Liabilities

負債について学びます。

第11回：純資産 / Net Assets

純資産について学びます。

第12回：収益と費用・財務諸表の体系 / Revenue and Expenses. The System of Financial Statements.

財務諸表の体系、収益と費用について学びます。

第13回：収益認識 / Revenue Recognition

収益認識に関する会計基準について学びます。

第14回：理解度確認セッション / Examination

理解度確認セッションを実施します。

第15回：理解度確認セッションのフィードバック / Feedback of Examination

理解度確認セッションのフィードバックを行います。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

講義後の確認問題（20%）、論点に関する議論（おそらく研究にも関連する話になるかと思いますが）（20%）、理解度確認セッション（60%）で機械的に評価します。

・理解度確認セッションでは、主に論述問題を出題します。半分以上を論述問題が占めるので、ご注意ください。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

経営学のための統計学・データ分析（はじめての経営学）	久保 克行	東洋経済新報社	2021	978-4492503294	参考書
----------------------------	-------	---------	------	----------------	-----

財務・非財務報告のアカデミック・エビデンス	中野 誠，加賀谷 哲之，河内山 拓磨 編著	中央経済社	2025	978-4502518218	参考書
-----------------------	-----------------------	-------	------	----------------	-----

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回目

予習：シラバス、シラバス補遺に目を通しておく。

復習：研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。指定される出席票に解答する。

第2回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第3回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第4回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第5回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第6回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第7回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第8回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第9回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第10回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第11回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第12回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第13回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第14回目

予習：理解度確認セッション（筆答考査）に対する準備をする。

復習：理解度確認セッション（筆答考査）に対する自己採点ないし復習をする。

第15回目

予習：理解度確認セッション（筆答考査）の採点結果を受け取った後、特に失点した部分を確認しておく。

復習：理解度確認セッション（筆答考査）の解答・解説を踏まえて、同一の問題が出題された場合に解答できるように復習する。

10. その他 [In addition] :

【この講義を受講するために必要となる知識】

- ・大学院修士学生として要求される水準の論理的思考力と文章表現の技術。
- ・基本的な部分から行う予定ですが、学部レベルの財務会計の知識、簿記検定や公認会計士試験の財務会計論の知識を持っておくと理解が深まると思います。
- ・財務会計に関する先行研究の紹介は、実証論文が中心となります。実証的な論文の理解を行うにあたっては、計量経済学に関する知識があると望ましいでしょう。参考書に示した久保先生の書籍は非常にわかりやすいので、よければ手にとって御覧

ください。

【その他注意点】

- ・理解度確認セッションを受験できることが、この講義の受講要件になります。
- ・財務会計1・2・3は財務会計論（理論）の内容を3分割したものであるため、必ずしも「1→2→3」の順番で受ける必要はありません。財務会計1は会計理論全般に関わる概念を主に扱い、財務会計2・3は個別の会計基準を扱っています。そのため、財務会計の概念について理解したい方は財務会計1を、個別の基準の理解を深めたい方はシラバスからご自身の関心に合う内容を確認した上で、財務会計2ないし3を選択すると良いと思います。
- ・主に、公認会計士試験・財務会計論の理論分野を扱います。そのため、公認会計士コースの方を主な対象とします。
- ・この講義は、財務会計論の「理論分野」を対象とします。簿記等の「計算分野」は本講義では基本的に取り扱いません。本講義の内容を深く理解するためには、簿記の講義を受講することをオススメします。
- ・資料や受講者へのアナウンスはGoogle Classroomを通じて行います（クラスコードは別資料で公開予定）。パソコンなどのデバイスを持ってくるか、印刷して学習するようにお願いします。
- ・聴講（履修者以外のGoogle Classroomへの登録）は原則として認めておりません。履修登録確認期間後に履修者以外の登録を削除していく予定です。もし何かの事情があって聴講を希望する場合には、予めご連絡ください。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomコード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

財務会計2 / Financial Accounting 2

担当教員 [Instructor] : 吉永 裕登 / YUTO YOSHINAGA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 水曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC502J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義の目的は、財務会計の基礎概念を理解することです。本講義は公認会計士試験における財務会計論の理論分野に関する基本的な知識の習得を目的とした科目であり、公認会計士試験・財務会計論（理論）の出題範囲のうち、個別の会計基準と背後にある考え方を扱います。

The purpose of this lecture is to understand the basic concepts of financial accounting. This lecture is a course designed to help students acquire basic knowledge of the theoretical field of financial accounting theory in the Certified Public Accountant exam, and covers individual accounting standards and the concepts behind them, which are included in the scope of questions for the Certified Public Accountant exam, Financial Accounting Theory (Theory).

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

授業で取り上げた会計基準を理解すること。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第14回以外の通常の講義日には講義資料と講義動画をアップロードするので、都合の良い時間や場所で動画を視聴して、学習していただきます。

講義内容に関する習熟度の確認のために正誤問題を出題し、成績評価に反映させます（提出期限あり）。また、復習のための練習問題も、合わせて配布します。

講義後に理解を深めるために財務会計に関する研究論文の紹介動画を開示し、公認会計士試験の範囲を超えた財務会計の理解を深めます。

その他、授業に関連する論点を提示して、自分の頭で考える機会や、様々な背景を持つ周囲の学生の考えを理解することで多面的な視点を養う機会を設けます（提出期限あり）。

理解度確認セッションの日には、講義室で時間割の時間内で理解度確認セッションを実施する予定です。

第1回：オリエンテーション / Orientation

オリエンテーションとして、講義の概要や対象範囲、進め方、成績評価などについて説明します。

第2回：キャッシュ・フロー / Cash Flow

キャッシュ・フローについて学びます。

第3回：財務諸表の過年度修正 / Retrospective Application

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準について学びます。

第4回：リース / Lease

リースについて学びます。

第5回：金融商品 / Financial Instruments

金融商品について学びます。

第6回：デリバティブ / Derivative

主にデリバティブを説明します。

第7回：デリバティブ（ヘッジ会計） / Derivative (Hedge Accounting)

デリバティブを用いたヘッジ会計について学びます。

第8回：ストック・オプション / Stock Option

ストック・オプションについて学びます。

第9回：研究開発費とソフトウェア / R&D Expenses and Software

研究開発費とソフトウェアについて学びます。

第10回：固定資産の減損 / Impairment of Fixed Assets

固定資産の減損会計について学びます。

第11回：資産除去債務 / Asset Retirement Obligations

資産除去債務について学びます。

第12回：退職給付1 / Retirement Allowance Reserves 1

退職給付の基礎（数理計算上の差異、過去勤務費用がない場合）について学びます。

第13回：退職給付2 / Retirement Allowance Reserves 2

退職給付（数理計算上の差異、過去勤務費用がある場合）について学びます。

第14回：理解度確認セッション / Examination

理解度確認セッションを実施します。

第15回：理解度確認セッションのフィードバック / Feedback of Examination

理解度確認セッションのフィードバックを行います。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

講義後の確認問題（20%）、論点に関する議論（おそらく研究にも関連する話になるかと思いますが）（20%）、理解度確認セッション（60%）で機械的に評価します。

・理解度確認セッションでは、主に論述問題を出題します。半分以上を論述問題が占めるので、ご注意ください。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

経営学のための統計学・データ分析 (はじめての経営学)	久保 克行	東洋経済新報社	2021	978-4492503294	参考書
財務・非財務報告のアカデミック・エビデンス	中野 誠, 加賀谷 哲之, 河内山 拓磨 編著	中央経済社	2025	978-4502518218	

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回目

予習：シラバス、シラバス補遺に目を通しておく。

復習：研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。指定される出席票に解答する。

第2回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第3回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第4回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第5回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第6回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第7回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第8回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第9回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第10回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第11回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第12回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第13回目

復習：確認問題、練習問題に取り組み、研究紹介資料に目を通すことで理解を深める。また、講義資料末尾の参考文献リストに掲載されている基準などを一読し、理解を深める。

第14回目

予習：理解度確認セッション（筆答考査）に対する準備をする。

復習：理解度確認セッション（筆答考査）に対する自己採点ないし復習をする。

第15回目

予習：理解度確認セッション（筆答考査）の採点結果を受け取った後、特に失点した部分を確認しておく。

復習：理解度確認セッション（筆答考査）の解答・解説を踏まえて、同一の問題が出題された場合に解答できるように復習する。

10. その他 [In addition] :

【この講義を受講するために必要となる知識】

- ・大学院修士学生として要求される水準の論理的思考力と文章表現の技術。
- ・基本的な部分から行う予定ですが、学部レベルの財務会計の知識、簿記検定や公認会計士試験の財務会計論の知識を持っていくと理解が深まると思います。
- ・財務会計に関する先行研究の紹介は、実証論文が中心となります。実証的な論文の理解を行うにあたっては、計量経済学に関する知識があると望ましいでしょう。参考書に示した久保先生の書籍は非常にわかりやすいので、よければ手にとって御覧ください。

【その他注意点】

- ・理解度確認セッションを受験できることが、この講義の受講要件になります。
- ・財務会計1・2・3は財務会計論（理論）の内容を3分割したもので、必ずしも「1→2→3」の順番で受ける必要はありません。財務会計1は会計理論全般に関わる概念を主に扱い、財務会計2・3は個別の会計基準を扱っています。そのため、財務会計の概念について理解したい方は財務会計1を、個別の基準の理解を深めたい方はシラバスからご自身の関心に合う内容を確認した上で、財務会計2ないし3を選択すると良いと思います。
- ・主に、公認会計士試験・財務会計論の理論分野を扱います。そのため、公認会計士コースの方を主な対象とします。
- ・この講義は、財務会計論の「理論分野」を対象とします。簿記等の「計算分野」は本講義では基本的に取り扱いません。本講義の内容を深く理解するためには、簿記の講義を受講することをオススメします。
- ・資料や受講者へのアナウンスはGoogle Classroomを通じて行います（クラスコードは別資料で公開予定）。パソコンなどのデバイスを持ってくるか、印刷して学習するようにお願いします。
- ・聴講（履修者以外のGoogle Classroomへの登録）は原則として認めておりません。履修登録確認期間後に履修者以外の登録を削除していく予定です。もし何かの事情があって聴講を希望する場合には、予めご連絡ください。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomコード等については、会計大学院学内掲示（<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>）内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

財務会計3 / Financial Accounting 3

担当教員 [Instructor] : 尾関 規正 / NORIMASA OZEKI

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 水曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC601J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義は、財務会計における発展的な論点である法人税等、企業結合と事業分離、外貨換算、連結財務諸表、その他の開示情報に関する会計基準等の内容、および、その背景にある考え方を理解することを目的とします。

The purpose of this course is to learn accounting standards and the background of standard setting in financial accounting. This course covers accounting standards (Japanese Generally Accepted Accounting Principle) for income taxes, business combinations, business divestitures, foreign currency translation, consolidated financial statements, and other corporate disclosure.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

財務会計における法人税等、企業結合と事業分離、外貨換算、連結財務諸表、その他の開示情報に関する会計基準等の内容を理解すること、および、それらの会計基準設定の背景にある考え方を理解し、論述できることを学修の目標とします。

The goal of the study is to understand the content of accounting standards for income taxes, business combinations and divestitures, foreign currency translation, consolidated financial statements, and other financial accounting disclosures, and to understand and argue the reasoning behind the setting of these accounting standards.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

講義室での対面で講義を行います。Google クラウドルームを通じて講義資料を配付して講義形式で行います。また、講義で扱う範囲の会計基準や適用指針などの規定を随時参照します。講義内容の理解を促すために毎回の講義で課題（レポート）を出します。授業参加者は課題でまとめた内容を講義の中で発表します。

Lectures are given face-to-face in the lecture hall. Lectures will be delivered using lecture materials distributed through Google Classroom. In addition, we will refer to accounting standards, guidelines, and other regulations as necessary for the subject matter covered in the lectures. Assignments (reports) will be given in each lecture to promote understanding of the lecture content. Students will present the assignments during the lecture.

第1回：オリエンテーション / Orientation

講義の概要、講義計画、講義の進め方、成績評価に関する説明を行います。

第2回：法人税等 (1) / Income taxes and Tax effect accounting (1)

法人税等の計算の仕組みを解説したうえで、会計と税務の差異を認識する税効果会計における考え方や、税効果会計が対象とする差異の範囲を議論します。

第3回：法人税等 (2) / Income taxes and tax effect accounting (2)

税効果会計で適用される税率の考え方や算定される税効果額について説明します。また、財務諸表上の表示方法や繰延税金資産の回収可能性について解説します。

第4回：企業結合 (1) / Business combinations (1)

企業結合におけるパーチェス法や持分プーリング法を適用する基本的な考え方を説明します。また、のれんの処理について議論します。

第5回：企業結合 (2) / Business combinations (2)

企業結合に関する会計基準における合併、株式交換、株式移転での具体的な会計処理について説明します。

第6回：事業分離 / Business divestitures

事業分離に関する会計の基本的な考え方、分離元企業の会計処理、結合当事企業の株主に係る会計処理について説明します。

第7回：外貨換算 / Translation of foreign currency transactions

外貨換算の会計の目的や会計処理を取り扱い、換算方法の背景にある考え方を議論したうえで、外貨建取引や外貨建資産・負債の換算における会計処理や在外支店・在外子会社の財務諸表の換算の考え方を解説します。

第8回：理解度確認セッション1 / Examination 1

範囲や実施方法は講義において事前にアナウンスします。

第9回：連結財務諸表 (1) / Consolidated financial statements (1)

連結財務諸表を作成する意義と目的を理解し、連結財務諸表の作成手続の概要を連結会計主体論と関連付けながら説明します。連結財務諸表における一般原則を説明し、連結の範囲について議論します。

第10回：連結財務諸表 (2) / Consolidated financial statements (2)

連結貸借対照表を作成するために必要な投資と資本の相殺消去の方法を理解し、支配獲得時の子会社の資産および負債の時価評価や支配獲得後における子会社の持分を変化させる取引の会計処理における考え方を議論します。

第11回：連結財務諸表 (3) / Consolidated financial statements (3)

連結損益計算書を作成するために必要な連結決算手続について説明し、未実現利益の消去や連結財務諸表における税効果会計について説明します。

第12回：連結財務諸表 (4) / Consolidated financial statements (4)

持分法について説明し、持分法適用手続について連結手続と比較しながら議論します。また、連結包括利益計算書における考え方を議論します。

第13回：連結財務諸表 (5) / Consolidated financial statements (5)

連結財務諸表における連結キャッシュ・フロー計算書について解説します。

第14回：連結財務諸表 (6) / Consolidated financial statements (6)

連結財務諸表において開示される情報として、関連当事者との取引に関する注記、セグメント情報等の注記について解説します。

第15回：理解度確認セッション2 / Examination 2

範囲や実施方法は講義において事前にアナウンスします。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語 / Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

課題および授業での発表 (20%)、理解度確認セッション1 (40%)、理解度確認セッション2 (40%) により評価します。
なお、理解度確認セッション1、理解度確認セッション2の両方に出席して解答を提出しない場合は、単位評価の対象としません。

講義に対するコメントや課題の取り組みに基づいて成績評価に加点する可能性があります。

AA (90 点以上)、A (80 点以上 90 点未満)、B (70 点以上 80 点未満)、C (60 点以上 70 点未満)、D (60 点未満 ; 不合格)。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

スタンダードテキスト 財務会計論Ⅱ 応用論点編 [最新版]	佐藤信彦・河崎照行・齋藤真哉・柴健次・高須教夫・松本敏史編著	中央経済社	※	978-4502501517	教科書
財務会計講義[最新版]	桜井久勝	中央経済社	※	978-4502500718	参考書
会計監査六法 [最新版]	日本公認会計士協会・企業会計基準委員会編	日本公認会計士協会出版局	※	978-4910136288	参考書

8. 関連 URL [URL] :

企業会計基準委員会、ASSET-ASBJ (会計基準検索システム)
https://www.asb-j.jp/jp/accounting_standards_system.html

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

<予習> 講義で扱う範囲の教科書の内容や会計基準または適用指針などの内容を一読し、要点を把握しましょう。

<復習> 講義内容を踏まえて、再度教科書を通読すると共に、各回の範囲の規定を参照しながら課題や設例に取り組み、理解を深めましょう。

第1回 :

予習 : 講義資料の該当箇所を目を通し、不明な点を明らかにする。

復習 : 講義中に指定される課題に取り組む。

第2回 :

予習 : 教科書や会計基準の該当箇所を目を通し、課題に取り組みながら不明な点を明らかにする。

復習 : 教科書および講義資料を読み、課題に取り組む。

第3回 :

予習 : 教科書や会計基準の該当箇所を目を通し、課題に取り組みながら不明な点を明らかにする。

復習 : 教科書および講義資料を読み、課題に取り組む。

第4回 :

予習 : 教科書や会計基準の該当箇所を目を通し、課題に取り組みながら不明な点を明らかにする。

復習 : 教科書および講義資料を読み、課題に取り組む。

第5回 :

予習 : 教科書や会計基準の該当箇所を目を通し、課題に取り組みながら不明な点を明らかにする。

復習 : 教科書および講義資料を読み、課題に取り組む。

第6回 :

予習 : 教科書や会計基準の該当箇所を目を通し、課題に取り組みながら不明な点を明らかにする。

復習 : 教科書および講義資料を読み、課題に取り組む。

第7回 :

予習 : 教科書や会計基準の該当箇所を目を通し、課題に取り組みながら不明な点を明らかにする。

復習 : 教科書および講義資料を読み、課題に取り組む。

第8回 :

予習 : 教科書や会計基準の該当箇所を目を通し、課題に取り組みながら不明な点を明らかにする。

復習 : 教科書および講義資料を読み、課題に取り組む。

第9回 :

予習 : 教科書や会計基準および講義資料の対象範囲を目を通し、これまでの課題を復習する。

復習 : 教科書および講義資料を読み、解答・解説を確認する。

第10回 :

予習 : 教科書や会計基準の該当箇所を目を通し、課題に取り組みながら不明な点を明らかにする。

復習 : 教科書および講義資料を読み、課題に取り組む。

第11回 :

予習 : 教科書や会計基準の該当箇所を目を通し、課題に取り組みながら不明な点を明らかにする。

復習 : 教科書および講義資料を読み、課題に取り組む。

第12回 :

予習 : 教科書や会計基準の該当箇所を目を通し、課題に取り組みながら不明な点を明らかにする。

復習 : 教科書および講義資料を読み、課題に取り組む。

第13回 :

予習 : 教科書や会計基準の該当箇所を目を通し、課題に取り組みながら不明な点を明らかにする。

復習 : 教科書および講義資料を読み、課題に取り組む。

第 14 回：

予習：教科書や会計基準の該当箇所を目を通し、課題に取り組みながら不明な点を明らかにする。

復習：教科書および講義資料を読み、課題に取り組む。

第 15 回：

予習：教科書や会計基準および講義資料の対象範囲を目を通し、これまでの課題を復習する。

復習：教科書および講義資料を読み、解答・解説を確認する。

10. その他 [In addition]：

※：教科書および参考書に関する注意事項です。教科書および参考書に指定している文献はこれまで毎年 3 月から 5 月の間に版が更新されています。講義では 2025 年に更新された最新版を使います。使用するテキストの版についての詳細は講義内でアナウンスします。また、「会計監査六法」は会計基準などが掲載されている規則集です。会計基準が収録されている他の規則集でも構いません。また、ASBJ の WEB サイト（関連 URL 参照）で最新の会計基準を検索することができます。講義の予習・復習では会計基準の原文を参照するようにしましょう。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示（<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>）内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

財務諸表分析／Financial Statements Analysis

担当教員 [Instructor]: 木村 史彦／FUMIHIKO KIMURA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 月曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC503J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

企業が公表する財務諸表に基づき当該企業の現状と課題を把握するための財務諸表分析について、基本的な比率分析の手法を中心に講義する。本講義で取り扱う手法は、企業評価、倒産分析、証券投資分析、監査など幅広く適用可能なものである。

I will lecture on the basic framework of financial statement analysis, focusing on the basic method of ratio analysis. The techniques that can be acquired from this lecture are widely applicable to corporate evaluation, bankruptcy analysis, securities investment analysis, and auditing.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

大学院中級レベルの財務諸表分析手法を身につけ、実際に企業分析を自身で実施できるようになること。自身で財務諸表を入手して、安全性、収益性、成長性を分析できるようになること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション／Orientation

本科目の目的、受講方法、成績評価方法を説明する。さらに、財務諸表分析の学習領域について概説する

第2回: 財務諸表分析と財務データの特徴／Characteristics of Financial Data

財務諸表分析の前提となる財務諸表の入手方法、財務データの特徴について講義する

第3回: 財務諸表の構造／Structure of Financial Statements

財務諸表分析において必要となる、財務3表の構造について講義する

第4回: 貸借対照表と損益計算書の基本分析／Basic analysis of balance sheet and income statement

貸借対照表と損益計算書に記載されている実数データを用いた財務諸表分析手法について講義する

第5回: 収益性/効率性分析 (1)／Profitability Analysis and Efficiency Analysis (1)

ROA (総資産利益率) の意義とその分解手法について講義する

第6回: 収益性/効率性分析 (2)／Profitability Analysis and Efficiency Analysis (2)

ROA の分解の2要素である売上高利益率と総資産回転率について、さらに詳細に分析する手法を概説する

第7回: 安全性分析 (1) 短期安全性／Safety Analysis (1)

企業の短期的な安全性を測定する尺度について概説する

第8回: 安全性分析 (2) 長期安全性／Safety Analysis (2)

中・長期的な企業の財務的安全性の分析指標について講義する

第9回: ROE の分解とその理解／ROE and Its Decomposition

ROE (自己資本利益率) の意義と、それをバレッジに分解する分析について概説する

第10回: 株式評価指標による企業価値評価／Equity valuation

株式評価指標の算定方法と解釈について講義する

第11回: 成長性分析・付加価値分析／Growth potential analysis and value-added analysis

成長性ならびに付加価値 (生産性) 分析の手法について講義する

第12回: キャッシュ・フロー分析／Cash flow Analysis

キャッシュ・フロー計算書の構造ならびにキャッシュ・フロー・データを利用した比率分析について講義する

第13回: グループ経営の分析／Analysis of Business Group Management

グループ経営を分析する手法として、連単倍率とセグメント情報の分析について講義する

第14回: 利益操作と財務諸表分析／Earnings Management

経営者による利益操作の背景とその検出方法について講義する

第15回: 理解度確認セッション／Examination

これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために筆答考査を実施する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

レポート (20%) および理解度確認セッション (80%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

財務諸表分析 (第4版)	乙政正太	同文館出版	2024	978-4495193041	教科書
財務諸表分析 (第8版)	桜井久勝	中央経済社	2020	4502342416	参考書

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回

予習：事前に配信する講義ノートの講義計画に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第2回

予習：講義ノートの該当箇所に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第3回

予習：講義ノートの該当箇所に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第4回

予習：講義ノートの該当箇所に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第5回

予習：講義ノートの該当箇所に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第6回

予習：講義ノートの該当箇所に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第7回

予習：講義ノートの該当箇所に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第8回

予習：講義ノートの該当箇所に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第9回

予習：講義ノートの該当箇所に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第10回

予習：講義ノートの該当箇所に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第11回

予習：講義ノートの該当箇所に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第12回

予習：講義ノートの該当箇所に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第13回

予習：講義ノートの該当箇所に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第14回

予習：講義ノートの該当箇所に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第15回

予習：理解度確認セッション（筆答考査）に対する準備をする。

復習：講義後に配信される理解度確認セッション（筆答考査）の解答・解説を確認すること。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：

株式会社に関する基本的な会計処理について理解していること

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて
確認すること（要 東北大 ID）

企業評価/Firm Valuation

担当教員 [Instructor]: 木村 史彦/FUMIHIKO KIMURA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 火曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC602J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、企業の特定の事業あるいは企業自体の価値を評価する枠組みを習得することを目的とする。講義では、様々な企業評価手法について理論的・実践的に解説する。さらに M&A, MBO 等に関わる事例を分析することで、企業評価に対する理解を深める。

The objective of this lecture is to acquire a framework for evaluating the value of a specific business of a company or the company itself. In the lecture, various corporate valuation methods will be explained theoretically and practically. In addition, students will deepen their understanding of corporate valuation by analyzing case of M&A and MBO.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

DCF 法を中心とした企業評価手法を修得し、企業評価に関連する事例を把握することを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/Orientation

コースの目的および全体のフレームワーク、進め方、成績評価方法、学習方法に関するガイダンスを行う。

第2回: DCF 法(1) 財務諸表の組み替え/Discounted cash flow method (1)

貸借対照表のデータから、企業価値評価において必要となる投下資本表の作成手法を概説する。

第3回: DCF 法(2) 現状分析/Discounted cash flow method (2) Analysis of the existing situation

企業の現状を予測するための財務諸表分析の評価について講義する。

第4回: DCF 法(3) 資本コストの推計/Discounted cash flow method (3) Cost of Capital

資本コストの推計方法について講義する

第5回: DCF 法(4) 将来予測/Discounted cash flow method(4) Future forecast

将来予測の基本的なフレームワークについて検討する。

第6回: DCF 法(5) 継続価値の測定と理論株価の推計/Discounted cash flow method(5) Terminal value

継続価値の測定方法および理論株価の推計方法を講義する。

第7回: 残余利益法/Residual Income Method

残余利益法およびその前提となる配当割引法について講義する。

第8回: 倍率法と時価法/Multiple method and mark-to-market method

倍率法および時価法について講義する

第9回: その他の企業評価手法/Other Firm Valuation Methods

簿価純資産法や類似取引法等のアプローチについて講義する

第10回: 企業評価に係る事例の分析 1/Case Study (1)

MBO における企業評価の事例について概説する。

第11回: 企業評価に係る事例の分析 2/Case Study (2)

これまでに裁判等になった企業評価の事例について概説する

第12回: 企業評価に係る事例の分析 3/Case Study (3)

合併時における企業評価の事例について概説する

第13回: 企業評価に関する諸論点/Issues Related to firm Valuation

企業評価の「仮定」ないし「前提」に係る諸問題について概説する

第14回: 講義のまとめ/Summary of Lecture

これまでの講義をふりかえるとともに、今後の企業評価における検討課題について説明する

第15回: 理解度確認セッション/Examination

これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために筆答考査を実施する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

レポート (50%) および理解度確認セッション (50%) で評価する。レポートには講義内で提示した課題に回答頂くミニレポートと、テーマに沿って取り組んでいただく期末レポートが含まれる。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

企業価値評価 【入門編】	鈴木一功	ダイヤモンド社	2018	4478028629	参考書
企業価値経営	伊藤邦雄	日本経済新聞社	2021	4532135140	参考書
バリュエーションの理論と実務	鈴木 一功・田中 亘編著	日本経済新聞出版	2021	978-4532135232	参考書

8. 関連 URL [URL] :

Classroom
<https://classroom.google.com/c/NzQ5MjQ5MzkyMTE1?cjc=7quz4vo>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回

予習: 事前に配信する講義ノートの講義計画に目を通し, 講義の概要を把握する.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第2回

予習: 講義ノートの該当箇所に目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第3回

予習: 講義ノートの該当箇所に目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第4回

予習: 講義ノートの該当箇所に目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第5回

予習: 講義ノートの該当箇所に目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第6回

予習: 講義ノートの該当箇所に目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第7回

予習: 講義ノートの該当箇所に目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第8回

予習: 講義ノートの該当箇所に目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第9回

予習: 講義ノートの該当箇所に目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第10回

予習: 講義ノートの該当箇所に目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第11回

予習: 講義ノートの該当箇所に目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第12回

予習: 講義ノートの該当箇所に目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第13回

予習: 講義ノートの該当箇所に目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第14回

予習: 講義ノートの該当箇所に目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第15回

予習: 理解度確認セッション(筆答考査)に対する準備をする.

復習: 講義後に配信される理解度確認セッション(筆答考査)の解答・解説を確認すること.

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識:

財務諸表分析の単位を修得していること. あるいは, 財務諸表分析の基礎的な知識を有していること.

その他

(1) 教科書について指定しないが, 無償で入手できる資料について準備頂く. 詳細は開講時に指定する. ただし, 参考書1は手元にご準備いただくことが望ましい.

(2) 2025年度についてはオンデマンドを中心に一部(理解度確認セッションを含めて4回程度)を対面で実施予定である.

(3) 資料の配付はGoogle Classroomを通じて実施する.

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomコード等については、会計大学院学内掲示(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>)内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて確認すること(要 東北大ID)

簿記1 / Bookkeeping 1

担当教員 [Instructor] : 成田 由加里 / YUKARI NARITA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 水曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC504J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

企業の経済活動を表す財務諸表を作成するために基本となる簿記の考え方を学ぶ。対象とするのは個別財務諸表であり、個別財務諸表作成レベルの簿記の理解をその目的とする。経済環境に新たな変化に対し、販売、資金調達、投資等のビジネスプロセスを意識しつつ簿記の考え方の「幹」を太くすることにより、どのような場面でも柔軟に対応できる基礎力が養われることが本講義の目的である。

To learn the basics of bookkeeping to prepare financial statements that represent the economic activities of companies. The focus of the course is on individual financial statements. The goal of this course is to develop the ability to respond flexibly in any situation by fully understanding the "core" of the bookkeeping concept, while being aware of business processes such as sales, financing, and investment, even if a new change occurs in the economic environment.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

販売、資金調達、投資等のビジネスプロセスを意識しつつ簿記の考え方や背景を理解し、個々の取引を会計の表現方法に変換し財務諸表作成に至る会計処理を修得することを到達目標とする。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション・簿記勘定体系とビジネスプロセス / Orientation・Bookkeeping Chart and Business Process

講義の概要、講義の進め方、成績評価、学習方法（予習・復習）などについてシラバスを用いて確認する。

第2回：【損益計算】一般商品販売 / General product sales

損益計算の基本に関する会計処理を学ぶ。

第3回：【損益計算】一般商品販売・消費税 / General product sales and consumption tax

損益計算の基本と消費税に関する会計処理を学ぶ。

第4回：【損益計算】棚卸資産 / Inventories

売上原価を算定するうえで重要なファクターである棚卸資産の算定方法を学ぶ。

第5回：【損益計算】商品売買～委託販売 / Product Sales-Consignment Sales

委託売買について、ビジネスプロセスを理解し商品・資金の流れと勘定科目の仕組みを学ぶ。

第6回：【損益計算】商品売買～試用販売 / Product Sales-Trial Sales

試用売買について、ビジネスプロセスを理解し商品・資金の流れと勘定科目の仕組みを学ぶ。

第7回：【損益計算】商品売買～その他 / Special Product Sales- Others

その他売買について、ビジネスプロセスを理解し収益認識基準に基づく商品・資金の流れと勘定科目の仕組みを学ぶ。

第8回：【損益計算】工事契約に関する会計処理（建設業会計） / Accounting for construction contracts

請負工事収益の認識基準に基づく会計処理を学ぶ。

第9回：【金融商品】現預金・金銭債権 / Cash and deposits, monetary receivables

貸借対照表の構造を理解し、現預金・金銭債権の評価に基づく会計処理を学ぶ。

第10回：【金融商品】貸倒引当金 / Allowance for doubtful accounts

キャッシュ・フロー見積法等貸倒引当金の会計処理及び貸倒引当金に関する BS・PL 表示を学ぶ。

第11回：【金融商品】有価証券 / Securities

有価証券の4分類及び有価証券の期末評価に関し、評価方法・評価差額の処理とその理由について学ぶ。

第12回：【固定資産】有形固定資産 / Tangible fixed assets

①取得②費用化③減少④資産性に関する評価の4つのフェーズから①②の会計処理を学ぶ。

第13回：【固定資産】有形固定資産 / Tangible fixed assets

①取得②費用化③減少④資産性に関する評価の4つのフェーズから③④の会計処理を学ぶ。

第14回：理解度確認セッション / Examination

これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために筆答考査を実施する。

第15回：総括 / Review

理解度確認セッションの確認のほか、講義全体を通じた総括を行う。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

・理解度確認 セッション (60%)・予習復習理解度確認セッション (小テスト) + 課題 (40%) で評価する。

・ AA (90 点以上)、A (80 点以上 90 点未満)、B (70 点以上 80 点未満)、C (60 点以上 70 点未満)、D (60 点未満 ; 不合格)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

必要に応じて講義で紹介する。

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習範囲をクラスルームで示すので、予習範囲に関して、疑問点を整理して講義に臨むこと。
毎回、予習・復習確認セッション（小テスト）を予定している。

第1回目

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。

第2回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第3回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第4回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第5回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第6回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第7回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第8回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第9回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第10回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第11回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第12回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第13回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第14回目

予習：理解度確認セッション（筆答考査）に対する準備をする。

復習：講義後に配信される理解度確認セッション（筆答考査）の解答・解説を確認すること。

第15回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

10. その他 [In addition] :

履修条件：日商簿記2級程度の知識を有することが望ましい
PC 及び電卓持参のこと。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて
確認すること（要 東北大 ID）

簿記2 / Bookkeeping 2

担当教員 [Instructor]: 成田 由加里 / YUKARI NARITA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 水曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC505J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

企業の経済活動を表す財務諸表を作成するために基本となる簿記の考え方を学ぶ。対象とするのは個別財務諸表であり、個別財務諸表作成レベルの簿記の理解をその目的とする。経済環境に新たな変化に対し、販売、資金調達、投資等のビジネスプロセスを意識しつつ簿記の考え方の「幹」を太くすることにより、どのような場面でも柔軟に対応できる基礎力が養われることが本講義の目的である。

To learn the basics of bookkeeping to prepare financial statements that represent the economic activities of companies. The focus of the course is on individual financial statements. The goal of this course is to develop the ability to respond flexibly in any situation by fully understanding the "core" of the bookkeeping concept, while being aware of business processes such as sales, financing, and investment, even if a new change occurs in the economic environment.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

販売、資金調達、投資等のビジネスプロセスを意識しつつ簿記の考え方や背景を理解し、個々の取引を会計の表現方法に変換し財務諸表作成に至る会計処理を修得することを到達目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第 1 回: オリエンテーション・研究開発費とソフトウェア / Orientation, R & D expenses and software

講義の概要、成績評価、学習方法などについて説明を行い、市場販売目的ソフトウェア等の会計を学ぶ。

第 2 回: 資産除去債務 / Asset retirement obligations

会計基準の基本的考え方を理解した上で資産除去債務の基本型及び債務見積もりの変更の会計処理を学ぶ。

第 3 回: 減損 / Impairment

減損の重みを理解した上で認識・測定の基本形を学び、のれん・共用資産がある場合の減損会計を学ぶ。

第 4 回: リース / Lease

リース取引 = 「固定資産取引」 + 「金融取引」と理解した上で、取得・費用化の観点から会計を理解する。

第 5 回: 引当金・退職給付引当金 / Provisions and Provision for retirement benefits

引当金及び引当金に加えて特有の事象を有する退職給付会計（個別）について理解しその会計処理を学ぶ。

第 6 回: 退職給付引当金 / Provision for retirement benefits

①基本: 企業会計原則 + ②特有の事象 (1) 年金資産～控除 (2) 数理計算上の差異等～遅延認識を学ぶ。

第 7 回: 純資産 / Net assets

純資産の部、株主資本の変動を理解し、欠損填補、自己株式の取得、処分、消却時等の会計処理を学ぶ。

第 8 回: 純資産・ストック・オプション / Net assets, Stock option

新株予約権の発行時、権利行使時等の会計処理を理解した上で、ストック・オプションの基本を学ぶ。

第 9 回: スtock・オプション / Stock option

適正な期間損益計算のため株式報酬費用の適切配分及び条件変更時の会計処理を学ぶ。

第 10 回: 金融商品～デリバティブ / Financial Instruments-Derivative

先物取引、オプション取引等デリバティブに関する会計処理を理解する。

第 11 回: 金融商品～デリバティブ・ヘッジ / Financial Instruments-Derivative Hedging

デリバティブを基礎にヘッジ会計が果たす有用な役割を理解した上でヘッジ会計の会計処理を学ぶ。

第 12 回: 外貨換算 / Foreign currency conversion

外貨建取引の換算、外貨建金銭債権債務の換算、外貨建有価証券の換算、為替予約について学ぶ。

第 13 回: 税効果会計 / Tax effect accounting

法人税、地方税、特に事業税の課税特質、繰越欠損金制度を理解し資産負債法による計算方法を学ぶ。

第 14 回: 理解度確認セッション / Examination

これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために筆答考査を実施する。

第 15 回: 総括 / Review

理解度確認セッションの確認のほか、講義全体を通じた総括を行う。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

・理解度確認 セッション (60%) ・予習復習理解度確認セッション (小テスト) + 課題 (40%) で評価する。

・ AA (90 点以上)、A (80 点以上 90 点未満)、B (70 点以上 80 点未満)、C (60 点以上 70 点未満)、D (60 点未満; 不合格)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

必要に応じて講義で紹介する。

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習範囲をクラスルームで示すので、予習範囲に関して、疑問点を整理して講義に臨むこと。
毎回、予習・復習確認セッション（小テスト）を予定している。

第1回目

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。

第2回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第3回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第4回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第5回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第6回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第7回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第8回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第9回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第10回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第11回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第12回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第13回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第14回目

予習：理解度確認セッション（筆答考査）に対する準備をする。

復習：講義後に配信される理解度確認セッション（筆答考査）の解答・解説を確認すること。

第15回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

10. その他 [In addition] :

履修条件：日商簿記2級程度の知識を有することが望ましい
PC 及び電卓持参のこと。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて
確認すること（要 東北大 ID）

簿記3 / Bookkeeping 3

担当教員 [Instructor] : 成田 由加里 / YUKARI NARITA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 木曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC603J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

企業の経済活動を表す財務諸表を作成するために基本となる簿記の考え方を学ぶ。対象とするのは連結財務諸表であり、連結財務諸表作成レベルの簿記の理解をその目的とする。経済環境に新たな変化に対し、販売、資金調達、投資等のビジネスプロセスを意識しつつ簿記の考え方の「幹」を太くすることにより、どのような場面でも柔軟に対応できる基礎力が養われることが本講義の目的である。

To learn the basics of bookkeeping to prepare financial statements that represent the economic activities of companies. The focus of the course is on consolidated financial statements. The goal of this course is to develop the ability to respond flexibly in any situation by fully understanding the "core" of the bookkeeping concept, while being aware of business processes such as sales, financing, and investment, even if a new change occurs in the economic environment.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

連結の考え方や背景を理解したうえで、個々の仕訳の意味と仕訳による利益剰余金等財務諸表への構造的な影響を理解し、連結財務諸表全体を理解すること及び企業結合・分離の会計処理を修得することを到達目標とする。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：リエンション、連結会計の基本的考え方 / Orientation, Basic Approach to Consolidated Accounting

講義の概要、成績評価、学習方法などについて説明を行い、連結会計の基本的考え方を学ぶ。

第2回：資本取引に関する会計処理と財務諸表・基礎 / Basis for capital transactions

あるべき連結上の金額は何かという観点から資本連結の基本を学ぶ。

第3回：資本取引に関する会計処理と財務諸表・基礎 / Basis for capital transactions

連結利益剰余金の増減要因とあるべき残高金額へのアプローチを学ぶ。

第4回：資本取引に関する会計処理と財務諸表・追加取得等 / Acquisition of capital transactions

子会社株式の追加、売却処理の基本的考え方について学ぶ。

第5回：販売等取引に関する会計処理・税効果会計 / Accounting and tax effect accounting for sales

連結会社間取引、連結会社間債権債務、連結修正仕訳に伴う税効果会計を学ぶ。

第6回：販売等取引に関する会計処理・税効果会計 / Accounting and tax effect accounting for sales

ダウンストリーム、アップストリームの未実現利益消去及び各修正仕訳の連結財務諸表への影響を学ぶ。

第7回：持分法 / Consolidation-equity method

持分法適用会社の投資結果、持分法の考え方について理解し、一行連結と言われる会計処理について学ぶ。

第8回：包括利益、退職給付会計 / Comprehensive Income, Retirement Benefit Accounting

包括利益と退職給付会計は個別財務諸表と考え方が異なり、その相違について学ぶ。

第9回：キャッシュ・フロー計算書、連結キャッシュ・フロー計算書 / Cash Flow Statement

キャッシュ・フロー計算書の目的、構造について理解しその作成方法について学ぶ。

第10回：在外支店と在外子会社の換算 / Conversion of Overseas Branches and Overseas Subsidiaries

在外支店と在外子会社の換算に関する異同点を理解し在外子会社の換算について学ぶ。

第11回：企業結合～総論・取得 / Business Combination -General and Acquisition

企業結合と事業分離の経済的実態の基づく分類について理解し、パーチェス法による会計処理を学ぶ。

第12回：企業結合～総論・取得 / Business Combination -General and Acquisition

取得原価の算定、取得原価の配分、のれんの算定を基礎にし合併、株式交換、株式移転等の会計処理を学ぶ。

第13回：共同支配・共通支配下・分離元企業 / Joint Control, Common Control, Separation Source Company

個別・連結上における共同支配企業の形成、子会社吸収合併時の共通支配下の取引等の会計処理を学ぶ。

第14回：理解度確認セッション / Examination

これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために筆答考査を実施する。

第15回：総括 / Review

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

・理解度確認 セッション (60%)・予習復習理解度確認セッション (小テスト) + 課題 (40%) で評価する。

・ AA (90点以上)、A (80点以上90点未満)、B (70点以上80点未満)、C (60点以上70点未満)、D (60点未満; 不合格)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

必要に応じて講義で紹介する。

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習範囲をクラスルームで示すので、予習範囲に関して、疑問点を整理して講義に臨むこと。
毎回、予習・復習確認セッション（小テスト）を予定している。

第1回目

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。

第2回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第3回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第4回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第5回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第6回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第7回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第8回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第9回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第10回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第11回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第12回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第13回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：クラスルームで示される課題に取り組む。講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

第14回目

予習：理解度確認セッション（筆答考査）に対する準備をする。

復習：講義後に配信される理解度確認セッション（筆答考査）の解答・解説を確認すること。

第15回目

予習：クラスルームに示されるテキスト等範囲に計算も含めて取り組み、不明な点を明らかにする。

復習：講義後に配信される小テストの解答・解説を確認すること。

10. その他 [In addition] :

履修条件：簿記1, 簿記2の履修内容の理解・知識を有することが望ましい。
PC及び電卓持参のこと。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomコード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて
確認すること（要 東北大 ID）

公会計1 / Public Accounting 1

担当教員 [Instructor]: 加藤 暢一 / NOBUKAZU KATOU

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 木曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC604J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

・日本における国、地方自治体など公会計、独立行政法人、公益法人など各種の非営利法人会計、行政マネジメント、公監査の基本知識を確実に理解する。

そして、職業専門家になってから、他の専門家に対して大きく差別化ができ、公会計、公監査、行政コンサルティングで活躍できることを目指す。

・オンラインオンデマンドで、すべての講義を行う。

We study the basic knowledge of Japanese public accounting, public management, public audit of the government and local government, some nonprofit organizations.

We differentiate ourselves in the professional, and we will be excellent public accountant, public auditor, public consultant.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

日本における国、地方自治体など公会計、独立行政法人、公益法人など各種の非営利法人会計、行政マネジメント、公監査の基本知識を理解する。

We study the basic knowledge of Japanese public accounting, public management, public audit of the government and local government, some nonprofit organizations.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

授業内容・方法と進度予定

・授業内容・方法: 図解、イラストも多用して分かりやすい講義をおこなう。中間、期末レポートの作成、総合解説を行う。

・オンラインオンデマンドで、すべての講義を行う。

・目次

第1回: オリエンテーション / Orientation

国、地方公共団体、独立行政法人、公益法人、NPO 法人などの公会計、行政経営、公監査、講義の方法、成績評価などについて説明する。

第2回 国、地方公共団体の組織、運営、予算、決算制度 / The organization, management, budget, settlement of the government and the local government

国、地方公共団体における課題、予算、会計・決算（現金主義）、監査等について学ぶ。

第3回 一般会計、特別会計における新地方公会計の導入 / The new accounting in the general account and special account.

地方公共団体における計画策定、実態把握のための新地方公会計（発生主義）を学ぶ。

第4回 一般会計、特別会計における新地方公会計の活用、行政マネジメント / The utilization of new public accounting, public management in the general account and special account

地方公共団体における課題、行政マネジメント、新地方公会計の活用について学ぶ。

第5回 地方公営企業（水道、下水道、交通、病院など）の経営と会計 / The accounting of local public enterprise (water, sewerage, transportation, hospital)

地方公営企業（水道、下水道、病院、交通等）の行政マネジメント、公会計の改革について学ぶ。

第6回 地方3 公社、一部事務組合、広域連合の経営と会計 / The accounting of local 3 public corporation, partial-affairs-association, regional union

地方3 公社（土地開発、住宅供給、道路）と広域連合等の経営と会計について学ぶ。

第7回 第3セクター、指定管理者の経営と会計 / The accounting of third sector, designated administrator

民間の活力を使った第三セクターや指定管理者の経営と会計について学ぶ。

第8回 独立行政法人、国立大学法人の運営と会計 / The accounting of independent administrative agency, national university corporation

独立行政法人（国立研究所、美術館、病院等）、国立大学法人の経営と会計について学ぶ。

第9回 公益法人、NPO 法人の経営と会計 / The accounting of public service corporation, nonprofit organization

公益法人（公益財団・社団、一般財団・社団）、NPO 法人の経営と会計について学ぶ。

第10回 社会福祉法人、医療法人の経営と会計 / The accounting of social welfare corporation, medical corporation.

社会福祉法人、医療法人（高齢者等の福祉、医療）にかんする経営と会計について学ぶ。

第11回 中間レポートに関する総合解説 / The interim report and synthetic explanation.

ここまでの講義で、重要テーマにかんする中間レポートの作成、総合解説をおこなう。

第12回 地方公共団体の内部統制 / The internal control of local government

地方公共団体における内部統制の必要性、仕組み、民間との比較等について学ぶ。

第13回 地方公共団体の監査 / The audit of local government.

国、地方公共団体、非営利法人における監査の種類、監査手法を学ぶ。

第14回 地方公共団体の監査・事例（監査委員監査、包括外部監査等） / The audit of local government, by the lecture and case study discussion.

地方公共団体の監査内容（テーマ選定、監査手法等）、監査事例について学ぶ。

第15回 期末レポートに関する総合解説。 / The final report and synthetic explanation.

1 回から 14 回講義にもとづき、期末レポートの作成、総合解説をおこなう。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

講義への参加、貢献と中間レポートの作成提出（50%）、期末レポートの作成提出（50%）で評価する。
AA(90 点以上)、A(80 点以上 90 点未満)、B(70 点以上 80 点未満)、C(60 点以上 70 点未満)、D(60 点未満：不合格)
なお、レポートの評価基準は、①理解の正確性、②論点の適格性と網羅性、③論文の適格性とする。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

新統一地方公会計基準	鈴木豊編著	税務経理協会	平成 28 年
公会計原則の解説	筆谷勇	中央経済社	平成 13 年

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。

復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第 2 回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。

復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第 3 回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。

復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第 4 回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。

復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第 5 回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。

復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第 6 回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。

復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第 7 回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。

復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第 8 回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。

復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第 9 回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。

復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第 10 回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。

復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第 11 回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。

復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第 12 回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。

復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第 13 回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。

復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第 14 回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。

復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第 15 回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。

復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識： 会計の基本知識があることが望ましい。

この講義を受講するために必要となる知識：会計に関する基本知識があることが望ましい。
すべてオンラインデマンドで講義をおこなう。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて
確認すること（要 東北大 ID）

1 単位の授業科目は、45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1 単位の修得に必要な
学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15
時間、「実験、実習及び実技」については30～45 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0 時間です。

I F R S 1/International Financial Reporting Standards 1

担当教員 [Instructor]: 樋口 尚文/NAOFUMI HIGUCHI

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 土曜日 3 講時. 後期 土曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC606J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

IFRS accounting standards (International Financial Reporting Standards: IFRS 会計基準)の基礎を学習する。IFRS の基本的な事項を冒頭で学習するとともに、財務諸表作成のための基礎的な基準を一通り学習し、実務家に必要な知識を習得し考え方を理解することを目標とする。

Learn the basics of IFRS accounting standards. It is planned that students learn the basic matters of IFRS at the beginning. Then, students study the basic accounting standards so that they learn and understand the knowledge necessary for practitioners.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

IFRS 基準の中でも、概念フレームワークや基礎的な基準を検索し、理解し、実務家として利用できるようになる。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーションと IFRS の概要/Orientation and overview of IFRS

講義の全体像、講義の進め方、成績評価、学習方法などについて説明を行う。

第2回: 財務報告の利用者/Users of financial statements

財務報告の利用者の企業価値評価の基礎的な事項と、IFRS 財務諸表の使われ方について、概要を理解する。

第3回: IASB の概念フレームワーク/“Conceptual Framework for Financial Reporting” issued by the IASB

I ASB の概念フレームワークの概要を理解する。

第4回: ASBJ の概念フレームワーク/Conceptual Framework issued by the ASBJ

ASBJ の概念フレームワークを学習し、IASB の概念フレームワークとの違いを理解する。

第5回: 財務諸表の表示 (1) /Presentation of financial statements (FS) (1)

表示の基本的な基準である IFRS18 号財務諸表の表示を学習する。

第6回財務諸表の表示 (2)、IAS7 号、IFRS8 号、IAS34 号/ Presentation of FS(2), IAS7, IFRS8, IAS34

IAS7 号キャッシュ・フロー計算書、IFRS8 号事業セグメント、IAS34 号期中財務報告を学習する。

第7回: IAS8 号、IAS10 号、IFRS5 号/ IAS8, IAS10, IFRS5

IAS8 号会計方針等、IAS10 号後発事象、IFRS5 号売却目的保有非流動資産等について学習する。

第8回: IAS2 号、IAS23 号、IAS16 号/IFRS2, IAS23, IAS16

IAS2 号棚卸資産、IAS23 号借入コスト、IAS16 号有形固定資産について学習する。

第9回: IAS36 号、IAS38 号/IAS36, IAS38

IAS36 号無形資産及び IAS38 号資産の減損について学習する。

第10回: IFRS16 号/IFRS16

IFRS16 号リースについて学習する。

第11回: IFRS15 号/IFRS15

IFRS15 号顧客との契約から生じる収益について学習する。

第12回: IAS19 号/IAS19

IAS19 号従業員給付について学習する。

第13回: IAS37 号、IAS12 号と IAS21 号/IAS37, IAS12 and IAS21

IAS37 号引当金等、IAS12 号法人所得税と IAS21 号外貨換算について学習する。

第14回: 最近の企業報告制度改革/Recent Corporate Reporting reforms

近時改革の著しい、企業情報開示や非財務情報開示の進展について学習する。

第15回: 理解度確認セッション/Examination

これまで学習してきた事項の理解を確認するため、理解度確認セッションを実施する。範囲は適宜指定する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

平常点 (出席及び発言) 30%および理解度確認セッション 70%で評価する。ただし、4 回以上欠席した者には単位は付与しない

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

IFRS 会計学基本テキスト (第7 橋本尚/山田善隆版)	中央経済社	2022	97804502426117	教科書
国際会計論 15 講	西川郁生 編著	新世社	2024	9784883843909 教科書

8. 関連 URL [URL] :

<https://www.ifrs.org/>
<https://www.fasf-j.jp/jp/>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

推奨：教科書や講義を基に基準書原文（英語）を読んでみる。図書室に置いてある基準書原文（英語/日本語）の結論の根拠を読んでみる。

第1回目

予習：シラバスの講義計画に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第2回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第3回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第4回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第5回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第6回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第7回目

教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第8回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第9回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第10回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第11回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第12回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第13回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第14回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第15回目

予習：理解度確認セッション（筆答考査）に対する準備をする。

復習：なし

10. その他 [In addition] :

企業会計に関する基礎的知識を有していることが必要である。ただし、IFRS である必要はなく、会計学の基本的な科目を履修していることが望ましい。

準書原文は英語であるが、講義の言語と資料は基本的に日本語となる。ただし、配布資料に英文が含まれることもあるので、頑張って英文を読む意欲も必要と考えられる。

一般財団法人会計教育研修機構の「実務補習」の一部免除科目となっている。免除の要件は、IFRS1 及び IFRS2 とともに全回数出席し、単位を取得することである。

1 回目の講義には必ず出席してください。やむを得ず 2 回目や 3 回目から出席する場合は、必ず 1 回目の講義開始前までに講師まで電子メールで連絡すること。連絡がない場合は、受講をお断りする。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

I F R S 2 / International Financial Reporting Standards 2

担当教員 [Instructor] : 樋口 尚文 / NAOFUMI HIGUCHI

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 土曜日 1 講時, 前期 土曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC607J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

金融商品、連結財務諸表などの企業グループの会計基準及び企業結合を中心に IFRS を学習する。「IFRS1」で学んだ項目以外の重要な会計基準を一通り学習し、実務家に必要な知識を習得し考え方を理解することを目標とする。さらに、サステナビリティ開示基準の概要も学習する。

Learn IFRS standards mainly covering financial instruments, and group accounting standards, such as consolidated financial statements and business combinations. The goal of this course is to study all the significant accounting standards other than those learned in "IFRS 1", and understand the knowledge necessary for practitioners. In addition, the participants will also learn an overview of the Sustainability Disclosure Standards.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

金融商品の会計基準及びM&Aやグループ会計の基準を理解し、IFRS 財務諸表を読み解くことが出来る。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回: オリエンテーション / Orientation

講義の目的: 講義の概要, 講義の進め方, 成績評価, 学習方法などについて説明を行う。

第2回: 金融商品 (1) / Financial instruments (1)

金融商品会計のうち又は分類と測定に関する基準について学習する。

第3回: 金融商品 (2) / Financial Instruments (2)

金融商品会計のうち認識の中止に関する基準について学習する。

第4回: 金融商品 (3) / Financial Instruments (3)

金融商品会計のうち減損及びヘッジ会計を学習する。

第5回: 金融商品 (4) / Financial Instruments (4)

金融商品の表示および開示を学習する。

第6回: IFRS13 号 / IFRS13

IFRS13 号公正価値測定を学習する。

第7回: 中間理解度確認セッション / Interim examination

金融商品会計の中間理解度確認セッションを実施する。

第8回: IFRS10 号, IAS27 号 / IFRS10, IAS27

IFRS10 号連結財務諸表, IAS27 号個別財務諸表を学習する。

第9回: IAS28 号, IFRS11 号 / IAS28, IFRS11

IAS28 号関連会社に対する投資, IFRS11 号共同支配の取決めについて学習する。

第10回: IFRS12 号, IAS24 号 企業集団の開示 / IFRS12, IAS24 Disclosures of group

IFRS12 号他の企業への関与の開示, IAS24 号関連当事者の開示について学習する。

第11回: IFRS3 号 (1) / IFRS3 (1)

IFRS3 号企業結合についての基準の基本構造を学習する。

第12回: IFRS3 号 (2) / IFRS3 (2)

IFRS3 号企業結合について, 基準設定の背景, 我が国基準との対比について学習する。

第13回: サステナビリティ開示基準 (1) / Sustainability disclosure standards (1)

サステナビリティ関連財務情報の開示に関する全般的な要求事項 (IFRS S1 号) について学習する。

第14回: サステナビリティ開示基準 (2) / Sustainability disclosure standards (2)

気候関連開示 (IFRS S2 号) 及び情報開示の保証について学習する。

第15回: 理解度確認セッション / Examination

グループ会計の理解度確認セッションを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

平常点 (出席及び発言) 30% および理解度確認セッション 70% で評価する。ただし、4 回以上欠席した者には単位は付与しない。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

IFRS 会計学基本テキスト (第7版)	橋本尚/山田善隆	中央経済社	2022	97804502426117	教科書
国際会計論 15 講	西川郁生 編著	新世社	2024	9784883843909	教科書

8. 関連 URL [URL] :

<https://www.ifrs.org/>
<https://www.fasf-j.jp/jp/>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

推奨：教科書や講義を基に基準書原文（英語）を読んでみる。図書室に置いてある基準書原文（英語/日本語）の結論の根拠を読んでみる。

第1回目

予習：シラバスの講義計画に目を通し、講義の概要を把握する。
復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第2回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。
復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第3回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。
復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第4回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。
復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第5回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。
復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第6回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。
復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第7回目

予習：中間理解度確認セッション（筆答考査）に対する準備をする。
復習：なし

第8回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。
復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第9回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。
復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第10回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。
復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第11回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。
復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第12回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。
復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第13回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。
復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第14回目

予習：教科書の該当箇所目を通し、不明な点を明らかにする。
復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第15回目

予習：理解度確認セッション（筆答考査）に対する準備をする。
復習：なし

10. その他 [In addition] :

- ・2年次の受講が望ましい。
- ・一般財団法人会計教育研修機構の「実務補習」の一部免除科目となっている。免除の要件は、IFRS1 及び IFRS2 とともに全回数出席し、単位を取得することである。
- ・以下のいずれかがあることが極力望ましい。
 - ・「IFRS1」を履修済であること
 - ・簿記または財務会計の講義（両方とも特に IFRS2 と重複する箇所）を履修済みで、日本の会計基準の知識があること
 - ・公認会計士試験の勉強をしているか、既に短答式試験に合格していること
 - ・IFRS の基準書等を英文で読むことに抵抗がないこと（講義は日本語であるが、配布資料の多くは英文を含む）。
 - ・発表・議論・英文に抵抗がないこと。必ず1回は発表を行います。
 - ・1回目の講義には必ず出席してください。やむを得ず2回目や3回目から出席する場合は、必ず1回目の講義開始前までに講師まで電子メールで連絡すること。連絡がない場合は、受講をお断りする。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

財務会計の理論と実証／Financial Accounting Theory and Analysis

担当教員 [Instructor] : 尾関 規正／NORIMASA OZEKI

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 木曜日 1 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC609J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義の目的は、財務会計が果たす役割に関する理論的な背景を学んだうえで、実証的に検証された知見を体系的にレビューすることです。会計学を勉強する学生は一般的に企業が会計基準に基づいて財務諸表を作成するプロセスを詳細に学習しますが、財務諸表が社会においてどのように利用され、どのような経済的な影響をもたらすかといった知見を学ぶ機会はありません。しかしながら、そのような財務会計の機能や経済的帰結は、私たちが財務会計の意義を深く理解し、社会で扱うために有用となる知識です。財務会計の学術研究領域では、そのような知見を得るために経済学を用いた理論が展開され、それを実際の財務諸表や株価などのデータを用いて検証する研究が進められており、それらは財務会計の実証研究と呼ばれます。本講義では、財務会計やその関連領域における実証研究を中心として、現在までの多くの研究の基礎となった初期の研究をふりかえると共に、そこから発展して広がる様々な研究トピックスを取り扱います。講義においては、それぞれの研究の問題意識や理論的な背景に基づく仮説構築過程を理解し、実証的な分析結果が持つ意味や将来に向けた課題を議論します。

The purpose of this course is to provide a theoretical background on the function of financial accounting, reviewing systematically empirical research. While accounting students generally study the process by which companies disclose financial statements based on accounting standards, they do not have many opportunities to learn about how financial statements work and what consequence they have. Such knowledge of the functions and economic consequences of financial accounting will be significant for us to understand the usefulness of financial accounting and deal with accounting information on practice. The academic research of financial accounting has developed economic theories and examined these theories empirically based on data such as financial statements and stock prices, which are called archival research in financial accounting. In this course, we will review the early research that provided the basis for much of the research to date, with a focus on empirical research in financial accounting and related fields. And then, we will also cover various research topics that have developed and expanded from that research. In the lectures, students will understand the process of hypothesis development based on the research question and theoretical background of each study, and discuss the implications of the empirical analysis results and issues for the future.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

本講義の目標は、学生が財務会計に関する実証研究における理論的な背景やその研究成果を理解し、そこから学術的・実務的な知見を得ることです。

The goal of this course is to understand the theoretical background and analytical results of empirical research in financial accounting and to gain academic and practical insights from it.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

担当教員が各回の課題とする論文を事前に指定し、受講者は指定された論文を事前に読んだうえで報告準備をして授業に参加します。授業は受講者がその内容を報告することによって進行します。報告内容に関して、背景にある考え方を理解し、結果の含意や課題となることを議論します。このとき、担当教員が受講者の理解を促すために、必要に応じて補足的な説明をすることがあります。なお、受講者の数やその理解度に応じて講義の進め方を変更する場合があります。

I will assign the papers for each session, and students will attend class after reading the assigned papers and preparing their presentations. The class will proceed through student presentations of the assigned papers. We will then discuss the background ideas, the implications of the results, and the questions raised by the paper. I will sometimes add supplementary explanations to facilitate student understanding and discussion. Note that the course of this lecture may change depending on the number of students and their level of understanding.

講義初回のガイダンスで各回で取り扱う論文タイトルの一覧を示します。また、受講者の関心に応じて指定する論文を変更する場合があります。教科書は基本的に使用しませんが、必要に応じて指定します。参考書は授業の中で適宜紹介しますが代表的なものを下記で示しています。第1回は講義の概要、進め方、成績評価に関するオリエンテーションを行います。第2回以降は、各回で設定するテーマに関する論文を通じて、そのテーマやトピックスについて議論し、理解を深めます。第14回、第15回では受講者が各自の関心のあるテーマから論文を選んで発表します。論文の探し方については事前に解説します。

第1回：オリエンテーション／Orientation

講義内容の概要、講義の進め方、成績評価に関するオリエンテーションを行います。

第2回：資本市場研究の概観と利益と株価の関連性／Overview of capital market research; Value relevance

財務会計の実証研究領域における、資本市場研究について概観し、財務会計の実証研究の先駆けとなった利益と株価の関連性に関する初期の研究を通じて、その含意や課題を議論します。

第3回：利益に対する投資家の反応／Event study

財務報告に対する投資家の反応を調査するイベント・スタディに関する先行研究を通じて、その含意や課題を議論します。

第4回：財務報告の情報内容／The information contents of financial reporting

財務報告の情報内容に関する先行研究を通じて、その含意や課題を議論します。

第5回：企業価値評価／Valuation

企業価値評価に関する先行研究を通じて、その含意や課題を議論します。

第6回：契約理論・エージェンシー理論にもとづく研究の概観と利益マネジメント／Overview of contracting theory and agency theory research; Earnings management

財務会計の実証研究領域における契約理論またはエージェンシー理論をベースとした研究について概観し、利益マネジメントに関する初期の論文を通じて、その含意や課題について議論します。

第7回：財務報告における経営者の行動／Management behavior in financial reporting

経営者またはCFOに対して財務報告の品質に関する先行研究を通じて、その含意や課題について議論します。

第8回：会計発生高／Accruals

経営者の見積りや判断に応じた会計処理を含む会計発生高に対する株式市場の評価に関する先行研究を通じて、その含意や課題について議論します。

第9回：利益の持続性／Earnings persistence

利益の持続性に関する先行研究を通じて、その含意や課題について議論します。

第10回：会計上の評価／Valuation application

企業価値評価に関する会計的な測定を扱う先行研究を通じて、その含意や課題について議論します。

第11回：保守主義／Conservatism

会計利益における保守主義に関する先行研究を通じて、その含意や課題について議論します。

第12回：監査／Audit

財務報告における監査を取り扱う先行研究を通じて、その含意や課題について議論します。

第13回：不正と誤謬／Fraud and errors (Misstatement)

財務報告における不正や誤謬に関する先行研究を通じて、その含意や課題について議論します。

第14回：近年の研究トピックス（1）／Recent research topics (1)

受講者の関心にもとづいて財務会計の実証研究領域における近年の研究を取り上げ、最新の研究動向をフォローすると共にその含意と将来に向けた課題について議論します。

第15回：近年の研究トピックス（2）／Recent research topics (2)

受講者の関心にもとづいて財務会計の実証研究領域における近年の研究を取り上げ、最新の研究動向をフォローすると共にその含意と将来に向けた課題について議論します。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語 / Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

各回の報告とレポートによる評価（70%）と期末レポート（30%）で評価します。なお、毎回の授業で報告してレポートを提出することと、期末レポートを提出することを成績評価の対象とする必須条件とします。レポートの詳細は初回の講義でアナウンスします。

AA（90点以上）、A（80点以上90点未満）、B（70点以上80点未満）、C（60点以上70点未満）、D（60点未満；不合格）。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

Financial Accounting Theory 8th edition	Scott, William Robert, and Patricia C O'Brien	Pearson Canada	2019		参考書
新版 財務会計の理論と実証 (Financial Accounting Theory 8th edition の訳書)	太田康広・椎葉淳・西 谷順平訳	中央経済社	2022	978- 4502427619	参考書
Positive accounting theory	Watts, Ross L, and Jerold L Zimmerman	Prentice-Hall	1986		参考書
実証理論としての会計学 (Positive accounting theory の訳書)	須田一幸訳	白桃書房	1991	978- 4561360346	参考書
財務会計の機能 理論と実証	須田一幸	白桃書房	2000	978- 4561360926	参考書
会計情報の有用性（体系現代会 計学第3巻）	伊藤邦雄・桜井久勝編 著	中央経済社	2013	978- 4502484100	参考書

8. 関連URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

受講者は指定された論文の内容について事前にひととおり読んでから講義に参加してください。また、報告担当となった受講者は、論文の内容を事前にまとめて発表する準備をしてください。

また、毎回の講義では受講者の全員に課題を出します。課題は対象となった論文について一定の様式を埋める形で内容を要約したレポートを提出するものです。

第1回：オリエンテーション／Orientation

予習：Google クラウドルームに登録し、アナウンスにしたがって準備を行う。

復習：講義資料を確認する。

第2回：資本市場研究の概観と利益と株価の関連性／Overview of capital market research; Value relevance

予習：講義で扱う文献を読み、割り当てられた部分の発表準備を行う。

復習：講義で扱った文献を読みながら講義の内容を復習し、課題のレポートを作成する。

第3回：利益に対する投資家の反応／Event study

予習：講義で扱う文献を読み、割り当てられた部分の発表準備を行う。

復習：講義で扱った文献を読みながら講義の内容を復習し、課題のレポートを作成する。

第4回：財務報告の情報内容／The information contents of financial reporting

予習：講義で扱う文献を読み、割り当てられた部分の発表準備を行う。

復習：講義で扱った文献を読みながら講義の内容を復習し、課題のレポートを作成する。

第5回：企業価値評価／Valuation

予習：講義で扱う文献を読み、割り当てられた部分の発表準備を行う。

復習：講義で扱った文献を読みながら講義の内容を復習し、課題のレポートを作成する。

第6回：契約理論・エイジェンシー理論にもとづく研究の概観と利益マネジメント／Overview of contracting theory and agency theory research; Earnings management

予習：講義で扱う文献を読み、割り当てられた部分の発表準備を行う。

復習：講義で扱った文献を読みながら講義の内容を復習し、課題のレポートを作成する。
 第7回：財務報告における経営者の行動／Management behavior in financial reporting
 予習：講義で扱う文献を読み、割り当てられた部分の発表準備を行う。
 復習：講義で扱った文献を読みながら講義の内容を復習し、課題のレポートを作成する。
 第8回：会計発生高／Accruals
 予習：講義で扱う文献を読み、割り当てられた部分の発表準備を行う。
 復習：講義で扱った文献を読みながら講義の内容を復習し、課題のレポートを作成する。
 第9回：利益の持続性／Earnings persistence
 予習：講義で扱う文献を読み、割り当てられた部分の発表準備を行う。
 復習：講義で扱った文献を読みながら講義の内容を復習し、課題のレポートを作成する。
 第10回：会計上の評価／Valuation application
 予習：講義で扱う文献を読み、割り当てられた部分の発表準備を行う。
 復習：講義で扱った文献を読みながら講義の内容を復習し、課題のレポートを作成する。
 第11回：保守主義／Conservatism
 予習：講義で扱う文献を読み、割り当てられた部分の発表準備を行う。
 復習：講義で扱った文献を読みながら講義の内容を復習し、課題のレポートを作成する。
 第12回：監査／Audit
 予習：講義で扱う文献を読み、割り当てられた部分の発表準備を行う。
 復習：講義で扱った文献を読みながら講義の内容を復習し、課題のレポートを作成する。
 第13回：不正と誤謬／Fraud and errors (Misstatement)
 予習：講義で扱う文献を読み、割り当てられた部分の発表準備を行う。
 復習：講義で扱った文献を読みながら講義の内容を復習し、課題のレポートを作成する。
 第14回：近年の研究トピックス（1）／Recent research topics (1)
 予習：講義で扱う文献を読み、割り当てられた部分の発表準備を行う。また、期末レポートを作成する。
 復習：講義で扱った文献を読みながら講義の内容を復習し、課題のレポートおよび期末レポートを作成する。
 第15回：近年の研究トピックス（2）／Recent research topics (2)
 予習：講義で扱う文献を読み、割り当てられた部分の発表準備を行う。
 復習：講義で扱った文献を読みながら講義の内容を復習し、課題のレポートを作成する。講義で議論した内容を反映して、期末レポートを完成させる。

10. その他 [In addition] :

財務会計に関する基本的な知識を既に修得していることを前提とします。また、統計学、経済学、ファイナンスの知識があれば、より理解がしやすくなります。また、指定する論文を読むための英語の読解力が必要です。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて
 確認すること（要 東北大 ID）

事例研究 (I F R S) / Case Study (International Financial Reporting Standards)

担当教員 [Instructor] : 樋口 尚文 / NAOFUMI HIGUCHI

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 土曜日 3 講時. 後期 土曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC610J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

IASB (国際会計基準審議会) や米国 FASB (財務会計審議会) 等における会計基準のコンバージェンスのトピックスに加え、IFRS を適用している企業の事例や我が国における検討課題等について前半 (1 回目～7 回目) で一通り講義する。後半 (8 回目以降) は、ディスカッションや受講者による発表により、IFRS についての会計政策や個々の基準の設定理解を深め、将来財務諸表作成者・監査人・利用者等の実務家になった場合でも、対応できるような考えを身に付けることを目標にする。

The topics of convergence about the accounting standards issued by both the IASB (International Accounting Standards Board) and the US FASB (Financial Accounting Standards Board) will be discussed in the first half of the course, including case studies of companies applying IFRS and practical issues in Japan. In the latter half of the course (from the 8th session), it is planned that students discuss and prepare presentations. It would enhance an in-depth understanding of accounting policies and individual standards of IFRS so that students could respond to the practical issues when they become practitioners as preparers, auditors, and users of financial statements in the future.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

会計政策とその背景、会計基準等の国際的な共通化について理解する。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回: オリエンテーション / First session: Orientation

講義の内容、進め方、成績評価の方法について説明する。

第2回: 日本のコンバージェンス (1) / Convergence in Japan (1)

いわゆる会計ビッグバンとその背景について学習する。

第3回: 日本のコンバージェンス (2) / Convergence in Japan (2)

IFRS 導入の背景と制度的な枠組みについて学習する。

第4回: IASB と FASB の間のコンバージェンス / Convergence between the IASB and the FASB

IFRS と米国会計基準のコンバージェンスの歴史と背景について学習する。

第5回: SEC による会計政策 / Policies on accounting by the SEC

アメリカの証券取引委員会 (SEC) による会計政策を学習する。

第6回: 会計プロフェッション / Accountancy Profession

会計プロフェッションの歴史と国際化について学習する。

第7回: 国際会計士連盟 / International Federation of Accountants

国際会計士連盟とモニタリンググループによる監査・倫理基準設定主体の改革について学習する。

第8回から第15回: 報告とディスカッション / From 8th through 15th sessions : Reporting and discussion (1)

会計基準または会計政策など何らかのトピックに関連する IFRS、米国会計基準及び日本基準について、報告と報告資料に基づいたディスカッション。

なお、受講者が少数 (2 名以下) の場合は、文献講読に切り替えることがある

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

平常点のみで評価する。報告が必須となる。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

IFRS 会計学基本テキスト (第7 橋本尚/山田善隆 版)	中央経済社	2022	97804502426117	教科書
国際会計論 15 講	西川郁生 編著	新世社	2024	9784883843909 教科書

8. 関連 URL [URL] :

<https://www.ifrs.org/>
<https://www.fasf-j.jp/jp/>
<https://www.fasb.org/>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

推奨: 教科書や講義を基に基準書原文 (英語) を読んでみる。図書室に置いてある基準書原文 (英語/日本語) の結論の根拠を読んでみる。

第1回目

予習：シラバスの講義計画に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第2回目

予習：講義スライドに目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第3回目

予習：講義スライドに目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第4回目

予習：講義スライドに目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第5回目

予習：講義スライドに目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第6回目

予習：講義スライドに目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第7回目

予習：講義スライドに目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：なし

第8回目から第15回目

予習：発表の準備をする。発表の順番でない場合は、他の受講者の発表資料を事前に目を通していき、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：以下を考えている。

- ・どちらかというと2年次の受講が望ましい
- ・発表および議論に抵抗がないこと
- ・要件として以下のいずれかがあることが極力望ましい
 - ・「IFRS1」及び「IFRS2」を履修済又は同時に受講すること
 - ・簿記または財務会計の講義を履修済みであること
 - ・日本の会計基準について一通りの基礎的な知識があること
 - ・IFRSの基準書等を英文で読むことにも抵抗がないこと（講義や会話の言語は日本語）。
 - ・1回目の講義には必ず出席すること。やむを得ず2回目から出席する場合は、必ず1回目の講義前までに講師まで電子メールで連絡すること。連絡がない場合は、受講をお断りする。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomコード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

管理会計1 / Management Accounting 1

担当教員 [Instructor] : 松田 康弘 / YASUHIRO MATSUDA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 金曜日 5講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC506J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

講義の目的 / Course Objective :

- ・管理会計の基礎を身につけること
- ・ストックとフローの概念及び扱いについて、管理会計の観点から理解すること
- ・会計情報が企業における意思決定や業績評価においてどのように利用されるかを理解すること

The purposes of this lecture are:

- To learn the basic knowledge of management accounting,
- To understand the notion of stock and flow from the perspective of management accounting, and
- To understand the role of non-financial information in decision making and performance evaluation.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

本講義では、意思決定や業績評価の根拠となる原価情報の推定方法から、その適切な扱い方に至るまでを学習する。

講義の前半では、伝統的原価計算を前提に、原価の発生の態様から予算の作成、事後の業績評価手続の方法を学習する。

講義の後半では、部門の業績評価方法を理解し、短期的意思決定において関連情報と無関連情報を適切に分類することができるようになることを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回: オリエンテーション / Orientation

講義の概要、進め方、成績評価方法等について説明する

第2回: 管理会計の概要及び原価計算用語の確認 / Foundation of management accounting

管理会計の果たす役割とその担い手について説明し、基本的な原価計算用語について確認する

第3回: CVP分析 / CVP analysis

所謂CVP分析と関連する分析方法について説明し、営業レバレッジ等の関連する概念について説明する

第4回: 個別原価計算 / Job costing

個別原価計算について説明する

第5回: 活動基準原価計算 / Activity-based costing

製造間接費の配賦に関する諸問題に関連して、活動基準原価計算について説明する

第6回: 総合予算と責任会計 / Master budget and responsibility accounting

総合予算の編成手順について概観し、責任会計と関連する諸概念について説明する

第7回: 変動予算と直接費 / Flexible budget and direct costs

マネジメント・コントロールの観点から、変動予算の作成方法及び直接費の予実差異の分析方法を説明する

第8回: 変動予算と製造間接費 / Flexible budget and overhead costs

マネジメント・コントロールの観点から、変動予算の作成方法及び製造間接費の予実差異の分析方法を説明する

第9回: 直接原価計算と全部原価計算 / direct costing and absorption costing

直接原価計算と全部原価計算による損益計算の方法を及びそれぞれの優劣を説明する

第10回: 意思決定と関連情報1 / Decision making and relevant information 1

意思決定と関連・無関連情報の分類について説明し、業務意思決定について説明する

第11回: 意思決定と関連情報2 / Decision making and relevant information 2

埋没原価や機会原価の概念を説明し、顧客の選別や部門の閉鎖といった問題の分析方法を説明する

第12回: 意思決定と関連情報3 / Decision making and relevant information 3

その他様々な業務的意思決定に関する問題を説明する

第13回: 原価の推定1 / Determining how costs behave 1

原価の推定方法、主に高低点法と回帰分析について説明する

第14回: 原価の推定2 / Determining how costs behave 2

回帰分析についてより深く理解した後、学習曲線や経験曲線について説明する

第15回: 理解度確認セッション / Examination

講義内容の理解を確認するために筆答審査をおこなう

4. 実務・実践的授業 [Practical business]**5. 使用言語 [Language Used in Course] :**

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

- ・平常点 (指定する章末問題) (40%), 理解度確認セッション (60%) で評価する。
- ・理解度確認セッションを1回実施する予定。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

Cost Accounting: A Managerial Emphasis, the 17th ed.	Datar S. M., and M. Rajan	Pearson Education Limited	2020	978-1292363073	参考書
--	---------------------------	---------------------------	------	----------------	-----

8. 関連 URL [URL] :

講義資料の配布はアナウンス等はすべて下記 URL の Google Classroom にておこなう。受講者は必ずメンバー登録してください。

<https://classroom.google.com/c/NzQ5MjQ4MjI1NDA3?cjc=ltuswod>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 2 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 3 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 4 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 5 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 6 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 7 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 8 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 9 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 10 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 11 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 12 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 13 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 14 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 15 回目

予習：理解度確認セッション（筆答考査）に対する準備をする。

復習：終了後に配信される理解度確認セッション（筆答考査）の解答・解説を確認すること。

10. その他 [In addition] :

会計や原価計算に関する基礎的な知識を持っていること。たとえば、学部で会計学関連の科目や原価計算・管理会計の科目を履修していることが望ましい。

その他：

教科書については指定しないが、講義は参考書として指定した Datar and Rajan のテキスト “Horngren’s Cost Accounting a Managerial Emphasis, the 17th edition” と関連づけて構成する。課題は本書からは出さないが、本書は豊富な数値例と丁寧な記述で有用なテキストである。講義の連絡、講義資料の配付は全て Classroom（上記関連 URL 参照）を通じて実施する。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

管理会計 2 / Management Accounting 2

担当教員 [Instructor] : 松田 康弘 / YASUHIRO MATSUDA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 金曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC507J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

管理会計の基礎的な考え方と計算方法を身につけること。その際、非財務情報も含む会計情報が企業における意思決定や業績評価においてどのように利用されるのかを具体的に理解すること。

This course provides fundamental perspectives and techniques in management accounting. Students will learn how we should refer accounting information, whether they are financial or nonfinancial, for the purpose of decision making and performance measurement.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

いわゆる戦略的管理会計と呼ばれる各種技法を理解し、様々な分析や計画策定をおこなえるようになること。

また、管理会計上重要な諸々のテーマについて、各テーマの抱える論点、トレードオフ、目指すべき目標、それを阻む障壁を理解した上で、テーマごとの基礎的な分析方法を身につけること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション / Orientation

講義の概要、進め方、成績評価方法等について説明する

第2回：戦略と収益性分析 / Strategy and profitability analysis

戦略と戦略に立脚した収益性分析の方法について講義する

第3回：価格設定 / Pricing decisions

短期・長期の価格設定と原価企画について講義する

第4回：費用配賦及び関連する問題 / Cost allocation and related issues

費用配賦全般と顧客収益性や販売量差異の分析について講義する

第5回：補助部門費と共通費の配賦 / Allocation of support-department costs and common costs

補助部門費と共通費の配賦方法について講義する

第6回：連結原価と副産物の処理 / Joint costs and byproducts

連結原価と副産物の処理について講義する

第7回：品質原価 / Costs of quality

品質原価を機会費用を交えつつ講義する

第8回：管理会計とスピード / Time related issues

スピードや時間に関連する管理会計上の問題について講義する

第9回：生産管理と管理会計 / Production management and management accounting

生産管理に関連する諸問題について講義する

第10回：統計的品質管理 / Statistical quality control

統計的品質管理について講義する

第11回：経済的発注量 / Economic Order Quantity

在庫管理の計画方法である経済的発注量と在庫保有量について講義する

第12回：資本予算と税引後キャッシュフロー / Capital budgeting

資本予算における投資案件の評価方法について講義する

第13回：業績評価と報酬 / Performance evaluation

部門業績の評価方法とそれに関連する諸問題について講義する

第14回：分権制組織 / Decentralized organizations

分権化した組織における様々な問題について講義する

第15回：理解度確認セッション / Examination

講義内容の理解を確認するために筆答考査をおこなう

4. 実務・実践的授業 [Practical business]**5. 使用言語 [Language Used in Course] :**

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

- ・平常点（指定する章末問題）（40%）、理解度確認セッション（60%）で評価する。
- ・理解度確認セッションは1回実施する予定。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

Horngren's Cost Accounting: A Managerial Emphasis 17th ed.	Datar S. M., and M. Rajan	Pearson Education Limited	2020	978- 1292363073	参考書
--	------------------------------	---------------------------------	------	--------------------	-----

8. 関連 URL [URL] :

講義資料の配布はアナウンス等はすべて下記 URL の Google Classroom にておこなう。受講者は必ずメンバー登録してください。

<https://classroom.google.com/c/NzQ5MjQ4OTMxNDM3?cjc=f5q4t4c>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 2 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 3 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 4 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 5 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 6 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 7 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 8 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 9 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 10 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 11 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 12 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 13 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 14 回目

予習：事前に配信する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義内や Google classroom で指定される課題に取り組む。

第 15 回目

予習：理解度確認セッション（筆答考査）に対する準備をする。

復習：終了後に配信される理解度確認セッション（筆答考査）の解答・解説を確認すること。

10. その他 [In addition] :

会計や原価計算に関する基礎的な知識を持っていること。たとえば、学部で会計学関連の科目や原価計算・管理会計の科目を履修していることが望ましい。また、後期に開講されている管理会計 1 を受講済みであることが望ましい。

その他：

教科書については指定しないが、講義は参考書として指定した Datar and Rajan のテキスト “Horngren’s Cost Accounting a Managerial Emphasis, the 17th edition” と関連づけて構成する。課題は本書からは出さないが、本書は豊富な数値例と丁寧な記述で有用なテキストである。講義の連絡、講義資料の配付は全て Classroom（上記関連 URL 参照）を通じて実施する。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示（<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>）内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

管理会計3 / Management Accounting 3

担当教員 [Instructor] : 荻原 啓佑 / KEISUKE OGIHARA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 水曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC611J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、企業における業績目標（例えば、財務目標、非財務目標）の設定に関する、管理会計領域の主要な研究結果を理解することを目的とする。これらの知見は、業績目標の設定に関わる企業のマネジャーや役員にとって有用なものである。

The objective of this lecture is to understand the main research findings in the area of management accounting regarding the setting of performance targets (e.g., financial and nonfinancial targets) in firms. These findings are useful for managers and executives of firms involved in setting performance targets.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

業績目標の設定をする際に注意すべき点を理解すること。

業績目標の設定に関する管理会計研究において、すでに明らかになっていることと明らかになっていないことを整理できるようになること。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション/Orientation

本科目の目的、受講方法、成績評価方法を説明する。

第2回：業績目標を設定する/Setting performance targets

企業における業績目標の設定に関わる論点を講義する。

第3回：予算管理における業績目標の設定(1)/Budget targets(1)

業績目標としての予算とその役割について講義する。

第4回：予算管理における業績目標の設定(2)/Budget targets(2)

予算と他のシステムとの関係性や予算がマネジャーの行動に与える影響について講義する。

第5回：環境変化と業績目標の設定(1)/Target setting in changing conditions(1)

固定的な予算目標と柔軟な予算目標、ローリング予測について講義する。

第6回：環境変化と業績目標の設定(2)/Target setting in changing conditions(2)

管理可能性原則と主観的業績評価について講義する。

第7回：業績目標の多様性(1)/Performance targets(1)

外的な目標と内的な業績目標、トップダウン型と参加型の業績目標の設定について講義する。

第8回：業績目標の多様性(2)/Performance targets(2)

ラチェッティング、予測、ゼロベースの業績目標の設定について講義する。

第9回：業績目標の困難度に関する問題(1)/Target difficulty(1)

目標設定理論、超然とした業績目標、高い達成可能性の業績目標について講義する。

第10回：業績目標の困難度に関する問題(2)/Target difficulty(2)

上限・下限のある業績目標の設定、目的に応じた業績目標の困難度について講義する。

第11回：複数の業績目標を設定する(1)/Multiple performance targets(1)

設定される業績目標の数、業績目標への重みづけについて講義する。

第12回：複数の業績目標を設定する(2)/Multiple performance targets(2)

業績目標間の関係性、顧客に関する業績目標の設定について講義する。

第13回：業績目標の設定におけるイノベーション(1)/Innovations in target setting(1)

活動基準予算管理について講義する。

第14回：業績目標の設定におけるイノベーション(2)/Innovations in target setting(2)

脱予算経営と予算管理システムの変更について講義する。

第15回：まとめ/Reflection

最終課題について発表を行なってもらう。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

平常点 (60%)、最終課題 (40%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

Setting Performance Targets (The Managerial Accounting Collection)	Carolyn Stringer, Paul Shantapriyan	Business Expert Press	2011	978- 1606491379	教科書
New Developments in Goal Setting and Task Performance	Edwin A. Locke, Gary P. Latham	Routledge	2013	978- 0815390879	参考書
実務に活かす管理会計のエビデ ンス	加登豊・吉田栄介・新 井康平 (編著)	中央経済社	2022	978- 4502420016	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回 : オリエンテーション/Orientation

予習 : シラバスを読み, 講義の目的や進め方を確認しておく。

復習 : 講義内容を振り返り, 成績評価方法や今後のスケジュールを把握する。アンケートに答える。

第 2 回 : 業績目標を設定する/Setting performance targets

予習 : テキスト (Ch1) を読み, 事前課題を提出する。

復習 : 新たに学んだ内容を再確認する。

第 3 回 : 予算管理における業績目標の設定(1)/Budget targets(1)

予習 : テキスト (Ch2 の前半) を読み, 事前課題を提出する。

復習 : 新たに学んだ内容を再確認する。

第 4 回 : 予算管理における業績目標の設定(2)/Budget targets(2)

予習 : テキスト (Ch2 の後半) を読み, 事前課題を提出する。

復習 : 新たに学んだ内容を再確認する。

第 5 回 : 環境変化と業績目標の設定(1)/Target setting in changing conditions(1)

予習 : テキスト (Ch3 の前半) を読み, 事前課題を提出する。

復習 : 新たに学んだ内容を再確認する。

第 6 回 : 環境変化と業績目標の設定(2)/Target setting in changing conditions(2)

予習 : テキスト (Ch3 の後半) を読み, 事前課題を提出する。

復習 : 新たに学んだ内容を再確認する。

第 7 回 : 業績目標の多様性(1)/Performance targets(1)

予習 : テキスト (Ch4 の前半) を読み, 事前課題を提出する。

復習 : 新たに学んだ内容を再確認する。

第 8 回 : 業績目標の多様性(2)/Performance targets(2)

予習 : テキスト (Ch4 の後半) を読み, 事前課題を提出する。

復習 : 新たに学んだ内容を再確認する。

第 9 回 : 業績目標の困難度に関する問題(1)/Target difficulty(1)

予習 : テキスト (Ch5 の前半) を読み, 事前課題を提出する。

復習 : 新たに学んだ内容を再確認する。

第 10 回 : 業績目標の困難度に関する問題(2)/Target difficulty(2)

予習 : テキスト (Ch5 の後半) を読み, 事前課題を提出する。

復習 : 新たに学んだ内容を再確認する。

第 11 回 : 複数の業績目標を設定する(1)/Multiple performance targets(1)

予習 : テキスト (Ch6 の前半) を読み, 事前課題を提出する。

復習 : 新たに学んだ内容を再確認する。

第 12 回 : 複数の業績目標を設定する(2)/Multiple performance targets(2)

予習 : テキスト (Ch6 の後半) を読み, 事前課題を提出する。

復習 : 新たに学んだ内容を再確認する。

第 13 回 : 業績目標の設定におけるイノベーション(1)/Innovations in target setting(1)

予習 : テキスト (Ch7 の前半) を読み, 事前課題を提出する。

復習 : 新たに学んだ内容を再確認する。

第 14 回 : 業績目標の設定におけるイノベーション(2)/Innovations in target setting(2)

予習 : テキスト (Ch7 の後半) を読み, 事前課題を提出する。

復習 : 新たに学んだ内容を再確認する。

第 15 回 : まとめ/Reflection

予習 : 最終課題の発表準備を行う。

復習 : アンケートに答える。

10. その他 [In addition] :

学部レベルの管理会計に関する知識を持っている, あるいは管理会計 1/2 を履修済みであることが望ましい。
教科書や論文を読むために一定の英語力が必要である。また, 統計学の基礎知識もあると望ましいが, 必須ではない。
論文を読むために必要な知識も講義内で提供します。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて
確認すること (要 東北大 ID)

原価計算 1 / Cost Accounting 1

担当教員 [Instructor]: 鈴木 翔太 / SYOTA SUZUKI

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 土曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC508J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

工業簿記及び原価計算の基礎を身につけることを目的としている。

講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していく。

The aim is to teach the basics of industrial bookkeeping and cost accounting.

In the lectures, students will study the theory and calculation systems that support cost accounting while incorporating practice problems.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

1. 原価計算の目的と諸概念について説明できる。

2. 原価計算システムの理論構造を理解し、説明できる。

3. 原価計算の計算問題を解くことができる。

1. Explain the purpose and various concepts of cost accounting.

2. Understand and explain the theoretical structure of the cost accounting system.

3. Can solve calculation problems of cost accounting.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

講義の進め方:

・1回目の講義で講義の概要、進め方、成績評価、学習方法などについて説明を行う/In the first lecture, we will explain the outline of the lecture, how to proceed, grade evaluation, learning method, etc.

・テキストをベースとして、各講義で概ね一つのテーマについて講義する/Based on the textbook, each lecture will give a lecture on almost one theme.

・各セクションには練習問題を設けており、それを中心に復習する/Each section has exercises, and we will review them mainly.

・原則として毎回講義の冒頭に小テストを実施する./In principle, a quiz will be given at the beginning of each lecture.

・練習問題の一部はショートレポートとして提出を求める/Some exercises are required to be submitted as a short report

第1回: オリエンテーション、工業簿記・原価計算の基礎 1 / Orientation・Basic of industrial bookkeeping and cost accounting1

講義の目的および全体のフレームワーク、進め方、成績評価方法、学習方法に関するガイダンスを行う。その上で、原価計算の目的と原価概念について講義する。

第2回: 工業簿記・原価計算の基礎 2 / Basic of industrial bookkeeping and cost accounting2

原価計算の手続きと勘定連絡及び財務諸表との関係について講義する。

第3回: 費目別原価計算 (材料費) / Item cost accounting I (Material cost)

材料費の分類及び会計処理方法について講義する。

第4回: 費目別計算 (労務費計算) / Item cost accounting (Labor cost)

労務費の分類及び会計処理方法について講義する。

第5回: 費目別計算 (経費計算) / Manufacturing overhead

経費の分類及び会計処理方法について講義する。

第6回: 製造間接費 / Manufacturing overhead

製造間接費の配賦方法について講義する。

第7回: 演習問題 (費目別計算) / Exercises

原価計算 1 の第6回までで学習した基礎知識を元にして、さらに多面的な観点からの練習問題を解くことにより、これまで学習してきた内容の総合的な理解を深めていく。

第8回: 個別原価計算 / Single process costing

個別原価計算の計算手続について講義する。

第9回: 個別原価計算における仕損 / Spoilage expenses Shrinkage loss in Job order costing

個別原価計算における仕損及び作業屑の計算手続について講義する。

第10回: 演習問題 (個別原価計算) / Exercises

原価計算 1 の第9回までで学習した基礎知識を元にして、さらに多面的な観点からの練習問題を解くことにより、これまで学習してきた内容の総合的な理解を深めていく。

第11回: 部門別計算 / Departmental cost accounting

部門別計算の計算手続について講義する。

第12回: 部門別計算 / Departmental cost accounting

部門個別費と部門共通費の集計 (第1次集計) について講義する。

第13回: 部門別計算 / Departmental cost accounting

補助部門費の配賦 (第2次集計) について講義する。

第14回: 演習問題 (部門別原価計算) / Exercises

原価計算 1 の第13回までで学習した基礎知識を元にして、さらに多面的な観点からの練習問題を解くことにより、これまで学習してきた内容の総合的な理解を深めていく。

第15回: 演習問題 (理解度確認セッション) / Exercises

これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために筆答考査を実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語
Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

成績評価法:

理解度確認セッション (50%)、レポート・小テスト (50%)

・AA(90 点以上), A(80 点以上 90 点未満), B(70 点以上 80 点未満), C(60 点以上 70 点未満), D(60 点未満: 不合格)

Evaluation method:

Understanding level confirmation session (50%), report/quiz (50%)

・AA (90 points or more), A (80 points or more)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

みんなが欲しかった! 簿記の 鈴木 隆文 著 TAC 出版 2019 9784813285779 教科書
教科書 日商 1 級 工業簿記・原
価計算 1 費目別計算 個別原価
計算編 第 2 版(旧:TAC 簿記の教
室シリーズ)

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 2 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 3 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 4 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 5 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 6 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 7 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 8 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 9 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 10 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 11 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 12 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 13 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 14 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 15 回目

予習: 理解度確認セッション (筆答考査) に対する準備をする.

復習: 講義後に配信される理解度確認セッション (筆答考査) の解答・解説を確認すること.

10. その他 [In addition] :

- ・オフィスアワー/office hour : 講義終了後/After the lecture
- 連絡先/contact address : shota.suzuki.e5@tohoku.ac.jp

その他/others :

- ・簿記2級程度の知識を有していることが望ましい. / It is desirable to have knowledge of bookkeeping level 2.
- ・電卓を用意しておくこと./Prepare a calculator.

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etusad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて確認すること(要 東北大 ID)

原価計算 2 / Cost Accounting 2

担当教員 [Instructor] : 鈴木 翔太 / SYOTA SUZUKI

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 土曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC509J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

工業簿記及び原価計算の基礎を身につけることを目的としている。

講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していく。

The aim is to teach the basics of industrial bookkeeping and cost accounting.

In the lectures, students will study the theory and calculation systems that support cost accounting while incorporating practice problems.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

1. 原価計算の目的と諸概念について説明できる。

2. 原価計算システムの理論構造を理解し、説明できる。

3. 原価計算の計算問題を解くことができる。

1. Explain the purpose and various concepts of cost accounting.

2. Understand and explain the theoretical structure of the cost accounting system.

3. Can solve calculation problems of cost accounting.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

講義の進め方 :

・ 1 回目の講義で講義の概要、進め方、成績評価、学習方法などについて説明を行う / In the first lecture, we will explain the outline of the lecture, how to proceed, grade evaluation, learning method, etc.

・ テキストをベースとして、各講義で概ね一つのテーマについて講義する / Based on the textbook, each lecture will give a lecture on almost one theme.

・ 各セクションには練習問題を設けており、それを中心に復習する / Each section has exercises, and we will review them mainly.

・ 練習問題の一部はショートレポートとして提出を求める / Some exercises are required to be submitted as a short report

・ Google Classroom : vp2ltd7

第 1 回 : 単純総合原価計算 / Single process costing

単純総合原価計算について概説する

第 2 回 : 総合原価計算における仕損費・減損 I / Spoilage expenses Shrinkage loss in process cost system

総合原価計算における仕損費・減損について概説する

第 3 回 : 総合原価計算における仕損費・減損 II / Spoilage expenses Shrinkage loss in process cost system

総合原価計算における仕損費・減損について概説する

第 4 回 : 工程別総合原価計算 I / Sequential cost system I

工程別総合原価計算について概説する

第 5 回 : 工程別総合原価計算 II / Sequential cost system II

工程別総合原価計算について概説する

第 6 回 : 組別・等級別総合原価計算 / Class cost system ・ Group cost system

組別・等級別総合原価計算について概説する

第 7 回 : 連産品の原価計算 / CO-product

連産品の原価計算について概説する

第 8 回 : 演習問題 (総合原価計算) / Exercises

総合原価計算の演習を実施する。

第 9 回 : 標準原価計算 I / Standard cost system I

標準原価計算について概説する

第 10 回 : 標準原価計算 II / Standard cost system II

標準原価計算について概説する

第 11 回 : 標準原価計算 III / Standard cost system III

について概説する

第 12 回 : 標準原価計算 IV / Standard cost system IV

標準原価計算について概説する

第 13 回 : 標準原価計算 V / Standard cost system V

標準原価計算について概説する

第 14 回 : 演習問題 2 (標準原価計算) / Exercises2

標準原価計算に係る問題演習を通じて理解を深める

第 15 回 : 演習問題 (理解度確認セッション) / Exercises

理解度確認セッションを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

成績評価法 :

理解度確認セッション (50%)、レポート・小テスト (50%)

・AA(90 点以上), A(80 点以上 90 点未満), B(70 点以上 80 点未満), C(60 点以上 70 点未満), D(60 点未満 : 不合格)

Grading method:

Understanding level confirmation session (50%), report/quiz (50%)

・AA (90 points or more), A (80 points or m

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

みんなが欲しかった! 簿記の 鈴木 隆文 著 TAC 出版 2019 9784813285786 教科書
教科書 日商 1 級 工業簿記・原
価計算 2 総合原価計算・標準原
価計算編 第 2 版(旧:TAC 簿記の
教室シリーズ)

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 2 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 3 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 4 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 5 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 6 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 7 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 8 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 9 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 10 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 11 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 12 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 13 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 14 回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第 15 回目

予習: 理解度確認セッション (筆答考査) に対する準備をする.

復習: 講義後に配信される理解度確認セッション (筆答考査) の解答・解説を確認すること.

10. その他 [In addition] :

オフィスアワー: 講義終了後

連絡先: shota.suzuki.e5@tohoku.ac.jp

その他講義を受講する際注意すべき点/others :

- ・簿記２級程度の知識を有していることが望ましい. / It is desirable to have knowledge of bookkeeping level 2.
- ・前期に開講される原価計算１を履修していることが望ましい. /It is desirable to have taken Cost Accounting 1, which is offered in the first semester.
- ・電卓を用意しておくこと/Prepare a calculator.

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

事例研究（管理会計）／Case Study（Management Accounting）

担当教員 [Instructor] : 荻原 啓佑／KEISUKE OGIHARA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 水曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC613J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義は、コストリテラシー（原価情報を意思決定に活用し、価値を生み出すための知識と能力）を高めることを目的とする。講義では、戦略的コストマネジメントに関連する管理会計・原価計算のトピックを学ぶ。そして、学んだ内容をふまえ、仮想の企業に関するケースを分析し、議論する。

The objective of this course is to enhance cost literacy (knowledge and ability to use cost information for decision making and to create value). In the lecture, students will learn management accounting and cost accounting topics related to strategic cost management. Based on what they have learned, students will analyze and discuss cases related to hypothetical companies.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

実務で求められるコストリテラシーを身に着けること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :**第1回：オリエンテーション／Orientation**

本科目の目的、受講方法、成績評価方法を説明する。さらに、戦略的コストマネジメントの学習領域について概説する。

第2回：戦略的コストマネジメントの基礎／Fundamentals of Strategic Cost Management

原価に関わる基本概念や用語について講義する。

第3回：個別原価計算／Job order costing

個別原価計算の方法を学び、ケースについて議論する。

第4回：総合原価計算／Process costing

総合原価計算の方法を学び、ケースについて議論する。

第5回：ABC／Activity-based costing

新しい原価計算システムとしてのABCの方法を学び、ケースについて講義する。

第6回：原価配分／Cost allocation

原価を部門に配分する方法を学び、ケースについて議論する。

第7回：コストベヘイビアと原価関数の推定／Cost behavior and cost function estimation

原価関数の推定方法を学び、ケースについて議論する。

第8回：意思決定と原価分析／Decision makings and cost analysis

意思決定プロセスおよび意思決定で用いられる分析方法を学び、ケースについて議論する。

第9回：長期的意思決定と資本予算／Long term decision making and capital budgeting

長期的意思決定で用いられる分析方法を学び、ケースについて議論する。

第10回：CVP分析とコスト構造／Cost-Volume-Profit analysis and cost structure

CVP分析の方法を学び、ケースについて議論する。

第11回：標準原価計算と原価差異分析／Standard Costing and cost variance analysis

標準原価計算の概要と原価に差異が生じた時の分析方法を学び、ケースについて議論する。

第12回：原価改善／Kaizen costing

原価を継続的に低減しようとする企業の取り組みを学び、ケースについて議論する。

第13回：原価企画／Target costing

製品の企画・開発・設計段階における原価の低減方法を学び、ケースについて議論する。

第14回：ABM／Activity-based management

ABCを用いたコストマネジメント方法を学び、ケースについて議論する。

第15回：まとめ／Reflection

最終課題についての発表を行なってもらう。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]**5. 使用言語 [Language Used in Course] :**

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

報告と小レポートによる平常点（70%）、最終課題（30%）で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

戦略的コストマネジメント	梶原武久	中央経済社	2022	978-4502421518	教科書
--------------	------	-------	------	----------------	-----

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回: オリエンテーション/Orientation

予習: シラバスを読み、講義の目的や進め方を確認しておく。

復習: 講義内容を振り返り、成績評価方法や今後のスケジュールを把握する。また、テキスト第1章を読んでおく。アンケートに答える。

第2回: 戦略的コストマネジメントの基礎/Fundamentals of Strategic Cost Management

予習: テキスト第2章(戦略的コストマネジメントの基本概念)を読んでおく。

復習: 新たに学んだ内容を再確認する。アンケートに答える。

第3回: 個別原価計算/Job order costing

予習: テキスト第3章(個別原価計算)を読み、事前課題を提出する。

復習: ケースおよび新たに学んだ内容を再確認する。

第4回: 総合原価計算/Process costing

予習: テキスト第4章(総合原価計算)を読み、事前課題を提出する。

復習: ケースおよび新たに学んだ内容を再確認する。

第5回: ABC/Activity-based costing

予習: テキスト第5章(ABC)を読み、事前課題を提出する。

復習: ケースおよび新たに学んだ内容を再確認する。

第6回: 原価配分/Cost allocation

予習: テキスト第6章(原価配分)を読み、事前課題を提出する。

復習: ケースおよび新たに学んだ内容を再確認する。

第7回: コストビヘイビアと原価関数の推定/Cost behavior and cost function estimation

予習: テキスト第7章(コストビヘイビアと原価関数の推定)を読み、事前課題を提出する。

復習: ケースおよび新たに学んだ内容を再確認する。

第8回: 意思決定と原価分析/Decision makings and cost analysis

予習: テキスト第8章(意思決定と原価分析)を読み、事前課題を提出する。

復習: ケースおよび新たに学んだ内容を再確認する。

第9回: 長期的意思決定と資本予算/Long term decision making and capital budgeting

予習: テキスト第9章(長期的意思決定と資本予算)を読み、事前課題を提出する。

復習: ケースおよび新たに学んだ内容を再確認する。

第10回: CVP 分析とコスト構造/Cost-Volume-Profit analysis and cost structure

予習: テキスト第11章(CVP 分析とコスト構造)を読み、事前課題を提出する。

復習: ケースおよび新たに学んだ内容を再確認する。

第11回: 標準原価計算と原価差異分析/Standard Costing and cost variance analysis

予習: テキスト第12章(標準原価計算と原価差異分析)を読み、事前課題を提出する。

復習: ケースおよび新たに学んだ内容を再確認する。

第12回: 原価改善/Kaizen costing

予習: テキスト第13章(原価改善)を読み、事前課題を提出する。

復習: ケースおよび新たに学んだ内容を再確認する。

第13回: 原価企画/Target costing

予習: テキスト第14章(原価企画)を読み、事前課題を提出する。

復習: ケースおよび新たに学んだ内容を再確認する。

第14回: ABM/Activity-based management

予習: テキスト第15章(ABM)を読み、事前課題を提出する。

復習: ケースおよび新たに学んだ内容を再確認する。

第15回: まとめ/Reflection

予習: 最終課題に関する発表の準備をする。

復習: アンケートに答える。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識:

原価計算 1/2, 管理会計 1/2 を履修済みであることが望ましい。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて確認すること(要 東北大 ID)

事例研究（原価計算）／Case Study (Cost Accounting)

担当教員 [Instructor]: 鈴木 翔太／SYOTA SUZUKI

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 土曜日 1 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC622J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

原価計算は、ある処理方法のデメリットを補うために別の処理方法が考案されてきたケースが多いので、単に各処理方法を理解するのではなく、事例をふまえ、発展の過程をも理解していくことを目的とする。講義内では、工業簿記及び原価計算の基礎的な知識をベースに実務での対応について取り扱う。

In cost accounting, there are many cases in which another processing method has been devised to compensate for the disadvantages of a certain processing method, so the purpose is not simply to understand each processing method, but also to understand the process of development. In the lectures, the basic knowledge of industrial bookkeeping and cost accounting will be dealt with in practice.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

1. 原価計算基準に基づき、製品原価の計算ができる。
2. 原価計算の理論的背景について説明できる。
3. 原価計算結果を分析し、その結果を説明できる。

1. Able to calculate product costs based on cost accounting standards.
2. Explain the theoretical background of cost accounting.
3. Analyze the cost accounting results and explain the results.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

- ・ 1 回目の講義で講義の概要、進め方、成績評価、学習方法などについて説明を行う。
- ・ テキストをベースとして、各講義で概ね一つのテーマについて講義する
- ・ 各セクションには練習問題を設けており、それを中心に復習する
- ・ 練習問題の一部はショートレポートとして提出を求める

講義の予定／Class Plan:

第1回: 原価計算の目的と原価計算基準/ Purpose of costing and costing basis

目的および全体のフレームワーク、進め方、成績評価方法、学習方法に関するガイダンスを行う。さらに、原価計算が達成すべき主な目的及び原価計算の諸概念と基本的な用語について講義する。

第2回: 費目別計算（材料費・労務費）/Calculation by item (material cost, labor cost)

費目別計算（材料費・労務費）について、基本的な用語の説明をするとともに、業務フローと会計処理の関係性について講義する。

第3回: 費目別計算（経費・製造間接費）/ Calculation by expense item (expenses/manufacturing indirect costs)

費目別計算（経費・製造間接費）について、基本的な用語の説明をするとともに、業務フローと会計処理の関係性について講義する。

第4回: 部門別原価計算（第1次集計）/Departmental cost accounting (first tabulation)

部門別計算の意義及び部門別原価計算のプロセスについて、第1次集計・第2次集計の順に実務での業務フローと合わせて講義する。

第5回: 部門別原価計算（第2次集計）/Departmental cost accounting (secondary tabulation)

部門別原価計算について、補助部門費を配賦する際の計算方法とその考え方について講義する。

第6回: 個別原価計算/Individual costing

個別原価計算の基本的な用語と計算方法について説明し、個別原価計算と総合原価計算の違いについて講義する。

第7回: 単純総合原価計算/simple total costing

総合原価計算の製品と期末仕掛品の評価方法の特徴について、先入先出法・後入先出法・平均法の基本的な用語と考え方を説明し、数値例を用いて計算について講義する。

第8回: 組別・等級別総合原価計算/Comprehensive cost calculation by group/grade

・ 等級別総合原価計算・組別原価計算について、基本的な用語と計算方法について取り扱うとともに、個別原価計算と組別総合原価計算の類似点と相違点について講義する。

第9回: 工程別総合原価計算/Comprehensive cost accounting by process

工程別総合原価計算について、基本的な用語と計算方法について説明を行った上で、累加法による工程別総合原価計算のデメリットについて講義する。

第10回: 予定価格の設定と原価差異/Scheduled pricing and cost variances

予定価格の設定における実務での導入と原価差異の分析手法について講義する。

第11回: 標準原価計算 1/ Standard cost system1

標準原価計算の基本的内容と目的について説明を行った上で、標準原価計算プロセスの全体像について実務での運用を交えて講義する。

第12回: 標準原価計算 2/ Standard cost system2

標準原価計算における勘定記入法（シングルプラン・パーシャルプラン・修正パーシャルプラン）の説明を行った上で、原価差異の具体的な処理方法についての概要を説明し、実務的な観点から法人税法上の規定との関連について講義する。

第13回: ABC（活動基準原価計算）/ Activity Based Costing

伝統的な原価計算の問題点とABCの必要性について講義する。

第14回: キャッシュフローの視点による原価計算/Cost accounting from a cash flow perspective

伝統的な原価計算と比較して、キャッシュフローの視点による原価計算について、費用計上と資金移動（キャッシュフロー）との間で生じるギャップについて講義する。

第15回: 理解度確認セッション/Exercises

これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために筆答審査を実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語/Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

- ・ 理解度確認セッション (50%), レポート・小テスト (50%) で評価する.

AA(90 点以上), A(80 点以上 90 点未満), B(70 点以上 80 点未満), C(60 点以上 70 点未満), D(60 点未満 : 不合格)

- ・ Evaluation will be based on a comprehension confirmation session (50%) and a report/quiz (50%).

AA (90 points or more),

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

図解&設例 原価計算の本質と 関浩一郎・菅野貴弘 中央経済社 2013 9784502489907 教科書
実務がわかる本

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第2回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第3回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第4回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第5回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第6回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第7回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第8回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第9回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第10回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第11回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第12回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第13回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第14回目

予習: 事前に教科書に目を通し, 講義の概要を把握すること.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第15回目

予習: 理解度確認セッション (筆答考査) に対する準備をする.

復習: 講義後に配信される理解度確認セッション (筆答考査) の解答・解説を確認すること.

10. その他 [In addition] :

オフィスアワー: 講義終了後

連絡先：shota.suzuki.e5@tohoku.ac.jp

その他講義を受講する際注意すべき点/others：

- ・前期に開講される原価計算 1 及び後期に開講される原価計算 2 も履修することが望ましい./It is desirable to take Cost Accounting 1, which is offered in the first semester, and Cost Accounting 2, which is offered in the latter semester.
- ・簿記 2 級程度の知識を有していることが望ましい./It is desirable to have knowledge of bookkeeping level 2.
- ・電卓を用意しておくこと/Prepare a calculator.

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etusasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて確認すること(要 東北大 ID)

監査1 / Auditing 1

担当教員 [Instructor] : 亀岡 恵理子 / ERIKO KAMEOKA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 月曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC510J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、監査の最も基本的な概念および理論、日本を中心とする諸制度を説明する。本講義を通じて、学生は、(1) 企業社会における多層的なモニタリングの仕組み、(2) 監査の歴史的発展の経緯、(3) 関連する法律、基準・規則、(4) 監査の重要概念、および(5) GAAS に反映されている現代の監査アプローチを理解することができる。講義内容は、公認会計士および監査法人が実施する外部監査に焦点をあてるが、内部監査人による内部監査と監査役による監査役監査の概要も講義内容としてカバーする。

The course provides fundamental knowledge on auditing. Through the course, students will understand as follows: (1) the multidimensional monitoring system in business society, (2) the historical development of auditing, (3) the applicable laws, standards, and rules, (4) the key concepts in auditing, and (5) the contemporary auditing approach reflected in current GAAS. The focus is basically on a financial statement audit conducted by CPAs and audit firms, but the course also covers audits within the companies conducted by internal auditors and Audit & Supervisory Board Members (Kansayaku).

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

監査の基礎知識を長期記憶に残るよう身につける。

Acquire foundational auditing knowledge in a way that ensures long-term retention.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回 オリエンテーション/Orientation

講義の目的および全体のフレームワーク、進め方、成績評価方法、学習方法に関するガイダンスを行います

第2回 誤謬、不正、違法行為/Error, fraud, illegal acts

誤謬と不正、違法行為について学びます (テキスト第4章)

第3回 内部統制とコーポレートガバナンス/Internal control and corporate governance

内部統制とコーポレートガバナンスについて学びます (資料配布)

第4回 会社法監査/Audits under the Companies Act

監査制度 (会社法監査) について学びます (テキスト第2章、資料配布)

第5回 金融商品取引法監査/Audit under the Financial Instruments and Exchange Act

監査制度 (金融商品取引法監査) について学びます (テキスト第5章)

第6回 監査プロフェッションと規制・監査基準の形成と意義/Auditing profession and regulation, Generally accepted auditing standards (GAAS)

監査プロフェッションと規制、監査規範、監査基準の形成と意義について学びます (テキスト第3章、第6章)

第7回 監査人の独立性/Auditor independence

監査人の独立性について学びます (テキスト第7章)

第8回 監査人の注意の標準/Due professional care

監査人の注意の標準について学びます (テキスト第7章)

第9回 監査プロセス/Audit process

監査プロセスについて学びます (テキスト第9章)

第10回 監査認識—アサーションとその構造—/Assertion-oriented audit cognition

監査証明において重要な機能をもつアサーションとその構造について学びます (テキスト第9章)

第11回 監査リスク・アプローチ/Audit risk approach

監査リスク・アプローチについて学びます (テキスト第10章)

第12回 監査結果の伝達/Communication of audit results

保証機能にかかる監査結果の伝達について学びます (テキスト第13章)

第13回 監査結果の伝達/Communication of audit results

情報提供機能にかかる監査結果の伝達について学びます (テキスト第14章)

第14回 理解度確認セッション/Examination

第1回から第13回までの講義内容について、理解度確認セッションを実施します

第15回 答案返却と解説/Feedback

答案返却と理解度確認セッションのフィードバックを行います

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

理解度確認セッション 100%によって評価します。

AA(90 点以上)、A(80 点以上 90 点未満)、B(70 点以上 80 点未満)、C(60 点以上 70 点未満)、D(60 点未満 : 不合格)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

財務諸表監査 第3版

亀岡恵理子・福川裕 國元書房
徳・永見尊・鳥羽至英

2024

4765805786

教科書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

講義では毎回、小グループでのディスカッションと発言を求めます。

第 1 回

予習：シラバスを一読すること

復習：授業の進め方について理解すること

第 2 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 3 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 4 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 5 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 6 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 7 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 8 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 9 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 10 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 11 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 12 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 13 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 14 回

予習：理解度確認セッションのため勉強をすること

復習：理解度確認セッションの解答を見直すこと

第 15 回

予習：理解度確認セッションの解答と自身の解答とを比較すること

復習：不正解の問題（特に記述）について解答を推敲すること

10. その他 [In addition] :

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

監査2/Auditing 2

担当教員 [Instructor]: 亀岡 恵理子/ERIKA KAMEOKA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 月曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC511J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、受講生が監査の基本的知識を有していることを前提に、公認会計士・監査法人が遂行する財務諸表監査について学びます。講義では可能な限り毎回、ケースワークを用意します。試験勉強で得ている知識、監査基準、参考資料などを用いて小グループで取り組み、クラス全体で共有するプロセスを繰り返すことにより、財務諸表監査について理解を深めます。

This course assumes that students have basic knowledge of auditing and focuses specifically on financial statement audit conducted by certified public accountants and audit firms. Each lecture will include case studies whenever possible.

Students will work in small groups using their knowledge from CPA exam preparation, auditing standards, and reference materials. By repeatedly engaging in group discussions and sharing insights with the class, they will deepen their understanding of financial statement audit.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

監査の知識を深め、知識が現実世界でどう適用されるのか、適用されるべきかを思考できるようになる。

Deepen your knowledge of auditing and be able to think about how that knowledge can and should be applied in the real world.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回 オリエンテーション/Orientation

講義の目的および全体のフレームワーク、進め方、成績評価方法、学習方法に関するガイダンスを行います

第2回 監査の失敗と監査人の責任/Audit failure and auditor liability

監査の失敗と監査人の責任について学びます (参考資料テキスト第8章)

第3回 監査規制と品質管理/Audit regulation and quality control

監査規制と品質管理について学びます (参考資料テキスト第16章)

第4回 合理的保証の構成要素/Component of reasonable assurance

監査リスク・アプローチについて学びます (参考資料テキスト第12章)

第5回 監査リスク・アプローチの進化/Evolution of audit risk approach

監査リスク・アプローチとその進化について学びます (参考資料テキスト第10章)

第6回 リスク評価/Identifying the risks of material misstatement

リスク評価 (財務諸表全体レベル、財務諸表項目レベル) について学びます (監査基準)

第7回 監査証拠と監査技術/Audit evidence and audit techniques

監査証拠の種類と適用する監査技術について学びます (参考資料テキスト第11章)

第8回 リスク評価とその対応/Identifying and assessing the risks of material misstatement

リスク評価 (アサーションレベル) と評価したリスクへの対応について学びます

第9回 会計上の見積りの監査(1)/Auditing complex accounting estimates(1)

会計上の見積りの監査について学びます (配布資料)

第10回 会計上の見積りの監査(2)/Auditing complex accounting estimates(2)

会計上の見積りの監査について学びます (配布資料)

第11回 監査報告改革(1)/Audit report reform(1)

監査報告書の改革について学びます (監査基準)

第12回 監査報告改革(2)/Audit report reform(2)

監査報告書の改革について学びます (配布資料)

第13回 ゴーイングコンサーン/Going Concern

ゴーイングコンサーンについて学びます (参考資料テキスト第15章)

第14回 理解度確認セッション/Examination

第1回から第13回までの講義内容について、理解度確認セッションを実施します

第15回 答案返却と解説/Feedback

答案返却と理解度確認セッションのフィードバックを行います

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

理解度確認セッション100%によって評価します。

AA(90点以上)、A(80点以上90点未満)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)、D(60点未満:不合格)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

財務諸表監査 第3版	亀岡恵理子, 福川裕 徳, 永見尊, 鳥羽至 英	国元書房	2024	4765805786	参考書
リアルケースで身につける 正を見抜く監査力	不 浜田康	日経 BP 日本経済 新聞出版	2023	4296117580	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

講義は毎回、小グループでのディスカッションと発言が主となります。
事前課題がある場合には、必ず行ってから参加してください。

第 1 回

予習：シラバスを一読すること

復習：授業の進め方について理解すること

第 2 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 3 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 4 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 5 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 6 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 7 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 8 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 9 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 10 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 11 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 12 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 13 回

予習：各講義で学ぶ予定のテキストの章または資料を事前によく読むこと

復習：講義資料およびディスカッションした内容を復習すること

第 14 回

予習：理解度確認セッションのため勉強をすること

復習：理解度確認セッションの解答を見直すこと

第 15 回

予習：理解度確認セッションの解答と自身の解答とを比較すること

復習：不正解の問題（特に記述）について解答を推敲すること

10. その他 [In addition] :

監査 1 を受講済であることが望ましい。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて
確認すること（要 東北大 ID）

監査 3 / Auditing 3

担当教員 [Instructor] : 細尾 忠敬 / TADATAKA HOSOO

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 木曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC614J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

現代の企業活動において IT (情報技術) の利用は一般的となっている。このような環境における監査人の業務も必然的に IT に密接に関連することになる。

本授業では IT と監査との関連について概説する。

具体的には、財務諸表監査における IT を利用した監査手続や、内部統制監査における IT に関わる内部統制の監査について学習する。

The use of IT (information technology) has become commonplace in modern corporate activities. In this environment, the work of auditors is inevitably closely related to IT.

This course will provide an overview of the relationship between IT and audits.

Specifically, students will learn about the overview of audit procedures that use IT in financial statement audits, and of IT-related internal control audits in internal control audits.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

本授業では、以下の 3 点について実践的な理解を得ることを目的とする。

- ① 財務諸表監査および内部統制監査における、監査人による IT の利用
- ② 財務諸表監査および内部統制監査における、監査人による IT の評価
- ③ 会計・監査環境を取り巻く IT の最新動向

The purpose of this course is to provide a practical understanding of the following three points.

- ① Use of IT by auditors in financial statement and internal control audits
- ② Evaluation of IT by auditors in financial statement and internal control audits
- ③ Latest trends in IT surrounding the accounting and auditing environment

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第 1 回 : オリエンテーション、監査業務における IT の活用事例 / Orientation, Examples of IT use in audit work
授業の内容について概括的な説明を行う。

監査業務における IT の活用事例について概観する。

第 2 回 : 監査を取り巻く IT の状況 / IT landscape surrounding audits

監査を取り巻く IT の状況や、監査人に求められる IT スキルについて概観する。

第 3 回 : 監査人と IT / IT for auditors

監査人が、監査業務においてどのように IT に関わるのかについて概観する。

第 4 回 : IT を利用した監査手続の概要 / Overview of audit procedures using IT

IT を利用した監査手続の事例、コンピュータ利用監査技術 (CAAT) 等について学習する。

第 5 回 : IT を利用した監査手続 (1) / Audit procedures using IT (1)

IT を利用した監査手続の事例として、分析の手続について学習する。

第 6 回 : 電子的監査証拠 / Electronic Audit Evidence

IT を利用した監査手続で利用する電子データ等の取り扱いについて学習する。

第 7 回 : IT を利用した監査手続 (2) / Audit procedures using IT (2)

IT を利用した監査手続の事例として、仕訳テストについて学習する。

第 8 回 : IT を利用した監査手続 (3) / Audit procedures using IT (3)

IT を利用した監査手続の事例として、企業作成情報の評価について学習する。

第 9 回 : IT を利用した監査手続 (実習) / Audit procedures using IT (Practice)

企業情報を利用して、IT を利用した監査手続を各自で実施しグループディスカッション等により検討する。

第 10 回 : IT を利用した内部統制の経営者による構築 / Designed by management of internal control using IT

IT に関する企業の戦略や経営者が構築する IT を利用したガバナンスについて学習する。

第 11 回 : IT を利用した内部統制の監査人による評価 (1) / Auditor's assessment of internal control using IT (1)

監査人による企業の内部統制の構築に利用されている IT の評価の概要と IT に関わる全社統制の評価について学習する。

第 12 回 : IT を利用した内部統制の監査人による評価 (2) / Auditor's assessment of internal control using IT (2)

監査人による IT 全般統制の評価について学習する。

第 13 回 : IT を利用した内部統制の監査人による評価 (3) / Auditor's assessment of internal control using IT (3)

監査人による IT 情報処理統制の評価について学習する。

第 14 回 : 特別授業 / Special Lecture

ゲスト講師による特別授業を実施する。

第 15 回 : 理解度確認セッション / Examination

理解度確認セッションを実施する。

なお、上記の授業内容とともに、監査現場で最も使用する頻度が高い Excel の使い方 (主にワークシート関数) についても、授業の中で説明する。

第 9 回の実習では、Excel を使った実習作業を想定している。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

授業への参加・貢献 (70%)、理解度確認セッション (30%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第2回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第3回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第4回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第5回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第6回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第7回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第8回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第9回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業内で実施した実習作業及びディスカッションの内容について、あらためて確認し、理解を深めること。

第10回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第11回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第12回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第13回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第14回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第15回目

予習：理解度確認セッションに向けて、授業全体の復習をすること。

復習：理解度確認セッションの問題について、授業テキスト等を参照しながら再確認すること。

10. その他 [In addition] :

この授業を受講するために必要となる知識：

- ・ IT を利用した監査等の前提として、財務諸表監査論の基礎科目を習得済みであることが望ましい。

注意事項：

- ・ この授業の第2回以降は PC で動作する Excel の関数や機能を使った説明等を行うため、受講時には Excel がインストールされた PC を持参することが望ましい。
- ・ 授業内での Excel の操作説明等は Windows 版の Excel により説明を行う。

教科書・参考書について：

- ・ 各回の授業で配布するスライドにより授業を進めるため、教科書となる書籍は指定しない。
- ・ 参考となる書籍等がある場合には、授業内で紹介する。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

監査実務 I / Audit Practice I

担当教員 [Instructor]: 細尾 忠敬 / TADATAKA HOSOO

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 木曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC615J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本授業では、財務諸表監査で行われる監査手続について、監査基準報告書に基づく監査調書様式などを参考にして概説する。

This course provides an overview of the audit procedures used in financial statement audits, with reference to audit working paper formats based on the Auditing Standards Report.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

本授業では、以下の3点について実務的な理解を得ることを目的とする。

- ① 監査手続における基本的な概念の理解
- ② 監査手続の趣旨の理解
- ③ 手続の詳細の把握

The purpose of this course is to provide a practical understanding of the following three points:

- ① Understand the basic concepts of audit procedures
- ② Understand the purpose of audit procedures
- ③ Understand the details of the procedures

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション、現在の財務諸表監査 / Orientation, Current Financial Statement Audit

授業の進め方、成績評価、学習方法などについて説明する。

現在の財務諸表監査の特徴について概観する。

第2回: 監査リスク・アプローチ (1) / Audit Risk Approach (1)

第2回から第4回にかけて、監査リスク・アプローチについて学習する。

第3回: 監査リスク・アプローチ (2) / Audit Risk Approach (2)

第2回から第4回にかけて、監査リスク・アプローチについて学習する。

第4回: 監査リスク・アプローチ (3) / Audit Risk Approach (3)

第2回から第4回にかけて、監査リスク・アプローチについて学習する。

第5回: 監査手続 / Audit Procedures

監査手続について学習する。

第6回: 実査、立会 / Inspection, Attendance

実査、立会について学習する。

第7回: 確認 / Confirmation

確認について学習する。

第8回: 分析的手続 / Analytical Procedures

分析的手続について学習する。

第9回: 会計上の見積りの監査 / Auditing Accounting Estimates

会計上の見積りの監査について学習する。

第10回: その他の監査手続 (1) / Other Audit Procedures (1)

第10回から第11回にかけて、その他の監査手続について学習する。

第11回: その他の監査手続 (2) / Other Audit Procedures (2)

第10回から第11回にかけて、その他の監査手続について学習する。

第12回: 関連当事者、経営者確認書 / Related Party, Management Confirmation Letter

関連当事者、経営者確認書について学習する。

第13回: 特別授業 / Special Lecture

ゲスト講師による特別授業を実施。

第14回: 監査意見の形成 / Forming an Audit Opinion

監査意見の形成について学習する。

第15回: 理解度確認セッション / Examination

理解度確認セッションを行う。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

授業への参加・貢献 (70%)、理解度確認セッション (30%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

財務諸表監査 (第3版)	亀岡恵理子、福川裕 徳、永見尊、鳥羽至英	国元書房	2024	4765805780	参考書
ベーシック監査論 (九訂版)	伊豫田隆俊、松本祥 尚、林隆敏	同文館出版	2022	4495182595	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回目

予習: Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習: 授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直し、不明な点等については自ら調べる等により理解を深めること。

第2回目

予習: Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習: 授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直し、不明な点等については自ら調べる等により理解を深めること。

第3回目

予習: Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習: 授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直し、不明な点等については自ら調べる等により理解を深めること。

第4回目

予習: Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習: 授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直し、不明な点等については自ら調べる等により理解を深めること。

第5回目

予習: Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習: 授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直し、不明な点等については自ら調べる等により理解を深めること。

第6回目

予習: Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習: 授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直し、不明な点等については自ら調べる等により理解を深めること。

第7回目

予習: Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習: 授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直し、不明な点等については自ら調べる等により理解を深めること。

第8回目

予習: Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習: 授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直し、不明な点等については自ら調べる等により理解を深めること。

第9回目

予習: Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習: 授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直し、不明な点等については自ら調べる等により理解を深めること。

第10回目

予習: Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習: 授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直し、不明な点等については自ら調べる等により理解を深めること。

第11回目

予習: Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習: 授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直し、不明な点等については自ら調べる等により理解を深めること。

第12回目

予習: Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習: 授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直し、不明な点等については自ら調べる等により理解を深めること。

第13回目

予習: Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習: 授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直し、不明な点等については自ら調べる等により理解を深めること。

第14回目

予習: Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習: 授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直し、不明な点等については自ら調べる等により理解を深めること。

第15回目

予習: 理解度確認セッションに向けて、授業全体の復習をすること。

復習: 理解度確認セッションの問題について、授業テキスト等を参照しながら再確認すること。

10. その他 [In addition] :

この授業を受講するために必要となる知識:

- ・財務諸表監査の基礎科目を、習得済みであることが望ましい。
- ・財務諸表監査を学んだことがない場合には、いずれかの参考書の該当箇所を事前に読んでおくことを推奨する。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて
確認すること(要 東北大 ID)

監査実務Ⅱ／Audit Practice Ⅱ

担当教員 [Instructor] : 細尾 忠敬／TADATAKA HOSOO

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 金曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC619J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

現代の企業活動において IT (情報技術) の利用は一般的となっている。このような環境における監査人の業務も必然的に IT に密接に関連することになる。現在では、財務諸表監査の対象が IT 化されているケースや、財務諸表監査で利用する情報が電子化されているケースがほとんどである。

本授業では IT を活用した監査について、サンプルデータを使った実習形式で学習する。

The use of IT (information technology) has become commonplace in modern corporate activities. Inevitably, the work of auditors in this environment is closely related to IT. Currently, in most cases, the subject of financial statement audits is IT-based, and the information used in financial statement audits is computerized.

In this course, students will learn about IT-based audits in a practical format using sample data.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

本授業では、IT を利用した監査手続の実施について実践的な理解を得ることを目的とする。

The purpose of this course is to provide a practical understanding of the implementation of audit procedures using IT.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション、IT 教育カリキュラム / Orientation, IT Education Curriculum

授業の内容の概括的な説明を行う。

監査人のための IT 教育カリキュラムについて概観する。

第2回：IT を利用した監査手続の概要 / Overview of audit procedures using IT

IT を利用した実証手続の適用局面やデータ分析の概要について学習する。

第3回：IT を利用した監査手続 (1) / audit procedures using IT (1)

仕訳データを使った仕訳テストの実施方法について学習する。

第4回：IT を利用した監査手続 (2) / audit procedures using IT (2)

仕訳テストについてサンプルデータを使って実習を行う。

第5回：IT を利用した監査手続 (3) / audit procedures using IT (3)

業務データを使った経営者作成情報の評価の実施方法について学習する。

第6回：IT を利用した監査手続 (4) / audit procedures using IT (4)

経営者作成情報の評価についてサンプルデータを使って実習を行う。

第7回：IT を利用した監査手続 (5) / audit procedures using IT (5)

データを使った分析的実証手続の実施方法について学習し、サンプルデータを使って実習を行う。

第8回：IT を利用した監査手続 (課題実習 1) / audit procedures using IT (Practical assignments 1)

サンプルデータを使って IT を利用した実証手続についての課題演習とその解説を行う。

第9回：データの可視化 / Data visualization

データの可視化の効果と手法について学習する。

第10回：IT を利用した監査手続 (6) / audit procedures using IT (6)

業務データを使った階層化の手法等について学習する。

第11回：IT を利用した監査手続 (7) / audit procedures using IT (7)

データの階層化等についてサンプルデータを使って実習を行う。

第12回：IT を利用した監査手続 (8) / audit procedures using IT (8)

業務データを使った異常値分析の手法等について学習する。

第13回：IT を利用した監査手続 (9) / audit procedures using IT (9)

異常値分析についてサンプルデータを使って実習を行う。

第14回：IT を利用した監査手続 (課題実習 2) / audit procedures using IT (Practical assignments 2)

サンプルデータを使って IT を利用した実証手続についての課題演習とその解説を行う。

第15回：AI と監査 / AI and Audit

AI を利用した監査の現状について概観する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

授業への参加・貢献 (70%)、課題実習 (30%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第2回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第3回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第4回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第5回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第6回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第7回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第8回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した課題実習について、解説された内容を踏まえて各自で再実施すること。

第9回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第10回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第11回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第12回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第13回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

第14回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した課題実習について、解説された内容を踏まえて各自で再実施すること。

第15回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使用了スライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、授業内で実施した実習等の作業については、各自で再実施すること。

10. その他 [In addition] :

この授業を受講するために必要となる知識：

- ・ IT を利用した監査手続等についての基本的な知識
- ・ Excel の基本的な操作についての知識
- ・ 上記については、監査 3（2025 年度）で扱うため、監査 3（2025 年度）を受講していることが望ましい

注意事項：

- ・この授業の第2回以降はPCで動作するExcelの関数や機能を使った演習を行うため、受講時にはExcelがインストールされたPCを持参すること。
- ・授業内での操作説明等はWindows版のExcelにより説明を行う。

教科書・参考書について：

- ・各回の授業で配布するスライドにより授業を進めるため、教科書となる書籍は指定しない。
- ・参考となる書籍等がある場合には、授業内で紹介する。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomコード等については、会計大学院学内掲示(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>)内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて確認すること(要 東北大ID)

事例研究（監査制度）／Case Study (Auditing System)

担当教員 [Instructor] : 細尾 忠敬／TADATAKA HOSOO

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 金曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC620J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

企業の会計不正の事例を検討し、不正会計のメカニズムや、その後の監査環境への影響等を概観することにより、財務諸表監査と社会のかかわりについて理解する。また、実務的な観点から、類似した内容の不正に直面した際に監査人としていかに対応すべきかについて検討する。

This course will examine cases of corporate accounting fraud, and provide an overview of the mechanisms of accounting fraud and the subsequent impact on the audit environment, to understand the relationship between financial statement audits and society. It will also consider, from a practical perspective, how auditors should respond when faced with similar fraud.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

企業の会計不正の類型とそれに対する監査人の対応を理解することができる。

Understand the types of corporate accounting fraud and how auditors respond to them.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回 オリエンテーション / Orientation

授業の内容の概括的な説明を行う。

第2回 総論1 / General remarks 1

企業の不正についての基本的な知識と不正に対する会社の責任、監査人の責任等についてを概観する。

第3回 総論2 / General remarks 2

企業の不正会計の態様と手法について概観する。

第4回 総論3 / General remarks 3

不正リスク対応基準について概観する。

第5回 不正事例の検討方法についての説明 / Explanation of how fraud cases are analyzed

企業の不正会計事例についての検討、発表について、一つの事例を用いて説明する。

第6回から第15回 不正事例についての分析結果の報告 / Reporting the results of analysis of fraud cases

発表者は割り当てられた不正事例につき、概要、問題点等を分析し報告する。報告後に、他の受講者も含めて、報告内容について検討する。

なお、受講者数により不正事例についての報告の回は増減するため、最終的なスケジュールは受講者数の確定後に調整して決定する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

授業への参加・貢献 (70%), 担当する不正事例の発表 (30%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

業種別・不正パターンと実務対応	E Y 新日本有限責任監査法人	中央経済社	2019	4502304514	参考書
-----------------	-----------------	-------	------	------------	-----

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回目

予習: Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習: 授業で使ったスライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、事例発表の対象会社を選択するために、配布された対象会社の資料を確認すること。

第2回目

予習: Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習: 授業で使ったスライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、事例発表の対象会社を選択するために、配布された対象会社の資料を確認すること。

第3回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。

復習：授業で使ったスライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。また、事例発表の対象会社を選択するために、配布された対象会社の資料を確認すること。

第4回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。事例発表の準備を各自進めること。

復習：授業で使ったスライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。

第5回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。事例発表の準備を各自進めること。

復習：授業で使ったスライド等を参照して、授業内容について見直すことにより理解を深めること。

第6回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。事例発表の準備を各自進めること。

復習：発表された事例の内容について見直すことにより理解を深めること。

第7回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。事例発表の準備を各自進めること。

復習：発表された事例の内容について見直すことにより理解を深めること。

第8回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。事例発表の準備を各自進めること。

復習：発表された事例の内容について見直すことにより理解を深めること。

第9回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。事例発表の準備を各自進めること。

復習：発表された事例の内容について見直すことにより理解を深めること。

第10回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。事例発表の準備を各自進めること。

復習：発表された事例の内容について見直すことにより理解を深めること。

第11回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。事例発表の準備を各自進めること。

復習：発表された事例の内容について見直すことにより理解を深めること。

第12回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。事例発表の準備を各自進めること。

復習：発表された事例の内容について見直すことにより理解を深めること。

第13回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。事例発表の準備を各自進めること。

復習：発表された事例の内容について見直すことにより理解を深めること。

第14回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。事例発表の準備を各自進めること。

復習：発表された事例の内容について見直すことにより理解を深めること。

第15回目

予習：Classroom で事前配布するスライド等の配布資料に目を通しておくこと。事例発表の準備を各自進めること。

復習：発表された事例の内容について見直すことにより理解を深めること。

10. その他 [In addition] :

この授業を受講するために必要となる知識 :

- ・財務会計および監査に関する基礎的な知識

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

監査計画の編成法 1 / Audit Planning 1

担当教員 [Instructor]: 小粥 純子 / JUNKO KOGAYU

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 水曜日 7 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC616J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

監査手続として企業のリスクを評価し識別するということは具体的にどのようなことなのかについての基本的な枠組みを、監査基準報告書 315「重要な虚偽表示リスクの識別と評価」(監基報 315)を中心に講義する。監基報 315 は、内部統制を含む、企業及び企業環境の理解を通じて、財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し評価することに関する実務上の指針を提供するものである。

I will lecture on the basic framework of how assessing and identifying a corporate's risks as an audit procedure is exactly what it is, focusing on the ISA315 Identifying and Assessing the Risks of Material Misstatement. ISA315 deals with the auditor's responsibility to identify and assess the risks of material misstatement in the financial statements, through understanding the entity and its environment, including the entity's internal control.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

会計専門職に期待される企業のリスク評価の手法を習得することを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

○オンライン (オンデマンド) による講義

○監査基準報告書をテーマごとに講義し、ケース・スタディにより基準の意味するところを理解する。

○進度予定

第1回: 事業上のリスクと監査リスク概念/Auditor's business risks

事業上のリスクがどのように監査上のリスク概念と関係するかについて理解する。

第2回: 企業と企業環境の理解/ Understanding the entity and its environment.

監査手続としての企業と企業環境の理解について概説する。

第3回: 重要性と分析的手続/ Materiality and analytical procedures

監査上の重要性と監査計画段階の分析的手続について概説する。

第4回: 会計上の見積りの監査/ Auditing accounting estimates

会計上の見積りを要する勘定科目等の監査について理解する。

第5回: 重要な虚偽表示リスクの評価/ Assessing risks of material misstatement

重要な虚偽表示リスク、特別な検討を必要とするリスクの識別の過程を理解する。

第6回: 小レポート/ Quiz and Report

前回までの講義で理解した内容について小レポートを実施し、理解度を確認する。

第7回: 財務諸表監査における不正/ Fraud in an audit of financial statements

財務諸表監査における不正を理解する。

第8回: 関連当事者の監査/ Related parties

関連当事者の取引の開示内容や非財務情報とそれに関する監査手続を理解する。

第9回: リスク対応手続/ The auditor's responses to assessed risks

財務諸表全体レベルとアサーションレベルのリスクに応じた監査手続について理解する。

第10回: 小レポート/ Quiz and Report

前回までの講義で理解した内容について小レポートを実施する。

第11回: 監査上の主要な検討事項/ Key Audit Matter

監査役等とのコミュニケーション、監査上の主要な検討事項の報告を理解する。

第12回: 監査計画の編成法/ Planning an audit of financial statements

前回までに理解したリスク評価手続にもとづき、監査計画の作成について総括する。

第13回: 事例研修 (1) / Case Study(1)

企業の有価証券報告書等を使ってリスク評価手続の事例研究を行う。

第14回: 事例研究 (2) / Case Study(2)

企業の有価証券報告書等を使って会計上の見積りの監査の事例研究を行う。

第15回: 期末レポート/ Examination (Report)

講義全体の内容を踏まえた期末レポートを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

小レポート 2 回 (60%) および理解度確認セッション (期末レポート) (40%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 2 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 3 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 4 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 5 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 6 回目

予習：第 1 回から 5 回までの講義で参照する基準等について熟読する。 復習：レポートの参考例を確認し次のレポート課題の参考にする。

第 7 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 8 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 9 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 10 回目

予習：第 7 回から 9 回までの講義で参照する基準等について熟読する。 復習：レポートの参考例を確認し次のレポート課題の参考にする。

第 11 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 12 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 13 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 14 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 15 回目

予習：全体の講義で参照する基準等について熟読する。 復習：レポートの参考例を確認する。

10. その他 [In addition] :

テキスト・参考文献：必要に応じて講義の中で紹介する。

この講義を受講するために必要となる知識：

- ・ 監査論の科目を履修していることが望ましい。
- ・ 財務諸表監査における内部統制の評価については、「内部統制の実務」で取り扱うため、当講義と併せて履修することを推奨する。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

監査計画の編成法 2 / Audit Planning 2

担当教員 [Instructor] : 小粥 純子 / JUNKO KOGAYU

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 火曜日 7 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC617J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

リスク評価手続により識別したリスクにして、どのようなリスク対応手続を設計すべきかについての基本的な枠組みを、監査基準報告書 330「評価したリスクに対応する監査人の手続」(監基報 330)を中心に講義する。監基報 330 は監基報 315「重要な虚偽表示リスクの識別と評価」に従い識別し評価した重要な虚偽表示リスクに対応した、監査人の運用評価手続と実証手続の立案及び実施に関する実務上の指針を提供する。

I will lecture on the basic framework of what kind of procedures should be designed to the risks identified, focusing on the ISA 330 The Auditor's Responses to Assessed Risks.

ISA330 deals with the auditor's responsibility to design and implement responses (tests of controls, substantive procedures) to the risks of material misstatement identified and assessed by the auditor in accordance with ISA 315 Identifying and Assessing the Risks of Material Misstatement.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

評価した重要な虚偽表示リスクに対応した運用評価手続と実証手続が立案できることを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

○オンライン (オンデマンド) による講義

○監査基準報告書をテーマごとに講義し、ケース・スタディにより基準の意味するところを理解する。

○進度予定

第1回: 評価したリスクに対応する監査人の手続/ The auditor's responses to assessed risks

財務諸表全体レベルとアサーションレベルのリスクに応じた監査手続について概説する。

第2回 監査証拠/ Audit evidence

十分かつ適切な監査証拠、特定項目に対する監査証拠について理解する。

第3回 分析的手続/Substantive analytical procedures

分析の実証手続、詳細テスト、最終段階の分析的手続について理解する。

第4回: 第1回小レポート/Quiz and Report

前回までの講義で理解した内容について、論述式の小レポートを実施する。

第5回: 確認/ External Confirmations

売掛金の確認手続について発送先の選定 (特定項目抽出、サンプリング) 等を理解する。

第6回: 試査/ Audit Sampling

監査サンプリングのテスト対象項目の抽出、結果をどのように評価するのかを理解する。

第7回: 第2回小レポート/Quiz and Report

前回までの講義で理解した内容について、論述式の小レポートを実施する。

第8回 後発事象と比較情報/Subsequent Events and Comparative Information

事例をもとに、後発事象及び比較情報の監査上の取扱いを理解する。

第9回 会計上の見積りの監査/Auditing accounting estimates

会計上の見積りのリスク対応手続における内部統制の運用評価手続について理解する。

第10回: 専門家の業務の利用/Using the work of an auditor's expert

専門家の業務の利用が必要な局面と適切性に係る評価について理解する。

第11回 虚偽表示の評価/Evaluation of misstatements

監査の過程で識別した虚偽表示の評価、経営者確認書等を理解する。

第12回 継続企業の前提/Going concern

継続企業を前提として財務諸表を作成することと監査手続について理解する。

第13回: グループ監査/Audits of group financial Statement

グループ監査人の責任、グループ財務諸表の重要な虚偽表示リスクの識別と評価等について理解する。

第14回 監査調書、監査報告/Audit documentation, Forming an opinion and reporting

監査調書、監査報告書の意見類型、監査上の主要な検討事項の報告を理解する。

第15回: 期末レポート/ Examination (Report)

全体の理解に基づき、論述式の期末レポートを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

小レポート2回 (60%) および理解度確認セッション (期末レポート) (40%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 2 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 3 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 4 回目

予習：第 1 回から 3 回までの講義で参照する基準等について熟読する。 復習：レポートの参考例を確認し次のレポート課題の参考にする。

第 5 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 6 回目

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 7 回

予習：第 5 回と 6 回の講義で参照する基準等について熟読する。 復習：レポートの参考例を確認し次のレポート課題の参考にする。

第 8 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 9 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 10 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 11 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 12 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 13 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 14 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。 復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、監査基準報告書等の該当部分を確認し理解を深める。

第 15 回

予習：全体の講義で参照する基準等について熟読する。 復習：レポートの参考例を確認する。

10. その他 [In addition] :

テキスト・参考文献：必要に応じて講義の中で紹介する。

この講義を受講するために必要となる知識：

- ・ 監査論の科目を履修していることが望ましい。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

内部統制の実務／Internal Control Practice

担当教員 [Instructor] : 小粥 純子 / JUNKO KOGAYU

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 火曜日 7 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC618J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

企業の内部統制の評価は具体的にはどのように行われるのかについての基本的な枠組みを、金融庁企業会計審議会の財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに同実施基準を中心に講義する。同基準の枠組みは、経営者による財務報告に係る内部統制の評価及び報告の基準と監査人による財務報告に係る内部統制の監査の基準の前提となる内部統制の概念的な枠組みを示すものである。

I will lecture on the basic framework of how assessing and reporting a corporate's internal control, focusing on the Standards for Management Assessment and Audit concerning Internal Control Over Financial Reporting. This framework provides the conceptual framework for internal control that underlies the standards used by management to assess and report on internal control over financial reporting and the standards used by external auditors to audit internal control over financial reporting.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

会計専門職に期待される企業の内部統制の理解と評価手続の立案ができるようになることを目標とする。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

○オンライン（オンデマンド）による講義

○「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準及び実施基準」をテーマごとに講義し、ケース・スタディにより基準の意味するところを理解する。

○進捗予定

第1回：内部統制報告制度の概要 / Assessment and report on internal control over financial reporting

日本の法令要求事項、内部統制基準等、コーポレート・ガバナンスコードについて概説する。

第2回：内部統制の基本的枠組み (1) / Basic framework of internal control (1)

事例を用いて「統制環境」とその7つの要素を理解する。

第3回：内部統制の基本的枠組み (2) / Basic framework of internal control (2)

事例を用いて「リスクの評価と対応」、「情報と伝達」、「モニタリング」を理解する。

第4回：業務プロセスに係る内部統制の評価 / Assessment of Process-Level Controls

「統制活動」と業務プロセスの有効性の評価について理解する。

第5回：IT（情報技術）への対応 / Response to IT

基本的要素である「ITへの対応」、IT全般統制、IT業務処理統制について理解する。

第6回：小レポート / Quiz and Report

前回までの講義内容について小レポートを実施する。

第7回：評価・報告制度 (1) / Assessment on Internal Control

財務報告に係る内部統制の評価とその範囲、評価範囲の決定方法等を理解する。

第8回：評価・報告制度 (2) / Judgment of the Effectiveness of Controls

全社的な内部統制の有効性の評価、業務プロセスの有効性の評価について理解する。

第9回：内部統制監査 (1) / Audit on Internal Control Over Financial Reporting

監査計画の策定、内部統制の監査の実施について理解する。

第10回：内部統制監査 (2) / Performance of the Internal Control Audit

内部統制の有効性の評価、内部統制の開示すべき重要な不備等について理解する。

第11回：小レポート / Quiz and Report

前回までの講義内容について小レポートを実施する。

第12回：財務諸表監査との関係 / Integration of internal control audit with audit of financial statements

財務報告に係る内部統制の監査そして財務諸表監査との関係について理解する。

第13回：事例研究 (1) / Case Study (1)

企業の有価証券報告書等を使って、全社的な内部統制の事例研究を行う。

第14回：事例研究 (2) / Case Study (2)

企業の有価証券報告書等を使って、業務プロセスの有効性の事例研究を行う。

第15回：期末レポート / Examination (Report)

全体の理解に基づき、論述式の期末レポートを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

小レポート2回 (60%) および理解度確認セッション (期末レポート) (40%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。

復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、基準等の該当部分を確認し理解を深める。

第 2 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。

復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、基準等の該当部分を確認し理解を深める。

第 3 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。

復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、基準等の該当部分を確認し理解を深める。

第 4 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。

復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、基準等の該当部分を確認し理解を深める。

第 5 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。

復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、基準等の該当部分を確認し理解を深める。

第 6 回

予習：1 回から 5 回の講義で参照する基準等について熟読する。

復習：レポート参考例を確認し、次回のレポート課題に備える。

第 7 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。

復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、基準等の該当部分を確認し理解を深める。

第 8 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。

復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、基準等の該当部分を確認し理解を深める。

第 9 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。

復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、基準等の該当部分を確認し理解を深める。

第 10 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。

復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、基準等の該当部分を確認し理解を深める。

第 11 回

予習：7 回から 10 回の講義で参照する基準等について熟読する。

復習：レポート参考例を確認し、次回のレポート課題に備える。

第 12 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。

復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、基準等の該当部分を確認し理解を深める。

第 13 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。

復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、基準等の該当部分を確認し理解を深める。

第 14 回

予習：講義で参照する基準等について熟読する。

復習：ケース・スタディ、事例研究で実施した内容について、基準等の該当部分を確認し理解を深める。

第 15 回

予習：12 回から 14 回の講義で参照する基準等について熟読する。

復習：レポート参考例を確認する。

10. その他 [In addition] :

テキスト・参考文献：必要に応じて講義の中で紹介する。主として以下の基準等を使用する。

※財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準及び実施基準

この講義を受講するために必要となる知識：企業のリスク評価の観点から、監査計画の編成法 I を併せて履修することを推奨する。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

マクロ経済学/Macro Economics

担当教員 [Instructor]: 北川 章臣/AKIOMI KITAGAWA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 火曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-EC0502J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

マクロ経済学は国内総生産 (GDP)、物価、利子率といった集計変数の動きを解明する経済学の一分野である。この講義では履修者にマクロ経済学の基本的な分析手法を習得してもらうことを目的にする。具体的には、GDP と物価水準について説明した後、45 度線モデル、IS-LM モデル、総需要-総供給モデル、新古典派モデルといった基本的なマクロモデルについて解説する。これに加え、大恐慌や石油危機のような過去の出来事はマクロ経済学の観点からどう理解すべきかについても解説する。

Macroeconomics is a branch of economics that deals with the behavior of aggregate variables such as gross domestic product (GDP), price level, and interest rates. This course aims to familiarize students with the basic analytical techniques of macroeconomics. Specifically, after explaining GDP and the price level, basic macroeconomic models such as the Keynesian Cross model, the IS-LM model, the aggregate demand-aggregate supply model, and the neoclassical model will be explained. In addition, how past events such as the Great Depression and the Oil Crises should be understood from a macroeconomic perspective will be described.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

基本的なマクロモデルの完全な理解を学修の到達目標とする。特に、それぞれのモデルにおいて、GDP の水準はどのように決まるのか、財政金融政策は GDP の水準にどのような影響を与えるのか、といった点を受講者は自分の言葉で説明できるようになってもらいたい。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション+マクロ経済学とは? / Orientation & What is Macroeconomics?

コースの目的、進め方、成績評価方法、学習方法に関するガイダンスを行う。さらに、マクロ経済学について大まかなイメージを掴んでもらう。

第2回: GDP (国内総生産) / Gross Domestic Product

マクロ経済学の中心概念である GDP について解説する。

第3回: GDP デフレーター / GDP deflator

GDP デフレーターなど物価水準の諸指標について解説する。

第4回: なぜ、GDP に注目するのか? / Why is GDP important?

マクロ経済分析が GDP に注目して行われる理由を解説する。

第5回: GDP の決定理論 / Determination of GDP: two views

GDP の水準決定をめぐる2つの対照的な考え方を紹介する。

第6回: 45度線モデル / Keynesian Cross

GDP 決定に関する有効需要原理の考え方を最も簡潔に表現した45度線モデルを解説する。

第7回: 投資関数 / Investment function

45度線モデルを IS-LM モデルに拡張する一環として投資関数について解説する。

第8回: 資産市場 / Asset Market

45度線モデルを IS-LM モデルに拡張する一環として資産市場について解説する。

第9回: IS-LM モデル / IS-LM model

財市場だけでなく資産市場の均衡にも注目した IS-LM モデルについて解説する。

第10回: 財政政策と金融政策の効果 / Effects of Fiscal and Monetary Policies

IS-LM モデルを使って、財政金融政策の効果を分析する。

第11回: 総需要-総供給モデル / AD-AS model

IS-LM モデルを拡張して、物価水準が内生的に決まる総需要-総供給モデルを構築する。

第12回: 競合する労働市場観 / Alternative views on the labor market

総需要-総供給モデルでは、有効需要原理が働いて GDP が決まるケースと、セイの法則が働いて GDP が決まるケースがありうる。この背後にある労働市場のイメージを明らかにする。

第13回: フィリップス曲線 / Phillips Curve

フィリップス曲線の発見がマクロ経済学に与えた影響について解説する。

第14回: 需要ショックと供給ショック / Demand and Supply shocks

経済が総需要ショック・総供給ショックに見舞われたときに示す反応について解説する。

第15回: 理解度確認セッション / Examination

対面式の試験を実施することで講義全体のまとめとする。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

授業期間中に数回課される宿題の提出状況と理解度確認セッションの得点から総合的に評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

マクロ経済学 (第3版) 入門の 平口良司+稲葉大
「一歩前」から応用まで

有斐閣

2023
年978-4-641-
15111-6

参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回目

予習 : Google Classroom に予めアップロードされた授業スライドに目を通しておくこと。

復習 : 解説動画を用意するので視聴すること (URL は Google Classroom で通知する)。

第 2 回目

予習 : Google Classroom に予めアップロードされた授業スライドに目を通しておくこと。

復習 : 解説動画を用意するので視聴すること (URL は Google Classroom で通知する)。

第 3 回目

予習 : Google Classroom に予めアップロードされた授業スライドに目を通しておくこと。

復習 : 解説動画を用意するので視聴すること (URL は Google Classroom で通知する)。

第 4 回目

予習 : Google Classroom に予めアップロードされた授業スライドに目を通しておくこと。

復習 : 解説動画を用意するので視聴すること (URL は Google Classroom で通知する)。

第 5 回目

予習 : Google Classroom に予めアップロードされた授業スライドに目を通しておくこと。

復習 : 解説動画を用意するので視聴すること (URL は Google Classroom で通知する)。

第 6 回目

予習 : Google Classroom に予めアップロードされた授業スライドに目を通しておくこと。

復習 : 解説動画を用意するので視聴すること (URL は Google Classroom で通知する)。

第 7 回目

予習 : Google Classroom に予めアップロードされた授業スライドに目を通しておくこと。

復習 : 解説動画を用意するので視聴すること (URL は Google Classroom で通知する)。

第 8 回目

予習 : Google Classroom に予めアップロードされた授業スライドに目を通しておくこと。

復習 : 解説動画を用意するので視聴すること (URL は Google Classroom で通知する)。

第 9 回目

予習 : Google Classroom に予めアップロードされた授業スライドに目を通しておくこと。

復習 : 解説動画を用意するので視聴すること (URL は Google Classroom で通知する)。

第 10 回目

予習 : Google Classroom に予めアップロードされた授業スライドに目を通しておくこと。

復習 : 解説動画を用意するので視聴すること (URL は Google Classroom で通知する)。

第 11 回目

予習 : Google Classroom に予めアップロードされた授業スライドに目を通しておくこと。

復習 : 解説動画を用意するので視聴すること (URL は Google Classroom で通知する)。

第 12 回目

予習 : Google Classroom に予めアップロードされた授業スライドに目を通しておくこと。

復習 : 解説動画を用意するので視聴すること (URL は Google Classroom で通知する)。

第 13 回目

予習 : Google Classroom に予めアップロードされた授業スライドに目を通しておくこと。

復習 : 解説動画を用意するので視聴すること (URL は Google Classroom で通知する)。

第 14 回目

予習 : Google Classroom に予めアップロードされた授業スライドに目を通しておくこと。

復習 : 解説動画を用意するので視聴すること (URL は Google Classroom で通知する)。

第 15 回目

予習 : これまでの授業内容をよく復習しておくこと。

復習 : 解答を配布するので、その内容を理解すること (URL は Google Classroom で通知する)。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識 : 特になし

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

経営管理／Business Management

担当教員 [Instructor] : 藤本 雅彦／MASAHICO FUJIMOTO

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 月曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-MAN501J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では経営学の基本分野である経営戦略論とミクロ・マクロ組織論などについて学ぶと同時に、経営学について自発的に学習する際に必要な知識を習得する。

The aim of this course is to help students learn about the basic fields of business administration, such as management strategy and micro/macro organization theory, and at the same time acquire the knowledge necessary for independent study of business administration.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

経営学に関する基本理論の意味を理解し、現実に対応する応用力を得ると同時に、基本的な理論にとどまらず、近年の研究を調べられるだけのリテラシーを身に着けること。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション/Orientation

この授業の概要、進め方、成績評価などを説明し、経営管理の理論的系譜について概観する。

第2回：企業とは何か？/What is the firm？

様々な市場と企業組織の関係、株式会社の所有とガバナンス、企業価値などを考える。

第3回：管理とは何か？/What is the Business Administration？

経営管理の発展の歴史を理解し、現代企業のマネジメントや経営管理の大枠を捉える。

第4回：経営組織とは何か？/What is the Business Organization？

組織が成立し存続するための要件とは何か、そして組織をどのように管理すべきかを考える。

第5回：全社戦略のマネジメント/Management of Corporate Strategy

組織のとるべき行動や方向性の決定がどのようになされるのかを取り扱う全社的な経営戦略論について考える。

第6回：競争戦略のマネジメント/Management of Competitive Strategy

様々な事業における競争優位のための戦略について考える。

第7回：日本企業のものづくり戦略のマネジメント/Management of Manufacture Strategy specially in Japanese Firm

ものづくりや製品アーキテクチャーを取り上げ、とりわけ日本の製造業に特有のものづくりについても考える。

第8回：イノベーションのマネジメント/Management of Innovation

既存の製品やサービスをいかにして革新し事業を発展させるべきかについて考える。

第9回：組織構造のマネジメント/Management of Organizational Structure

組織デザインの基本枠組みである組織構造について考える。

第10回：組織文化のマネジメント/Management of Organizational Culture

他の組織と異なる歴史や経験が作り出す組織文化がいかに組織パフォーマンスに影響するか考える。

第11回：組織の環境適応と変革のマネジメント/Management of Environment Adaptation and Revolution of Organization

組織がいかにして外部環境の変化に適応し組織を変革するのかを考える。

第12回：モチベーションのマネジメント/Management of Motivation

人がなぜ働くのかを検討することで、人材を動機づけて管理する方法を考える。

第13回：古典的なリーダーシップの理論/Classical Leadership Theory

主に作業組織における古典的なリーダーシップの理論を紹介する。

第14回：現代のリーダーシップの理論/Modern Leadership Theory

今日の管理組織や政治におけるリーダーシップの理論を紹介する。

第15回：理解度確認セッション/Examination

これまでの講義内容に基づいて、各人の学習内容の理解度を確認する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

事後課題レポート (60%) および理解度確認セッション (40%) で評価する。

AA (90 点以上), A (80 点以上 90 点未満), B (70 点以上 80 点未満), C (60 点以上 70 点未満), F (60 点未満; 不合格)。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回目

予習：事前に配布する講義計画と経営管理の理論的系譜に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：経営管理の理論的系譜で取り上げられている理論や概念を自分で調べてみる。

第2回目

予習：事前に配布するレジュメに目を通し、不明な語句などをチェックし講義の流れを掴むこと。

復習：授業の最後に提示された課題レポートを作成し、次の授業時間までに提出すること。

第3回目

予習：事前に配布するレジュメに目を通し、不明な語句などをチェックし講義の流れを掴むこと。

復習：授業の最後に提示された課題レポートを作成し、次の授業時間までに提出すること。

第4回目

予習：事前に配布するレジュメに目を通し、不明な語句などをチェックし講義の流れを掴むこと。

復習：授業の最後に提示された課題レポートを作成し、次の授業時間までに提出すること。

第5回目

予習：事前に配布するレジュメに目を通し、不明な語句などをチェックし講義の流れを掴むこと。

復習：授業の最後に提示された課題レポートを作成し、次の授業時間までに提出すること。

第6回目

予習：事前に配布するレジュメに目を通し、不明な語句などをチェックし講義の流れを掴むこと。

復習：授業の最後に提示された課題レポートを作成し、次の授業時間までに提出すること。

第7回目

予習：事前に配布するレジュメに目を通し、不明な語句などをチェックし講義の流れを掴むこと。

復習：授業の最後に提示された課題レポートを作成し、次の授業時間までに提出すること。

第8回目

予習：事前に配布するレジュメに目を通し、不明な語句などをチェックし講義の流れを掴むこと。

復習：授業の最後に提示された課題レポートを作成し、次の授業時間までに提出すること。

第9回目

予習：事前に配布するレジュメに目を通し、不明な語句などをチェックし講義の流れを掴むこと。

復習：授業の最後に提示された課題レポートを作成し、次の授業時間までに提出すること。

第10回目

予習：事前に配布するレジュメに目を通し、不明な語句などをチェックし講義の流れを掴むこと。

復習：授業の最後に提示された課題レポートを作成し、次の授業時間までに提出すること。

第11回目

予習：事前に配布するレジュメに目を通し、不明な語句などをチェックし講義の流れを掴むこと。

復習：授業の最後に提示された課題レポートを作成し、次の授業時間までに提出すること。

第12回目

予習：事前に配布するレジュメに目を通し、不明な語句などをチェックし講義の流れを掴むこと。

復習：授業の最後に提示された課題レポートを作成し、次の授業時間までに提出すること。

第13回目

予習：事前に配布するレジュメに目を通し、不明な語句などをチェックし講義の流れを掴むこと。

復習：授業の最後に提示された課題レポートを作成し、次の授業時間までに提出すること。

第14回目

予習：事前に配布するレジュメに目を通し、不明な語句などをチェックし講義の流れを掴むこと。

復習：これまでの全ての授業の内容をレビューし、不明な点などは教員に確認する。

第15回目

予習：理解度確認セッションに対する準備をする。

復習：理解度確認セッションで説明された回答・解説を確認すること。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：

新聞やネットニュースの経済記事を理解できる程度の教養知識

その他：

この授業では特定の教科書は指定しないが、毎回、レジュメに記載されている出版書籍や論文を参考にしていきたい。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

経営戦略/Management Strategy

担当教員 [Instructor]: NGUYEN CHI NGHIA/NGUYEN CHI NGHIA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 火曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-MAN601J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、経営戦略論における主要な理論や概念について、ドキュメンタリーの鑑賞、ディスカッション、教員の説明などを通じて、体系的に学習していく。抽象的な理論や概念と具体的な組織の事例とのあいだの往復運動のなかで、経営戦略の理解を深めていく。学生の皆さんには、教員の説明を受けるだけでなく、授業内容の中で関心のある課題を選び、さらに探究することを通じて、学びを深めることが求められる。このような動態的な学習を通じて、経営戦略の分析に必要な実践的なスキル、知識、そして社会に即応できる能力を備えた人材を育成することを目指す。

In this course, students systematically learn the main theories and concepts of business strategy through documentaries, discussions, and explanations by the lecturer. Students deepen their understanding of business strategy by moving back and forth between abstract theories, concepts, and concrete organizational examples. Students are expected to listen to the instructor's explanations and deepen their learning by selecting a topic that interests them the most from the class topics and conducting a case study. Through this type of active learning, this class aims to educate human resources equipped with the practical skills and knowledge necessary for analyzing business strategies and the ability to meet societal requirements.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

学生は、経営戦略に関連する基礎的な知識を修得し、それを用いて、様々な経営戦略現象を自ら分析できるようになることを目標とする。

The goal is to enable students to acquire basic business strategy knowledge and use it to analyze various business strategy phenomena.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/Orientation

オリエンテーションを実施する

第2回: 経営戦略の概念と内容①/Key concepts in business strategy 1

経営戦略の概念について概説する

第3回: 経営戦略の概念と内容②/Key concepts in business strategy 2

経営戦略の概念について概説する

第4回: 経営資源①/Management resources 1

経営戦略の概念について概説する

第5回: 経営資源②/Management resources 2

経営戦略の概念について概説する

第6回: 競争の基本戦略①/Competitive strategies 1

競争の基本戦略について概説する

第7回: 競争の基本戦略②/Competitive strategies 2

競争の基本戦略について概説する

第8回: 競争の基本戦略③/Competitive strategies 3

競争の基本戦略について概説する

第9回: 国際戦略/International strategy

国際戦略について概説する

第10回: 社会戦略/Social strategy

経営戦略と社会性の視点について概説する

第11回: 様々な組織の経営戦略/Strategy of various organizations

様々な組織の経営戦略について概説する

第12回: 経営戦略の事例研究①/Case study of business strategy 1

特定の組織の経営戦略の分析・研究について概説・指導する

第13回: 経営戦略の事例研究②/Case study of business strategy 2

特定の組織の経営戦略の分析・研究について概説・指導する

第14回: 経営戦略の応用可能性/Applicability of business strategy

経営戦略の応用可能性について概説する

第15回: 総括、補足と事例研究の成果の評価/Summary, supplementary notes and evaluation of case study results

本講義で説明された内容のまとめ、補足を実施する。また、学生の事例研究の成果を評価する。

※講義の進捗状況等により、変更の可能性がある

This may change depending on the class's progress.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]**5. 使用言語 [Language Used in Course]:**

日本語 (必要に応じて英語も可) Lectures are given in Japanese (English is also possible if necessary)

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

事例研究の成果 (分析結果と提案) (100%) を基に評価する。Case study results (analysis results and suggestions): 100%

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

*第1回 Class 1

予習 Preparation: 関心のある組織の概要について調べておくこと。Collect information on the overview of your favorite organization.

復習 Review: 本講義の内容に基づけば、様々な組織の経営戦略をどのように分析できるのかについて整理すること。Organize how you can analyze your various business strategies based on the coming contents of this lecture.

*第2回～第3回 Class 2, 3

予習 Preparation: 関心のある組織の経営戦略について調べておくこと。Collect information on the business strategies of your favorite organization.

復習 Review: 概説された経営戦略の概念と内容に基づき、関心のある組織を分析しながら学習内容を整理すること。Organize what you have learned on the key concepts in business strategy by analyzing your favorite organization.

*第4回～第5回 Class 4, 5

予習 Preparation: 関心のある組織の経営資源について調べておくこと。Collect information on the management resources of your favorite organization.

復習 Review: 概説された経営資源に基づき、関心のある組織を分析しながら学習内容を整理すること。Organize what you have learned about management resources by analyzing your favorite organization.

*第6回～第8回 Class 6, 7, 8

予習 Preparation: 競争の基本戦略について調べておくこと。Collect information on basic competitive strategies.

復習 Review: 概説された競争の基本戦略に基づき、関心のある組織を分析しながら学習内容を整理すること。Organize what you have learned about basic competitive strategies by analyzing your favorite organization.

*第9回 Class 9

予習 Preparation: 国際戦略について調べておくこと。Collect information on the international strategies of your favorite organization.

復習 Review: 概説された国際戦略に基づき、関心のある組織を分析しながら学習内容を整理すること。Organize what you have learned about international strategy by analyzing your favorite organization.

*第10回 Class 10

予習 Preparation: 社会戦略について調べておくこと。Collect information on the social strategies of your favorite organization.

復習 Review: 概説された社会戦略に基づき、関心のある組織を分析しながら学習内容を整理すること。Organize what you have learned about social strategy by analyzing your favorite organization.

*第11回 Class 11

予習 Preparation: これまで概説された内容を確認しておくこと。Confirm what you have learned so far.

復習 Review: 様々な組織の経営戦略を分析しながら学習内容を整理すること。Organize what you have learned so far by analyzing the business strategies of various organizations.

*第12回～第13回 Class 12, 13

予習 Preparation: これまで概説された内容を確認しておくこと。Confirm what you have learned so far.

復習 Review: 特定の事例の経営戦略を分析しながら学習内容を整理すること。Organize what you have learned by analyzing the business strategies of your favorite case and giving suggestions.

*第14回 Class 14

予習 Preparation: これまで概説された内容を確認しておくこと。Confirm what you have learned so far.

復習 Review: 概説された経営戦略の応用可能性を整理すること。Review: Organize the applicability of business strategy in various contexts.

*第15回 Class 15

予習 Preparation: 事例研究の成果を完成させること。Complete the case study.

復習 Review: 事例研究の成果を確認しながら学習内容を整理すること。Organize what you have learned by confirming the case study results.

10. その他 [In addition] :

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて確認すること(要 東北大 ID)

コーポレートファイナンス 1/Corporate Finance 1

担当教員 [Instructor]: 嘉本 慎介/SHINSUKE KAMOTO

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 月曜日 7 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-MAN503J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本授業は、コーポレートファイナンスの基礎理論を紹介する。本授業では、コーポレートファイナンスにおける投資プロジェクトの意思決定、資金調達と資本構成、ペイアウト政策に関する基本的な考え方について説明する。

This course introduces basic theory of corporate finance. This course demonstrates basic concepts on corporate investment decisions, financing and capital structure, dividend policy in corporate finance.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

コーポレートファイナンスにおける投資プロジェクトの意思決定、資金調達と資本構成、ペイアウト政策に関する基本的な考え方を理解する。

Students understand about basic concepts on corporate investment decisions, financing and capital structure, payout policy in corporate finance.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/Orientation

本授業の概要、進め方、成績評価等について説明する。第2回目以降の授業計画は以下を予定している。

第2回: お金の時間価値/The Time Value of Money

異なる時点で発生するキャッシュフローの価値評価、将来価値と現在価値、複利の効果について説明する。

第3回: キャッシュフロー流列の現在価値/Present Value of a Cash Flow Stream

キャッシュフロー流列の現在価値の評価、投資の意思決定ルール、永久債と年金について説明する。

第4回: 投資の意思決定法/Investment Decision Rules

NPV法、内部収益率法、回収期間法、収益性指数法などの異なる投資の意思決定ルールを説明する。

第5回: 債券評価/Valuing Bonds

債券の内容、債券価格と最終利回りの関係、スポット金利について説明する。

第6回: 金利の期間構造/The Term Structure of Interest Rates

フォワードレートと金利の期間構造に関する仮説について説明する。

第7回: 株式評価/Valuing Stocks

配当割引モデル、総還元モデル、割引フリーキャッシュフロー評価モデル、類似企業評価法について説明する。

第8回: リターンとリスク/Return and Risk

個別の株式の期待収益率とリスクの評価、株式の収益率の相関、株式のポートフォリオの期待収益率とリスクの評価について説明する。

第9回: ポートフォリオ選択/Portfolio Choice

安全資産と株式のポートフォリオの期待収益率とリスクの計算と効率的ポートフォリオについて説明する。

第10回: 資本資産評価モデル/The Capital Asset Pricing Model

資本資産評価モデルにおいて、証券の期待収益率がどのように決定されるかを説明する。

第11回: 資本コストの推定/Estimating the Cost of Capital

資本資産評価モデルを応用して、投資プロジェクトの正味現在価値を算出する際に必要となる資本コストを推定する方法について説明する。

第12回: 市場の効率性/Market Efficiency

効率的市場仮説と企業財務の意思決定に効率的市場がもつ意味について説明する。

第13回: 資本構成/Capital Structure

完全市場における企業の資本構成と企業価値の関係と負債の税控除が資本構成と企業価値に及ぼす影響について説明する。

第14回: ペイアウト政策/Payout Policy

完全市場におけるペイアウト政策と企業価値の関係について説明する。

第15回: 理解度確認セッション/Examination

これまでの講義内容の理解を確認するために課題テストを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

理解度確認セッションで実施する課題テストによって評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

コーポレートファイナンス (入門編) 第2版	バーク・ディマーズ	丸善出版	2014	4621066102	参考書
コーポレートファイナンス (応用編) 第2版	バーク・ディマーズ	丸善出版	2014	4621066110	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回

予習: テキストの第1章を読むこと。 復習: テキストの章末問題に取り組むこと。

第2回

予習: テキストの第3章の3.1, 3.2, 第4章の4.1, 4.2、第5章5.1を読むこと。 復習: テキストの章末問題に取り組むこと。

第3回

予習: テキストの第3章の3.3, 第4章の4.3, 4.4, 4.5を読むこと。 復習: テキストの章末問題に取り組むこと。

第4回

予習: テキストの第6章を読むこと。 復習: テキストの章末問題に取り組むこと。

第5回

予習: テキストの第8章を読むこと。 復習: テキストの章末問題に取り組むこと。

第6回

予習: テキストの第5章の5.3と第8章を読むこと。 復習: テキストの章末問題に取り組むこと。

第7回

予習: テキストの第5章の5.5と第9章の9.1~9.4を読むこと。 復習: テキストの章末問題に取り組むこと。

第8回

予習: テキストの第10章と第11章を読むこと。 復習: テキストの章末問題に取り組むこと。

第9回

予習: テキストの第10章と第11章を読むこと。 復習: テキストの章末問題に取り組むこと。

第10回

予習: テキストの第10章と第11章を読むこと。 復習: テキストの章末問題に取り組むこと。

第11回

予習: テキストの第5章の5.5と第12章を読むこと。 復習: テキストの章末問題に取り組むこと。

第12回

予習: テキストの第9章の9.5を読むこと。 復習: テキストの章末問題に取り組むこと。

第13回

予習: テキストの第14章と第15章を読むこと。 復習: テキストの章末問題に取り組むこと。

第14回

予習: テキストの第17章の17.1-17.3を読むこと。 復習: テキストの章末問題に取り組むこと。

第15回

予習: これまで学習した内容と各回の章末問題を復習すること。 復習: 取り組んだ問題について、テキストをもとに見直して確認すること。

10. その他 [In addition] :

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて確認すること(要 東北大 ID)

コーポレートファイナンス 2/Corporate Finance 2

担当教員 [Instructor]: 嘉本 慎介/SHINSUKE KAMOTO

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 月曜日 7 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-MAN603J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本授業では、コーポレートファイナンス1の学習内容をもとに、企業財務の意思決定に関する発展的な話題を解説する。

In this course, the instructor explains advanced themes regarding corporate financial decisions on the basis of learning contents of corporate finance 1.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

資本構成、リスク管理、リアルオプション、合併・買収に関するコーポレートファイナンスの発展的な内容を理解する。

Students understand about advanced topics such as capital structure, risk management, real options and mergers and acquisitions in corporate finance.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/Orientation

本授業の概要、進め方、成績評価等について説明する。第2回目以降の授業計画は以下を予定している。

第2回: 資本構成と財務破綻/Capital structure and financial distress

負債の保有がもたらす財務破綻の危機費用が資本構成の意思決定と企業価値に及ぼす影響について説明する。

第3回: 企業のエージェンシー問題 (1) /Agency problems of corporations (1)

負債の保有がもたらす企業のエージェンシー問題が資本構成の意思決定と企業価値に及ぼす影響について説明する。

第4回: 企業のエージェンシー問題 (2) /Agency problems of corporations (2)

所有と経営の分離がもたらす企業のエージェンシー問題が資本構成の意思決定と企業価値に及ぼす影響について説明する。

第5回: 情報の非対称性と企業の意思決定/Asymmetric information and corporate financial decisions

企業と外部投資家の間に存在する情報の非対称性が企業財務の意思決定に及ぼす影響について説明する。

第6回: 先渡契約/Forward contracts

金融派生証券のひとつである先渡契約の内容と先渡契約を用いた為替リスクの管理について説明する。

第7回: 先物契約/Futures contracts

金融派生証券のひとつである先物契約の内容と機能について説明する。

第8回: 金利リスク/Interest rate risk

金利リスクと債券のデュレーションについて説明する。

第9回: 金融オプション/Financial options

金融派生証券のひとつであるオプションの契約内容と機能について説明する。

第10回: オプションの評価/Valuation of Options

金融派生証券のひとつであるオプションの評価理論について説明する。

第11回: オプションの評価とリスク管理/Valuation of Options and risk management

ブラック・ショールズのオプション価格評価モデルと通貨オプションを用いた企業のリスク管理について説明する。

第12回: リアルオプション (1) /Real options

オプションの考え方を応用した不確実性下における企業投資の価値評価と意思決定について説明する。

第13回: リアルオプション (2) /Real options

オプションの考え方を応用した不確実性下における企業投資の価値評価と意思決定について説明する。

第14回: 企業の合併と買収/Mergers and Acquisitions

企業の合併と買収に関する価値評価について説明する。

第15回: 理解度確認セッション/Examination

これまでの講義内容の理解を確認するために課題テストを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

理解度確認セッションで実施する課題テストによって評価する (100%)。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

コーポレートファイナンス (入門編) 第2版	バーク・ディマーズ	丸善出版	2014	4621066102	参考書
コーポレートファイナンス (応用編) 第2版	バーク・ディマーズ	丸善出版	2014	4621066110	参考書

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回

予習：テキストの第1・14・15章を読むこと。 復習：テキストの章末問題に取り組むこと。

第2回

予習：テキストの第16章16.1-16.4を読むこと。 復習：テキストの章末問題に取り組むこと。

第3回

予習：テキストの第16章16.5を読むこと。 復習：テキストの章末問題に取り組むこと。

第4回

予習：テキストの第16章16.6を読むこと。 復習：テキストの章末問題に取り組むこと。

第5回

予習：テキストの第16章16.7・第17章17.6を読むこと。 復習：テキストの章末問題に取り組むこと。

第6回

予習：テキストの第30章30.3を読むこと。 復習：テキストの章末問題に取り組むこと。

第7回

予習：テキストの第30章30.2を読むこと。 復習：テキストの章末問題に取り組むこと。

第8回

予習：テキストの第30章30.4を読むこと。 復習：テキストの章末問題に取り組むこと。

第9回

予習：テキストの第20章を読むこと。 復習：テキストの章末問題に取り組むこと。

第10回

予習：テキストの第21章21.1, 21.3を読むこと。 復習：テキストの章末問題に取り組むこと。

第11回

予習：テキストの第21章21.2と第30章30.3を読むこと。 復習：テキストの章末問題に取り組むこと。

第12回

予習：テキストの第22章22.1-22.3を読むこと。 復習：テキストの章末問題に取り組むこと。

第13回

予習：テキストの第22章22.4, 22.7を読むこと。 復習：テキストの章末問題に取り組むこと。

第14回

予習：テキストの第28章の28.1~28.4を読むこと。 復習：テキストの章末問題に取り組むこと。

第15回

予習：これまで学習した内容と各回の章末問題を復習すること。 復習：取り組んだ問題について、テキストをもとに見直して確認すること。

10. その他 [In addition] :

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomコード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて確認すること(要 東北大 ID)

グローバル経営／Global Management

担当教員 [Instructor] : NGUYEN KIM NGAN / NGUYEN KIM NGAN

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 金曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-MAN602E, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

This course is designed to equip students with the essential skills and knowledge needed to navigate the complexities of managing businesses in a global context. This course integrates global management principles with practical group projects, which serves as a foundation for hands-on learning. The theoretical component includes critical aspects of International Business Strategies, Human Resource Management, Operations Management, and International Marketing. Based on that, students will investigate the real-world businesses to gain insights from industry guest speakers.

We will use Google Classroom (bxxhuad) as the main tool for announcing updates, distributing assignments, etc.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

By the end of this course, students are expected to achieve the following goals:

1. Understand fundamental principles of global management related to International Business Strategies, Human Resource Management, Operations Management, and International Marketing
2. Apply these concepts to real-world business scenarios by interviewing industry guest speakers
3. Develop critical thinking, data analysis, teamwork, and interview skills, preparing them for successful careers in the global workplace.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

To achieve the learning goals, the lecturer will deliver lectures while students engage in discussions and present their group ideas during each class.

Week 1: Introduction

- Overview of global management
- Guidance on group project

Week 2: International Business Strategy I: Selecting the Expansion Country

Week 3: International Business Strategy II: Market Entry Planning

Week 4: Human Resource Management I: Diversity and Cross-Cultural Management

Week 5: Human Resource Management II: Managing Global Projects

- Project Task 1: Review lessons and prepare investigation questionnaires for guest speakers.

Week 6: Operations Management I: Global vs. Local Supply Chains

Week 7: Operations Management II: Production Strategies

Week 8: Operations Management III: International Logistics

- Project Task 2: Review lessons and prepare investigation questionnaires for guest speakers.

Week 9: Guest Speakers & Interview Implementation I

Week 10: International Marketing I: Product Adaptation and Innovation

Week 11: International Marketing II: Global Marketing Strategies

Week 12: Preparation and Q&A Session

- Project Task 3: Outline final presentation slides. Review lessons and prepare investigation questionnaires for guest speakers.

Week 13: Guest Speakers & Interview Implementation II

Week 14: Final Preparation and Q&A Session

- Project Task 4: Finalize presentation slide outline and gather feedback.

Week 15: Group Project Presentations and Wrap-Up

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

English (Instruction and classroom discussion). (日本語での質問、相談も可能。)

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

Attendance: 20% Presentations for group discussions: 20% Homework & Project Tasks: 30%

Group Project Presentation: 30%

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

Week 1:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Complete and submit homework assignment.

Week 2:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Complete and submit homework assignment.

Week 3:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Initial group project meeting: Discuss project topics, scope, roles, and responsibilities.

Week 4:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Complete and submit homework assignment.

Week 5:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Brainstorm and draft initial questionnaires.

Week 6:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Expand the questionnaires by adding more questions.

Week 7:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Expand the questionnaires by adding more questions.

Week 8:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Expand the questionnaires by adding more questions

Week 9:

- Review interview notes & analyze collected data.
- Complete and submit homework assignment.

Week 10:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Develop the questionnaires for the second-round interview.

Week 11:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Expand the questionnaires by adding more questions

Week 12:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Complete and submit homework assignment.

Week 13:

- Review interview notes & analyze collected data, draw conclusions.
- Complete and submit homework assignment.

Week 14:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Group Project: Prepare and submit presentation slides.

Week 15:

- Review lecture notes, discussion topics, and final presentations of case studies.

10. その他 [In addition] :

There is no textbook. Materials will be distributed by Google Classroom / email.

Email: nguyen.kim.ngan.c2@tohoku.ac.jp

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etusad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

企業情報システム／Enterprise Information System

担当教員 [Instructor] : 工藤 周平／SYUHEI KUDO

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 金曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ECM501J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義は、企業経営の視点から企業情報システムの戦略的価値を正しく理解できる能力を養成することを目的とする。講義では、戦略経営論における企業情報システムの歴史、経営システムに及ぼす企業情報システムの影響、企業情報システムの現状と将来の展望について学習する。

The main objective of this course is to improve the ability to understand strategic value of enterprise information system correctly in terms of strategic management. The students in this course will understand the history of enterprise information system, the relationship between strategic management and the latest ICT, and its future prospects.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

企業経営における情報システムの役割とその重要性を理解し、企業情報システムの現状と課題を把握することを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション／Orientation

講義全体のフレームワーク、進め方、成績評価方法、学習方法に関するガイダンスを行う。

第2回：企業活動と情報システム／Business System and Information System

情報化社会における企業経営、企業の構造・活動と情報システムについて講義する。

第3回：企業情報システム発展史／The History of Enterprise Information System

企業情報システムの発展経緯と最新動向について講義する。

第4回：戦略的情報システム／Strategic Information System

情報システムが業界構造に及ぼす影響と戦略的情報システムの代表的事例について講義する。

第5回：競争戦略と情報システム／Competitive Strategy and Information System

情報システムが価値連鎖や基本戦略に及ぼす影響について講義する。

第6回：ビジネスプロセスと情報システム／Business Process and Information System

ICT利活用によるプロセスイノベーションについて講義する。

第7回：サプライチェーンマネジメント(SCM)／Supply Chain Management

生産システムの発展、SCM戦略と生産・流通システムの類型化について講義する。

第8回：統合基幹業務システム(ERP)／Enterprise Resource Planning

ERPアプリケーション・パッケージの導入方法について講義する。

第9回：情報システム投資の効果／Effectiveness of ICT Investment

伝統的な ICT 投資評価法と限界、ポートフォリオとしての評価方法について講義する。

第10回：情報システム投資と競争優位／Information System and Competitive Advantage

ICT カテゴリー、企業間競争における ICT 投資の影響について講義する。

第11回：事業と ICT の整合／Business-ICT Alignment

整合の概念、整合プロセス、整合評価システムについて講義する。

第12回：ウェブ・サービス・アーキテクチャ／Web Services Architecture

API やクラウド・コンピューティングの利用が企業情報システムの管理に及ぼす影響について講義する。

第13回：企業経営と人工知能(AI)／Business Management and AI

AI の仕組みとビジネスへの応用方法について講義する。

第14回：企業経営と IoT／Business Management and IoT

IoT の仕組みとビッグデータのための情報システムについて講義する。

第15回：まとめ／Review

これまでの講義の総括を行うとともに、企業情報システムの戦略的価値について討論する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

課題レポート (50%) および講義でのプレゼンテーション (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

経営情報システム [第4版]	宮川公男・上田泰 (編著)	中央経済社	2014	978-4502091704	教科書
----------------	---------------	-------	------	----------------	-----

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回目

予習：シラバスの授業内容に目を通し、各講義のキーワードについて調べ、講義の概要を把握する。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第2回目

予習：教科書の第1章、第2章を読む。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第3回目

予習：教科書の第11章を読み、内容をまとめる。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第4回目

予習：講義中に指定される論文を読み、内容をまとめる。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第5回目

予習：講義中に指定される論文を読み、内容をまとめる。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第6回目

予習：講義中に指定される論文を読み、内容をまとめる。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第7回目

予習：講義中に指定される論文を読み、内容をまとめる。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第8回目

予習：講義中に指定される論文を読み、内容をまとめる。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第9回目

予習：講義中に指定される論文を読み、内容をまとめる。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第10回目

予習：講義中に指定される論文を読み、内容をまとめる。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第11回目

予習：講義中に指定される文書を読み、内容をまとめる。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第12回目

予習：講義中に指定される論文を読み、内容をまとめる。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第13回目

予習：講義中に指定される論文を読み、内容をまとめる。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第14回目

予習：講義中に指定される論文を読み、内容をまとめる。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第15回目

予習：講義中に指定される論文を読み、内容をまとめる。これまでの学習を振り返る

復習：講義中の議論を踏まえ、企業情報システムの戦略的価値や将来の展望について考える

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：特に必要なし。

講義を受講する際注意すべき点：

世界的に評価の高いビジネス誌である『ハーバード・ビジネス・レビュー (HBR: Harvard Business Review)』誌に掲載された論文を中心に、企業情報システムに関する著名な論文（和訳されたもの）や文書を講義資料として用いる。講義では、課題レポートを毎回提出することを課す。課題レポートの内容については各講義終了直前に指示する。課題レポートの作成方法については本講義第1回に説明する。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

情報システム設計／Information System Design

担当教員 [Instructor] : 樋地 正浩／MASAHIRO HIJI

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 火曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ECM502J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、最初に情報技術の基本的用語や概念と情報システム産業の特徴を学び、組織活動の中で重要な位置を占める情報システムを理解するために必要な基礎知識を学ぶ。ついで、情報システムを構築するための全体的な工程の流れと各工程の中で用いられる手法、各工程で作成される設計書や仕様書といった文書の必要性和記述されるべき内容を学習する。

The lecture will lecture on the basic knowledge of information technology, the relationship between organizational activities and information systems, the overall process flow for developing an information system, the documents to be created in each process and the contents of these documents, and project management. In addition, the lecture will explain the characteristics of the information industry.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

情報システムや情報技術に関する書籍や資料の中で出てくる情報技術に関連した用語や概念を理解した上でこれらの書籍や資料の内容を正確に理解できる。

組織が構築、利用している情報システムの妥当性や適切な構築が行われたかを評価できる。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション／Orientation

講義の全体概要と情報システム設計を学ぶ必要性、情報システムを構築していく全体の流れを説明する。

第2回：情報技術の基礎 (1) / Foundation of Information Technology (1)

情報システムを理解する上で必要となる情報システムとソフトウェア、ハードウェアを説明する。

第3回：情報技術の基礎 (2) / Foundation of Information Technology (2)

情報システムを理解する上で必要となる処理形態、構成形態、ネットワーク、セキュリティを説明する。

第4回：情報産業とその特徴 / Information Industry and its Characteristic

多種多様な企業からなる情報システム産業の特徴と事業構造、情報システムの投資傾向を概説する。

第5回：企業活動と情報システム / Business Activity and Information system

情報システムを構築する目的や期待する効果、位置付けがどのように変化してきたのか説明する。

第6回：情報システムの導入形態と開発プロセス / Development Process of Information System

情報システムを導入する手法とシステム開発のさまざまな進め方について講義する。

第7回：情報システム構築の契約 / Contract related to Information System Development

情報システムの構築で外部組織と交わされるさまざまな契約の内容と目的を説明する。

第8回：理解度確認セッション1 / Examination I

第1回から第7回までの内容をどの程度理解し、身に付けているかを確認するための筆答考査を実施する。

第9回：プロジェクト管理 / Project Management

情報システムの構築を円滑に進めるために重要なプロジェクト管理とは何かを講義する。

第10回：情報化計画と投資対効果 / Planning and Return On Investment for Informatization

情報システム構築に不可欠な情報化戦略と情報化計画、投資対効果の算出方法について概説する。

第11回：要件定義と設計・開発 (1) / Requirement Definition, Design and Programming (1)

情報システム構築の最初の段階である要件定義と方式設計で何を行い、何を作成するかを講義する。

第12回：要件定義と設計・開発 (2) / Requirement Definition, Design and Programming (2)

情報システム構築の中のソフトウェア方式設計、詳細設計、プログラミングで何をするかを講義する。

第13回：テスト工程 / Test Process

情報システム構築の最後になるテスト工程では何を行うか、どのように品質を見極めるかを講義する。

第14回：運用と保守 / Operation and Maintenance

構築した情報システムを日々安心して利用していく上で必要な運用と保守で何をするかを講義する。

第15回：理解度確認セッション2 / Examination II

第9回から第14回までの内容をどの程度理解し、身に付けているかを確認するための筆答考査を実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

理解度確認セッション1 (50%) と理解度確認セッション2 (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

いちばんやさしい IT パスポート 絶対合格の教科書＋出る順問題集

SB クリエイティブ

2024

978-

4815629380

参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 2 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 3 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 4 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 5 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 6 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 7 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 8 回目

予習：理解度確認セッション（筆答考査）の準備として、第 1 回から第 7 回までの内容を振り返り、理解しておく。

復習：講義後に配布される理解度確認セッション（筆答考査）の解答・解説を確認し、理解不足や理解誤りの部分を解消する。

第 9 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 10 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 11 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 12 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 13 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 14 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 15 回目

予習：理解度確認セッション（筆答考査）の準備として、第 8 回から第 14 回までの内容を振り返り、理解しておく。

復習：講義後に配布される理解度確認セッション（筆答考査）の解答・解説を確認し、理解不足や理解誤りの部分を解消する。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：

日本語で行う講義なので、日本語で講義内容及び理解度確認セッションの問題を理解できること

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

戦略情報システム導入／Introduce Strategic Information System

担当教員 [Instructor] : 樋地 正浩／MASAHIRO HIJI

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 火曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ECM602J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、新たに登場してきているクラウド・ソーシング、クラウド・ファンディング、FinTech、といった最新の情報通信技術を活かしたサービスが社会に与える影響を学ぶ。さらにクラウド・コンピューティング、IoT (Internet of Things)、ビッグデータとオープンデータといったデータが持つ価値を高める考え方やそれらのデータから価値を生み出す人工知能技術とは何かを学習する。

The lecture will lecture overview, the features, benefits, and problems of cutting-edge information technology.

The lecture focuses the cloud computing, FinTech, crowdfunding, crowdsourcing, the Internet of Things, artificial intelligence, and big data/open data.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

新しい情報通信技術やデータの価値が社会にどのような影響を与えるのかを正しく理解したうえで導入の可否を判断できる。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション／Orientation

講義で取り上げる最先端の情報通信技術の間の関係性、情報通信技術と社会との間の関係性を講義する。

第2回：クラウド・コンピューティング (1)／Cloud computing (1)

クラウド・コンピューティングの特徴、利点と懸念される点、利用する際の注意点を概説する。

第3回：クラウド・コンピューティング (2)／Cloud computing (2)

クラウド・コンピューティングの懸念事項とクラウド事業者のコスト構造や事業モデルを概説する。

第4回：クラウド・コンピューティングの課題／Problems of cloud computing

実際に発生したデータの消失や流出、盗難の例を元にクラウド・コンピューティングのリスクを概説する。

第5回：クラウド・ファンディングとクラウド・ソーシング／Crowd funding and crowd sourcing

クラウド・ファンディングとクラウド・ソーシングの概要と特徴、懸念事項を講義する。

第6回：クラウド・コンピューティングの戦略的利用／Discussion on the strategic use of cloud computing

与えられた検討事例に対し、ここまで学んできたさまざまな観点から考察を加え、議論する。

第7回：FinTech (Financial Technology) とは何か／FinTech (Financial Technology)

FinTech や電子通貨・暗号通貨の概要とそれが金融業界、社会全体に与える影響を概説する。

第8回：IoT (Internet of Things) とは何か／IoT (Internet of Things)

IoT の概要と社会に与える影響、“もの”がネットワークにつながる価値を実例を交え、概説する。

第9回：ビッグデータとは何か／Big data

ビッグデータの概要とそれが持つ価値、データの持つ価値が企業活動に与える影響を概説する。

第10回：オープンデータとは何か／Opendata

オープンデータの概要と利用方法、省庁や自治体の取り組み状況、オープンデータ化の課題を概説する。

第11回：パーソナル情報と技術・制度／Technologies and systems related to personal information

パーソナル情報を安全に管理、利用するための技術の概要と課題、法制度の状況について講義する。

第12回：データ社会とデータ流通／Data driven society and data exchange

データの持つ価値を社会全体で享受するために不可欠な情報流通の現状と今後の展望を概説する。

第13回：人工知能と何か (1)／Artificial intelligence technologies (1)

人工知能の概要と技術水準、各技術が持つ長所と短所、利用分野について説明する。

第14回：人工知能と何か (2)／Artificial intelligence technologies (2)

最新の人工知能技術である深層学習の特徴、応用例と応用時の課題、将来起こり得る課題について講義する。

第15回：先端情報通信技術の利用／Discussion on the use of advanced information technologies

与えられた検討事例に対し、収集したデータをサービスや事業に利用する方法と懸念事項を議論する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

第6回と第15回で提示した検討事例について調査・検討した発表内容 (80%)、及び議論への参加度 (20%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

あの夏、サバ缶はなぜ売れたのか?	大木真吾	日経 BP	2014	978-4822277925	参考書
データ活用仮説量産ワーク DIVA	フレーム 鈴木良介	日経 BP	2015	978-4822279394	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 2 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 3 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 4 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 5 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 6 回目

予習：与えられた検討事例に対し、ここまで学んできたさまざまな観点から考察を加え、レポートにまとめる。

復習：講義の中で議論した点を振り返り、理解が不足していた点を確認する。

第 7 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 8 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 9 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 10 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 11 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 12 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 13 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 14 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の内容の把握に努めるとともに、疑問点・不明点を整理しておく。

復習：講義中に指定される課題に取り組む。

第 15 回目

予習：与えられた検討事例に対し、ここまで学んできたさまざまな観点から考察を加え、レポートにまとめる。

復習：講義の中で議論した点を振り返り、理解が不足していた点を確認する。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：

授業科目「情報システム設計」もしくは「事例研究（情報システム設計）」のどちらかを履修済みか、同等の知識を持っていること。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

事例研究（情報システム設計）／Case Study (Information System Design)

担当教員 [Instructor]: 樋地 正浩／MASAHIRO HIJI

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ECM603J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

情報システム構築に関わる先進的な取り組みを行なっている事例や情報システムの構築に失敗した事例について各自が調査、検討、議論することにより、情報システム設計の講義で学んだ内容が実際の情報システム構築でどのように使用されているかを知り、情報システム設計の知識と現実の情報システム構築の関係を習得する。

In this course, each student investigates, examines, and discusses the case studies of advanced efforts to construct information systems and the case studies of failed attempts to construct information systems. Through these activities, students will learn how the contents learned in the lecture on information system design are used in the actual development of information systems, and learn the relationship between the knowledge of information system design and the actual development of information systems.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

情報システム設計で得た知識を実際の情報システム構築に応用できる。

情報システムを構築する工程のどこでどのような間違いを犯したことにより失敗したか、そのような失敗を回避するためにどのようにすべきか、を習得し、情報システムの構築を成功に導くことができる。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション／Orientation

講義の進め方と事例の調査・検討に必要な典型的な失敗要因とそれを回避するための注意点を説明する。

第2回: システム開発における失敗事例と対処法／Examples of Failures in Information System Development

実際の情報システム構築の失敗事例から失敗した場合の影響の大きさ、失敗の原因は何かについて議論する。

第3回: 業務課題の抽出に関する事例／Case Study on Identifying Business Issues

業務上の課題の分析、抽出を行ない、情報システムで解決する範囲を決定する必要性について議論する。

第4回: 情報システム発注に関する事例／Case Study on Information System Ordering

問題のある発注形態の事例から発生原因とその理由、対応上の問題を考察し、議論する。

第5回: 納期遅延と品質上の問題に関する事例／Case Study on Delivery Delays and Quality Problems

納期の遅延や品質上の問題が発生した事例からどこにどのような問題があったか、どうすべきかを議論する。

第6回: プロジェクト管理に関する事例／Case Study on Project Management

プロジェクト管理に失敗した事例と成功した事例の各要因を考察し、プロジェクト管理の要点を議論する。

第7回: パッケージソフトウェアの導入事例／Case Study on Implementing Package Software

パッケージソフトウェアの選定方法とカスタマイズを行う場合の注意点について議論する。

第8回: リスクを抱えた情報システム構築の事例 (1)／Case Study of Development with Project Risks (1)

情報システム構築にはどのようなリスクがあり、それをどのように解決すべきかを検討し、議論する。

第9回: リスクを抱えた情報システム構築の事例 (2)／Case Study of Development with Project Risks (2)

リスクを抱えた情報システム構築プロジェクトを推進する際の注意点について議論する。

第10回: クラウド・コンピューティングへの移行の事例／Case Study of Migrating to Cloud Computing

クラウド・コンピューティングへの移行を成功させるためにはどのように進めるべきかを議論する。

第11回: 要件定義に関する事例／Case Study on Requirement Definition

組織文化や要件の確定と契約の関係等の要件定義を上手に進める要因は何かについて議論する。

第12回: 情報システムの構築プロセスに関する事例／Case Study on Information System Development Process

情報システムの構築は、顧客企業とシステム開発企業が協力して進める必要性和重要性について議論する。

第13回: 情報システムの非機能要件に関する事例／Case Study on Non-functional Requirements

情報システムの非機能要件の検討が不十分な場合に発生する問題の大きさを議論する。

第14回: データ統合に起因する問題が発生した事例／Example of Problems Caused by Data Integration

データ統合に起因する問題の発生原因と事前の回避策について検討し、議論する。

第15回: 情報システムの機能設計の実例／Example to Experience Information System Development Process

情報システムとして実現するべき機能の選定をどのように進めるかを議論する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

提示した検討事例について調査・検討した発表内容 (70%), 及び議論への参加度 (30%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

IT 経営推進プロセスガイドラ イン Ver. 3.1	特定非営利活動法人 IT コーディネータ協 会	特定非営利活動法 人 IT コーディネ ータ協会	2018	978- 4990904234	参考書
--------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	------	--------------------	-----

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回目

予習：事前に配布する事例に目を通し，講義と事例の内容の把握に努めるとともに，疑問点・不明点を整理しておく．

復習：事例の内容を読み，担当する事例を決める．

第 2 回～第 3 回目

予習：与えられた検討事例に対し，例示された観点を参考にしてさまざまな観点から考察を加え，レポートにまとめる．

復習：講義の中で議論した点を振り返り，理解が不足していた点を確認する．

第 4 回～第 5 回目

予習：与えられた検討事例に対し，例示された観点を参考にしてさまざまな観点から考察を加え，レポートにまとめる．

復習：講義の中で議論した点を振り返り，理解が不足していた点を確認する．

第 6 回～第 7 回目

予習：与えられた検討事例に対し，ここまで学んできたさまざまな観点から考察を加え，レポートにまとめる．

復習：講義の中で議論した点を振り返り，理解が不足していた点を確認する．

第 8 回～第 9 回目

予習：与えられた検討事例に対し，例示された観点を参考にしてさまざまな観点から考察を加え，レポートにまとめる．

復習：講義の中で議論した点を振り返り，理解が不足していた点を確認する．

第 10 回～第 11 回目

予習：与えられた検討事例に対し，例示された観点を参考にしてさまざまな観点から考察を加え，レポートにまとめる．

復習：講義の中で議論した点を振り返り，理解が不足していた点を確認する．

第 12 回～第 13 回目

予習：与えられた検討事例に対し，例示された観点を参考にしてさまざまな観点から考察を加え，レポートにまとめる．

復習：講義の中で議論した点を振り返り，理解が不足していた点を確認する．

第 14 回～第 15 回目

予習：与えられた検討事例に対し，例示された観点を参考にしてさまざまな観点から考察を加え，レポートにまとめる．

復習：講義の中で議論した点を振り返り，理解が不足していた点を確認する．

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：

授業科目「情報システム設計」を履修済みか，同等の知識を持っていること．

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

情報セキュリティ／Information Security

担当教員 [Instructor] : 寺田 真敏／MASATO TERADA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ECM604J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義は、インターネットを基盤とする情報社会における現在のセキュリティに関する問題や対策について様々な観点から論じ、技術の理解だけでなく法律や教育等を含む総合的な対策の必要性について認識させることを目的とする。

Understanding current security issues and countermeasures in the Internet-based information society at the various viewpoint such as technology, law and education.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

- (1) 情報セキュリティに関する脅威と対策の全体像を理解し説明できる。
- (2) 主要な暗号技術の仕組みを知識として理解し説明できる。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：情報セキュリティの概要(1)／Information Security (1)

情報システムを概説する。

第2回：情報セキュリティの概要(2)／Information Security (2)

情報セキュリティを概説する。

第3回：情報セキュリティの概要(3)／Information Security (3)

身近な情報セキュリティの問題についてレポートとしてまとめると共に、グループ討議する。

第4回：情報セキュリティの基盤技術(1)／Information Security and Basic Technology (1)

共通鍵暗号を概説し、簡単な演習を実施する。

第5回：情報セキュリティの基盤技術(2)／Information Security and Basic Technology (2)

公開鍵暗号を概説し、簡単な演習を実施する。

第6回：情報セキュリティの基盤技術(3)／Information Security and Basic Technology (3)

共通鍵暗号、公開鍵暗号の事例、応用、動向などを調査レポートとしてまとめると共に、グループ討議する。

第7回：情報セキュリティの応用技術(1)／Information Security and Application Technology (1)

認証、バイオメトリック認証を概説し、簡単な演習を実施する。

第8回：情報セキュリティの応用技術(2)／Information Security and Application Technology (2)

デジタル署名を概説し、簡単な演習を実施する。

第9回：情報セキュリティの応用技術(3)／Information Security and Application Technology (3)

二要素認証、デジタル署名の事例、応用、動向などを調査レポートとしてまとめると共に、グループ討議する。

第10回：情報セキュリティと管理(1)／Information Security and Management (1)

情報セキュリティマネジメントを概説し、簡単な演習を実施する。

第11回：情報セキュリティと管理(2)／Information Security and Management (2)

個人情報保護を概説し、簡単な演習を実施する。

第12回：情報セキュリティと管理(3)／Information Security and Management (3)

インシデント事例について、課題、対策などを調査レポートとしてまとめると共に、グループ討議する。

第13回：情報セキュリティと運用(1)／Information Security and Operation (1)

情報セキュリティに関する法制度を概説し、簡単な演習を実施する。

第14回：情報セキュリティと運用(2)／Information Security and Operation (2)

サイバーセキュリティを概説し、簡単な演習を実施する。

第15回：情報セキュリティと運用(3)／Information Security and Operation (3)

講義で取り上げた情報セキュリティ全般を復習する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

理解度確認セッション(100%) : AA(90点以上), A(80点以上 90点未満), B(70点以上 80点未満), C(60点以上 70点未満), D(60点未満 ; 不合格)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回

予習：講義までに配布された資料「情報セキュリティの概要(1)」を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：課題レポートにより、復習をすること。

第2回

予習：講義までに配布された資料「情報セキュリティの概要(2)」を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：課題レポートにより、復習をすること。

第3回

予習：講義までに配布された資料「情報セキュリティの概要(3)」を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：課題レポートにより、復習をすること。

第4回

予習：講義までに配布された資料「情報セキュリティの基盤技術(1)」を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：課題レポートにより、復習をすること。

第5回

予習：講義までに配布された資料「情報セキュリティの基盤技術(2)」を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：課題レポートにより、復習をすること。

第6回

予習：講義までに配布された資料「情報セキュリティの基盤技術(3)」を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：課題レポートにより、復習をすること。

第7回

予習：講義までに配布された資料「情報セキュリティの応用技術(1)」を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：課題レポートにより、復習をすること。

第8回

予習：講義までに配布された資料「情報セキュリティの応用技術(2)」を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：課題レポートにより、復習をすること。

第9回

予習：講義までに配布された資料「情報セキュリティの応用技術(3)」を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：課題レポートにより、復習をすること。

第10回

予習：講義までに配布された資料「情報セキュリティと管理(1)」を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：課題レポートにより、復習をすること。

第11回

予習：講義までに配布された資料「情報セキュリティと管理(2)」を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：課題レポートにより、復習をすること。

第12回

予習：講義までに配布された資料「情報セキュリティと管理(3)」を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：課題レポートにより、復習をすること。

第13回

予習：講義までに配布された資料「情報セキュリティと運用(1)」を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：課題レポートにより、復習をすること。

第14回

予習：講義までに配布された資料「情報セキュリティと運用(2)」を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：課題レポートにより、復習をすること。

第15回

予習：講義までに配布された資料「情報セキュリティと運用(3)」を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：課題レポートにより、復習をすること。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：

情報がコンピュータの中で2進数表現される等の情報処理の基礎知識があり、インターネットで検索や調査を行えること。

テキスト・参考文献：

必要に応じて資料を配布する。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて確認すること(要 東北大 ID)

統計学/Statistics

担当教員 [Instructor] : 千木良 弘朗/HIROAKI CHIGIRA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 月曜日 1 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ECM503J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

経済や経営の分野では、データを用いて経済の状況や経営の実情を的確に捉えることが重要である。そのためにはデータを適切に分析するための手法が必要となり、様々なデータ分析手法が考えられている。この講義では、それらデータ分析手法を理解し使いこなすための基礎となる統計学の理論を学ぶ。

In this course, students will understand basic ideas of statistics and learn about basic methodologies of statistics.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

- ・基礎的な統計学の理論を理解する。
- ・データを適切に分析するために、統計学がどのようなアプローチをとるのか理解する。
- ・基礎的なデータ分析ができるようになる。なお、回帰分析については扱わないので、会計大学院の講義で回帰分析を学びたい学生は「計量経済分析1」を履修すること。

Students will develop basic ideas and methodologies of statistics.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

講義はオンライン（オンデマンド）で行う。本来の授業日（月曜日の1 講時）までに Google classroom（クラスコード jvdweoz）に講義資料と講義動画をアップロードするので、それを視聴すること。

第1回：ガイダンス/guidance

ガイダンスを実施する

第2回：データの整理と特性値.1（度数分布表とヒストグラム）、データの整理と特性値.2（中心の特性値）/Frequency distribution tables and histograms

データの整理と特性値について概説する

第3回：データの整理と特性値.3（ばらつきの特性値）/Characteristic value of variability

ばらつきの特性値について概説する

第4回：データの整理と特性値.4（関係性の特性値）/Characteristic value of relationship

関係性の特性値について概説する

第5回：確率論の基礎.1（確率・確率変数・確率分布）/Probability, Random variables, probability distributions

確率・確率変数・確率分布について概説する

第6回：確率論の基礎.2（確率変数の特性値）/Characteristic values of random variables

確率変数の特性値について概説する

第7回：確率論の基礎.3（多次元の確率・確率変数・確率分布）/Multidimensional probability, random variables, and probability distributions

多次元の確率・確率変数・確率分布について概説する

第8回：確率論の基礎.4（多次元確率変数の特性値）/Characteristic values of multidimensional random variables

多次元確率変数の特性値について概説する

第9回：確率論の基礎.5（代表的な母集団分布（離散））、確率論の基礎.6（代表的な母集団分布（連続））/Representative population distribution

代表的な母集団分布（離散）について概説する

第10回：母集団分布と標本分布.1（母集団、標本抽出、データ）/Population, sampling, data

母集団、標本抽出、データと標本分布について概説する

第11回：母集団分布と標本分布.2（統計量とその分布）/Statistics and their distribution

統計量とその分布と標本分布について概説する

第12回：確率モデルと推定.1（統計量とその分布）/Statistics and their distribution

統計量とその分布について概説する

第13回：確率モデルと推定.2（単純確率モデルの区間推定）/Interval estimation of simple stochastic models

単純確率モデルの区間推定について概説する

第14回：検定.1（単純確率モデルの検定）/Tests for simple probability models

単純確率モデルの検定について概説する

第15回：検定.2（比率の検定）/Ratio Tests

比率の検定について概説する

*進捗状況に応じて、多少の変更をすることもある。

This is a lecture-centered course.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

期末レポート 90%と、毎回の講義動画に関する小レポート 10%で成績評価する（理解度確認セッション、宿題、出席点は無い）。期末レポートと小レポートの詳細は第1回目の講義で説明する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

統計学 (第2版)	田中 勝人	新世社	2011	9784883841547	参考書
穴埋め式 統計数理らくらくワークブック	黒住 英司 (著), 藤 田 岳彦 (監修)	講談社	2003	9784061539952	参考書
基本統計学 (第4版)	宮川 公男	有斐閣	2015	9784641164550	参考書
入門・演習 数理統計	野田 一雄, 宮岡 悦 良	共立出版	1990	9784320014350	参考書

8. 関連URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

この講義は一回ごとに独立した内容を扱うのではなく、基本的に前の講義内容を後の講義で使うことになる。よって、講義内容はよく復習してもらいたい。その復習が、次の講義の予習にもなる。

第1回目

予習: 事前に配信する講義資料に目を通し、講義全体の概要を把握する。

復習: 講義中に説明した講義の詳細な内容や予備知識等について自身との適合性を再確認する。

第2回目

予習: 講義資料の該当箇所に目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第3回目

予習: 講義資料の該当箇所に目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第4回目

予習: 講義資料の該当箇所に目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第5回目

予習: 講義資料の該当箇所に目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第6回目

予習: 講義資料の該当箇所に目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第7回目

予習: 講義資料の該当箇所に目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第8回目

予習: 講義資料の該当箇所に目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第9回目

予習: 講義資料の該当箇所に目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第10回目

予習: 講義資料の該当箇所に目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第11回目

予習: 講義資料の該当箇所に目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第12回目

予習: 講義資料の該当箇所に目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第13回目

予習: 講義資料の該当箇所に目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第14回目

予習: 講義資料の該当箇所に目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第15回目

予習: 講義資料の該当箇所に目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートと期末レポートに取り組む。期末レポート締め切り後に配信される、期末レポートの解答と解説を確認する。

10. その他 [In addition] :

数学の基礎的な知識 (高校レベル～大学の教養レベル) を持っていることが望ましい。講義資料の掲示や連絡事項等は google classroom (クラスコード jvdweoz) で行う。E-mail: h i r o a k i . c h i g i r a . a 5 @ t o h o k u . a c . j p

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

計量経済分析 1 / Econometric Analysis 1

担当教員 [Instructor]: 千木良 弘朗 / HIROAKI CHIGIRA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 火曜日 1 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ECM504J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

計量経済学の主な目的は、経済データを使って現実の経済がどのような状況にあるのかを探ることである。そのためには経済データを適切に分析するための手法が必要となるが、ここではその手法（計量手法）を講義する。一口に計量手法と言っても様々なものが存在するが、この講義は最も基礎的なものを扱う。また、実際の経済・金融・会計データを用いた実証分析の例も紹介する。

Lectures on basic econometric methods.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

- ・基礎的な計量経済学の理論を理解する。
- ・基礎的な計量手法を実際に使えるようになる。

Students will develop basic ideas and methodologies of econometrics.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

講義はオンライン（オンデマンド）で行う。本来の授業日（火曜日の1 講時）までに google classroom（クラスコード fccv4hj）に講義資料と講義動画をアップロードするので、それを視聴すること。

第1回：ガイダンス / Guidance

ガイダンスを実施する

第2回：統計学の復習.1（1変数の確率変数と特性値） / Review of Statistics

統計学の復習を実施する

第3回：統計学の復習.2（多変数の確率変数と特性値） / Review of Statistics

統計学の復習を実施する

第4回：単純回帰モデル.1（モデルの導出） / Simple regression models

単純回帰モデルについて概説する

第5回：単純回帰モデル.2（回帰係数の推定） / Simple regression models

単純回帰モデルについて概説する

第6回：単純回帰モデル.3（回帰係数の検定） / Simple regression models

単純回帰モデルについて概説する

第7回：多重回帰モデル.1（多重回帰モデルのモチベーション） / Multiple Regression Models

多重回帰モデルについて概説する

第8回：多重回帰モデル.2（回帰係数の推定） / Multiple Regression Models

多重回帰モデルについて概説する

第9回：多重回帰モデル.3（回帰係数の検定） / Multiple Regression Models

多重回帰モデルについて概説する

第10回：回帰モデルの関数型と特殊な説明変数（非線形モデルやダミー変数等） / Functional types and special explanatory variables in regression models

回帰モデルの関数型と特殊な説明変数について概説する

第11回：構造変化の検定（Chow 検定等） / Chow test

構造変化の検定について概説する

第12回：回帰モデルの誤差項の不均一分散.1（不均一分散が引き起こす問題の理論的な解説） / Heterogeneous dispersion

回帰モデルの誤差項の不均一分散について概説する

第13回：回帰モデルの誤差項の不均一分散.2（簡単な実験と実証分析） / Heterogeneous dispersion

回帰モデルの誤差項の不均一分散について概説する

第14回：実証分析例.1（株価の変動要因に関する実証分析） / Examples of Empirical Analysis1

実証分析の適用例を検討する

第15回：実証分析例.2（会計制度と株価の関連性に関する実証分析） / Examples of Empirical Analysis2

実証分析の適用例を検討する

*進捗状況に応じて、多少の変更をすることもある。

This is a lecture-centered course.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

期末レポート 90%と、毎回の講義動画に関する小レポート 10%で成績評価する（理解度確認セッション、宿題、出席点はない）。期末レポートと小レポートの詳細は第1回目の講義で説明する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

計量経済学（第2版）

山本 拓

新世社

2022
年

978-

4883843435

参考書

計量経済学（第2版）	浅野 哲, 中村 二郎	有斐閣	2009年	978-4641163362	参考書
計量経済学	末石 直也	日本評論社	2015年	978-4535558168	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

この講義は一回ごとに独立した内容を扱うのではなく、基本的に前の講義内容を後の講義で使うことになる。よって、講義内容はよく復習してもらいたい。その復習が、次の講義の予習にもなる。

第1回目

予習: 事前に配信する講義資料に目を通し、講義全体の概要を把握する。

復習: 講義中に説明した講義の詳細な内容や予備知識等について自身との適合性を再確認する。

第2回目

予習: 講義資料の該当箇所目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第3回目

予習: 講義資料の該当箇所目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第4回目

予習: 講義資料の該当箇所目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第5回目

予習: 講義資料の該当箇所目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第6回目

予習: 講義資料の該当箇所目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第7回目

予習: 講義資料の該当箇所目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第8回目

予習: 講義資料の該当箇所目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第9回目

予習: 講義資料の該当箇所目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第10回目

予習: 講義資料の該当箇所目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第11回目

予習: 講義資料の該当箇所目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第12回目

予習: 講義資料の該当箇所目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第13回目

予習: 講義資料の該当箇所目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第14回目

予習: 講義資料の該当箇所目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートに取り組む。

第15回目

予習: 講義資料の該当箇所目を通し、大まかな内容を把握する。

復習: 小レポートと期末レポートに取り組む。期末レポート締め切り後に配信される、期末レポートの解答と解説を確認する。

10. その他 [In addition] :

統計学の基礎的な知識（会計大学院の講義「統計学」に相当）を持っていることを前提として講義を進める。講義資料の掲示や連絡事項等は google classroom（クラスコード fccv4hj）で行う。

E-mail: h i r o a k i . c h i g i r a . a 5 @ t o h o k u . a c . j p

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

計量経済分析 2 / Econometric Analysis 2

担当教員 [Instructor] : 未定 / TBD

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 火曜日 1 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ECM606J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

10. その他 [In addition] :

講義内容の詳細は、担当教員の決定後に公開する。

金融行政 I / Financial Administration I

担当教員 [Instructor] : 大西 敢二郎 / KANJIRO ONISHI

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 月曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW501J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義は、企業や国などが、株式・公社債等を発行して、必要な資金を証券市場を通じ直接貸し手から調達する直接金融についての理解を深め、当該市場や市場参加者を規制・監督する金融庁等の役割についての知識を習得することを目的とする。特に、欧米に比して利益率が低いとされる家計の金融資産運用の課題や展望について考察していきたい。

The purpose of this lecture is to deepen understanding of direct finance, in which companies and countries issue corporate bonds, stocks, and public bonds to raise necessary funds directly from lenders through securities markets, and to acquire knowledge of the roles of the Financial Services Agency and others that regulate and supervise such markets and market participants.

In particular, we would like to examine the challenges and prospects for households' financial asset management, which is less profitable than in the U.S. and Europe.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

①官公庁、金融機関、公認会計士等での実務において必要される知識・技能の習得

②金融機関や官公庁を効果的に活用するための商品・サービスや関連する制度等に関する知識の習得

③本大学院生が研究活動等を行う上で必要な知識等の習得

(1) Acquisition of knowledge and skills required in the practice of government and municipal offices, financial institutions, certified public accountants, etc.

(2) Acquire knowledge of products, services, and related systems to effectively utilize financial institutions and public offices

(3) Acquisition of knowledge necessary for graduate students to conduct research activities, etc.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション / Orientation

コースの目的および全体のフレームワーク、進め方、成績評価方法、学習方法に関するガイダンスを行う。

第2回：証券市場と国民経済 / The Securities Market and the National Economy

金融商品取引法の基本構造のほか、企業の資金調達方法としての証券市場の役割等について講義する。

第3回：株式市場 / The Stock Market

株式の発行市場や流通市場の現状や課題について講義する。

第4回：公社債市場 / The Bond Market

国債、地方債、民間債の発行市場や流通市場の現状や課題について講義する。

第5回：投資信託、資産運用業 / Investment Trusts and Asset Management Service

投資信託の運用、販売等について概説するほか、投資運用業の役割や課題について講義する。

第6回：デリバティブ市場、証券化商品市場 / The Derivatives Market and The Securitized Products Market

デリバティブ取引や先物取引の役割や活用方法のほか、証券化商品の仕組み等について講義する。

第7回：金融商品取引所等 / Financial Instruments Exchange, etc.

金融商品取引所の機能のほか、新たな市場区分への変更等について講義する。

第8回：金融商品取引業 / Financial Instruments Business

金融商品取引業者の種別や、業務範囲等について概説するほか、投資者保護のための制度について講義する。

第9回：証券税制 / Securities Taxation

証券取引に関する税制について概説するほか、NISA等の優遇税制について講義する。

第10回：証券取引の行為規制 / Prohibited and Regulated Acts of Securities Trading

インサイダー取引等の証券取引における不正行為を禁止する規制について講義する。

第11回：金融商品取引法による企業内容等の開示 / The System of Disclosing Corporate Information under the Financial Instruments and Exchange Act

金融商品取引法による企業内容等の開示の意義や役割等について講義する。

第12回：金融商品取引法による企業支配に関する開示 / Disclosure of Corporate Control by the Financial Instruments and Exchange Act

公開買い付け (TOB) や大量保有報告等の開示の意義や役割について講義する。

第13回：ゲストスピーカーによる講義 (金融機関関係者: 「金融機関の戦略的投資活動 (ベンチャーキャピタル/ベンチャー投資など) (仮))、中止の場合は、講師が金融行政に関連する講義を行う, Guest speaker, "strategic investment activities of financial institution, including venture capital investments, etc.", In case the guest speaker session will be canceled, instructor prepares the lecture related to the financial policies.

第14回：証券取引等監視委員会 / Securities and Exchange Surveillance Commission

証券取引等監視委員会の行政組織の概要や証券モニタリング基本方針について講義する。

第15回：まとめ / Review

これまでの講義をふりかえるとともに、家計の金融資産運用のあり方等について考察する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語/Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

・平常点 (発言・議論参加、課題提出 等) 60%、レポート 40% で評価する。授業を 3 回以上欠席した場合等には評価の対象

外となる。

・AA (90 点以上)、A (80 点以上 90 点未満)、B (70 点以上 80 点未満)、C (60 点以上 70 点未満)、D (60 点未満；不合格)

60%: participation in discussion and the assignment of each section etc, 40%: final report

In case the student will

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

図説日本の証券市場 2024 年版	日本証券経済研究所	日本証券経済研究 所	2024	978- 4890325436	参考資料
基礎から学べる金融商品取引法 [第 4 版]	近藤光男・志谷匡史・ 石田眞得・釜田薫子	弘文堂	2018	978- 433535749	参考資料
金融商品取引法入門<第 8 版>	黒沼悦郎	日本経済新聞出版 社	2021	978- 4532114466	参考資料

8. 関連 URL [URL] :

・上記参考書 No.1 参考書は、日本証券研究所のウェブサイトで全文公開されている。

<https://www.jsri.or.jp/>

・金融庁ウェブサイト

<https://www.fsa.go.jp/>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

- ・授業で紹介されたり、興味をもった分野の論文・書籍を読むこと。
- ・授業で課されたレポートや宿題は必ず提出すること。
- ・google classroom を使用予定であり、資料や課題はそこに掲載する。

第 1 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第 2 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第 3 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第 4 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第 5 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第 6 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第 7 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第 8 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第 9 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第 10 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第 11 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第 12 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第 13 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第 14 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第 15 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：課題レポートについて、これまでの配布資料をもとに見直して確認すること。

Instructor will put each session's material on Google Classroom in advance. Students will be recommended to prepare for each lecture by checking them before the session.

Preparation: Be sure to read the materials for each session and think about the points for discussion during the lecture.

Review: Submit the assignments after each session within the given deadline.

10. その他 [In addition] :

- ・この講義を受講するために必要となる知識：知的好奇心の旺盛な方の参加を歓迎する。
- ・講義は担当教官の講義スライドを使って行われるが、参考書は内容の理解に有用である。
- ・オフィスアワーを設定する予定である。詳細は授業初回に連絡する。
- ・対面授業であり、オンライン・オンデマンド配信は行わない。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

金融行政Ⅱ／Financial Administration II

担当教員 [Instructor] : 未定/TBD

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 月曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW601J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義は、資金を必要とする企業や国などが、銀行などの金融機関からの借り入れで調達する間接金融についての理解を深め、銀行を規制・監督する金融庁等の役割や、最近の金融行政の方向性についての知識を修得することを目的とする。特に、低金利や人口減少等の経営環境の変化に直面する銀行業の課題と今後の展望について考察していきたい。

The purpose of this lecture is to deepen understanding of indirect finance, which is the borrowing of funds from banks and other financial institutions by companies and countries that need funds, and to acquire knowledge of the role of the Financial Services Agency, etc., which regulates and supervises banks, and the recent direction of financial administration. In particular, we would like to examine the challenges and future prospects for the banking industry as it faces low interest rates, a declining population, and other changes in its business environment.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

①官公庁、金融機関、公認会計士等の実務において必要される知識・技能の習得

②金融機関や官公庁を効果的に活用するための商品・サービスや関連する制度等に関する知識の習得

③本大学院生が研究活動等を行う上で必要な知識等の習得

(1) Acquisition of knowledge and skills required in the practice of government and municipal offices, financial institutions, certified public accountants, etc.

(2) Acquire knowledge of products, services, and related systems to effectively utilize financial institutions and public offices

(3) Acquisition of knowledge necessary for graduate students to conduct research activities, etc.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション／Orientation

講義の概要を説明する

第2回：わが国の金融構造と金融機関／Japan's Financial Structure and Financial Institutions

わが国の金融構造と金融機関について概説する

第3回：銀行の基本的機能及び固有業務その1 資金仲介機能・信用創造機能・決済機能と預金業務／Basic functions and specific tasks of the bank part1. Financial intermediation function and credit-creating functions and funds settlement function and deposit business

銀行の基本的機能及び固有業務について概説する

第4回：銀行の基本的機能及び固有業務その2 貸出業務と為替業務／Basic functions and specific tasks of the bank part2 lending business and exchange business

銀行の基本的機能及び固有業務について概説する

第5回：個人向けの銀行取引／Banking for individuals

個人向けの銀行取引について概説する

第6回：金融市場と金融政策／Financial markets and monetary policy

金融市場と金融政策について概説する

第7回：銀行の財務諸表・ディスクロージャー／Bank financial statements and disclosures

銀行の財務諸表・ディスクロージャーについて概説する

第8回：銀行に対する規制 1. 自己資本比率規制等／Regulations on banks 1.Regulatory capital Requirements, etc.

銀行に対する規制について概説する

第9回：銀行に対する規制 2. 大口信用供与規制等／Regulations on banks 2.Lending Limits, etc

銀行に対する規制について概説する

第10回：預金保険機構／Deposit Insurance Corporation of Japan

預金保険機構について概説する

第11回：地域経済活性化支援機構と金融機関による事業再生等支援／Regional Economy Vitalization Corporation of Japan and Business restructuring support by financial institutions

地域経済活性化支援機構と金融機関による事業再生等支援について概説する

第12回：災害発生時の対応／Response in the event of a disaster

災害発生時の対応について概説する

第13回：金融検査・監督の考え方と進め方／Supervisory approaches

金融検査・監督の考え方と進め方について概説する

第14回：ゲストスピーカーによる講演（金融関係者・議題未定（P））、中止の場合は、担当教員が金融行政に関する講義を実施する／Guest speaker(TBA), In case the guest speaker session will be canceled, the instructor will prepare for the lecture related to financial policies.

第15回：まとめ／Review

講義全体のまとめを行う

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語/Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

・平常点（発言・議論参加、課題提出 等）60%、レポート40%で評価する。授業を3回以上欠席した場合等には評価の対象

外となる。

・AA (90 点以上), A (80 点以上 90 点未満), B (70 点以上 80 点未満), C (60 点以上 70 点未満), D (60 点未満 ; 不合格)

60%: contributions for the discussions, and assignment of each section etc, 40%: final report

In case the student wi

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

図説わが国の銀行 10 訂版

全国銀行協会企画部 財経詳報社
金融調査室

2017

978-
4881774434

参考資料

8. 関連 URL [URL] :

金融庁ウェブサイト

<https://www.fsa.go.jp/>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

- ・授業で紹介されたり、興味をもった分野の論文・書籍を読むこと。
- ・授業で課されたレポートや宿題は必ず提出すること。
- ・google classroom を使用予定であり、資料や課題はそこに掲載する。

第 1 回目

予習: 事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習: 講義後の課題に取り組む。

第 2 回目

予習: 事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習: 講義後の課題に取り組む。

第 3 回目

予習: 事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習: 講義後の課題に取り組む。

第 4 回目

予習: 事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習: 講義後の課題に取り組む。

第 5 回目

予習: 事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習: 講義後の課題に取り組む。

第 6 回目

予習: 事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習: 講義後の課題に取り組む。

第 7 回目

予習: 事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習: 講義後の課題に取り組む。

第 8 回目

予習: 事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習: 講義後の課題に取り組む。

第 9 回目

予習: 事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習: 講義後の課題に取り組む。

第 10 回目

予習: 事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習: 講義後の課題に取り組む。

第 11 回目

予習: 事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習: 講義後の課題に取り組む。

第 12 回目

予習: 事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習: 講義後の課題に取り組む。

第 13 回目

予習: 事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習: 講義後の課題に取り組む。

第 14 回目

予習: 事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習: 講義後の課題に取り組む。

第 15 回目

予習: 事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習: 課題レポートについて、これまでの配布資料をもとに見直して確認すること。

Instructor will put each session's material on Google Classroom in advance. Students will be recommended to prepare for each lecture by checking them before the session.

Preparation: Be sure to read the materials for each session and think about the points for discussion during the lecture.

Review: Submit the assignments after each session within the given deadline.

10. その他 [In addition] :

- ・この講義を受講するために必要となる知識：知的好奇心の旺盛な方の参加を歓迎する。
- ・講義は担当教官の講義スライドを使って行われるが、参考書は内容の理解に有用である。
- ・オフィスアワーを設定する予定である。詳細は授業初回に連絡する。
- ・対面授業であり、基本的にオンライン・オンデマンド配信は行わない。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて確認すること(要 東北大 ID)

財務行政／Treasury Administration

担当教員 [Instructor] : 未定／TBD

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 木曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW602J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義は、財務省行政の観察を通じて、公的分野におけるお金の流れ方について考察することを目的とする。特に、少子高齢化に伴い深刻さを増す我が国の財政状況や、財政健全化のための取組み等について理解したい。更に、今後、世界でも稀にみる財政赤字の国がどうなっていくのか、皆さんと一緒に考察したい。

The purpose of this lecture is to examine how money flows in the public sector through observation of the administration conducted by the Ministry of Finance. In particular, we would like to understand the fiscal situation in Japan, which is becoming increasingly serious due to the declining birthrate and aging population, and the efforts being made to restore fiscal soundness. Furthermore, we would like to think about what will happen to a country with a budget deficit, which is quite rare in the world.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

①官公庁、金融機関、公認会計士等の実務において必要される知識・技能の修得

②金融機関や官公庁を効果的に活用するための商品・サービスや関連する制度等に関する知識の修得

③本大学院生が研究活動等を行う上で必要な知識等の修得

(1) Acquisition of knowledge and skills required in the practice of government and municipal offices, financial institutions, certified public accountants, etc.

(2) Acquire knowledge of products, services, and related systems to effectively utilize financial institutions and public agencies.

(3) Acquisition of knowledge necessary for graduate students to conduct research activities, etc.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回: オリエンテーション／Orientation

コースの目的および全体のフレームワーク、進め方、成績評価方法、学習方法に関するガイダンスを行う。

第2回: 財政の役割／Roles and functions of fiscal and tax systems

財政の3機能について概説するほか、税制の3原則や各個別税制について講義する。

第3回: 予算制度と予算の効率化／Budget system and budget efficiency

予算の種類や編成手続き等について概説するほか、予算効率化の取り組みについて講義する。

第4回: 我が国の財政の状況／fiscal situation in Japan

我が国の財政状況や財政健全化の目標等について講義する。

第5回: 社会保障1(総論・医療・介護)／Social security 1 (General remarks, medical and nursing care)

予算の最大費目である社会保障費について概説するとともに、医療・介護の予算について講義する。

第6回: 社会保障2(年金・子ども・子育て)／Social security 2 (Pension and child care)

年金・子ども・子育て・雇用・生活支援の予算や関連する制度的枠組み等について講義する。

第7回: 文教・科学技術・防衛／Education and science and Defense

文教・科学技術・防衛の予算や関連する制度的枠組み等について講義する。

第8回: 地方財政／Local finance

地方交付税交付金等の予算や関連する制度的枠組み等について講義する。

第9回: 社会資本整備・中小企業／Public works, small and medium-sized enterprises

社会資本整備・中小企業の予算や関連する制度的枠組み等について講義する。

第10回: 財政投融资／Fiscal investment and loan program

財政投融资の役割や財政投融资改革の意義等について講義する。

第11回: 国有財産／Government Assets

国有財産の活用状況や、国有財産の管理処分の基本方針の変遷等について講義する。

第12回: 国債管理政策／National debt management policy

国債管理政策の役割や関連する制度的枠組み等について講義する。

第13回: 国際金融・関税／International policy, and customs and tariff

国際金融業務の役割について概説するほか、関税業務の概要や意義について講義する。

第14回: ゲストスピーカーによる講演(未定)、中止の場合は、財務総研の概要等／Guest speaker(TBA), In case the guest speaker session will be canceled, the instructor will prepare for the session on "Policy Research Institute of MOF".

第15回: まとめ／Review

これまでの講義をふりかえるとともに、我が国の財政状況の課題や今後の展望等について考察する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語/Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

・平常点(発言・議論参加、課題提出等)60%、レポート40%で評価する。授業を3回以上欠席した場合等には評価の対象外となる。

・AA(90点以上), A(80点以上90点未満), B(70点以上80点未満), C(60点以上70点未満), D(60点未満; 不合格)

60%: contributions for the discussions and assignment of each section etc, 40%: final report

In case the student will

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

図説日本の財政 令和5年度版 関口 祐司 編著

財経詳報社

2023

978-4-
88177-606-3

参考資料

8. 関連 URL [URL] :

財務省ウェブサイト

<https://www.mof.go.jp/>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

- ・授業で紹介されたり、興味をもった分野の論文・書籍を読むこと。
- ・授業で課されたレポートや宿題は必ず提出すること。
- ・google classroom を使用予定であり、資料や課題はそこに掲載する。

第1回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第2回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第3回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第4回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第5回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第6回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第7回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第8回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第9回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第10回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第11回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第12回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第13回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第14回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。

第15回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：課題レポートについて、これまでの配布資料をもとに見直して確認すること。

Instructor will put each session's material on Google Classroom in advance. Students will be recommended to prepare for each lecture by checking them before the session.

Preparation: Be sure to read the materials for each session and think about the points for discussion during the lecture.

Review: Submit the assignments after each session within the given deadline.

10. その他 [In addition] :

- ・この講義を受講するために必要となる知識：知的好奇心の旺盛な方の参加を歓迎する。
- ・講義は担当教官の講義スライドを使って行われるが、参考書は内容の理解に有用である。
- ・オフィスアワーを設定する予定である。詳細は授業初回に連絡する。

- ・対面授業であり、基本的にオンライン・オンデマンド配信は行わない。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etusad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

企業法 1 / Corporate Law 1

担当教員 [Instructor] : 小作 恵右 / KEISUKE OZAKU

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 月曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW502J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

会社法のうち、「株式」と「機関」についての理解を深めることを目的とする。

The purpose of this lecture is to deepen understanding of the Companies Act (Shares and Organ).

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

会社法のうち、「株式」と「機関」に係る規制の趣旨・詳細を理解できるようになること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回 : オリエンテーション / Orientation

授業の目的、進め方、成績評価方法等の説明後、第2回の株式の意義と種類について講義する

第2回 株式(1)株式の意義と種類 / Significance and types of shares

引き続き株式の意義と種類について講義する

第3回 株式(2)株券、振替株式、株主名簿 / Share certificate, Book-Entry Transfer Share, Shareholder registers

株券、振替株式、株主名簿について講義する

第4・5回 株式(3)株式の譲渡、自己株式の取得 / Transferring shares, Acquisition of own shares

株式の譲渡、自己株式の取得について講義する

第6回 株式(4)子会社による親会社株式の取得、特別支配株主の株式等売渡請求、株式の併合・分割、単元株制度 / Acquisition of shares of the parent company by a subsidiary, Demand for Share Cash-Out of Special Controlling Shareholders, Consolidation of Shares, Share Splits, Share Units

子会社による親会社株式の取得、特別支配株主の株式等売渡請求等について講義する

第7・8回 株主総会 / Shareholders Meeting

株主総会について講義する。

第9～11回 取締役、取締役会、取締役と株式会社との関係、取締役の責任 / Directors, Board of Directors, Relationship between Directors and Stock Companies

取締役、取締役会、取締役と会社との関係、取締役の責任について講義する

第12回 監査役、監査役会 / Company with a Board of Company Auditors, Board of Company Auditors

監査役、監査役会について講義する

第13回 監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社 / Company with an Audit and Supervisory Committee, Company with a Nominating Committee, etc.

監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社について講義する

第14回 会計参与、会計監査人、検査役 / Accounting Advisor(s), Financial Auditor(s), Inspector

会計参与、会計監査人、検査役について講義する

第15回 理解度確認セッション / Examination

第2～14回までの内容について、Google Classroom を通じて理解度確認セッションを実施する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

・平常点(課題提出、授業での議論参加等) 30%、理解度確認セッション 70%で評価する。なお、課題の未提出(期限後提出を含む)が3回以上ある場合又は授業の欠席が3回以上ある場合には、理解度確認セッションは受講できないこととし、成績評価は行わない。

・AA (90 点以上), A (80 点以上 90 点未満), B (70 点以上 80 点未満), C (60 点以上 70 点未満), D (60 点未満; 不合格)
30%: Assignments of each lecture and class participation, 70%:

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回目

・予習 : 事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、講義計画の概要を把握するとともに、不明な点を明らかにする。

第2回目

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第3回目

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。その期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第4回目

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第5回目

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第6回目

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第7回目

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第8回目

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第9回目

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第10回目

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第 11 回目

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第 12 回目

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第 13 回目

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第 14 回目

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第 15 回目

- ・復習：講義後に配信する解答・解説を確認すること。

Student should submit assignments (review questions, short reports, etc.) of each lecture by each due date the instructor makes.

10. その他 [In addition] :

- ・担当教員が各回の講義用資料を作成して、Google Classroom に PDF ファイルで掲載する形で 受講生に配布する。各回講義は当該資料を用いて行うため、資料の閲覧に PC・タブレット等 のデバイスが必要な場合は持ち込むこと。質問等は Google Classroom、メール等を通じて随時受け付ける。

- ・各回の講義は基本的に対面授業で行うが、学生と相談して、リアルタイム授業・オンデマンドを取り入れることを検討する。なお、短答式試験の直前の講義はオンデマンド（録画を Google Classroom にアップ）で行う。

The Instructor will upload each lecture material on Google Classroom. Students will be allowed to bring their own PCs/Tablets in the classroom to check them or take notes.

Lectures are given face-to-face in the lecture hall.

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

企業法 2 / Corporate Law 2

担当教員 [Instructor] : 小作 恵右 / KEISUKE OZAKU

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 水曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW603J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

会社法のうち、「設立」、「資金調達」、「計算」、「組織再編」、「定款の変更」、「解散と清算」及び「持分会社」についての理解を深めることを目的とする。

The purpose of this lecture is to deepen understanding of the Companies Act (Incorporation, Financing, Accounting, Reorganization, Amendment of articles of incorporation, Dissolution and Liquidation, Membership Company, etc.).

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

会社法のうち、「設立」、「資金調達」、「計算」、「組織再編」、「定款の変更」、「解散と清算」及び「持分会社」に係る規制の趣旨・詳細を理解できるようになること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回 : オリエンテーション / Orientation

授業の目的及び全体像、進め方、成績評価方法の説明後、第2回の株式会社の設立について講義する

第2回 : 株式会社の設立 / Incorporation of a Stock Company

引き続き株式会社の設立について講義する

第3～6回 株式会社の資金調達 / Financing of a Stock Company

株式会社の資金調達について講義する

第7・8回 株式会社の計算 / Accounting of Stock Company

株式会社の計算について講義する

第9回 株式会社の定款変更等 / Amendment of articles of incorporation

定款変更について講義する

第10～11回 組織再編 / Reorganization

合併、会社分割、事業譲渡・譲受け、株式交換、株式移転、株式交付について講義する

第14回 解散、清算、持株会社 / Dissolution and Liquidation, Membership Company

解散、清算、持分会社について講義する

第15回 理解度確認セッション / Examination

第2～14回までの内容について、Google Classroom を通じて理解度確認セッションを実施する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

・平常点（課題提出、授業での議論参加等）30%、理解度確認セッション 70% で評価する。なお、課題の未提出（期限後提出を含む）が3回以上ある場合又は授業の欠席が3回以上ある場合には、理解度確認セッションは受講できないこととし、成績評価は行わない。

・AA（90点以上）、A（80点以上90点未満）、B（70点以上80点未満）、C（60点以上70点未満）、D（60点未満；不合格）
30%: Assignments of each lecture and class participation, 70%:

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回目

・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、講義計画の概要を把握するとともに、不明な点を明らかにする。

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第2回目

・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すこ

とが望ましい。

第3回目

- ・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。
- ・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。その期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第4回目

- ・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。
- ・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第5回目

- ・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。
- ・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第6回目

- ・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。
- ・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第7回目

- ・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。
- ・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第8回目

- ・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。
- ・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第9回目

- ・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。
- ・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第10回目

- ・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。
- ・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第11回目

- ・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。
- ・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第12回目

- ・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。
- ・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第13回目

- ・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。
- ・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第14回目

- ・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。
- ・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題、小レポート等）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料と主要な条文を読み返すことが望ましい。

第15回目

- ・予習：理解度確認セッションに対する準備をする。
- ・復習：講義後に配信する解答・解説を確認すること。

The instructor will put each lecture material on Google Classroom in advance. Students will be recommended to prepare for each lecture by checking them before the lecture.

Student should submit assignments (review questions, short reports, etc.) of each lecture by each due date the instructor makes.

10. その他 [In addition] :

- ・担当教員が各回の講義用資料を作成して、Google Classroom に PDF ファイルで掲載する形で 受講生に配布する。各回講義は当該資料を用いて行うため、資料の閲覧に PC・タブレット等 のデバイスが必要な場合は持ち込むこと。質問等は Google Classroom、メール等を通じて随時受け付ける。
- ・各回の講義は基本的に対面授業で行うが、学生と相談して、リアルタイム授業・オンデマンドを取り入れることを検討する。なお、短答式試験の直前の講義はオンデマンド（録画を Google Classroom にアップ）で行う。

The Instructor will upload each lecture material on Google Classroom. Students will be allowed to bring their own PCs/Tablets in the classroom to check them or take notes.
Lectures are given face-to-face in the lecture hall.

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

法人税法1 / Corporate Tax Law 1

担当教員 [Instructor]: 原 正子 / MASAKO HARA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 木曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-LAW503J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

法人税法は、企業会計での利益計算を前提としつつ、適正・公平な課税という目的の下に法人の所得計算ルールとして様々な規制や調整を定めており、会計実務に大きく影響する。

本講義は、法人税法の基礎を理解することを目的として、法人税法の基本構造及び所得計算上の重要項目の趣旨・内容、その計算過程の要点を講義する。

Corporation Tax Law presupposes profit calculation in corporate accounting and sets various rules and adjustments as corporate income calculation rules for the purpose of proper and fair taxation, which greatly affects accounting practice.

This course is designed to learn about the basics of Corporation Tax Law, and I will lecture on the framework of the Law and on the meaning and contents of important items in income calculation and on the key points of the calculation process.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

法人税法の基本構造及び所得計算上の重要項目の趣旨・内容、その計算過程を理解し説明できることを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション / Orientation

講義の進め方、法人税法を学ぶ際の基礎的な知識（法人税の位置づけ、法人税関係法令の規定の構成等）について確認する

第2回: 法人税の基本構造、課税所得の計算原理 (1) / Basic structure of corporate tax, etc

法人税法の性質、納税義務者及び課税所得の範囲、法人税の税率と税額計算について概説する

第3回: 課税所得の計算原理 (2)、益金の額の計算 (1) / Calculation principle of taxable income, etc

資本等取引、確定決算主義、税務調整と損金経理、法人税の申告等について概説する

第4回: 益金の額の計算 (2) (収益の認識基準、無償譲渡等) / Calculation of the amount of gross revenue (2)

資産の販売等の収益の額、資産の無償譲渡等による収益の額、資産の無償譲受け等による収益の額等について概説する

第5回: 益金の額の計算 (3) (受取配当等の益金不算入等) / Calculation of the amount of gross revenue (3)

受取配当等について概説する

第6回: 損金の額の計算 (1) (費用の計上時期、同族会社等) / Calculation of the amount of gross expense (1)

損金の額の計上時期、棚卸資産の売上原価の計算、同族会社について概説する

第7回: 損金の額の計算 (2) (役員等の給与、資産の評価損) / Calculation of the amount of gross expense (2)

役員等の給与、資産の評価損について概説する

第8回: 損金の額の計算 (3) (寄附金、交際費等) / Calculation of the amount of gross expense (3)

寄附金、交際費等、使途不明金について概説する

第9回: 損金の額の計算 (4) (減価償却資産の償却費の計算) / Calculation of the amount of gross expense (4)

減価償却資産の償却費の計算について概説する

第10回: 損金の額の計算 (5) (繰延資産の償却費の計算等) / Calculation of the amount of gross expense (5)

繰延資産の償却費の計算、圧縮記帳、税額控除について概説する

第11回: 損金の額の計算 (6) (租税公課等) / Calculation of the amount of gross expense (6)

租税公課等について概説する

第12回: 損金の額の計算 (7) (引当金、貸倒損失、繰越欠損金等) / Calculation of the amount of gross expense (7)

引当金、貸倒引当金、貸倒損失、繰越欠損金、青色欠損金の繰り戻し還付について概説する

第13回: グループ法人税制、グループ通算制度 / Group corporation tax system, Aggregation group corporation

グループ法人税制の概要、グループ通算制度の概要について概説する

第14回: 組織再編税制、法人税申告・納付、租税手続法 / Reorganization tax system, etc

組織再編税制、法人税申告、納付と還付、青色申告の要件と特典等について概説する

第15回: 理解度確認セッション / Examination

計算処理問題を中心とする筆答考査を実施する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

理解度確認セッション (50%)、小テスト又は宿題 (30%) 及び講義への貢献等の平常点 (20%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

法人税法 理論と計算 (二十訂版)	成松洋一	税務経理協会	2024	978-4-419-06996-4	参考書
法人税セミナー 六訂版	成松洋一	税務経理協会	2021	978-4-419-06776-2	参考書
スタンダード法人税法 (第3版)	渡辺徹也	弘文堂	2023	978-4-335-35925-5	参考書
税務大学校講本 法人税法 (基礎編)	税務大学校		2024		参考書

租税法（第24版）	金子宏	弘文堂	2021	978-4-335-31555-8	参考書
租税法入門（第3版）	増井良啓	有斐閣	2023	978-4-641-22860-3	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回目

予習：GoogleClassroom に事前掲示する講義資料や参考資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。

復習：講義資料等の再読をするとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第2回目

予習：GoogleClassroom に事前掲示する講義資料や参考資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。

復習：講義資料等の再読、設例等での計算処理の再確認をするとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第3回目

予習：GoogleClassroom に事前掲示する講義資料や参考資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。

復習：講義資料等の再読、設例等での計算処理の再確認をするとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第4回目

予習：GoogleClassroom に事前掲示する講義資料や参考資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。

復習：講義資料等の再読、設例等での計算処理の再確認をするとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第5回目

予習：GoogleClassroom に事前掲示する講義資料や参考資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。

復習：講義資料等の再読、設例等での計算処理の再確認をするとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第6回目

予習：GoogleClassroom に事前掲示する講義資料や参考資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。

復習：講義資料等の再読、設例等での計算処理の再確認をするとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第7回目

予習：GoogleClassroom に事前掲示する講義資料や参考資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。

復習：講義資料等の再読、設例等での計算処理の再確認をするとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第8回目

予習：GoogleClassroom に事前掲示する講義資料や参考資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。

復習：講義資料等の再読、設例等での計算処理の再確認をするとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第9回目

予習：GoogleClassroom に事前掲示する講義資料や参考資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。

復習：講義資料等の再読、設例等での計算処理の再確認をするとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第10回目

予習：GoogleClassroom に事前掲示する講義資料や参考資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。

復習：講義資料等の再読、設例等での計算処理の再確認をするとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第11回目

予習：GoogleClassroom に事前掲示する講義資料や参考資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。

復習：講義資料等の再読、設例等での計算処理の再確認をするとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第12回目

予習：GoogleClassroom に事前掲示する講義資料や参考資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。

復習：講義資料等の再読、設例等での計算処理の再確認をするとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第13回目

予習：GoogleClassroom に事前掲示する講義資料や参考資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。

復習：講義資料等の再読、設例等での計算処理の再確認をするとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第14回目

予習：GoogleClassroom に事前掲示する講義資料や参考資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。

復習：講義資料等の再読、設例等での計算処理の再確認をするとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第15回目

予習：理解度確認セッション（筆答考査）に向け準備すること。

復習：講義後に GoogleClassroom に掲示する理解度確認セッション（筆答考査）の解答・解説を確認すること。

10. その他 [In addition] :

- この講義を受講するために必要となる知識：
学部レベルの簿記、財務会計の知識を有していることが必要。
主要な裁判例も取り扱うことから、裁判例を読解できる力を有していることも必要。
- 学習内容の定着を図るため、随時、宿題を課すとともに小テストも実施する。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

法人税法2 / Corporate Tax Law 2

担当教員 [Instructor] : 未定 / TBD

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 火曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW604J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

経済社会のグローバル化の進展に伴い、国際取引に対する課税の在り方が注目を集め、ビジネス界においても関係諸制度や課税当局の対応への関心が一層高まっている。本講義は、国際課税制度の基本的な考え方と構造を理解することを目的とし、法人税法などの関係国内法及び租税条約等の国際租税法の基礎的な事項を主な対象とする。

With the globalization of the economy and society, taxation on international transactions is attracting attention, and the business community is increasingly interested in related systems and tax authorities. The purpose of this course is to understand the basic concept and structure of the international taxation system, and will mainly focus on Corporation Tax Laws and other related domestic laws and international taxation rules such as tax treaties.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

国際課税制度の基本的な考え方と構造を理解しポイントを説明できる。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション / Orientation

講義の進め方、次回以降の予定などについて説明する。

第2回：国際課税の基本構造、基礎概念 / Basic concept and structure of the international taxation system

1. 国際課税制度の基本、2. 課税権確保のための制度、3. インバウンド取引と課税ほか

第3回：インバウンド取引の課税 (1) / Taxation on inbound transaction (1)

1. 国内源泉事業所得課税の原則、2. 恒久的施設 (PE)、3. 非居住者・外国法人に対する課税方法ほか

第4回：インバウンド取引の課税 (2) / Taxation on inbound transaction (2)

1. 国内法に規定するソース・ルールの概要、2. PEに帰属しない国内源泉所得ほか

第5回：アウトバウンド取引の課税 (1) / Taxation on outbound transaction (1)

1. 国際的三重課税排除、2. 外国税額控除制度の概要ほか

第6回：アウトバウンド取引の課税 (2) / Taxation on outbound transaction (2)

1. 外国子会社配当益金不算入制度の概要ほか

第7回：租税条約 (1) / Tax treaties (1)

1. 租税条約の目的、2. 我が国の租税条約の現状、3. 租税条約と国内租税法、4. 日米租税条約 (1)

第8回：租税条約 (2)、移転価格税制 (1) / Tax treaties (2)、Transfer pricing taxation (1)

1. 日米租税条約 (2)、2. 条約漁りとその対応、3. 相互協議、4. 仲裁制度、5. 情報交換

(移転価格税制 (1)) 1. 移転価格税制導入の背景、2. 移転価格税制の制度の仕組み

第9回：移転価格税制 (2) / Transfer pricing taxation (2)

1. 国外関連者の範囲、2. 独立企業間価格の算定方法 (基本三法)、3. 基本三法以外の算定方法

第10回：移転価格税制 (3) / Transfer pricing taxation (3)

1. 差異の調整、2. 無形資産の移転に伴う問題、3. 価格調整措置、4. 文書化制度ほか

第11回：外国子会社合算税制 (1) / Foreign subsidiary combined taxation (1)

1. タックス・ヘイブンを利用した国際的租税回避行為、2. 外国子会社合算税制の仕組みほか

第12回：外国子会社合算税制 (2) / Foreign subsidiary combined taxation (2)

1. 特定外国関係会社、2. 部分合算対象外国関係会社、3. コーポレート・インバーション対策税制

第13回：過少資本税制、過大支払利子税制等 / Undercapital tax system, Excessive interest tax system

1. 過少資本税制等の導入の背景及び制度の概要、2. 過大支払利子税制導入の意義と制度の概要ほか

第14回：OECDのBEPSプロジェクト等 (1) / Base Erosion and Profit Shifting Project at the OECD, etc. (1)

1. BEPSプロジェクトの経緯、2. 注目を集めた事例・スキーム、3. BEPSプロジェクト最終報告書の概要①

第15回：OECDのBEPSプロジェクト等 (2) / Base Erosion and Profit Shifting Project at the OECD, etc. (2)

1. BEPSプロジェクト最終報告書の概要②、2. 最新の税制改正

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

宿題 (30%)、判例レポート (30%)、講義への貢献度等平常点 (40%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

国際租税法 (第4版)	増井良啓・宮崎裕子	東京大学出版会	2019	978-4-13-032393-2	参考書
国際課税の基礎知識 (11訂版)	川田剛	税務経理協会	2021	978-4-419-06789-2	参考書
租税判例百選 (第7版)	中里実ほか	有斐閣	2021	978-4-641-11553-8	参考書
令和6年度版 基礎から身につく国際課税	川田剛	大蔵財務協会	2024	978-4-7547-3213-4	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回目

- 予習 : GoogleClassroom に事前掲示する講義資料、判例資料等に目を通すこと。
- 復習 : 講義資料等を読み直すとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第 2 回目

- 予習 : GoogleClassroom に事前掲示する講義資料、判例資料等に目を通すこと。
- 復習 : 講義資料等を読み直すとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第 3 回目

- 予習 : GoogleClassroom に事前掲示する講義資料、判例資料等に目を通すこと。
- 復習 : 講義資料等を読み直すとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第 4 回目

- 予習 : GoogleClassroom に事前掲示する講義資料、判例資料等に目を通すこと。
- 復習 : 講義資料等を読み直すとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第 5 回目

- 予習 : GoogleClassroom に事前掲示する講義資料、判例資料等に目を通すこと。
- 復習 : 講義資料等を読み直すとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第 6 回目

- 予習 : GoogleClassroom に事前掲示する講義資料、判例資料等に目を通すこと。
- 復習 : 講義資料等を読み直すとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第 7 回目

- 予習 : GoogleClassroom に事前掲示する講義資料、判例資料等に目を通すこと。
- 復習 : 講義資料等を読み直すとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第 8 回目

- 予習 : GoogleClassroom に事前掲示する講義資料、判例資料等に目を通すこと。
- 復習 : 講義資料等を読み直すとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第 9 回目

- 予習 : GoogleClassroom に事前掲示する講義資料、判例資料等に目を通すこと。
- 復習 : 講義資料等を読み直すとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第 10 回目

- 予習 : GoogleClassroom に事前掲示する講義資料、判例資料等に目を通すこと。
- 復習 : 講義資料等を読み直すとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第 11 回目

- 予習 : GoogleClassroom に事前掲示する講義資料、判例資料等に目を通すこと。
- 復習 : 講義資料等を読み直すとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第 12 回目

- 予習 : GoogleClassroom に事前掲示する講義資料、判例資料等に目を通すこと。
- 復習 : 講義資料等を読み直すとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第 13 回目

- 予習 : GoogleClassroom に事前掲示する講義資料、判例資料等に目を通すこと。
- 復習 : 講義資料等を読み直すとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第 14 回目

- 予習 : GoogleClassroom に事前掲示する講義資料、判例資料等に目を通すこと。
- 復習 : 講義資料等を読み直すとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第 15 回目

- 予習 : GoogleClassroom に事前掲示する講義資料、判例資料等に目を通すこと。
- 復習 : 講義資料等を読み直すとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

10. その他 [In addition] :

- ・この講義を受講するために必要となる知識 : 税法一般、法人税法、所得税法に関する基礎的な知識があることが望ましい。(なくとも受講は可。)
- ・講義資料を原則各回ごとに GoogleClassroom に事前掲示する。
- ・国際租税法の基本構造の理解を最優先とし、主に所得課税(法人税及び所得税)の国際的側面について主要な制度の概要及び法令等の適用関係について講義を行う。また、国際課税問題についての理解をより深めるために、近年話題となった具体事例等についても適宜紹介する。
- ・学習内容の定着を図るため、随時、宿題及びレポートを課す。レポートについては、GoogleClassroom に事前掲示する判例資料を基に、講義の進捗に応じて主要制度に関わる判例について意見をまとめ、提出するとともに、講義内で発表する(一人当たり 2 判例。詳細は講義の中で説明する。)
- ・判例の割り振りを第 1 回講義において決定するため、受講を考える者は、必ず出席すること。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>)内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて確認すること(要 東北大 ID)

消費税法／Consumption Tax 1

担当教員 [Instructor] : 佐藤 秀春／HIDEHARU SATO

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 水曜日 3 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW605J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義は、消費税法の基本的な理論や体系を理解し、実務上の重要事項の習得や実際の消費税申告書の作成方法を習得することを目的とする。また、3 回目以降の講義では、演習問題を事前に課し、演習問題の解答及び留意点を説明することにより、講義内容の理解が深まるように進める。

In this course, students are expected to understand basic theories and systems of Consumption Tax Act and acquire some practically important items and how to create an actual declaration of consumption tax. Besides, from the third time onwards, students will get some exercise quizzes in advance, and receive an explanation of answers and significant notes about the exercise quizzes during class in order to get deeper understanding of the contents of the lectures.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

公認会計士試験論文式（租税法）の消費税に関する問題と同程度の知識習得や税額計算等ができるようになることを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション／Orientation

本科目の目的、進め方、成績評価方法、学習方法について概説する。

第2回：総説、間接税の概要、消費税創設の背景／Overview of indirect tax, Background of the establishment of the consumption tax

租税の分類・特徴、消費税創設の背景や課税の対象などについて講義する。

第3回：課税の対象／Taxable, etc.

消費税の課税の対象について、課税取引・不課税取引・非課税取引・免税取引の概要を講義する。

第4回：非課税と免税／Tax exemption and tax exemption, etc.

非課税・免税取引・不課税取引について、事例も含めて講義する。

第5回：納税義務者と納税義務の成立／Taxpayer, Establishment of tax obligation, etc.

納税義務者、小規模事業者の納税義務の免除、納税義務の成立時期について講義する。

第6回：課税標準と税率／Tax bases and rates, etc.

消費税額の申告に係る課税標準と適用税率について講義する。

第7回：課税標準額等の計算(1)／Calculation of standard tax amount, etc.

税込経理方式と税抜経理方式、総額表示などについて講義する。

第8回：課税標準額等の計算(2)／Calculation of standard tax amount, etc.

課税標準額の具体的な計算方法などについて講義する。

第9回：仕入税額控除の概要／Overview of purchase tax credit, etc.

仕入税額控除の仕組みや適用要件等について講義する。

第10回：仕入税額控除の計算方法／Calculation of input tax credit, etc.

課税売上割合、個別対応方式・一括比例配分方式、インボイス制度について講義する。

第11回：簡易課税制度等／Simple tax system, etc.

簡易課税制度の概要・適用要件、事業区分とみなし仕入率について講義する。

第12回：課税期間、申告・納付、納税地／Tax period, Filing and tax payment, Tax payment place

課税期間（課税期間の特例を含む。）や確定申告（納付）の仕組みについて講義する。

第13回：消費税及び地方消費税の申告書作成／Creating a consumption tax return

申告書の具体的な作成方法や作成に当たっての留意事項について講義する。

第14回：消費税法講義のまとめ／go over what we covered

これまで学んできた消費税の課否判定、課税標準、仕入税額控除等について総合的に復習する。

第15回：理解度確認セッション／Examination

筆答での考査を実施することで講義全体のまとめをする。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]**5. 使用言語 [Language Used in Course] :**

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

演習問題（50%）および理解度確認セッション（50%）で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

税務大学校構本 国税庁 HP

国税庁リーフレット 国税庁 HP

消費税法（抜粋） 国税庁 HP

消費税法基本通達（抜粋） 国税庁 HP

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回

予習：講義までにテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：演習問題の回答作成を通じて理解を深める。

第 2 回

予習：講義までにテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：演習問題の回答作成を通じて理解を深める。

第 3 回

予習：講義までにテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：演習問題の回答作成を通じて理解を深める。

第 4 回

予習：講義までにテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：演習問題の回答作成を通じて理解を深める。

第 5 回

予習：講義までにテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：演習問題の回答作成を通じて理解を深める。

第 6 回

予習：講義までにテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：演習問題の回答作成を通じて理解を深める。

第 7 回

予習：講義までにテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：演習問題の回答作成を通じて理解を深める。

第 8 回

予習：講義までにテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：演習問題の回答作成を通じて理解を深める。

第 9 回

予習：講義までにテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：演習問題の回答作成を通じて理解を深める。

第 10 回

予習：講義までにテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：演習問題の回答作成を通じて理解を深める。

第 11 回

予習：講義までにテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：演習問題の回答作成を通じて理解を深める。

第 12 回

予習：講義までにテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：演習問題の回答作成を通じて理解を深める。

第 13 回

予習：講義までにテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：演習問題の回答作成を通じて理解を深める。

第 14 回

予習：講義までにテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：演習問題の回答作成を通じて理解を深める。

第 15 回

予習：講義までにテキストの指定された箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。

復習：演習問題の回答作成を通じて理解を深める。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：なし

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

所得税法／Individual Income Tax

担当教員 [Instructor] : 笹川 正彦／MASAHIKO SASAKAWA

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 木曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW606J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

所得税法の基本的な事項を理解し、所得税の計算方法を習得することを目的とする。

The purpose of this course is to understand the basic matters of the Income Tax Act and to learn how to calculate income tax.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

所得税法の基本的な事項を理解し、公認会計士試験論文式（租税法）の問題と同程度の基本的な所得金額などの計算ができるようになることを目標とする。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション／Orientation

講義の目的・内容、成績評価方法、学習方法、所得税の概要などについて説明する。

第2回：所得税法総説(1)／Income tax law general rules(1)

所得税法総説、所得税の意義と特色、所得の概念、非課税所得、納税義務者、課税所得などを説明する。

第3回：所得税法総説(2)／Income tax law general rules(2)

所得税法総説、所得税の意義と特色、所得の概念、非課税所得、納税義務者、課税所得などを説明する。

第4回：所得の種類(1)／Type of income(1)

所得の種類 所得の種類と意義、各種所得の内容などを説明する。

第5回：所得の種類(2)／Type of income(2)

所得の種類 所得の種類と意義、各種所得の内容などを説明する。

第6回：課税標準の計算(1)／Calculation of tax base(1)

各種所得の金額の計算方法を説明する。

第7回：課税標準の計算(2)／Calculation of tax base(2)

所得税の課税標準、総所得金額の計算方法、所得税の課税の特例などを説明する。

第8回：課税標準の計算(3)／Calculation of tax base(3)

収入金額などを説明する

第9回：課税標準の計算(4)／Calculation of tax base(4)

必要経費、収入金額・必要経費に関する特例、損益通算、損失の繰越控除などを説明する。

第10回：課税標準の計算(5)／Calculation of tax base(5)

必要経費、収入金額・必要経費に関する特例、損益通算、損失の繰越控除などを説明する。

第11回：課税標準の計算(6)／Calculation of tax base(6)

必要経費、収入金額・必要経費に関する特例、損益通算、損失の繰越控除などを説明する。

第12回：所得控除(1)／Income deduction(1)

所得控除の種類、所得控除の内容、控除金額、控除の順序などを説明する。

第13回：所得控除(2)／Income deduction(2)

所得控除の種類、所得控除の内容、控除金額、控除の順序などを説明する。

第14回：税額の計算／Calculation of tax amount

税額の計算方法、源泉徴収制度、所得税の申告・納付・還付の手続、青色申告制度などを説明する。

第15回：理解度確認セッション／Examination

これまで学習してきた基礎的事項の理解を確認するために筆答考査を実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

随時実施するレポート（50%）及び理解度確認セッション（50%）で評価する。

レポートは10回を予定しており指示した期限内に提出すること。期限内に提出されたレポートのみを成績評価の対象とする。また、期限内の提出が60%以下となった場合にはレポートの成績評価点はないものとする。

AA（90点以上）、A（80点以上90点未満）、B（70点以上80点未満）、C（60点以上70点未満）、D（60点未満；不合格）

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

税務大学校講本 所得税法

税務大学校HP掲載

令和
7年
度

教科書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回

予習：事前に配信する参考資料に目を通し、講義の概要を把握すること。

復習：講義で説明した所得税の概要を理解すること。

第2回

予習：講義予定部分の教科書、条文及び参考資料を読むこと。

復習：レポートの解答作成を行うとともに教科書などを基に講義内容の整理及び確認し理解を深めること。

第3回

予習：講義予定部分の教科書、条文及び参考資料を読むこと。

復習：教科書などを基に講義内容を整理及び確認し理解を深めること。

第4回

予習：講義予定部分の教科書、条文及び参考資料を読むこと。

復習：教科書などを基に講義内容を整理及び確認し理解を深めること。

第5回

予習：講義予定部分の教科書、条文及び参考資料を読むこと。

復習：レポートの解答作成を行うとともに教科書などを基に講義内容の整理及び確認し理解を深めること。

第6回

予習：講義予定部分の教科書、条文及び参考資料を読むこと。

復習：レポートの解答作成を行うとともに教科書などを基に講義内容の整理及び確認し理解を深めること。

第7回

予習：講義予定部分の教科書、条文及び参考資料を読むこと。

復習：レポートの解答作成を行うとともに教科書などを基に講義内容の整理及び確認し理解を深めること。

第8回

予習：講義予定部分の教科書、条文及び参考資料を読むこと。

復習：レポートの解答作成を行うとともに教科書などを基に講義内容の整理及び確認し理解を深めること。

第9回

予習：講義予定部分の教科書、条文及び参考資料を読むこと。

復習：レポートの解答作成を行うとともに教科書などを基に講義内容の整理及び確認し理解を深めること。

第10回

予習：講義予定部分の教科書、条文及び参考資料を読むこと。

復習：レポートの解答作成を行うとともに教科書などを基に講義内容の整理及び確認し理解を深めること。

第11回

予習：講義予定部分の教科書、条文及び参考資料を読むこと。

復習：レポートの解答作成を行うとともに教科書などを基に講義内容の整理及び確認し理解を深めること。

第12回

予習：講義予定部分の教科書、条文及び参考資料を読むこと。

復習：教科書などを基に講義内容を整理及び確認し理解を深めること。

第13回

予習：講義予定部分の教科書、条文及び参考資料を読むこと。

復習：レポートの解答作成を行うとともに教科書などを基に講義内容の整理及び確認し理解を深めること。

第14回

予習：講義予定部分の教科書、条文及び参考資料を読むこと。

復習：レポートの解答作成を行うとともに教科書などを基に講義内容の整理及び確認し理解を深めること。

第15回

予習：理解度確認セッション（筆答考査）への準備をすること。

復習：理解度確認セッション（筆答考査）の解答等を確認及び整理すること。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：

租税に関する基本的な知識並びに簿記及び財務諸表論の基本的な知識

その他：

教科書は税務大学校 HP 掲載の税務大学校講本「所得税法」を使用予定なので各自がダウンロードすること。

<https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/index.htm>

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて
確認すること（要 東北大 ID）

企業開示制度と実務／Corporate Disclosure System

担当教員 [Instructor] : 小作 恵右／KEISUKE OZAKU

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 木曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW607J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

有価証券届出書等の発行開示書類及び有価証券報告書等の継続開示書類に係る規制等についての理解を深めることを目的とする。

The purpose of this lecture is to deepen understanding of Regulations on the issuance of securities, Continuous disclosure system, etc.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

金融商品取引法に基づく企業内容等の開示制度の趣旨を理解し、制度の詳細や開示実務等についても把握できるようになること。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション、企業開示制度の概要／Orientation, regulation on the disclosure of Corporate Affairs

授業の目的及び全体像、進め方、成績評価方法の説明後、企業開示制度の概要について講義する

第2回 有価証券／ securities

有価証券について講義する

第3回 有価証券の募集／Public offering of securities

有価証券の募集について講義する

第4回 有価証券の売出し・組織再編成発行・交付手続等／Secondary distribution of securities, etc.

有価証券の売出し、組織再編成発行・交付等について講義する

第5回 発行開示制度(1)／Regulations on the issuance of securities(1)

発行開示制度総論について講義する

第6回 発行開示制度(2)／Regulations on the issuance of securities(2)

有価証券届出書に係る規制について講義する

第7回 発行開示制度(3)／Regulations on the issuance of securities(3)

目論見書、発行登録制度、有価証券通知書等に係る規制について講義する

第8回 継続開示制度(1)／Continuous disclosure system(1)

継続開示制度総論及び有価証券報告書に係る規制について講義する

第9回 継続開示制度(2)／Continuous disclosure system(2)

半期報告書、臨時報告書等について講義する

第10回 継続開示制度(3)／Continuous disclosure system(3)

内部統制報告書、自己株券買付状況報告書、親会社等状況報告書に係る規制等について講義する

第11回 英文開示、情報提供制度、フェアディスクロージャー・ルール等／English-Language Disclosure System, etc.

英文開示、情報提供制度、フェアディスクロージャー・ルール等について講義する

第12回 公開買付制度／Tender offer

公開買付に係る規制について講義する

第13回 大量保有報告制度等／Substantial shareholding reporting system, etc.

大量保有報告に係る規制等について講義する

第14回 民事責任及び課徴金制度／Compensatory liability and administrative surcharges

開示書類の虚偽記載等に対する民事責任及び課徴金に係る規制について講義する

第15回 理解度確認セッション／Examination

第2～14回までの内容について、Google Classroom を通じて理解度確認セッションを実施する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

・平常点（課題提出、授業での議論参加等）30%、理解度確認セッション 70%で評価する。なお、課題の未提出（期限後提出を含む）が3回以上ある場合又は授業の欠席が3回以上ある場合には、理解度確認セッションは受講できないこととし、成績評価は行わない。

・AA (90 点以上), A (80 点以上 90 点未満), B (70 点以上 80 点未満), C (60 点以上 70 点未満), D (60 点未満 ; 不合格)
30%:Assignments of each lecture and class participation, 70%:

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

- ・予習：理解度確認セッションに対する準備をする。
- ・復習：講義後に配信する解答・解説を確認すること。

The instructor will put each lecture material on Google Classroom in advance. Students will be recommended to prepare for each lecture by checking them before the lecture.

Student should submit assignments (review questions, short reports, etc.) of each lecture by each due date the instructor makes.

10. その他 [In addition] :

- ・担当教員が各回の講義用資料を作成して、Google Classroom に PDF ファイルで掲載する形で 受講生に配布する。各回講義は当該資料を用いて行うため、資料の閲覧に PC・タブレット等 のデバイスが必要な場合は持ち込むこと。質問等は Google Classroom、メール等を通じて随時受け付ける。

- ・各回の講義は基本的に対面授業で行うが、学生と相談して、リアルタイム授業・オンデマンドを取り入れることを検討する。なお、短答式試験の直前の講義はオンデマンド（録画を Google Classroom にアップ）で行う。

The Instructor will upload each lecture material on Google Classroom. Students will be allowed to bring their own PCs/Tablets in the classroom to check them or take notes.

Lectures are given face-to-face in the lecture hall.

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

事例研究（金融行政）／Case Study（Financial Administration）

担当教員 [Instructor] : 大西 敢二郎／KANJIRO ONISHI

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 金曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW608J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義は、地域金融の今後のあり方を考察することを目的とする。
 そのために、厳しい経営環境の下にある地域金融機関が、どのようなビジネスモデルを構築することで、健全性を確保し、どのように地域において役割を発揮しようとしているかという観点から、具体的な地域金融機関等の取組みを検証する。
 The purpose of this lecture is to examine the future of regional finance.
 To this end, we will examine the efforts of specific regional financial institutions and other financial institutions under severe business conditions, from the perspective of what kind of business models they are trying to establish to ensure their soundness and play a role in the region.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

- ①地域金融機関の経営分析について、一定の理解を得ること。
- ②地域金融機関のビジネスモデルと、経営環境の変化の状況との関係性について、一定の理解を得ること。
- ①To understand the business analysis of regional financial institutions.
- ②To understand the relationship between the business models of regional financial institutions and the changing conditions of the recent business environment.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回:オリエンテーション/ Orientation

第2回:日本の銀行業界の現状/ Current status of the Japanese banking industry

第3回～第14回:地域金融機関等の取組み/ Initiatives of regional financial institutions and the others

※対象とする地域金融機関等は未定(受講生に割り当てる予定。受講生は割り当てられた金融機関のビジネスモデルの分析等について発表を行う)/The target regional financial institutions will be determined later. Instructor will assign the target-institutions to the students, and students should make presentations on the analysis of the assigned banks businesses.

(参考)過去の講義で取り上げた金融機関の例: the examples of the presentations in the past lectures

- ・福岡 FG
- ・新生銀行
- ・スルガ銀行
- ・楽天銀行
- ・SBI と連携する地域銀行
- ・北國銀行
- ・セブン銀行
- ・ほくほく FG
- ・京都銀行
- ・あおぞら銀行
- ・山口 FG
- ・プロクレア HG

第15回:まとめ（地域金融の今後のあり方） / Review (The future of regional finance)

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語/Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

- ・平常点（発言・議論参加、課題提出 事例研究発表への貢献度 等）60%、発表内容 40%で評価する。授業を3回以上欠席した場合等には評価の対象外となる。
 - ・AA（90点以上）、A（80点以上90点未満）、B（70点以上80点未満）、C（60点以上70点未満）、D（60点未満；不合格）
- 60%: contributions to each session with participating in discussions and exchanging views, submission of th

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

- ・銀行のIR資料など、その他参考となる資料を読んでおくこと。
- ・事例研究において紹介された文献、参考資料をもとに知見を深めること。

第1回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。意見交換で得た知見を、次の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第2回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第3回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第4回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第5回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第6回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第7回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第8回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第9回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第10回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第11回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第12回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第13回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第14回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第15回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：これまでの配布資料を見直して、各回での議論を参考にしつつ各資料の概要を理解する。

- ・google classroomを使用予定であり、資料等はそこに掲載する。

Instructor will put each session's material on Google Classroom in advance. Students will be recommended to prepare for each lecture by checking them before the session.

Preparation: Be sure to read the materials for each session and think about the points for discussion during the lecture.

Review: Students should utilize the outcomes from the discussions in each session for their presentation materials.

10. その他 [In addition] :

- ・この講義を受講するために必要となる知識：必須要件ではないが、金融行政Ⅱの受講者が望ましい。
- ・対面授業であり、基本的にオンライン・オンデマンド配信は行わない。
- ・google classroomを使用予定であり、資料等はそこに掲載する。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomコード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて確認すること(要 東北大 ID)

事例研究（企業法）／Case Study (Corporate Law)

担当教員 [Instructor] : 小作 恵右／KEISUKE OZAKU

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 金曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW609J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

上場会社による不正会計等事件及び企業買収事案等について、その手口、発生原因、対応策等について学習し、上場会社にとって適切な情報の開示の重要性を認識するとともに、事件等を通じて、会社法、金融商品取引法・公認会計士法における関連制度・規制の理解を深める。

また、受講生は、不正会計等について1事案を取り上げてプレゼンテーションを行う。

The purpose of this lecture is to deepen understanding of relevant systems related to the Companies Act, Financial Instruments and Exchange Act and Certified Public Accountants Act, through case studies (Accounting fraud, The company's takeover issue, etc.).

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

不正会計等が発覚してから金融庁による課徴金が課されるまでの制度・規制を理解できるようになること。

会社法・金融商品取引法・公認会計士法における関連制度・規制について理解できるようになること。

プレゼンテーションを通じて、他者にわかりやすく説明する能力を向上させること。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回：オリエンテーション／Orientation

授業の目的及び全体像、進め方、成績評価方法の説明後、金融商品取引法・会社法等の規制について概説する

第2・3回：事例分析「日産自動車事件」／NISSAN MOTOR Co., Ltd. case

事案の概要（役員報酬の虚偽記載等）、関連制度等について講義する

第4回：事例分析「オリンパス事件」／OLYMPUS Corporation case

事案の概要（不正会計）、関連制度等について講義する

第5・6回：事例分析「東芝事件」／TOSHIBA Corporation case

事案の概要（不正会計）、関連制度等について講義する

第7・8回：事例分析「ネットワンシステムズ事件」等／Net One Systems Co., Ltd. case, etc.

事案の概要（循環取引事例）、関連制度等について講義する

第9回：事例分析「グレイステクノロジー事件」／GRACE TECHNOLOGY, Inc. case

事案の概要（不正会計）、関連制度等について講義する

第10・11回：事例分析「ブルドックソース事件」／BULL-DOG SOURCE Co., Ltd. case

事案の概要（公開買付、買収防衛等）、関連制度等について講義する

第12回：事例分析「三ツ星事件」／Mitsuboshi Co., Ltd. case

事案の概要（大量保有報告制度違反、買収防衛等）、関連制度等について講義する

第13・14回：受講生による事例分析・発表／Case analysis and presentation by students

受講生は、不正会計等について1事案を取り上げて、プレゼンテーション（質疑対応等を含む）を行う

第15回：まとめ／Review

第2～14回までの講義のまとめを行い、制度・規制のあり方等について考察する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

・平常点（課題提出、授業での議論参加等）50%、プレゼンテーションの内容（50%）で評価する。なお、課題の未提出（期限後提出を含む）が3回以上ある場合又は授業の欠席が3回以上ある場合には、成績評価は行わない。

・AA（90点以上）、A（80点以上90点未満）、B（70点以上80点未満）、C（60点以上70点未満）、D（60点未満；不合格）

50%:Assignments of each lecture and class participation, 50%:Presentation

AA

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :**8. 関連 URL [URL] :****9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :**

第1回目

・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、講義計画の概要を把握するとともに、不明な点を明ら

かにする。

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料を読み返すことが望ましい。

第2回目

・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料（次回分も含む）に目を通し、不明な点を明らかにする。なお、不正会計等に係る第三者委員会調査報告書等はかなり大部となっている場合がある。すべてを読むことは求めないが、指定した箇所についてはあらかじめ読んでおくことが望ましい。

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（小レポート）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。

第3回目

・予習：前回の講義で提出した課題を発表し適宜ディスカッションを行うので、その準備をする。また、必要に応じて、事前に Google Classroom 上に追加の講義資料を掲載するので、当該資料に目を通し、不明な点を明らかにする。

・復習：再度、講義資料を読み返すとともに、講義中に指定した資料等に目を通し、講義で取り扱った事例に関連する制度・規制等の理解を深める。

第4回目

・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。なお、不正会計等に係る第三者委員会調査報告書等はかなり大部となっている場合がある。すべてを読むことは求めないが、指定した箇所についてはあらかじめ読んでおくことが望ましい。

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、再度、講義資料を読み返すとともに、講義中に指定した資料等に目を通し、講義で取り扱った事例に関連する制度・規制等の理解を深める。

第5回目

・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料（次回分も含む）に目を通し、不明な点を明らかにする。なお、不正会計等に係る第三者委員会調査報告書等はかなり大部となっている場合がある。すべてを読むことは求めないが、指定した箇所についてはあらかじめ読んでおくことが望ましい。

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（小レポート）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。

第6回目

・予習：前回の講義で提出した課題を発表し適宜ディスカッションを行うので、その準備をする。また、必要に応じて、事前に Google Classroom 上に追加の講義資料を掲載するので、当該資料に目を通し、不明な点を明らかにする。

・復習：再度、講義資料を読み返すとともに、講義中に指定した資料等に目を通し、講義で取り扱った事例に関連する制度・規制等の理解を深める。

第7回目

・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料（次回分も含む）に目を通し、不明な点を明らかにする。なお、不正会計等に係る第三者委員会調査報告書等はかなり大部となっている場合がある。すべてを読むことは求めないが、指定した箇所についてはあらかじめ読んでおくことが望ましい。

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（小レポート）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。

第8回目

・予習：前回の講義で提出した課題を発表し適宜ディスカッションを行うので、その準備をする。また、必要に応じて、事前に Google Classroom 上に追加の講義資料を掲載するので、当該資料に目を通し、不明な点を明らかにする。

・復習：再度、講義資料を読み返すとともに、講義中に指定した資料等に目を通し、講義で取り扱った事例に関連する制度・規制等の理解を深める。

第9回目

・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。なお、不正会計等に係る第三者委員会調査報告書等はかなり大部となっている場合がある。すべてを読むことは求めないが、指定した箇所についてはあらかじめ読んでおくことが望ましい。

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料を読み返すとともに、講義中に指定した資料等に目を通し、講義で取り扱った事例に関連する制度・規制等の理解を深める。

第10回目

・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料（次回分も含む）に目を通し、不明な点を明らかにする。

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（小レポート）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。

第11回目

・予習：前回の講義で提出した課題を発表し適宜ディスカッションを行うので、その準備をする。また、必要に応じて、事前に Google Classroom 上に追加の講義資料を掲載するので、当該資料に目を通し、不明な点を明らかにする。

・復習：再度、講義資料を読み返すとともに、講義中に指定した資料等に目を通し、講義で取り扱った事例に関連する制度・規制等の理解を深める。

第12回目

・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。

・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（復習問題）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。期限後に配信する解答・解説を確認すること。その際、再度、講義資料を読み返すとともに、講義中に指定した資料等に目を通し、講義で取り扱った事例に関連する制度・規制等の理解を深める。

第13回目

・予習：不正会計等について1事案を取り上げてプレゼンテーションを行うので、その準備を行う。また、事前に Google Classroom 上に掲載する他の受講生のプレゼン資料に目を通し、必要に応じて関連する制度・規制等の内容を確認し、質問事項等を整理しておく。

・復習：プレゼンテーションに対する質疑応答や担当教員による講評のほか、講義中に指定した資料等に目を通し、講義で取り扱った事例やそれに関連する制度・規制等の理解を深める。

第14回目

・予習：不正会計等について1事案を取り上げてプレゼンテーションを行うので、その準備を行う。また、事前に Google Classroom 上に掲載する他の受講生のプレゼン資料に目を通し、必要に応じて関連する制度・規制等の内容を確認し、質問事項等を整理しておく。

・復習：プレゼンテーションに対する質疑応答や担当教員による講評のほか、講義中に指定した資料等に目を通し、講義で取り扱った事例やそれに関連する制度・規制等の理解を深める。

第 15 回目

- ・予習：事前に Google Classroom 上に掲載する講義資料に目を通し、不明な点を明らかにする。
- ・復習：講義内容の理解を促すために、講義中又は講義終了後に課題（小レポート）を出すので、必ず示された期限までに提出すること。

The instructor will put each lecture material on Google Classroom in advance. Students will be recommended to prepare for each lecture by checking them before the lecture.

Student should submit assignments (review questions, short reports, etc.) of each lecture by each due date the instructor makes.

10. その他 [In addition] :

- ・担当教員が各回の講義用資料を作成して、Google Classroom に PDF ファイルで掲載する形で 受講生に配布する。各回講義は当該資料を用いて行うため、資料の閲覧に PC・タブレット等 のデバイスが必要な場合は持ち込むこと。質問等は Google Classroom、メール等を通じて随時受け付ける。

- ・各回の講義は基本的に対面授業で行うが、学生と相談して、リアルタイム授業・オンデマンドを取り入れることを検討する。なお、短答式試験の直前の講義はオンデマンド（録画を Google Classroom にアップ）で行う。

The Instructor will upload each lecture material on Google Classroom. Students will be allowed to bring their own PCs/Tablets in the classroom to check them or take notes.

Lectures are given face-to-face in the lecture hall.

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

事例研究（法人税法）／Case Study (Corporate Tax Law)

担当教員 [Instructor] : 未定/TBD

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 木曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW610J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義は、法人税法の解釈・適用に重要な意義をもつ裁判例の研究を通じ、①法人税法の重要規定に係る具体的な解釈・適用関係について理解する、②他の税法や民商法等の法律その他の領域との関わりの中で法人税法を捉え、その解釈や適用のあり方について考察する、③発表や討議を経験し、説明力、思考力を向上させる、ことを目的とする。

This course is based on the study of judicial precedents that have high significance in the interpretation and application of corporation tax law. The purpose is to: ① Understand the specific interpretation and application relationship of the important provisions of the Corporation Tax Law, ② Understand the corporation tax law in relation to other tax laws and other areas such as civil and commercial law, and think about how to interpret and apply it. ③ Experience presentations and discussions, improve explanation and thinking skills.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

法人税法の解釈・適用を巡る重要判決について、関係条文及び判決文を読み、事件の概要、争点、判旨を理解の上、制度や判決の課題を考察できることを目標とする。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回 : オリエンテーション/Orientation

税務争訟制度の概要、判決文の読み方などについて説明し、受講者ごとの発表担当事件を決定する。

第2回 : (1) 確定決算主義/Firm settlement principle、(2) 公正処理基準と収益の計上時期/GAAP

①福岡高裁平成19年6月19日判決、②最高裁平成5年11月25日判決（大竹貿易事件）

第3回 : 収益の計上時期/When to record revenue

③最高裁平成4年10月29日判決（相栄産業事件）

第4回 : 無償取引/Gratis transaction

④最高裁平成7年12月19日判決（南西通商事件）

第5回 : 損害賠償請求権の益金計上時期/When to record revenue for claims for damages

⑤東京高裁平成21年2月18日判決（日本美装事件）

第6回 : 原価の見積/Cost estimation

⑥最高裁平成16年10月29日判決（牛久市売上原価見積事件）

第7回 : 減価償却/Depreciation amount of deferred assets

⑦最高裁平成20年9月16日判決（NTTドコモ事件）

第8回 : 脱税経費の損金性/Deductibility of tax evasion expenses

⑧最高裁平成6年9月16日決定（エス・ブイ・シー事件）

第9回 : 役員給与/Salary, etc. of Executive Officers

⑨東京高裁平成25年3月14日判決（事前確定届出給与）

第10回 : 交際費/Social expense

⑩東京高裁平成15年9月9日判決（萬有製薬事件）

第11回 : 貸倒損失/Bad debt losses

⑪最高裁平成16年12月24日判決（日本興業銀行事件）

第12回 : 租税回避/Tax avoidance

⑫最高裁平成18年1月24日判決（フィルム・リース事件）

第13回 : 組織再編税制と行為計算否認/Denial of conduct and calculations in Reorganization tax system

⑬最高裁平成28年2月29日判決（ヤフー事件）

第14回 : 同族会社の行為計算否認/Denial of conduct and calculations of family company

⑭最高裁令和4年4月21日判決（ユニバーサルミュージック事件）

第15回 : 公益法人等の収益事業課税/Taxation on profit business of public corporations

⑮東京高裁平成16年11月17日判決（流山事件）

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

事例発表（40%）及び講義への貢献度等平常点（60%）で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

租税法（第二十四版）	金子宏	弘文堂	2021	978-4-335-31555-8	参考書
租税判例百選（第7版）	中里実ほか	有斐閣	2021	978-4-641-11553-8	参考書
税法の読み方判例の見方改訂第三版	伊藤義一	TKC 出版	2014	978-4-905467-15-1	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回目

予習 : GoogleClassroom に事前掲載する講義資料、判例資料等 (裁判例、評釈、参考資料) に目を通すこと。

復習 : 講義資料、判例資料等を読み直すとともに、講義中に指定される課題に取り組むこと。

第 2 回目

予習 : GoogleClassroom に事前掲載する講義資料、判例資料等に目を通し、自己の意見や疑問点などを整理しておくこと。

復習 : 講義資料、判例資料等を読み直すとともに、講義内で検討した内容をレビューし整理すること。

第 3 回目

予習 : 発表担当者はレジュメを作成し期日までに GoogleClassroom に投稿すること。それ以外の者は、各回の判例資料等及び発表担当者が事前提出した発表用レジュメに目を通し、自己の意見などを整理しておくこと。

復習 : 判例資料等や発表用レジュメを読み直すとともに、講義内で検討した内容をレビューし整理すること。

第 4 回目

予習 : 発表担当者はレジュメを作成し期日までに GoogleClassroom に投稿すること。それ以外の者は、各回の判例資料等及び発表担当者が事前提出した発表用レジュメに目を通し、自己の意見などを整理しておくこと。

復習 : 判例資料等や発表用レジュメを読み直すとともに、講義内で検討した内容をレビューし整理すること。

第 5 回目

予習 : 発表担当者はレジュメを作成し期日までに GoogleClassroom に投稿すること。それ以外の者は、各回の判例資料等及び発表担当者が事前提出した発表用レジュメに目を通し、自己の意見などを整理しておくこと。

復習 : 判例資料等や発表用レジュメを読み直すとともに、講義内で検討した内容をレビューし整理すること。

第 6 回目

予習 : 発表担当者はレジュメを作成し期日までに GoogleClassroom に投稿すること。それ以外の者は、各回の判例資料等及び発表担当者が事前提出した発表用レジュメに目を通し、自己の意見などを整理しておくこと。

復習 : 判例資料等や発表用レジュメを読み直すとともに、講義内で検討した内容をレビューし整理すること。

第 7 回目

予習 : 発表担当者はレジュメを作成し期日までに GoogleClassroom に投稿すること。それ以外の者は、各回の判例資料等及び発表担当者が事前提出した発表用レジュメに目を通し、自己の意見などを整理しておくこと。

復習 : 判例資料等や発表用レジュメを読み直すとともに、講義内で検討した内容をレビューし整理すること。

第 8 回目

予習 : 発表担当者はレジュメを作成し期日までに GoogleClassroom に投稿すること。それ以外の者は、各回の判例資料等及び発表担当者が事前提出した発表用レジュメに目を通し、自己の意見などを整理しておくこと。

復習 : 判例資料等や発表用レジュメを読み直すとともに、講義内で検討した内容をレビューし整理すること。

第 9 回目

予習 : 発表担当者はレジュメを作成し期日までに GoogleClassroom に投稿すること。それ以外の者は、各回の判例資料等及び発表担当者が事前提出した発表用レジュメに目を通し、自己の意見などを整理しておくこと。

復習 : 判例資料等や発表用レジュメを読み直すとともに、講義内で検討した内容をレビューし整理すること。

第 10 回目

予習 : 発表担当者はレジュメを作成し期日までに GoogleClassroom に投稿すること。それ以外の者は、各回の判例資料等及び発表担当者が事前提出した発表用レジュメに目を通し、自己の意見などを整理しておくこと。

復習 : 判例資料等や発表用レジュメを読み直すとともに、講義内で検討した内容をレビューし整理すること。

第 11 回目

予習 : 発表担当者はレジュメを作成し期日までに GoogleClassroom に投稿すること。それ以外の者は、各回の判例資料等及び発表担当者が事前提出した発表用レジュメに目を通し、自己の意見などを整理しておくこと。

復習 : 判例資料等や発表用レジュメを読み直すとともに、講義内で検討した内容をレビューし整理すること。

第 12 回目

予習 : 発表担当者はレジュメを作成し期日までに GoogleClassroom に投稿すること。それ以外の者は、各回の判例資料等及び発表担当者が事前提出した発表用レジュメに目を通し、自己の意見などを整理しておくこと。

復習 : 判例資料等や発表用レジュメを読み直すとともに、講義内で検討した内容をレビューし整理すること。

第 13 回目

予習 : 発表担当者はレジュメを作成し期日までに GoogleClassroom に投稿すること。それ以外の者は、各回の判例資料等及び発表担当者が事前提出した発表用レジュメに目を通し、自己の意見などを整理しておくこと。

復習 : 判例資料等や発表用レジュメを読み直すとともに、講義内で検討した内容をレビューし整理すること。

第 14 回目

予習 : 発表担当者はレジュメを作成し期日までに GoogleClassroom に投稿すること。それ以外の者は、各回の判例資料等及び発表担当者が事前提出した発表用レジュメに目を通し、自己の意見などを整理しておくこと。

復習 : 判例資料等や発表用レジュメを読み直すとともに、講義内で検討した内容をレビューし整理すること。

第 15 回目

予習 : 発表担当者はレジュメを作成し期日までに GoogleClassroom に投稿すること。それ以外の者は、各回の判例資料等及び発表担当者が事前提出した発表用レジュメに目を通し、自己の意見などを整理しておくこと。

復習 : 判例資料等や発表用レジュメを読み直すとともに、講義内で検討した内容をレビューし整理すること。

10. その他 [In addition] :

- ・この講義を受講するために必要となる知識 : 税法一般及び法人税法に関する基礎的な知識があれば望ましい。
なお、本講義は、法人税法 1 での学習内容の理解の定着・深化の一助になるため、法人税法 1 受講者には特に推奨する。
- ・本講義では、裁判例を題材に、法人税法上の主要項目について、全員で討議を行う。
- ・その前提として、各題材に関する GoogleClassroom への事前掲示資料等を基に、受講者が発表担当者として事件概要、適用法令、争点、判決要旨及び判決への賛否等についてレジュメを作成し、発表する。(一人当たりの担当回数は受講人数に応じて決めるが、一応の目安は 3 回~4 回。詳細は講義の中で指示する。)
- ・事例の割り振りを第 1 回講義において決定するため、受講を考える者は、必ず出席すること。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示

(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etusad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

会計職業倫理／Accounting Profession Ethics

担当教員 [Instructor] : 加藤 暢一／NOBUKAZU KATOU

曜日・講時 [Day/Period] : 前期 木曜日 2 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC512J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

授業の目的と概要

不正の実態、原因を調べ、会計職業倫理の必要性を考え、会計職業倫理の基本的な理論、制度、実務を理解する。

オンラインオンデマンドで全ての授業をおこなう。

会計プロフェッションとして確固たる強い職業倫理をもって、監査、税務、コンサルティング、組織の経理など実務で活躍することをめざす。

We study the actual condition and cause of injustice, and the necessity of Accounting Professional Ethics. And we understand the basic theory, institution, and business about the Accounting Professional Ethics.

We will be the Accounting Professional, we maintain the strong Ethics, and we make the excellent auditors, tax accountants, consultants, accountants.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

学習の到達目標

不正の実態、原因、不正防止の仕組みと会計職業倫理の必要性を考え、会計職業倫理の基本的な理論、制度、実務を理解する。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

授業内容・方法と進捗予定

・講義では、多くの写真、イラスト、図表を使い、できる限り分かりやすく実感できるよう解説し、理解を深める。さらに、2 回のグループ別ディスカッション、ミニレポート作成、中間レポート、期末レポートの作成をして、総合解説をする。

・オンラインオンデマンドで全ての授業をおこなう。

なお、グループ別ディスカッションは、全員にグループ名簿を連絡するので、オンデマンド講義とはグループごとにディスカッション、グループごとにミニレポートを作成、提出する。

・目次

第1回：オリエンテーション／Orientation

なぜ会計職業倫理が必要なのか、会計職業倫理とは、講義の進め方、成績評価、学習方法をみる。

第2回 なぜ不正がなくなるのか／Why the Injustices will never cease?

なぜ不正がなくなるのか、まず不正の実態、原因、不正事例などをみる。

第3回 不正を防止する仕組みとは／The Structure of Injustice Prevention

不正を防止する仕組みとして、①内部統制②コンプライアンス③コーポレートガバナンスなどをみる。

第4回 なぜ会計職業倫理が必要か／Why the Accounting Professional Ethics is necessary?

なぜ会計職業倫理が必要なのか、まず倫理学と会計職業倫理の内容（理論、法令、実務）の概要をみる。

第5回 過去の事例にもとづくグループ別ディスカッション、グループ別ミニレポート作成、解説／The discussion and mini report based on the past case study.

いままでの講義をふまえ具体的な事例にもとづくグループ別ディスカッション、ミニレポートを作成し、考える。

第6回 倫理学の基本、倫理とは、倫理学とは（理論1）／The Base of Ethics

アリストテレス、カントなど倫理学、各種の思想、各分野の倫理（医療、法曹、会計職業倫理など）をみる。

第7回 会計職業倫理における主なテーマ（理論2）／The main theme about the Accounting Professional Ethics

会計職業倫理の主なテーマとは、プロフェッション、独立性、正当な注意、品質の保持など11項目をみる。

第8回 中間レポート作成、総合解説／The Interim Report and synthetic explanation.

ここまでの講義にもとづき、事前に中間レポートを作成いただき、総合解説をおこなう。

第9回 法令、規則における会計職業倫理（制度1）／The Accounting Professional Ethics on the laws and Regulations (1)

なぜ法令、規則が必要か、倫理規則の1章. 総則の内容をみる。

第10回 法令、規則における会計職業倫理（制度2）／The Accounting Professional Ethics on the laws and Regulations (2)

問題が生じた時、概念的枠組みアプローチ等による判断についてみる。

第11回 監査法人における会計職業倫理の取組（実務1）／The Accounting Professional Ethics in the accounting firm (1)

監査法人等のなかでどのような実務の取組をしているのかをみる。

第12回 監査法人における会計職業倫理の取組（実務2）／The Accounting Professional Ethics in the accounting firm (2)

監査法人等の会計職業倫理にかんする実務で、組織風土、品質管理、研修などをみる。

第13回 企業内会計士（P A I B）と会計職業倫理／The Accounting Professional Ethics about Professional Accountants in Business

企業で働く企業内会計士に必要な会計職業倫理とは何か、ロールプレイングもしながら考える。

第14回 過去の事例にもとづくグループ別ディスカッション、グループ別ミニレポート作成、解説／The discussion and mini report based on the past case study.

いままでの講義をふまえ過去の不正事例にたいしグループ別ディスカッション、ミニレポートの作成をする。

第15回 期末レポート作成、総合解説／The final report and synthetic explanation.

いままでの全ての講義をふまえ、事前に期末レポート作成いただき、総合解説をおこなう。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

成績評価方法

講義への参加、貢献(発言等)、2回のグループディスカッションとミニレポート、中間レポート作成(50%)、期末レポート(50%)で評価する。

AA(90点以上)、A(80点以上90点未満)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)、D(60点未満:不合格)。

なお、レポートの評価基準は、①理解の正確性、②論点的確性と網羅性、③論文の的確性とする。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

教科書および参考書	会計大学院「職業倫理」研究会(著)	同文館出版	2023年
-----------	-------------------	-------	-------

標準テキスト会計専門職の職業倫理

公認会計士倫理読本一国際的な信認を得るための鍵会計プロフェッションの信頼の礎(平成28年増補版)	八田進二	財経詳報社	2016年
--	------	-------	-------

会計プロフェッションの職業倫理—教育・研修の充実を目指して(日本監査研究学会リサーチ・シリーズ)	藤沼亜紀(編著)	同文館出版	2012年
--	----------	-------	-------

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学習 [Preparation and Review] :

授業時間外学習

”第1回目

予習: レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習: レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第2回目

予習: レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習: レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第3回目

予習: レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習: レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第4回目

予習: レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習: レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第5回目

予習: レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習: レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第6回目

予習: レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習: レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第7回目

予習: レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習: レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第8回目

予習: レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習: レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第9回目

予習: レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習: レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第10回目

予習: レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習: レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第11回目

予習: レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習: レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第12回目

予習: レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習: レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第13回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第14回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第15回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

10. その他 [In addition] :

その他

この講義を受講するために必要となる知識：会計の基本知識があることが望ましい。

すべての講義をオンラインオンデマンドとする。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて確認すること(要 東北大 ID)

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

ビジネス倫理/Business Ethics

担当教員 [Instructor]: 村山 元理/MOTOMASA MURAYAMA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC620J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

ビジネス倫理が批判から受容された歴史を学び、現代社会におけるビジネス倫理の重要性・その実践手法を学ぶ。倫理学の規範理論、経済界・国連の指標、企業不祥事の事例と再発防止策、倫理や法令順守体制の確立などを学ぶ。経営理念の浸透策、文化や歴史から経営文化の担い手となる心構えを養成する。

Business ethics has been criticized as oxymoron, however corporate entities are now expected to play an important role as global citizens. We will learn the basic concept of ethical normative theories. By students' presentation and group discussion, we will learn the meaning of work, the cause of corporate misconducts and how to prevent them by constructing the compliance system and the strong corporate culture. We will also learn Japanese business history to create a better world. We are responsible to create a spiritual business civilization.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

1. 規範倫理学の理論について説明できる。
2. 仕事の意味、生きることを意味を深める。
3. 企業不祥事の原因と再発防止策について説明できる。
4. 企業倫理体制を目指す経済界の取組みを説明できる。
5. 経営理念を実践・浸透する方法について説明できる。
6. 歴史的視点から伝統文化と企業倫理のあり方を説明できる。
7. グループワークを通じて道徳的感性を高める。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: ビジネス倫理とは何か/What is business ethics?

ビジネス倫理が批判されてきたが、SDGs などにより道徳的主体としての企業観が主流となってきたことを確認する。

第2回: 倫理学の基礎/The fundamentals of ethics

アメリカのビジネス倫理学は応用倫理学として展開した。その倫理学の初歩を学ぶ。

第3回: 倫理のクイックテスト/Ethical quick test

職場で働くときにどのような価値観をもっているのかについてその倫理度をチェックし、グループワークをする。

第4回: 仕事の意味と価値/The meaning of work

社会的企業家、生きがい、職場のスピリチュアリティなど、共同体と働く意味についての動向や思想を学ぶ。

第5回: 私の勤労観/What is my attitude to work?

自分の勤労観・マネー観についてグループ発表をする。

第6回: 企業不祥事/Corporate misconducts

経営者の誤ったリーダーシップと組織的な隠ぺい工作が、企業不祥事の構造の上の主要な課題となることを分析する。

第7回: 株主権論は正しいか/Is shareholder primacy right?

新自由主義のもとでの株主権論の弊害を論じた Stout 教授の立論を紹介する。

第8回: 企業不祥事の事例紹介の討論 / Discussion cases of corporate misconducts

各グループ発表から、なぜ企業不祥事が起きるのかをより広く考察し、その原因と対策の在り方を学ぶ。

第9回: 経団連「企業行動憲章」/Charter of Corporate Behavior by Keidanren

企業の企業倫理体制を促進する日本の経済界の取り組みを考察する。

第10回: 社会的企業/Social enterprise

シュンペーターの企業家論、社会的企業家の事例として、やまと福祉財団、ココウェルの事例などを考える

第11回: SDGs の取り組み/The cases of realizing SDGs

SDGs に関連した取り組みの事例紹介、地球市民としての自覚を深める。

第12回: 渋沢栄一—社会的企業家の先駆者/Eiichi Shibusawa—a forerunner of social entrepreneur

企業の設立・支援だけでなく、社会公共事業にも関わった渋沢栄一の生涯を考察する。

第13回: 経営理念と掃除/Management philosophy and cleaning

精神性とビジネスを統合するビジネスのメガトレンドの概要、ビジネス倫理の実践手法、強い社風の構築を考察する。

第14回: 企業の経営理念の策定・浸透策/Making and sharing management philosophy

企業の経営理念の策定・浸透策を発表し、経営理念・ビジネス倫理を浸透させるための実践例を考察する。

第15回: 伝統文化と経営倫理 / Traditional culture and business ethics

近江商人の経営理念の三方よしの精神が、SDG s 時代に見直され、発展していることを考察する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

レポート 60 点 (4 回×15 点) + コメントシート 15 点 + 持ち帰り試験 25 点

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

理論とケースで学ぶ 企業倫理入門	高浦康有 (編集), 藤野 真也 (編集)	2022	978-4561257493	教科書
経営文化	佐久間信夫・村山元理・井上善博編著	2024	法律文化社	教科書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第 1 回目

予習：事前に配信する 1 日目の講義計画に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中で出た ISO26000 など用語、概念ついてに調べる。

第 2 回目

予習：事前に配信する 1 日目の講義計画に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される用語、概念などをさらに調べる。

第 3 回目

予習：事前に配信する 1 日目の講義計画に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される用語、概念などをさらに調べる。

第 4 回目

予習：事前に配信する 2 日目の講義計画に目を通し、課題を準備し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される用語、概念などをさらに調べる。

第 5 回目

予習：事前に配信する 2 日目の講義計画に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される用語、概念などをさらに調べる。

第 6 回目

予習：事前に配信する 2 日目の講義計画に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される用語、概念などをさらに調べる。

第 7 回目

予習：事前に配信する 3 日目の講義計画に目を通し、課題を準備し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される用語、概念などをさらに調べる。

第 8 回目

予習：事前に配信する 3 日目の講義計画に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される用語、概念などをさらに調べる。

第 9 回目

予習：事前に配信する 3 日目の講義計画に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される用語、概念などをさらに調べる。

第 10 回目

予習：事前に配信する 4 日目の講義計画に目を通し、課題を準備し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される用語、概念などをさらに調べる。

第 11 回目

予習：事前に配信する 4 日目の講義計画に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される用語、概念などをさらに調べる。

第 12 回目

予習：事前に配信する 4 日目の講義計画に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される用語、概念などをさらに調べる。

第 13 回目

予習：事前に配信する 5 日目の講義計画に目を通し、課題を準備し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される用語、概念などをさらに調べる。

第 14 回目

予習：事前に配信する 5 日目の講義計画に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される用語、概念などをさらに調べる。

第 15 回目

予習：事前に配信する 5 日目の講義計画に目を通し、不明な点を明らかにする。

復習：講義中に指定される近江商人、モラロジーなど用語、概念などをさらに調べる。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識：明治時代以降の近代史、最近の企業・経済のニュースを追っていること。
会計職の専門的科目と異なり、哲学、歴史、文化、経営学、経営史に関連することを承知下さい。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて
確認すること（要 東北大 ID）

事例研究（会計職業倫理）／Case Study (Accounting Profession Ethics)

担当教員 [Instructor]: 加藤 暢一／NOBUKAZU KATOU

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 木曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC621J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

授業の目的と概要

会計実務において、なぜ会計職業倫理が必要か、どのような内容か、できるだけ多くの具体例、不正事例もみながら、より深く実感できる会計職業倫理を理解し、確実に身につける。
そして確固たる強い会計職業倫理をもって、監査、税務、コンサルティング、組織の経理など実務で活躍することをめざす。

In the Accounting, we realize the Accounting Professional Ethics with the understanding of case study ,why we need it, and what is the content.

We will be the Accounting Professional ,we maintain the strong Ethics ,we make the excellent auditors, tax accountants, consultants, accountants.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

学習の到達目標

会計実務において、なぜ会計職業倫理が必要か、どのような内容か、できるだけ多くの具体例、不正事例もみながら、より深く実感できる会計職業倫理を理解し、確実に身につける。

In the Accounting, we realize the Accounting Professional Ethics with the understanding of case study ,why we need it, and what is the content.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

授業内容・方法と進度予定

・講義 60 分では分かりやすく解説をして、残り 30 分で毎回（第 3 回から 5 回、7 回から 14 回）に具体例によるグループ別ディスカッションとミニレポート作成、ロールプレイング、中間と期末でポートの作成提出と総合解説を行う。

・オンラインオンデマンドですべての授業をおこなう。なお、グループ別ディスカッションとミニレポート作成、ロールプレイングは、各グループごとに随時おこなう。

・進度予定

第 1 回 オリエンテーション／Orientation

なぜ会計職業倫理が必要か、会計職業倫理の事例をみて、講義の進め方、成績評価、学習方法を説明する。

第 2 回 なぜ不正がなくなるのか、事例等／Why the Injustices will never cease , by the lecture and case study .

なぜ不正がなくなるのか、まず不正の実態、原因の説明、2 つの不正事例について学ぶ。

第 3 回 不正を防止する仕組み、事例等／The Structure of Injustice Prevention , by the lecture and case study mini report , discussion.

不正防止の仕組みとして、内部統制、コーポレートガバナンスなどの説明、具体例、事例について学ぶ。

第 4 回 なぜ会計職業倫理が必要か、事例等／Why the Accounting Professional Ethics is necessary , by the lecture and case study mini report , discussion.

まず倫理学と会計職業倫理の内容（理論、法令、実務）の概要の説明、具体例について学ぶ。

第 5 回 過去の不正事例によるグループ別ディスカッションとミニレポート作成／The past case study mini report , discussion.

講義をふまえ具体的事例にかんするグループ別ディスカッション、ミニレポートを作成して、考える。

第 6 回 中間におけるレポートの作成、総合解説／The Interim Report and synthetic explanation.

講義にもとづき、事前に中間レポートを作成いただき、総合解説をおこなう。

第 7 回 倫理学の基本、倫理とは、倫理学とは、事例等／The Base of Ethics , by the lecture and case study mini report , discussion.

アリストテレスなど倫理学、各種の思想、各分野の倫理（医療、法曹、会計職業倫理等）、具体例を学ぶ。

第 8 回 会計職業倫理における主なテーマ、事例等／The main theme about the Accounting Professional Ethics , by the lecture and case study mini report , discussion.

主なテーマであるプロフェッション、独立性、正当な注意、品質保持など、具体例、事例を学ぶ。

第 9 回 法令、規則における会計職業倫理（1）、事例等／The Accounting Professional Ethics on the laws and Regulations , by the lecture and case study mini report , discussion. (1)

なぜ法令、規則が必要か、倫理規則の 1 章. 総則の内容を説明、具体例、事例を学ぶ。

第 10 回 法令、規則における会計職業倫理（2）、事例等／The Accounting Professional Ethics on the laws and Regulations , by the lecture and case study mini report , discussion. (2)

問題が生じた時、概念的枠組みアプローチ等による判断を説明、具体例、事例を学ぶ。

第 11 回 監査法人の実務における会計職業倫理の取組（1）、事例等／The Accounting Professional Ethics in the accounting firm , by the lecture and case study mini report , discussion. (1)

監査法人等の実務における監査業務、会計職業倫理にかんする取組、具体例、事例を学ぶ。

第 12 回 監査法人の実務における会計職業倫理の取組（2）、事例等／The Accounting Professional Ethics in the accounting firm , by the lecture and case study mini report , discussion. (2)

監査法人等の実務における取組で、特に組織風土、品質管理、研修などの具体例、事例を学ぶ。

第 13 回 企業内会計士の会計職業倫理、事例等／The Accounting Professional Ethics about Professional Accountants in Business , by the lecture and case study mini report , discussion and role playing.

企業で働く企業内会計士の会計職業倫理は何かを説明、具体例でロールプレイングもしながら学ぶ。

第 14 回 過去の不正事例等によるグループ別ディスカッションとミニレポート作成／The past case study mini report , discussion.

講義をふまえ過去の不正事例にたいしグループ別ディスカッション、ミニレポートの作成をする。

第15回 期末におけるレポートの作成、総合解説／The final report and synthetic explanation.
 これまでの全ての講義をふまえ、事前に期末レポート作成いただき、総合解説をおこなう。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] : 日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] : 成績評価方法

講義への参加、貢献（発言等）とグループ別ディスカッション、ミニレポート作成提出（50%）、中間・期末レポートの作成提出（50%）で評価する。

AA(90 点以上)、A(80 点以上 90 点未満)、B(70 点以上 80 点未満)、C(60 点以上 70 点未満)、D(60 点未満：不合格)

なお、レポートの評価基準は、①理解の正確性、②論点的確性と網羅性、③論文の的確性とする。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

教科書および参考書	会計大学院「職業倫理」研究会（著）	同文館出版	2023年
-----------	-------------------	-------	-------

標準テキスト会計専門職の職業倫理

『公認会計士倫理読本一国際的な信認を得るための鍵会計プロフェッションの信頼の礎（平成28年増補版）』	八田進二	財経詳報社	2016年
--	------	-------	-------

『会計プロフェッションの職業倫理—教育・研修の充実を目指して（日本監査研究学会リサーチ・シリーズ）』	藤沼亜紀（編著）	同文館出版	2012年
--	----------	-------	-------

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

授業時間外学修

第1回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第2回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第3回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第4回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第5回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第6回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第7回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第8回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第9回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第10回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第11回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第12回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第13回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第14回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

第15回目

予習：レジメに事前に目を通して難しいと考えられる内容が何かを把握しておく。 復習：レジメの重要部分と考えるページを再度読み十分に理解する。

10. その他 [In addition] :

その他

この講義を受講するために必要となる知識：会計に関する基本知識があることが望ましい。
すべての授業をオンラインオンデマンドで行う。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomコード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>)内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて確認すること(要 東北大 ID)

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)15～0時間です。

ビジネス・コミュニケーション/Business Communication

担当教員 [Instructor]: NGUYEN KIM NGAN/NGUYEN KIM NGAN

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 水曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ECM630E, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

This course provides students with essential skills and techniques to communicate confidently and effectively in diverse business situations. The curriculum covers a wide range of topics, starting from the basics of communication techniques for spontaneous talks to advanced negotiation strategies. Students will engage in various activities designed to improve their assertiveness, business writing, presentation abilities, and teamwork.

We will use Google Classroom (gcnm3mv) as the main tool for announcing updates, distributing assignments, etc.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

By the end of this course, students are expected to achieve the following goals:

1. Understand assertiveness and techniques for effective communication, enabling them to express ideas confidently and clearly in various business contexts.
2. Master essential skills in Business Writing, Presentation, Constructive Feedback, Teamwork, communication in business Meetings, Networking, and Negotiation.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

To achieve the learning goals, the lecturer will deliver lectures while students engage in discussions and present their group ideas during each class.

Week 1: Introduction
 Week 2: Assertiveness & communication planning
 Week 3: Business Writing 1- Design principles
 Week 4: Business Writing 2- Drafting & Revising
 Week 5: Business presentation 1- Rhetoric and Public Speaking
 Week 6: Business presentation 2- Presentation preparation
 Week 7: Giving constructive feedback
 Week 8: Mid-term: student presentations
 Week 9: Team Communication 1 - Planning
 Week 10: Team Communication 2- Conflict & Problem solving
 Week 11: Business Meetings
 Week 12: Business Networking
 Week 13: Business Negotiation
 Week 14: Presentation Preparation
 Week 15: Group presentation

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

English (Instruction and classroom discussion). (日本語での質問、相談も可能。)

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

Attendance: 20% Presentations for group discussions: 20% Homework: 30%
 Individual presentation: 15% Group presentation: 15%

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

Essentials of Business Communication-E-Book, 011 Edition, Kindle Edition	Mary Ellen Guffey & Dana Loewy	Cengage	2018	ISBN: 978-1-337-38649-4	Textbook
--	--------------------------------	---------	------	-------------------------	----------

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

Week 1:
 - Review lecture notes and discussion topics.

- Complete and submit homework assignment.
- Week 2:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 3:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 4:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 5:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 6:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 7:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit presentation slides.
- Week 8:
 - Review feedback for presentations for future improvement.
- Week 9:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Initial group project meeting: Discuss project topics, scope, roles, and responsibilities.
- Week 10:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 11:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 12:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 13:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 14:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit presentation slides.
- Week 15:
 - Review lecture notes, discussion topics, and feedback for presentations for future improvement.

10. その他 [In addition] :

Materials will be distributed by Google Classroom / email.
 Email: nguyen.kim.ngan.c2@tohoku.ac.jp

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて
 確認すること (要 東北大 ID)

ビジネス・プレゼンテーション/Business Presentation

担当教員 [Instructor]: NGUYEN KIM NGAN/NGUYEN KIM NGAN

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 月曜日 5 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ECM631E, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

This course is designed to equip students with the essential skills required to create and deliver compelling presentations in a professional setting. It covers various topics, including audience analysis, content development, visual aids, and delivery techniques. Throughout the course, students will have opportunities for feedback and revision, enabling them to refine their presentations through peer evaluations and constructive criticism.

We will use Google Classroom (hg5eewq) as the main tool for announcing updates, distributing assignments, etc.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

By the end of this course, students are expected to achieve the following goals:

1. Understand audience needs and utilize visual aids to develop structured content.
2. Master delivery techniques to present professionally and confidently.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

To achieve the learning goals, the lecturer will deliver lectures while students engage in discussions and present their group ideas during each class.

Week 1: Introduction

Week 2: Audience analysis & Presentation Purpose

Week 3: Content 1: Structure & Content development

Week 4: Content 2: Get feedback to revise

Week 5: Slide Designs 1- Visual Aids

Week 6: Slide Designs 2- Get feedback to revise

Week 7: Delivery techniques

Week 8: Give the constructive feedbacks

Week 9: Presentation 1- Practice & review

Week 10: Presentation 1- Evaluated

Week 11: Advanced presentation 1 - Content development

Week 12: Advanced presentation 2 - Feedback

Week 13: Presentation 2- Practice & review

Week 14: Presentation 2- Evaluated

Week 15: Summary of learnings and suggestions for future study

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

English (Instruction and classroom discussion). (日本語での質問、相談も可能。)

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

Attendance: 15% Presentations for group discussions: 15% Homework: 15%
Presentation 1: 25%

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

Week 1:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Complete and submit homework assignment.

Week 2:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Complete and submit homework assignment.

Week 3:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Complete and submit homework assignment.

Week 4:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Complete and submit homework assignment.

Week 5:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Complete and submit homework assignment.

Week 6:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Complete and submit homework assignment.

Week 7:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Complete and submit homework assignment.

Week 8:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Complete and submit presentation slides.

Week 9:

- Review feedback for improvement.
- Revise and submit presentation slides.

Week 10:

- Review feedback & the best practices for future improvement.
- Select the topic for presentation 2.

Week 11:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Complete and submit homework assignment.

Week 12:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Complete and submit presentation slides.

Week 13:

- Review lecture notes and discussion topics.
- Revise and submit presentation slides.

Week 14:

- Review feedback & the best practices for future improvement.
- Complete and submit homework assignment.

Week 15:

- Review lecture notes, discussion topics, and feedback for presentations for future improvement.

10. その他 [In addition] :

There is no textbook. Materials will be distributed by Google Classroom / email.

Email: nguyen.kim.ngan.c2@tohoku.ac.jp

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

ビジネス・コミュニケーション/Business Communication

担当教員 [Instructor]: NGUYEN KIM NGAN/NGUYEN KIM NGAN

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 金曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ECM630E, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

This course provides students with essential skills and techniques to communicate confidently and effectively in diverse business situations. The curriculum covers a wide range of topics, starting from the basics of communication techniques for spontaneous talks to advanced negotiation strategies. Students will engage in various activities designed to improve their assertiveness, business writing, presentation abilities, and teamwork.

We will use Google Classroom (s74h55d) as the main tool for announcing updates, distributing assignments, etc.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

By the end of this course, students are expected to achieve the following goals:

1. Understand assertiveness and techniques for effective communication, enabling them to express ideas confidently and clearly in various business contexts.
2. Master essential skills in Business Writing, Presentation, Constructive Feedback, Teamwork, communication in business Meetings, Networking, and Negotiation.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

To achieve the learning goals, the lecturer will deliver lectures while students engage in discussions and present their group ideas during each class.

Week 1: Introduction
 Week 2: Assertiveness & communication planning
 Week 3: Business Writing 1- Design principles
 Week 4: Business Writing 2- Drafting & Revising
 Week 5: Business presentation 1- Rhetoric and Public Speaking
 Week 6: Business presentation 2- Presentation preparation
 Week 7: Giving constructive feedback
 Week 8: Mid-term: student presentations
 Week 9: Team Communication 1 - Planning
 Week 10: Team Communication 2- Conflict & Problem solving
 Week 11: Business Meetings
 Week 12: Business Networking
 Week 13: Business Negotiation
 Week 14: Presentation preparation
 Week 15: Group presentation

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

English (Instruction and classroom discussion). (日本語での質問、相談も可能。)

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

Attendance: 20% Presentations for group discussions: 20% Homework: 30%
 Individual presentation: 15% Group presentation: 15%

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

Essentials of Business Communication-E-Book, 011 Edition, Kindle Edition	Mary Ellen Guffey & Dana Loewy	Cengage	2018	ISBN: 978-1-337-38649-4	Textbook
--	--------------------------------	---------	------	-------------------------	----------

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

Week 1:
 - Review lecture notes and discussion topics.

- Complete and submit homework assignment.
- Week 2:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 3:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 4:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 5:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 6:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 7:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit presentation slides.
- Week 8:
 - Review feedback for presentations for future improvement.
- Week 9:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Initial group project meeting: Discuss project topics, scope, roles, and responsibilities.
- Week 10:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 11:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 12:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 13:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit homework assignment.
- Week 14:
 - Review lecture notes and discussion topics.
 - Complete and submit presentation slides.
- Week 15:
 - Review lecture notes, discussion topics, and feedback for presentations for future improvement.

10. その他 [In addition] :

Materials will be distributed by Google Classroom / email.
 Email: nguyen.kim.ngan.c2@tohoku.ac.jp

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etusad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて
 確認すること (要 東北大 ID)

英文外書講読 b/Academic Reading b

担当教員 [Instructor] : 未定/TBD

曜日・講時 [Day/Period] : 後期 火曜日 4 講時

対象学年 [Eligible Participants] : 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-MAN604J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義の目的は、国際機関や欧米の政府機関が公表している経済・金融関係についての報告書等（原文）を読み、それらの発行機関等の概要、報告書等が提起する近年の世界経済、金融に関する問題などを理解することである。なお、本講義は「英語」自体を学習するものではないので、その点については十分に注意すること。

The aim of this lecture is to read the publications/reports on the recent economic and financial issues published by the international organizations and US/EU administrations. And students will understand about the organizations, the issues and insights addressed in the publications. Please note that this lecture does not teach "English" itself.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

国際機関や欧米の政府機関が公表している経済・金融関係についての報告書等（原文）の読解に必要な基礎知識を修得する。近年の世界経済情勢を理解する。

Students acquire basic knowledge about the publications/reports on the recent economic and financial issues published by the international organizations and US or EU administrations, and also understand the recent economic topics.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回 オリエンテーション/Orientation

本授業の概要、進め方、参考資料として使用する各報告書等、成績評価等について説明する。

第2回 日本銀行・展望レポート（英訳版）等の理解。発表の仕方の説明/Reading Outlook for Economic

Activity and Prices(English version), Bank of Japan, and explain how each student will make a presentation.

第2回までに、教員が第3～15回の発表用として、各受講者に担当する各報告書を割当てる。受講者は、各回の講義で担当する報告書（全文ではない。授業で扱う範囲は教員より指定する）の概要や自身の考えについて発表用の資料を作成の上、発表を行う。また、発表する資料の範囲以外においても、受講者に資料の音読と英文和訳してもらいながら、資料の内容について理解する形式で進める。受講生は全ての回で、発表内容等の議論に参加する。

Instructor will assign the publications to the students, and students should make presentations on the assigned publication in each session (from session 3 to session 15). All students should participate in reading and translation parts, and discussions in each session, and understand its contents.

授業内容および進め方は受講生の理解度、進捗状況、受講生の人数によって変更される場合もある。

第3回から 15 回まで予定している各報告書（英語原文、なお、最新のものではなく教員が指定する年月日に発行したものを使用する予定）は以下の通り。なお、講義の進捗状況によって、変更はあり得る。

Depending on the actual numbers of students, way of progressing and etc, instructor may change the above mentioned format, if necessary.

第3回 IMF：世界経済見通し WEO

第4回 IMF：国際金融安定性報告書 GFSR

第5回 IMF：4条協議文書（対日本）ARTICLE IV consultation(Japan), IMF

第6回 世界銀行：世界経済見通し WB, Global Economic Prospects

第7回 世界銀行：WB, Investigation of Data Irregularities in Doing Business 2018 and Doing Business 2020

第8回 ADB：アジア開発見通し Asian Development Outlook

第9回 AMRO：ASEAN+3 地域経済見通し ASEAN+3 Regional Economic Outlook (AREO)

第10回 米国：一般教書演説 US, The State of the Union Address

第11回 米国：予算教書 US, Budget of the U.S. Government FY2024

第12回 米国：議会予算局 長期財政推計 US, The Long-term Budget Outlook

第13回 米国・FRB：FOMC Statement、Beige Book

第14回 EU：欧州理事会 結論文書 など European Council meeting Conclusions, etc

第15回 G20 首脳会合、G20 財務大臣会合、まとめ など G20 Declaration, reviews etc

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語/Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

・平常点（各回の課題、発言、他の受講生の発表への貢献度）60%、発表内容 40%で評価する。授業を3回以上欠席した場合等には評価の対象外となる。

・AA（90点以上）、A（80点以上90点未満）、B（70点以上80点未満）、C（60点以上70点未満）、D（60点未満；不合格）

60%: assignments and contributions to discussions of each session with exchanging views etc, 40%: presentations

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

全ての資料は各国際機関、政府機関のホームページ上に無料で公表・掲載されている。ただし、授業でしよう予定の資料は、最新のものではなく、教員の準備の必要から特定の年月に発行したものである。事前に Google Classroom に掲載する。そのため、それらを事前に目を通しておくこと。また各ホームページ上で最新の報告書を読み、知識を深めることも推奨する。

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

- ・ウェブサイト上の各国際機関等の資料その他参考となる資料を読んでおくこと。
- ・資料を読み、和訳を行うこと。これは発表資料の作成以外においても行うこと。
- ・資料を読み直し、内容の理解を深めること。

第 1 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：講義後の課題に取り組む。意見交換で得た知見を、次回の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第 2 回目

予習：事前に配布する講義資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次回の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第 3 回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次回の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第 4 回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次回の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第 5 回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次回の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第 6 回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次回の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第 7 回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次回の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第 8 回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次回の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第 9 回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次回の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第 10 回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次回の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第 11 回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次回の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第 12 回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次回の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第 13 回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次回の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第 14 回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：意見交換で得た知見を、次回の講義の議論や自身の発表資料に反映させる準備を行う。

第 15 回目

予習：事前に配布する講義資料・発表者の提出資料に目を通し、講義の概要を把握する。

復習：これまでの配布資料を見直して、各回での議論を参考にしつつ各資料の概要を理解する。

- ・google classroom を使用予定であり、資料等はそこに掲載する。

Instructor will put each session's material on Google Classroom in advance. Students will be recommended to prepare for each lecture by checking them before the session.

Preparation: Be sure to read the materials for each session and think about the points for discussion during the lecture.

Review: Students should utilize the outcomes from the discussions in each session for their presentation materials.

10. その他 [In addition] :

- ・受講者には、担当資料の発表の準備や、担当以外の回においても音読と和訳を実施してもらう。そのため、予習に相当程度の時間が必要となることを理解すること。
- ・経済・金融分野の英語資料を普段読んでいない場合はかなりの時間を費やす必要があることに留意すること。
- ・英語から日本語への対応を目指す科目のため、留学生は、本科目を履修することの必要性について慎重に判断すること。
- ・受講者数によっては、受講数を制限する可能性がある。
- ・対面授業であり、オンライン・オンデマンド配信は行わない。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて
確認すること(要 東北大 ID)

ワークショップ a / Workshop a

担当教員 [Instructor]: 木村 史彦 / FUMIHIKO KIMURA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期 月曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ECM640J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、財務会計・監査等に関連する実際のデータを分析することを通じて、主に財務データ処理能力および（統計的な）分析能力を高めることを目的とします。また、こうした分析に必要な統計、計量経済学に係る最低限の知識の習得も目指します。The purpose of this course is to improve the ability to process and analyze financial data mainly by analyzing actual data related to financial accounting and auditing. We also aim to acquire the minimum knowledge of statistics and econometrics necessary for such analysis.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

データベース・公表データを活用して、自身で財務および財務関連データの分析できるようになること。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回 オリエンテーション / Orientation

講義の概要について説明するとともに、財務データベースの現状について説明する。

第2回 本講義で分析を進めるテーマの概観（利益マネジメントと粉飾） / Overview of the theme

利益マネジメントと粉飾に係る研究を概観する。

第3回 本講義で分析を進めるテーマの概観（会計情報の時系列特性） / Overview of the theme

会計情報の時系列特性に係る研究を概観する。

第4回 本講義で分析を進めるテーマの概観（会計情報の価値関連性） / Overview of the theme

会計情報の価値関連性に係る研究を概観する。

第5回 実証分析の基礎 ① 財務データの収集 / Collecting financial data

財務データの収集・整理の方法を学習する。

第6回 実証分析の基礎 ② 財務データの分析 / Analyzing financial data

財務データの基本的な集計手法について学習する。

第7回 実証分析の基礎 ③ 平均値の差の検定・分散分析 / t-test and analysis of variance

平均値の差の検定および分散分析の手法について学習する

第8回 実証分析の基礎 ④ 単回帰分析 / Simple regression

単回帰分析の手法について学習する

第9回 実証分析の基礎 ⑤ 重回帰分析 / Multiple regression

重回帰分析の手法について学習する

第10回 実証分析の実践 ① / Practice (1)

実習課題に取り組む

第11回 実証分析の実践 ② / Practice (2)

実習課題に取り組む

第12回 実証分析の実践 ③ / Practice (3)

実習課題に取り組む

第13回 成果報告とディスカッション ① / Discussion (1)

実習課題の成果を報告し、討論する。

第14回 成果報告とディスカッション ② / Discussion (2)

実習課題の成果を報告し、討論する。

第15回 成果報告とディスカッション ③ / Discussion (3)

実習課題の成果を報告し、討論する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

報告 (50%), レポート (50%) により評価する

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

会計学の手法<第2版>

田村威文等

中央経済社

2021

978-4-502-37931-4

参考書

8. 関連 URL [URL]:

Classroom (資料等の配付はこちらより実施します)

<https://classroom.google.com/c/NzQ5MjQ5OTk0TU5?cjc=fndzsz7>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

(発表を伴わない講義回)

予習：事前にアサインメントを提示する

復習：宿題（課題）を提示するので、それに取り組む

(発表を伴う講義回)

予習：発表の準備を実施する

復習：コメントをふまえ、レポート等を修正する

10. その他 [In addition] :

- ・本科目はビジネスアカウンティングコースの方を対象として開講されますが、受講者上限の範囲内である場合には、他コースの方の受講も認めます。
- ・実習を伴うため、受講者数に制限をかける可能性があります。
- ・講義内容および進め方は受講生の理解度や人数に応じて変更します。また、具体的に扱うテーマは、第1回講義時に学生と協議して決定する。
- ・ファイルのやりとりや連絡はClassroomを通じて実施します（関連 URL 参照）。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

ワークショップ b / Workshop b

担当教員 [Instructor]: 亀岡 恵理子 / ERIKO KAMEOKA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 月曜日 6 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ECM641J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、すでに公認会計士・監査法人が行う財務諸表監査を学んでいることを前提として、財務諸表監査のトピックに関連する指定した監査文献を輪読し、内容について議論する。本年度は主に、会計上の見積りの監査を主要テーマに、関連して他の専門家やテクノロジーを利用した会計・監査に関する論文をピックアップしている。

This course assumes prior knowledge of financial statement audits conducted by certified public accountants and audit firms. Students will read and discuss selected auditing literature on key topics in financial statement auditing.

This year, the main focus is on auditing accounting estimates. Additionally, the course will cover research papers on the use of experts and technology in audits.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

以下を到達目標とする。

- ・学術コミュニティの一員として、監査トピックに関する学術的知識を得ること
- ・様々な英語論文を読み、研究方法の強み・弱みを理解し、内容を要約する能力を得ること
- ・論文を批判的に読み、そこから自己の問題意識を育むこと

The learning goals are as follows:

- ・Gain academic knowledge on auditing topics as a member of the academic community.
- ・Develop the ability to read, understand, and summarize various English research papers.
- ・Critically analyze research papers and cultivate one's own research questions.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回 オリエンテーション / Orientation

講義の進め方を説明し、受講者の興味あるトピックを共有します

第2回 文献輪読と議論 / Reading and Discussion

Griffith, E. E., Hammersley, J. S. & Kadous, K. (2015). Audits of Complex Estimates as Verification of Management Numbers: How Institutional Pressures Shape Practice. *Contemporary Accounting Research*, 32(3), 833-863.

第3回 文献輪読と議論 / Reading and Discussion

Glover, S. M., Taylor, M. H., & Wu, Y.-J. (2017). Current Practices and Challenges in Auditing Fair Value Measurements and Complex Estimates: Implications for Auditing Standards and the Academy. *Auditing: A journal of Practice & Theory*, 36(1), 63-84.

第4回 文献輪読と議論 / Reading and Discussion

Griffith, E. E., Kadous, K., & Young, D. (2021). Improving Complex Audit Judgments: A Framework and Evidence. *Contemporary Accounting Research*, 38(3), 2071-2104.

第5回 文献輪読と議論 / Reading and Discussion

Griffith, E. E., Hammersley, J. S. & Kadous, K. (2015). Auditor Mindsets and Audits of Complex Estimates. *Journal of Accounting Research*, 53(1), 49-77.

第6回 進捗調整 / Progress adjustment

必要に応じて進捗調整を行い、第2回から第5回までの内容を振り返ります

第7回 文献輪読と議論 / Reading and Discussion

Estep, C., Griffith, E. E., & MacKenzie, N. L. (2024). How Do Financial Executives Respond to the Use of Artificial Intelligence in Financial Reporting and Auditing? *Review of Accounting Studies*, 29, 2798-2831.

第8回 文献輪読と議論 / Reading and Discussion

Bucaro, A. C., Wilks, T. J., & Yust, C. G. (2024). Current Issues Faced by Controllers. *Accounting Horizons*, 38(4), 31-49.

第9回 文献輪読と議論 / Reading and Discussion

Bauer, T. D., Estep, C., & Malsch, B. (2019). One Team or Two? Investigating Relationship Quality between Auditors and IT Specialists: Implications for Audit Team Identity and the Audit Process. *Contemporary Accounting Research*, 36(4), 2142-2177.

第10回 文献輪読と議論 / Reading and Discussion

Gold, A., Kadous, K., & Leiby, J. (2024). Does Status Equal Substance? The Effects of Specialist Social Status on Auditor Assessments of Complex Estimates. *Accounting Review*, 99(5), 197-222.

第11回 文献輪読と議論 / Reading and Discussion

Commerford, B. P., Dennis, S. A., Joe, J. R., & Ulla, J. W. (2022). Man Versus Machine: Complex Estimates and Auditor Reliance on Artificial Intelligence. *Journal of Accounting Research*, 60(1), 171-201.

第12回 進捗調整 / Progress adjustment

必要に応じて進捗調整を行い、第7回から第12回までの内容を振り返ります

第13回 文献輪読と議論 / Reading and Discussion

受講者の関心のある論文を取り上げ議論します

第14回 文献輪読と議論 / Reading and Discussion

受講者の関心のある論文を取り上げ議論します

第15回 研究構想 / Report and Presentation Research Proposal

文献輪読を通じて得た問題意識をもとに、研究計画を立案し発表してもらいます

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

平常点 100%によって評価する

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

Bhattacharjee, A. 2012.
Social Science Research:
Principles, Methods, and
Practices.

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習 :

各講義、必ず事前に指定の論文を読み、内容を要約する資料を用意してきてください。

復習 :

各講義、ディスカッションした内容を復習し、必要に応じて関連する論文を探してください。

10. その他 [In addition] :

監査 1 および監査 2 を受講済であることが望ましい。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて
確認すること(要 東北大 ID)

プロジェクト調査 (財務諸表) a / Project Research (Financial Statements) a

担当教員 [Instructor]: 尾関 規正 / NORIMASA OZEKI

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC640J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、財務会計や監査に関する実証研究を主な対象として、先行研究で明らかになっている知見や将来に向けた課題を調査するとともに、適切な研究手法を学習することを目的とします。

The purpose of this course is to review the previous studies and to understand the findings and issues for the future, focusing primarily on empirical research in financial accounting and auditing, and to learn the research methods.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

目標は、学生の関心のあるテーマに関する先行研究で明らかになっている知見やまだわかっていない課題を明らかにするとともに、適切な研究手法を学習することである。

The goal is to clarify findings from previous literature on topics of interest to the students, to identify his/her research questions, and to learn research methods for that.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

授業は対面により行います。なお、詳細は Google Classroom でお知らせします。

各回の授業では、事前に設定された課題に対して、受講者が調査した内容を報告し、担当教員や他の受講者と報告内容について議論します。必要に応じて、担当教員が内容を補足します。

受講者は各回の授業で報告をするための報告資料を作成します。授業での報告を終えた後、得られたコメントを踏まえて報告資料を改訂するとともに、次の回の課題の調査に取り組みます。

教科書は使用しません。参考となる文献については受講者の関心に応じて講義の中で指示します。

なお、授業は受講者と担当教員が相談しながら、各受講者の理解度に応じて進めます。

授業は概ね以下に沿って行います。なお、進度については受講者と相談して決定します。

- ・受講者が自身の関心のあるテーマを決め、そのテーマに関する先行研究を調査し、研究動向や研究手法を理解します。
- ・また、先行研究を通じて既知の内容と残された課題を体系的に整理し、自身の問題意識や仮説を明確にしながら、自身の問題意識や仮説に対する分析に必要な研究手法を学習します。
- ・学期の終わりに、本講義を通じて報告した内容をまとめた課題レポートを提出します。

Classes will be face-to-face. Details will be announced via Google Classroom.

In each class, students will report on their research on their own topics and discuss their reports with other students. If necessary, I will provide supplementary explanations for the report.

Students will prepare materials for their reports before each class. After reporting in class, students will revise and resubmit their report materials based on the comments received.

I will not use textbooks for this course. Reference materials will be shown in class based on student interest. The class will be conducted according to each student's level of understanding.

Classes will be conducted according to the following. The progression of the course will be decided in consultation with the students.

- ・Students will choose a research topic of their own interest and review previous literature on the topic to understand research trends and methods.
- ・Students will systematically review previous literature for what is known from previous research and for remaining open questions, identify their own research question and hypotheses, and learn the research methods to analyze their own research question and hypotheses.
- ・At the end of the semester, students will submit an assignment report summarizing what they have reported in this course.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語 / Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

報告、報告資料、他の報告に対するコメント、期末レポートにもとづいて評価します。

AA (90 点以上)、A (80 点以上 90 点未満)、B (70 点以上 80 点未満)、C (60 点以上 70 点未満)、D (60 点未満; 不合格)。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

授業時間前までに、授業において調査内容を報告する準備を行い、報告資料を作成します。また、他の履修者の報告にコメントする事前準備を行います。

授業時間の後は、授業内で受けたコメントを踏まえて報告資料を改訂して提出します。

10. その他 [In addition] :

この講義では財務会計や監査に関する基礎知識を前提とします。また、実証研究の理解に必要な統計学、経済学（特に計量経済学）、ファイナンスの基礎的な知識、および、英文読解力があると、文献調査を進める際に役立ちます。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etusasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

プロジェクト調査 (財務諸表) b/Project Research (Financial Statements)b

担当教員 [Instructor]: 尾関 規正/NORIMASA OZEKI

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC641J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、財務会計や監査に関する実証研究を主な対象として、先行研究で明らかになっている知見や将来に向けた課題を調査するとともに、適切な研究手法を学習することを目的とします。

The purpose of this course is to review the previous studies and to understand the findings and issues for the future, focusing primarily on empirical research in financial accounting and auditing, and to learn the research methods.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

目標は、学生の関心のあるテーマに関する先行研究で明らかになっている知見やまだわかっていない課題を明らかにするとともに、適切な研究手法を学習することである。

The goal is to clarify findings from previous literature on topics of interest to the students, to identify his/her research questions, and to learn research methods for that.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

授業は対面により行います。なお、詳細は Google Classroom でお知らせします。

各回の授業では、事前に設定された課題に対して、受講者が調査した内容を報告し、担当教員や他の受講者と報告内容について議論します。必要に応じて、担当教員が内容を補足します。

受講者は各回の授業で報告をするための報告資料を作成します。授業での報告を終えた後、得られたコメントを踏まえて報告資料を改訂するとともに、次の回の課題の調査に取り組みます。

教科書は使用しません。参考となる文献については受講者の関心に応じて講義の中で指示します。

なお、授業は受講者と担当教員が相談しながら、各受講者の理解度に応じて進めます。

授業は概ね以下に沿って行います。なお、進度については受講者と相談して決定します。

- ・受講者が自身の関心のあるテーマを決め、そのテーマに関する先行研究を調査し、研究動向や研究手法を理解します。
- ・また、先行研究を通じて既知の内容と残された課題を体系的に整理し、自身の問題意識や仮説を明確にしながら、自身の問題意識や仮説に対する分析に必要な研究手法を学習します。
- ・学期の終わりに、本講義を通じて報告した内容をまとめた課題レポートを提出します。

Classes will be face-to-face. Details will be announced via Google Classroom.

In each class, students will report on their research on their own topics and discuss their reports with other students. If necessary, I will provide supplementary explanations for the report.

Students will prepare materials for their reports before each class. After reporting in class, students will revise and resubmit their report materials based on the comments received.

I will not use textbooks for this course. Reference materials will be shown in class based on student interest. The class will be conducted according to each student's level of understanding.

Classes will be conducted according to the following. The progression of the course will be decided in consultation with the students.

- ・Students will choose a research topic of their own interest and review previous literature on the topic to understand research trends and methods.
- ・Students will systematically review previous literature for what is known from previous research and for remaining open questions, identify their own research question and hypotheses, and learn the research methods to analyze their own research question and hypotheses.
- ・At the end of the semester, students will submit an assignment report summarizing what they have reported in this course.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語 / Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

報告、報告資料、他の報告に対するコメント、期末レポートにもとづいて評価します。

AA (90 点以上)、A (80 点以上 90 点未満)、B (70 点以上 80 点未満)、C (60 点以上 70 点未満)、D (60 点未満; 不合格)。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

授業前は、授業において調査内容を報告する準備を行い、報告資料を作成します。また、他の履修者の報告にコメントする事前準備を行います。

授業後は、授業内で受けたコメントを踏まえて報告資料を改訂して提出します。

10. その他 [In addition] :

この講義では財務会計や監査に関する基礎知識を前提とします。また、実証研究の理解に必要な統計学、経済学（特に計量経済学）、ファイナンスの基礎的な知識や英文読解力があると文献調査を進める際に役立ちます。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

プロジェクト研究（財務諸表） a/Project Study (Financial Statements)a

担当教員 [Instructor]: 尾関 規正/NORIMASA OZEKI

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC642J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、財務会計や監査を主な対象領域とした研究テーマに基づいて、受講者がリサーチ・ペーパーを執筆することを目的とします。

The objective of this course is for students to write a research paper based on a research topic with a focus on financial accounting and auditing.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

目標は、受講者が自身の研究テーマに基づいて、リサーチ・ペーパーを執筆することである。

The goal is for students to write a research paper based on their own research topic.

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

授業は対面により行います。なお、詳細はGoogle Classroomでお知らせします。
受講者が自身の研究テーマに沿ってリサーチ・ペーパーを執筆し、各回においてその進捗を報告します。リサーチ・ペーパーの内容について担当教員との議論を通じて疑問を解消し、改訂すべきポイントを特定します。
受講者は各回の授業での報告を通じてリサーチ・ペーパーの内容に必要な先行研究のレビュー、仮設の設定、分析、結果の検討を段階的に行ったうえで、原稿を執筆します。

なお、教科書は指定しません。授業において受講者の関心に応じた参考文献を指示します。また、授業は受講者と担当教員が相談しながら、各自の理解度に応じて進めます。

Classes will be face-to-face. Note that I will post details in Google Classroom.
Students will write a research paper on their own research topic and report on their progress in each class session. Students will also discuss their research papers in order to resolve any questions and identify revisions.
Students will review previous literature, develop hypotheses, analyze, and discuss the results of the research paper step by step through the reports in each class session, and then write the paper.

I do not use textbooks in this course. References will be provided based on student interest. The course will be conducted in consultation with the students and the instructor, according to each student's level of understanding of research skills.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語 / Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb）については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。
リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa）は、提出されたリサーチ・ペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連URL [URL]:

本講義のクラスルームのクラスコードは「gwawmw3」です。
<https://classroom.google.com/c/NjYxNjgyNzA3MjU3>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

授業では受講者が事前に準備したリサーチ・ペーパーの原稿に沿って報告を進めます。このため授業の前はリサーチ・ペーパーの原稿を事前に準備する必要があります。授業後は、授業中の報告に対して受けたコメントを踏まえて原稿の内容を再検討し、改訂します。

10. その他 [In addition]:

財務会計や監査に関する基礎知識を前提として授業を進めます。また、実証研究を行うための統計学、経済学、（特に計量経済学）、ファイナンスの基礎知識、先行研究を調査するための英文読解力と、論文やレポートを執筆するためのライティング

スキルを前提とします。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて
確認すること(要 東北大 ID)

プロジェクト研究 (財務諸表) b/Project Study (Financial Statements)b

担当教員 [Instructor]: 尾関 規正/NORIMASA OZEKI

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC643J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、財務会計や監査を主な対象領域とした研究テーマに基づいて、受講者がリサーチ・ペーパーを執筆することを目的とします。

The objective of this course is for students to write a research paper based on a research topic with a focus on financial accounting and auditing.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

目標は、受講者が自身の研究テーマに基づいて、リサーチ・ペーパーを執筆することである。

The goal is for students to write a research paper based on their own research topic.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

授業は対面により行います。なお、詳細は Google Classroom でお知らせします。

受講者が自身の研究テーマに沿ってリサーチ・ペーパーを執筆し、各回においてその進捗を報告します。リサーチ・ペーパーの内容について担当教員との議論を通じて疑問を解消し、改訂すべきポイントを特定します。

受講者は各回の授業での報告を通じてリサーチ・ペーパーの内容に必要な先行研究のレビュー、仮設の設定、分析、結果の検討を段階的に行ったうえで、原稿を執筆します。

なお、教科書は指定しません。授業において受講者の関心に応じた参考文献を指示します。また、授業は受講者と担当教員が相談しながら、各自の理解度に応じて進めます。

Classes will be face-to-face. Note that I will post details in Google Classroom. Students will write a research paper on their own research topic and report on their progress in each class session. Students will also discuss their research papers in order to resolve any questions and identify revisions. Students will review previous literature, develop hypotheses, analyze, and discuss the results of the research paper step by step through the reports in each class session, and then write the paper.

I do not use textbooks in this course. References will be provided based on student interest. The course will be conducted in consultation with the students and the instructor, according to each student's level of understanding of research skills.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語 / Japanese

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者は a、10月入学者は b) については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者は b、10月入学者は a) は、提出されたリサーチ・ペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員 2 名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

授業では受講者が事前に準備したリサーチ・ペーパーの原稿に沿って報告を進めます。このため授業の前はリサーチ・ペーパーの原稿を事前に準備する必要があります。授業後は、授業中の報告に対して受けたコメントを踏まえて原稿の内容を再検討し、改訂します。

10. その他 [In addition]:

財務会計や監査に関する基礎知識を前提として授業を進めます。また、実証研究を行うための統計学、経済学 (特に計量経済学)、ファイナンスの基礎知識、先行研究を調査するための英文読解力、論文やレポートを執筆するためのライティングスキルを前提とします。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて
確認すること(要 東北大 ID)

プロジェクト調査 (財務会計) a/Project Research (Financial Accounting)a

担当教員 [Instructor]: 吉永 裕登/YUTO YOSHINAGA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC644J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本演習の目的は、自身の関心に基づく研究テーマでリサーチ・ペーパーを作成する準備を行うことです。

The purpose of this seminar is to prepare for your research paper on your interested research topics.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパー執筆の前提となる知識や技法を習得することができる。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第15回 リサーチペーパーに関する発表と議論/Presentations and discussions on research papers

研究の進捗状況を報告してもらい、議論や相談、アドバイス、コメントを行うことにします。

I ask you to report on the progress of your research to discuss, consult, advise, and comment on it.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

平常点 (議論への参加、報告、報告資料によって評価) (100%)

自身の研究に関する進捗報告、議論、リサーチ・ペーパー等の出来栄を、強く成績評価に反映させる予定です。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

予習:

発表者は、当日発表できるように報告資料をまとめてください。

復習:

受けたコメントや質問をリサーチペーパーの進展に役立ててください。

10. その他 [In addition]:

基本的に吉永の専門分野である財務会計分野ないしファイナンス分野の実証研究を指導対象とします。履修者の希望するリサーチ・ペーパーのテーマが専門外であった場合、吉永との相談の上で (できれば、自身の指導教員とも相談した上で)、許可を受けた場合、履修できます。ただし、その場合、専門外の立場からの指導になることを了承してください。受講に当たっては予め担当教員にメールで連絡すること。なお、本科目は主として「会計リサーチコース」の学生を対象とします。公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースの学生が受講を希望する場合は、事前にその点を申し出ること。なお、講義内容の性格上、受講者との調整の下、授業日程を決定します。

この講義を受講するために必要となる知識:

- ・きちんとリサーチ・ペーパーを書き上げようとする熱意。
- ・リサーチ・ペーパーを書くための時間管理能力と自律心。
- ・手厳しいコメントに耐える精神力。
- ・レポートや発表資料を作成し、Google Meet を使うための IT リテラシー。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

プロジェクト調査 (財務会計) b/Project Research (Financial Accounting)b

担当教員 [Instructor]: 吉永 裕登/YUTO YOSHINAGA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC645J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本演習の目的は、自身の関心に基づく研究テーマでリサーチ・ペーパーを作成する準備を行うことです。

The purpose of this seminar is to prepare for your research paper on your interested research topics.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパー執筆の前提となる知識や技法を習得することができる。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第15回 リサーチペーパーに関する発表と議論/Presentations and discussions on research papers

研究の進捗状況を報告してもらい、議論や相談、アドバイス、コメントを行うことにします。

I ask you to report on the progress of your research to discuss, consult, advise, and comment on it.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

平常点 (議論への参加、報告、報告資料によって評価) (100%)

自身の研究に関する進捗報告、議論、リサーチ・ペーパー等の出来栄を、強く成績評価に反映させる予定です。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

予習:

発表者は、当日発表できるように報告資料をまとめてください。

復習:

受けたコメントや質問をリサーチペーパーの進展に役立ててください。

10. その他 [In addition]:

基本的に吉永の専門分野である財務会計分野ないしファイナンス分野の実証研究を指導対象とします。履修者の希望するリサーチ・ペーパーのテーマが専門外であった場合、吉永との相談の上で (できれば、自身の指導教員とも相談した上で)、許可を受けた場合、履修できます。ただし、その場合、専門外の立場からの指導になることを了承してください。受講に当たっては予め担当教員にメールで連絡すること。なお、本科目は主として「会計リサーチコース」の学生を対象とします。公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースの学生が受講を希望する場合は、事前にその点を申し出ること。なお、講義内容の性格上、受講者との調整の下、授業日程を決定します。

この講義を受講するために必要となる知識:

- ・きちんとリサーチ・ペーパーを書き上げようとする熱意。
- ・リサーチ・ペーパーを書くための時間管理能力と自律心。
- ・手厳しいコメントに耐える精神力。
- ・レポートや発表資料を作成し、Google Meet を使うための IT リテラシー。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

プロジェクト研究（財務会計） a/Project Study (Financial Accounting)a

担当教員 [Instructor]: 吉永 裕登/YUTO YOSHINAGA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC646J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本演習の目的は、自身の関心に基づく研究テーマでリサーチ・ペーパーをまとめることです。

The purpose of this seminar is to complete your research paper on your interested research topics.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパーを完成させる、あるいはリサーチペーパーを完成させられる見込みの高い状態とする。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第15回 リサーチペーパーに関する発表と議論/Presentations and discussions on research papers

研究の進捗状況を報告してもらい、議論や相談、アドバイス、コメントを行うことにします。

I ask you to report on the progress of your research to discuss, consult, advise, and comment on it.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb）については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa）は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

予習:

発表者は、当日発表できるように報告資料をまとめてください。

復習:

受けたコメントや質問をリサーチペーパーの進展に役立ててください。

10. その他 [In addition]:

基本的に吉永の専門分野である財務会計分野ないしファイナンス分野の実証研究を指導対象とします。履修者の希望するリサーチ・ペーパーのテーマが専門外であった場合、吉永との相談の上で（できれば、自身の指導教員とも相談した上で）、許可を受けた場合、履修できます。ただし、その場合、専門外の立場からの指導になることを了承してください。受講に当たっては予め担当教員にメールで連絡すること。なお、本科目は主として「会計リサーチコース」の学生を対象とします。公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースの学生が受講を希望する場合は、事前に申し出ること。なお、講義内容の性格上、受講者との調整の下、授業日程を決定します。

この講義を受講するために必要となる知識:

- ・きちんとリサーチ・ペーパーを書き上げようとする熱意。
- ・リサーチ・ペーパーを書くための時間管理能力と自律心。
- ・手厳しいコメントに耐える精神力。
- ・レポートや発表資料を作成し、Google Meet を使うための IT リテラシー。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

プロジェクト研究（財務会計） b/Project Study (Financial Accounting)b

担当教員 [Instructor]: 吉永 裕登/YUTO YOSHINAGA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC647J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本演習の目的は、自身の関心に基づく研究テーマでリサーチ・ペーパーをまとめることです。

The purpose of this seminar is to complete your research paper on your interested research topics.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパーを完成させる、あるいはリサーチペーパーを完成させられる見込みの高い状態とする。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第15回 リサーチペーパーに関する発表と議論/Presentations and discussions on research papers

研究の進捗状況を報告してもらい、議論や相談、アドバイス、コメントを行うことにします。

I ask you to report on the progress of your research to discuss, consult, advise, and comment on it.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb）については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa）は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

予習:

発表者は、当日発表できるように報告資料をまとめてください。

復習:

受けたコメントや質問をリサーチペーパーの進展に役立ててください。

10. その他 [In addition]:

基本的に吉永の専門分野である財務会計分野ないしファイナンス分野の実証研究を指導対象とします。履修者の希望するリサーチ・ペーパーのテーマが専門外であった場合、吉永との相談の上で（できれば、自身の指導教員とも相談した上で）、許可を受けた場合、履修できます。ただし、その場合、専門外の立場からの指導になることを了承してください。受講に当たっては予め担当教員にメールで連絡すること。なお、本科目は主として「会計リサーチコース」の学生を対象とします。公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースの学生が受講を希望する場合は、事前に申し出ること。なお、講義内容の性格上、受講者との調整の下、授業日程を決定します。

この講義を受講するために必要となる知識:

- ・きちんとリサーチ・ペーパーを書き上げようとする熱意。
- ・リサーチ・ペーパーを書くための時間管理能力と自律心。
- ・手厳しいコメントに耐える精神力。
- ・レポートや発表資料を作成し、Google Meet を使うための IT リテラシー。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

プロジェクト調査（財務諸表分析）a/Project Research (Financial Statements Analysis)a

担当教員 [Instructor]: 木村 史彦/FUMIHIKO KIMURA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC648J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、近年の財務会計研究（主に実証研究）をレビューして、研究テーマの設定、財務・市場データの収集方法、基礎的な分析手法について検討する。ただし、受講者の状況に応じた対応をするので、受講前に相談していただきたい。

In this course, we review recent research on financial accounting research, and discuss the setting of research themes, methods for collecting financial and market data, and basic analytical methods.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパー執筆の前提となる知識や技法を習得することができる。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第6回 主要な実証研究のレビュー/Review of Key Studies

第7回～第9回 財務データの収集方法の理解/Understanding how to collect financial data

第10回～第11回 市場データの収集方法の理解/Understanding how to collect market data and other data

第12回～第15回 データの集計、分析方法の理解/Understanding data aggregation and analysis methods

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

講義内での報告(100%)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

会計学の手法〈第2版〉

田村威文・中條祐介・中央経済社
浅野信博

2021

4-502-
37931-4

参考書

8. 関連 URL [URL]:

Classroom

<https://classroom.google.com/c/NzM3NDUxODg3MzQ3?cjc=zcpair5>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

授業の報告のための準備を実施していただきます。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要となる知識:

本科目は、主として「会計リサーチコース」の学生を対象とする科目である。ただし、公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースの学生で最先端の財務会計研究に関心を寄せる者の受講を受け入れる場合もある（ただし、会計リサーチコースの学生の受入を優先するため、受入ができない場合もある）。なお、講義内容の性格上、受講者との調整の下、授業日程を決定する。

その他連絡事項

受講を希望する場合は、事前に相談頂きたい。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomコード等については、会計大学院学内掲示（<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>）内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

プロジェクト調査 (財務諸表分析) b/Project Research (Financial Statements Analysis)b

担当教員 [Instructor]: 木村 史彦/FUMIHIKO KIMURA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC649J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、近年の財務会計研究（主に実証研究）をレビューして、研究テーマの設定、財務・市場データの収集方法、基礎的な分析手法について検討する。ただし、受講者の状況に応じた対応をするので、受講前に相談していただきたい。

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパー執筆の前提となる知識や技法を習得することができる。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第6回 主要な実証研究のレビュー/Review of Key Studies

第7回～第9回 財務データの収集方法の理解/Understanding how to collect financial data

第10回～第11回 市場データの収集方法の理解/Understanding how to collect market data and other data

第12回～第15回 データの集計、分析方法の理解/Understanding data aggregation and analysis methods

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

講義内での報告(100%)

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

会計学の手法〈第2版〉

田村威文・中條祐介・中央経済社
浅野信博

2021

4-502-
37931-4

参考書

8. 関連 URL [URL]:

Classroom

<https://classroom.google.com/c/NzQ5MjUxODMxMDMz?cjc=kbmhip3>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

授業の報告のための準備を実施していただきます。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要となる知識:

本科目は、主として「会計リサーチコース」の学生を対象とする科目である。ただし、公認会計士コースおよびビジネスアカウンティングコースの学生で最先端の財務会計研究に関心を寄せる者の受講を受け入れる場合もある（ただし、会計リサーチコースの学生の受入を優先するため、受入ができない場合もある）。なお、講義内容の性格上、受講者との調整の下、授業日程を決定する。

その他連絡事項

受講を希望する場合は、事前に相談頂きたい。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomコード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

プロジェクト研究（財務諸表分析） a /Project Study(Financial Statements Analysis)a

担当教員 [Instructor]: 木村 史彦 / FUMIHIKO KIMURA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC650J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、財務会計に関連するリサーチ・ペーパーの作成指導する。テーマについては履修者と相談して決定し、先行研究のレビューやデータの分析方法、執筆方法を詳細に指導する。

In this lecture, I will teach the preparation of research papers related to financial accounting. The theme will be decided in consultation with the students. I will provide detailed guidance on how to review previous studies, analyze data, and write.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパーを完成させる。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第4回 テーマの設定および関連研究のサーベイ/Theme setting and Survey of related research

第5回～第8回 分析モデルの設定/ Test model settings

第9回～第11回 実証分析の実施/ Empirical analysis

第12回～第15回 リサーチ・ペーパーの報告/Reporting of the research paper

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb）については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa）は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

各回での講義で相当程度の準備が必要となる。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要となる知識:

原則として、プロジェクト調査（財務諸表分析）を受講済みであること。

その他:

本科目の受講にあたっては担当教員の承認が必要となる。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomコード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

プロジェクト研究（財務諸表分析） b/Project Study (Financial Statements Analysis)b

担当教員 [Instructor] : 木村 史彦/FUMIHIKO KIMURA

曜日・講時 [Day/Period] : 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 2年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-ACC651J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、財務会計に関連するリサーチ・ペーパーの作成指導する。テーマについては履修者と相談して決定し、先行研究のレビューやデータの分析方法、執筆方法を詳細に指導する。

In this lecture, I will teach the preparation of research papers related to financial accounting. The theme will be decided in consultation with the students. I will provide detailed guidance on how to review previous studies, analyze data, and write.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

修了を予定する semester で受講する履修者についてはリサーチペーパーを完成させることが目標となる。修了を予定する semester の直前の semester で受講する履修者については、リサーチペーパーのテーマを確定させる。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回～第4回 テーマの設定および関連研究のサーベイ/Theme setting and Survey of related research

第5回～第8回 分析モデルの設定/ Test model settings

第9回～第11回 実証分析の実施/ Empirical analysis

第12回～第15回 リサーチ・ペーパーの報告/Reporting of the research paper

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb）については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa）は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

各回での講義で相当程度の準備が必要となる。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識 :

原則として、プロジェクト調査（財務諸表分析）を受講済みであること。

その他 :

本科目の受講にあたっては担当教員の承認が必要となる。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

プロジェクト調査 (管理会計) a/Project Research (Management Accounting)a

担当教員 [Instructor]: 荻原 啓佑/KEISUKE OGIHARA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC652J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、リサーチペーパー執筆の準備として、近年の管理会計研究をレビューするとともに、基礎的な分析方法を修得する。

In this course, students review recent research on management accounting and learn basic analysis methods for the purpose of preparing for research paper.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパー執筆の基礎づけとすべく、関心のあるテーマに関連する先行研究を整理することが目標である。また、可能な限り、先行研究で用いられている分析方法も修得する。最終的には、リサーチペーパーの目的を設定する。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/Orientation

本科目の目的, 受講方法, 成績評価方法を説明する。

第2~第5回: 先行研究の全体的なレビュー/Literature review

受講者が選択した分野やテーマに関する先行研究の概要を整理する。

第6回~第10回: 先行研究の主要な文献に関する詳細な分析・検討/Detailed analysis on closely related literatures

主要な関連研究をいくつかとりあげ, 詳細に検討をおこなう。

第11回~第15回: リサーチペーパーの具体的な目標設定/Setting the objective of research paper

進捗によるが, 可能であればリサーチペーパーの目的を設定する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

報告による平常点 (50%), レポート (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

実務に活かす管理会計のエビデ ンス	加登豊・吉田栄介・新 井康平 (編著)	中央経済社	2022	978- 4502420016	参考書
----------------------	------------------------	-------	------	--------------------	-----

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

第1~第15回

予習: 指定された文献及び自ら選定した文献を読み, 講義中の議論・検討に備える。

復習: 講義での議論・検討をリサーチペーパーの執筆に反映する。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要となる知識:

- ・管理会計や原価計算に関する知識を持っていることが必須である。
- ・統計学についての基礎的な知識を持っていることが望ましい。

その他講義を受講する際注意すべき点:

- ・受講を検討している方は事前に担当教員まで相談すること。
- ・主たる受講者は, 会計リサーチコースの学生を想定している。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

プロジェクト調査 (管理会計) b/Project Research (Management Accounting)b

担当教員 [Instructor]: 荻原 啓佑/KEISUKE OGIHARA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC653J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、リサーチペーパー執筆の準備として、近年の管理会計研究をレビューするとともに、基礎的な分析方法を修得する。

In this course, students review recent research on management accounting and learn basic analysis methods for the purpose of preparing for research paper.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパー執筆の基礎づけとすべく、関心のあるテーマに関連する先行研究を整理することが目標である。また、可能な限り、先行研究で用いられている分析方法も修得する。最終的には、リサーチペーパーの目的を設定する。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: オリエンテーション/Orientation

本科目の目的, 受講方法, 成績評価方法を説明する。

第2～第5回: 先行研究の全体的なレビュー/Literature review

受講者が選択した分野やテーマに関する先行研究の概要を整理する。

第6回～第10回: 先行研究の主要な文献に関する詳細な分析・検討/Detailed analysis on closely related literatures

主要な関連研究をいくつかとりあげ、詳細に検討をおこなう。

第11回～第15回: リサーチペーパーの具体的な目標設定/Setting the objective of research paper

進捗によるが、可能であればリサーチペーパーの目的を設定する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

報告による平常点 (50%), レポート (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

実務に活かす管理会計のエビデンス	加登豊・吉田栄介・新井康平 (編著)	中央経済社	2022	978-4502420016	参考書
------------------	--------------------	-------	------	----------------	-----

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

第1～第15回

予習: 指定された文献及び自ら選定した文献を読み、講義中の議論・検討に備える。

復習: 講義での議論・検討をリサーチペーパーの執筆に反映する。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要となる知識:

- ・管理会計や原価計算に関する知識を持っていることが必須である。
- ・統計学についての基礎的な知識を持っていることが望ましい。

その他講義を受講する際注意すべき点:

- ・受講を検討している方は事前に担当教員まで相談すること。
- ・主たる受講者は、会計リサーチコースの学生を想定している。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

プロジェクト調査（コストマネジメント）a/Project Research (Cost Management)a

担当教員 [Instructor]: 松田 康弘/YASUHIRO MATSUDA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC656J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、リサーチペーパー執筆の準備として、近年のコストマネジメントに関する研究をレビューするとともに、基礎的な分析方法を修得する。

In this course, students review recent research on cost management and learn basic analysis methods for the purpose of preparing for research paper.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパー執筆の基礎づけとすべく、研究対象とする分野・研究対象に関連する先行研究を整理することが目標である。また、研究対象ごとにどういった分析方法が適切なのか整理し、可能な限り分析方法尾を修得する。そして可能であれば、リサーチペーパーのテーマを設定する。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

講義の前半では先行研究を読み、コストマネジメントに関連する諸問題がどのように分析されているかを学習する。後半では、プロジェクト研究（コストマネジメント）で作成するリサーチペーパーのテーマを設定する。

第1回～第5回

先行研究の全体的なレビュー/Literature review

受講者が選択した分野やテーマに関する先行研究の概要を整理する

第6回～第10回

先行研究の主要な文献に関する詳細な分析・検討/Detailed analysis on closely related literatures

主要な関連研究をいくつかとりあげ、詳細に検討をおこなう

第11回～第15回

リサーチペーパーの具体的な目標設定/Setting the objective of research paper

進捗によるが、可能であればリサーチペーパーの目的を設定する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

平常点 (50%), レポート (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

受講者は指定された文献及び自ら選定した文献を読み、講義中の議論・検討に備えること。文献はその都度指定される。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要となる知識:

- ・管理会計やコストマネジメントに関する知識を持っていることが必須である
- ・経済学と統計学についての基礎的な知識を持っていることが望ましい

その他講義を受講する際注意すべき点:

- ・原則として、リサーチペーパーを書くことを目的に、その基礎を学習することを目的としている
- ・主たる受講者は、会計リサーチコースの学生を想定している
- ・扱う内容等については可能限り早い段階から相談する

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

プロジェクト調査 (コストマネジメント) b/Project Research (Cost Management)b

担当教員 [Instructor]: 松田 康弘/YASUHIRO MATSUDA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC657J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、リサーチペーパー執筆の準備として、近年のコストマネジメントに関する研究をレビューするとともに、基礎的な分析方法を修得する。

In this course, students review recent research on cost management and learn basic analysis methods for the purpose of preparing for research paper.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパー執筆の基礎づけとすべく、研究対象とする分野・研究対象に関連する先行研究を整理することが目標である。また、研究対象ごとにどういった分析方法が適切なのか整理し、可能な限り分析方法尾を修得する。そして可能であれば、リサーチペーパーのテーマを設定する。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

講義の前半では先行研究を読み、コストマネジメントに関連する諸問題がどのように分析されているかを学習する。後半では、プロジェクト研究 (コストマネジメント) で作成するリサーチペーパーのテーマを設定する。

第1回～第5回

先行研究の全体的なレビュー/Literature review

受講者が選択した分野やテーマに関する先行研究の概要を整理する

第6回～第10回

先行研究の主要な文献に関する詳細な分析・検討/Detailed analysis on closely related literatures

主要な関連研究をいくつかとりあげ、詳細に検討をおこなう

第11回～第15回

リサーチペーパーの具体的な目標設定/Setting the objective of research paper

進捗によるが、可能であればリサーチペーパーの目的を設定する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

平常点 (50%), レポート (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

受講者は指定された文献及び自ら選定した文献を読み、講義中の議論・検討に備えること。文献はその都度指定される。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要となる知識:

- ・管理会計やコストマネジメントに関する知識を持っていることが必須である
- ・経済学と統計学についての基礎的な知識を持っていることが望ましい

その他講義を受講する際注意すべき点:

- ・原則として、リサーチペーパーを書くことを目的に、その基礎を学習することを目的としている
- ・主たる受講者は、会計リサーチコースの学生を想定している
- ・扱う内容等については可能限り早い段階から相談する

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

プロジェクト研究（コストマネジメント）a/Project Study (Cost Management)a

担当教員 [Instructor]: 松田 康弘/YASUHIRO MATSUDA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC658J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

この講義では、プロジェクト調査（コストマネジメント）で修得した知識と分析方法に基づき、リサーチペーパーを作成する。
Students will complete research paper based on research methods they have learned before this course. Students are required to set research agenda and proceed research in this course.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

この講義では、プロジェクト調査等で執筆してきた研究の主要な調査や分析及びその結果の考察をおこない、リサーチペーパーの質を改善する。
この講義の最終的な目標は、リサーチペーパーを完成させることである。

3. 授業内容・方法と進度予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第8回

調査・分析の実施/Implementation of investigation and/or research

リサーチペーパーの主たる調査・分析をおこなう

第9回～第12回

調査・分析の結果の考察/Detailed discussion of the result

調査・分析の結果を様々な方向から検討・考察をおこない、リサーチペーパーを完成させる

第13回～第15回

リサーチペーパー発表に向けた準備/Presentation of the result of research paper

最後に発表をおこなう。発表資料を作成すべく、研究結果について議論する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb）については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa）は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

リサーチペーパーの執筆に向けて必要な分析や先行研究の整理を適宜おこなう。

また、リサーチペーパーの完成を目指して執筆し、可能な限り質の高い研究とすることを目指す。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要となる知識:

- ・プロジェクト調査（コストマネジメント）を履修済みであることが必須である
- ・管理会計やコストマネジメントに関する知識が必須である
- ・経済学についての基礎的な知識があることが望ましい
- ・統計学についての基礎的な知識があることが望ましい

その他講義を受講する際注意すべき点:

- ・原則として、プロジェクト調査（コストマネジメント）を履修していることが必要である。
- ・主たる受講者は、会計リサーチコースの学生を想定している。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示

(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etusad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

プロジェクト研究（コストマネジメント）b/Project Study (Cost Management)b

担当教員 [Instructor]: 松田 康弘/YASUHIRO MATSUDA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC659J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

この講義では、プロジェクト調査（コストマネジメント）で修得した知識と分析方法に基づき、リサーチペーパーを作成する。
Students will complete research paper based on research methods they have learned before this course. Students are required to set research agenda and proceed research in this course.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

この講義では、プロジェクト調査等で執筆してきた研究の主要な調査や分析及びその結果の考察をおこない、リサーチペーパーの質を改善する。
この講義の最終的な目標は、リサーチペーパーを完成させることである。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第8回

調査・分析の実施/Implementation of investigation and/or research

リサーチペーパーの主たる調査・分析をおこなう

第9回～第12回

調査・分析の結果の考察/Detailed discussion of the result

調査・分析の結果を様々な方向から検討・考察をおこない、リサーチペーパーを完成させる

第13回～第15回

リサーチペーパー発表に向けた準備/Presentation of the result of research paper

最後に発表をおこなう。発表資料を作成すべく、研究結果について議論する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb）については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa）は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

リサーチペーパーの執筆に向けて必要な分析や先行研究の整理を適宜おこなう。

また、リサーチペーパーの完成を目指して執筆し、可能な限り質の高い研究とすることを目指す。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要となる知識:

- ・プロジェクト調査（コストマネジメント）を履修済みであることが必須である
- ・管理会計やコストマネジメントに関する知識が必須である
- ・経済学についての基礎的な知識があることが望ましい
- ・統計学についての基礎的な知識があることが望ましい

その他講義を受講する際注意すべき点:

- ・原則として、プロジェクト調査（コストマネジメント）を履修していることが必要である。
- ・主たる受講者は、会計リサーチコースの学生を想定している。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示

(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etusasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

プロジェクト調査（コーポレートファイナンス）a/Project Research (Corporate Finance)a

担当教員 [Instructor]: 嘉本 慎介/SHINSUKE KAMOTO

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-MAN604J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本授業では、受講生にコーポレートファイナンスの研究に関する文献を読んでもらいながら、コーポレートファイナンスの研究を行うために必要な知識と研究手法を学習してもらう。また、「プロジェクト研究（コーポレートファイナンス）」で作成するリサーチ・ペーパーに関連する先行研究を収集・調査・整理し、リサーチ・ペーパーの研究分野、目的、方法を提示してもらう。

In this class, students learn about knowledge and research methods to conduct their own research on corporate finance by reading the literature on corporate finance studies. They are also required to survey previous studies and outline their research areas, purposes, and methods in order to write their research papers in the proceeding course.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

コーポレートファイナンスの研究に関するリサーチ・ペーパーの作成に必要な知識と研究手法を修得する。

Students acquire knowledge and research methods to conduct their own research on corporate finance.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

授業の計画/Class Plan:

第1回 オリエンテーション/Orientation

本授業の概要、進め方、成績評価等について説明する。第2回目以降の授業計画は以下を予定している。

第2回-第9回 研究論文の精読と理解/Reading and Understanding research articles

コーポレートファイナンスの研究分野に関する論文を読んでもらい、その内容を報告してもらいながら、研究を行うために必要な基礎知識と研究手法を学習してもらう。

どのような論文を読んでもらうかは受講生と相談して決める。

第10回-第15回 研究主題、目的、方法の設定/Establishing Research Subject, Purpose, and Method

プロジェクト研究（コーポレートファイナンス）で作成するリサーチ・ペーパーに関連する先行研究を収集・調査・整理の作業を行いながら、研究分野に関する理解を深めてもらう。定期的に作業の進捗状況と収集した先行研究の内容をまとめて報告してもらう。「プロジェクト研究（コーポレートファイナンス）」で作成するリサーチ・ペーパーの研究主題、目的、方法について考える。先行研究をまとめるとともに、リサーチ・ペーパーの研究分野、目的、方法を具体的に説明したレポートを提出してもらう。

注意：授業計画は、受講生の理解度、進捗状況、受講生の人数によって変更される場合もある。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

成績評価法：レポート（50%）と平常点（50%）で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

Handbook of Corporate Finance	B. Espen Eckbo	North Holland	2007	9780444508980	参考書
The Theory of Corporate Finance	Jean Tirole	Princeton University Press	2005	0691125562	参考書

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

予習・復習について:

受講生が主体的に取り組むことが求められる講義のため、文献を読むことと報告の準備に相当量の予習・復習が必要となる。

10. その他 [In addition]:

受講のために必要となる知識:

ファイナンスとコーポレートファイナンスに関する基礎知識

ファイナンスとコーポレートファイナンスで用いる数学に関するある程度の知識

ある程度の英語読解力

受講の際に注意すべき点：

この科目は、主として「会計リサーチコース」の学生を対象とする。

受講にあたっては担当教員の承認が必要となる。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて
確認すること（要 東北大 ID）

プロジェクト調査（コーポレートファイナンス）b/Project Research (Corporate Finance)b

担当教員 [Instructor] : 嘉本 慎介/SHINSUKE KAMOTO

曜日・講時 [Day/Period] : 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 1年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-MAN605J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本授業では、受講生にコーポレートファイナンスの研究に関する文献を読んでもらいながら、コーポレートファイナンスの研究を行うために必要な知識と研究手法を学習してもらう。また、「プロジェクト研究（コーポレートファイナンス）」で作成するリサーチ・ペーパーに関連する先行研究を収集・調査・整理し、リサーチ・ペーパーの研究分野、目的、方法を提示してもらう。

In this class, students learn about knowledge and research methods to conduct their own research on corporate finance by reading the literature on corporate finance studies. They are also required to survey previous studies and outline their research areas, purposes, and methods in order to write their research papers in the proceeding course.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

コーポレートファイナンスの研究に関するリサーチ・ペーパーの作成に必要な知識と研究手法を修得する。

Students acquire knowledge and research methods to conduct their own research on corporate finance.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

授業の計画/Class Plan :

第1回 オリエンテーション/Orientation

本授業の概要、進め方、成績評価等について説明する。第2回目以降の授業計画は以下を予定している。

第2回-第9回 研究論文の精読と理解/Reading and Understanding research articles

コーポレートファイナンスの研究分野に関する論文を読んでもらい、その内容を報告してもらいながら、研究を行うために必要な基礎知識と研究手法を学習してもらう。

どのような論文を読んでもらうかは受講生と相談して決める。

第10回-第15回 研究主題、目的、方法の設定/Establishing Research Subject, Purpose, and Method

プロジェクト研究（コーポレートファイナンス）で作成するリサーチ・ペーパーに関連する先行研究を収集・調査・整理の作業を行いながら、研究分野に関する理解を深めてもらう。定期的に作業の進捗状況と収集した先行研究の内容をまとめて報告してもらう。「プロジェクト研究（コーポレートファイナンス）」で作成するリサーチ・ペーパーの研究主題、目的、方法について考える。先行研究をまとめるとともに、リサーチ・ペーパーの研究分野、目的、方法を具体的に説明したレポートを提出してもらう。

注意：授業計画は、受講生の理解度、進捗状況、受講生の人数によって変更される場合もある。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

成績評価法：レポート(50%)と平常点(50%)で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

Handbook of Corporate Finance	B. Espen Eckbo	North Holland	2007	9780444508980	参考書
The Theory of Corporate Finance	Jean Tirole	Princeton University Press	2005	9780691125562	参考書

8. 関連 URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

予習・復習について：

受講生が主体的に取り組むことが求められる講義のため、文献を読むことと報告の準備に相当量の予習・復習が必要となる。

10. その他 [In addition] :

受講のために必要となる知識：

ファイナンスとコーポレートファイナンスに関する基礎知識

ファイナンスとコーポレートファイナンスで用いる数学に関するある程度の知識

ある程度の英語読解力

受講の際に注意すべき点：

この科目は、主として「会計リサーチコース」の学生を対象とする。

受講にあたっては担当教員の承認が必要となる。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて
確認すること（要 東北大 ID）

プロジェクト研究（コーポレートファイナンス）a/Project Study (Corporate Finance)a

担当教員 [Instructor]: 嘉本 慎介/SHINSUKE KAMOTO

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-MAN606J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本授業では、プロジェクト調査 a・b（コーポレートファイナンス）において作成した研究概要をもとに、リサーチ・ペーパーを作成してもらう。

In this class, students write a research paper on the basis of their research outline presented in the previous course.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチ・ペーパーを完成させる。

Students complete their research paper.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

授業の計画/Class Plan:

第1回～第10回 リサーチペーパーの作成/Writing research papers

リサーチ・ペーパーの作成に関する指導と実際の作成作業を行う。

第11回～第15回 リサーチペーパーの発表/Presentation of research papers

作成中のリサーチ・ペーパーについて発表してもらい、その内容について議論と考察を行う。

注意：授業計画は、受講生の理解度、進捗状況、受講生の人数によって変更される場合もある。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb）については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa）は、提出されたリサーチ・ペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

Academic Writing for Graduate Students: Essential Tasks and Skills Swarles, J. M., and Feak, C. B. University of Michigan Press 2022 0472088564 参考書

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

予習・復習について:

受講生が主体的に取り組むことが求められる講義のため、リサーチ・ペーパーの作成や報告の準備等に相当量の予習・復習が必要となる。

10. その他 [In addition]:

受講のために必要となる知識:

プロジェクト調査 a・b（コーポレートファイナンス）を履修して、リサーチ・ペーパーの研究分野、目的、方法を具体的に説明したレポート作成していること。

ファイナンスとコーポレートファイナンスに関する基礎知識

ファイナンスとコーポレートファイナンスで用いる数学に関するある程度の知識

ある程度の英語読解力

受講の際注意すべき点:

この科目は、主として「会計リサーチコース」の学生を対象とする。

プロジェクト調査 a・b（コーポレートファイナンス）を履修していること。

受講にあたっては担当教員の承認が必要となる.

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて
確認すること(要 東北大 ID)

プロジェクト研究（コーポレートファイナンス）b/Project Study (Corporate Finance)b

担当教員 [Instructor]: 嘉本 慎介/SHINSUKE KAMOTO

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-MAN607J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本授業では、プロジェクト調査 a・b（コーポレートファイナンス）において作成した研究概要をもとに、リサーチ・ペーパーを作成する。

In this class, students write a research paper on the basis of their research outline presented in the previous course.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチ・ペーパーを完成させる。

Students complete their research paper.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

授業の計画/Class Plan:

第1回-第10回 リサーチペーパーの作成/Writing research papers

リサーチ・ペーパーの作成に関する指導と実際の作成作業を行う。

第11回-第15回 リサーチペーパーの発表/Presentation of research papers

作成中のリサーチ・ペーパーについて発表してもらい、その内容について議論と考察を行う。

注意: 授業計画は、受講生の理解度、進捗状況、受講生の人数によって変更される場合もある。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb）については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究（標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa）は、提出されたリサーチ・ペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

Academic Writing for Graduate Students: Essential Tasks and Skills Swarles, J. M., and Feak, C. B. University of Michigan Press 2022 0472088564 参考書

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

予習・復習について:

受講生が主体的に取り組むことが求められる講義のため、リサーチ・ペーパーの作成や報告の準備等に相当量の予習・復習が必要となる。

10. その他 [In addition]:

受講のために必要となる知識:

プロジェクト調査 a・b（コーポレートファイナンス）を履修して、リサーチ・ペーパーの研究分野、目的、方法を具体的に説明したレポート作成していること。

ファイナンスとコーポレートファイナンスに関する基礎知識

ファイナンスとコーポレートファイナンスで用いる数学に関するある程度の知識

ある程度の英語読解力

受講の際注意すべき点:

この科目は、主として「会計リサーチコース」の学生を対象とする。

プロジェクト調査 a・b（コーポレートファイナンス）を履修していること。

受講にあたっては担当教員の承認が必要となる.

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて
確認すること(要 東北大 ID)

プロジェクト調査 (監査) a/Project Research (Audit)a

担当教員 [Instructor]: 亀岡 恵理子/ERIKA KAMEOKA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC660J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、受講生が関心をもつ特定のトピックについて、当該トピックに関する知識を身につけ、関連するや監査文献をレビューすることによって、当該トピックに対する深度ある理解を得ることを目的とする。その過程で会計・監査に関する問題意識を育み、必要な文献を収集・精読し、他者にわかりやすく説明し、議論するスキルを身につける。

The course aims to provide a deeper understanding of a specific auditing topic. Students can choose any topic of interest. They will review both practical and academic literature, present their findings in class, and discuss them with other students.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

以下を到達目標とする。

- ・学術コミュニティの一員として、監査トピックに関する学術的知識を得ること
- ・関心あるテーマに関する文献の調査方法を学ぶこと
- ・選択した文献の理解を深め、研究手法と研究プロセスについて理解すること

The learning goals are as follows:

- ・Gain academic knowledge on auditing topics as a member of the academic community.
- ・Learn how to conduct a literature review on topics of interest.
- ・Deepen understanding of selected literature and develop an understanding of research methods and processes.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回 オリエンテーション/Orientation

講義の進め方、興味あるトピックなどについて説明、受講生同士で相談します

第2回 文献選定/Selection of relevant books or articles

文献調査の方法を学び、関心のあるトピックに関連する書籍または論文を選定します

第3～8回 文献輪読/Reading relevant books or articles

文献の担当箇所を読みまとめものを発表してもらい、受講者同士で質疑応答や議論をします

第9回 ショートレポートと報告/Short report and report

第3～8回で学んだ文献調査の結果をショートレポートにまとめ、発表してもらいます

第10～14回 研究デザイン/Develop research design

文献調査に基づき、自らの問題意識をもって研究デザインを組んで調査します

第15回 ファイナルレポートと報告/Final report and report

第10～14回の結果をファイナルレポートにまとめ、発表してもらいます

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

該当しない

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

平常点(100%)によって評価する

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

主に英語文献の調査方法に関心
に応じて紹介する。

8. 関連URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

予習:

各講義、必ず事前に課題(文献レビュー、指定の論文を読むなど)に取り組み、それを報告する資料を用意してきてください。

復習:

各講義、ディスカッションした内容を復習し、必要に応じて資料をアップデートしてください。

10. その他 [In addition]:

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示

(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etusasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

プロジェクト調査 (監査) b/Project Research (Audit)b

担当教員 [Instructor]: 亀岡 恵理子/ERIKO KAMEOKA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC661J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義は、受講生が関心をもつ特定のトピックについて、当該トピックに関する知識を身につけ、関連するや監査文献をレビューすることによって、当該トピックに対する深度ある理解を得ることを目的とする。その過程で会計・監査に関する問題意識を育み、必要な文献を収集・精読し、他者にわかりやすく説明し、議論するスキルを身につける。

The course aims to provide a deeper understanding of a specific auditing topic. Students can choose any topic of interest. They will review both practical and academic literature, present their findings in class, and discuss them with other students.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

以下を到達目標とする。

- ・学術コミュニティの一員として、監査トピックに関する学術的知識を得ること
- ・関心あるテーマに関する文献の調査方法を学ぶこと
- ・選択した文献の理解を深め、研究手法と研究プロセスについて理解すること

The learning goals are as follows:

- ・Gain academic knowledge on auditing topics as a member of the academic community.
- ・Learn how to conduct a literature review on topics of interest.
- ・Deepen understanding of selected literature and develop an understanding of research methods and processes.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回 オリエンテーション/Orientation

講義の進め方、興味あるトピックなどについて説明、受講生同士で相談します

第2回 文献選定/Selection of relevant books or articles

文献調査の方法を学び、関心のあるトピックに関連する書籍または論文を選定します

第3～8回 文献輪読/Reading relevant books or articles

文献の担当箇所を読みまとめものを発表してもらい、受講者同士で質疑応答や議論をします

第9回 ショートレポートと報告/Short report and report

第3～8回で学んだ文献調査の結果をショートレポートにまとめ、発表してもらいます

第10～14回 研究デザイン/Develop research design

文献調査に基づき、自らの問題意識をもって研究デザインを組んで調査します

第15回 ファイナルレポートと報告/Final report and report

第10～14回の結果をファイナルレポートにまとめ、発表してもらいます

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

平常点(100%)によって評価する

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

主に英語文献の調査方法に関心
に応じて紹介する。

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

予習:

各講義、必ず事前に課題(文献レビュー、指定の論文を読むなど)に取り組み、それを報告する資料を用意してきてください。

復習:

各講義、ディスカッションした内容を復習し、必要に応じて資料をアップデートしてください。

10. その他 [In addition]:

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて

確認すること（要 東北大 ID）

プロジェクト研究 (監査) a/Project Study (Audit)a

担当教員 [Instructor]: 亀岡 恵理子/ERIKO KAMEOKA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC662J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、監査に関連するリサーチ・ペーパーの作成を指導する。

In this course, students prepare their own research papers related to auditing.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパーを完成させる。

Write your research paper at a higher level.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回 オリエンテーション/Orientation

- 研究テーマや進捗などについて説明してもらい、授業の進め方を相談します

第2回 研究計画書/Research proposal

- 研究計画書を提出してもらい、研究の全体像の把握、今後必要となる文献や作業の洗い出しをします

第3回 研究動機と研究の重要性の明確化/Clarifying research motivations and importance

- なぜこの研究を行うのか、動機と意義を明確にします

第4回 研究手法/Research methodology

- リサーチペーパーで使用する研究手法について学びます

第5-8回 関連研究のサーベイ/Literature review

- 関連する先行研究の文献リストを作成し、先行研究レビューを踏まえて仮説を導出します (仮説検証型の論文の場合)

第9回 リサーチ・デザイン/Research design

- 研究計画時に作成していたリサーチ・デザインを第4-8回に基づき見直し、アップデートします

第10-14回 データ収集と分析、論文の執筆/Data collection, analysis, writing

- データ収集と分析を行い、結果を論文にまとめていきます

第15回 プレゼンテーション/Presentation

- 完成したリサーチペーパーを発表し、質疑応答します

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb) については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa) は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

予習:

各講義、必ず事前に報告資料を用意してください。

復習:

各講義、ディスカッションした内容を復習し、必要に応じて資料や論文をアップデートしてください。

10. その他 [In addition]:

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

プロジェクト研究 (監査) b/Project Study (Audit)b

担当教員 [Instructor]: 亀岡 恵理子/ERIKO KAMEOKA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC663J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、監査に関連するリサーチ・ペーパーの作成を指導する。

In this course, students prepare their own research papers related to auditing.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチペーパーを完成させる。

Write your research paper at a higher level.

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回 オリエンテーション/Orientation

- 研究テーマや進捗などについて説明してもらい、授業の進め方を相談します

第2回 研究計画書/Research proposal

- 研究計画書を提出してもらい、研究の全体像の把握、今後必要となる文献や作業の洗い出しをします

第3回 研究動機と研究の重要性の明確化/Clarifying research motivations and importance

- なぜこの研究を行うのか、動機と意義を明確にします

第4回 研究手法/Research methodology

- リサーチペーパーで使用する研究手法について学びます

第5-8回 関連研究のサーベイ/Literature review

- 関連する先行研究の文献リストを作成し、先行研究レビューを踏まえて仮説を導出します (仮説検証型の論文の場合)

第9回 リサーチ・デザイン/Research design

- 研究計画時に作成していたリサーチ・デザインを第4-8回に基づき見直し、アップデートします

第10-14回 データ収集と分析、論文の執筆/Data collection, analysis, writing

- データ収集と分析を行い、結果を論文にまとめていきます

第15回 プレゼンテーション/Presentation

- 完成したリサーチペーパーを発表し、質疑応答します

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb) については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期のプロジェクト研究 (標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa) は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

予習:

各講義、必ず事前に報告資料を用意してください。

復習:

各講義、ディスカッションした内容を復習し、必要に応じて資料や論文をアップデートしてください。

10. その他 [In addition]:

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

プロジェクト調査（法人税法）a/Project Research (Corporate Tax Law)a

担当教員 [Instructor]: 原 正子/MASAKO HARA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 1年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-LAW641J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、法人税法に関するリサーチ・ペーパー作成に向け、各種の研究文献等の資料の収集・整理・検討及びそれに基づくレポート・討議を通じて、研究テーマを設定し、リサーチ・ペーパーの枠組みを立案する。

In this course, in order to prepare a research paper on corporation tax law, each student will set research themes and draft a framework for the research paper through collection, arrangement, and amination of various research documents and other materials, and reports and discussions based on the collection.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチ・ペーパー執筆の前提となる税法知識、情報収集の仕方、論文作成方法等を習得の上、判例研究や先行研究のレビューを行い、研究テーマを設定することを目標とする。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第5回 各種の研究文献等の収集方法の理解/Understanding how to collect various research documents and other materials

各種の研究文献等の収集方法について概説する。

第6回～第10回 判例研究/Judicial precedents study

判例研究を実施する。

第11回～第15回 先行研究のレビュー/Review of Key studies

先行研究のレビューを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

平常点 (50%)、レポート (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

租税法〔第24版〕	金子宏	弘文堂	2021	978-4-335-31555-8	参考書
税法の読み方判例の見方改訂第三版	伊藤義一	TKC出版	2014	978-4-905467-15-1	参考書
租税法修士論文の書き方	細川健	白桃書房	2020	978-4-561-45181-5	参考書

8. 関連URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

<予習>

・参考文献等を自ら探し、それを基に検討を行い、成果をレポートとしてまとめる。

<復習>

・指導事項等を再確認し、その後の取組みに適切に反映させる。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要とする知識:

租税法一般及び法人税法の基礎的理論に関する知識を有していること。

なお、この科目は、原則として「会計リサーチコース」の履修者を対象とし、受講者の知識、理解度及び研究テーマ案などに応じて、受講者と相談しながら進めていく。

受講生は、自らの研究テーマ案に関する文献等を収集・整理・検討し、レポートを作成する（最低3回）。講義では、受講者が自らのレポートについて説明を行い、それを基に受講生全員及び教員で討議する。この一連の過程を通じて、研究テーマを設定し、リサーチ・ペーパーの枠組みを立案する。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomコード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

プロジェクト調査（法人税法）b/Project Research (Corporate Tax Law)b

担当教員 [Instructor] : 未定/TBD

曜日・講時 [Day/Period] : 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 1年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW642J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、法人税法に関するリサーチ・ペーパー作成に向け、各種の研究文献等の資料の収集・整理・検討及びそれに基づくレポート・討議を通じて、研究テーマを設定し、リサーチ・ペーパーの枠組みを立案する。

In this course, in order to prepare a research paper on corporation tax law, each student will set research themes and draft a framework for the research paper through collection, arrangement, and amination of various research documents and other materials, and reports and discussions based on the collection.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

リサーチ・ペーパー執筆の前提となる税法知識、情報収集の仕方、論文作成方法等を習得の上、判例研究や先行研究のレビューを行い、研究テーマを設定することを目標とする。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回～第5回 各種の研究文献等の収集方法の理解/Understanding how to collect various research documents and other materials

各種の研究文献等の収集方法について概説する。

第6回～第10回 判例研究/Judicial precedents study

判例研究を実施する。

第11回～第15回 先行研究のレビュー/Review of Key studies

先行研究のレビューを実施する。

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

平常点 (50%)、レポート (50%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

租税法〔第24版〕	金子宏	弘文堂	2021	978-4-335-31555-8	参考書
税法の読み方判例の見方改訂第三版	伊藤義一	TKC出版	2014	978-4-905467-15-1	参考書
租税法修士論文の書き方	細川健	白桃書房	2020	978-4-561-45181-5	参考書

8. 関連URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

<予習>

・参考文献等を自ら探し、それを基に検討を行い、成果をレポートとしてまとめる。

<復習>

・指導事項等を再確認し、その後の取組みに適切に反映させる。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要とする知識：

租税法一般及び法人税法の基礎的理論に関する知識を有していること。

なお、この科目は、原則として「会計リサーチコース」の履修者を対象とし、受講者の知識、理解度及び研究テーマ案などに応じて、受講者と相談しながら進めていく。

受講生は、自らの研究テーマ案に関する文献等を収集・整理・検討し、レポートを作成する（最低3回）。講義では、受講者が自らのレポートについて説明を行い、それを基に受講生全員及び教員で討議する。この一連の過程を通じて、研究テーマを設定し、リサーチ・ペーパーの枠組みを立案する。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomコード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

プロジェクト研究 (法人税法) a / Project Study (Corporate Tax Law) a

担当教員 [Instructor]: 原 正子 / MASAKO HARA

曜日・講時 [Day/Period]: 前期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants]: 2年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-LAW643J, 単位数 [Credit(s)]: 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

本講義では、各自が前期までに行ってきた準備を基にして、法人税法に関するリサーチ・ペーパーを作成し、完成させる。
In this course, each student will create and complete a research paper on corporation tax law based on the preparations they have made up to the previous term.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期の履修者 (主に4月入学生) は先行研究のレビュー、判例分析等による考察に基づきリサーチ・ペーパーの執筆を進める。

リサーチ・ペーパーを提出する学期の履修者 (主に10月入学生) は研究をとりまとめリサーチ・ペーパーを完成させる。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回～第15回

講義は、リサーチ・ペーパーの進捗状況に応じて、受講者と相談しながら進めていく。

Lectures will be held in consultation with the student, depending on the progress of the research paper.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

リサーチ・ペーパーを提出しない学期 (標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb) のプロジェクト研究については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期 (標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa) のプロジェクト研究は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

租税法〔第24版〕	金子宏	弘文堂	2021	978-4-335-31555-8	参考書
税法の読み方判例の見方改訂第三版	伊藤義一	TKC出版	2014	978-4-905467-15-1	参考書
租税法修士論文の書き方	細川健	白桃書房	2020	978-4-561-45181-5	参考書

8. 関連URL [URL]:

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review]:

<予習>

・参考文献等を自ら探し、それを基に考察し、リサーチペーパーの執筆を進める。

<復習>

・指導事項等を再確認し、その後の取組みに適切に反映させる。

10. その他 [In addition]:

この講義を受講するために必要となる知識等:

・原則として「会計リサーチコース」に所属しており、「プロジェクト調査 (法人税法) a・b」を受講済であること。

・講義は、受講生がその時点でのリサーチ・ペーパーの進捗状況・内容を報告し、教員がコメント、アドバイスを行うという形で進める。各受講者の具体的な報告日程については、随時相談の上で決定する。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomコード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧 (シラバス補遺)」にて確認すること (要 東北大 ID)

プロジェクト研究（法人税法）b/Project Study (Corporate Tax Law) b

担当教員 [Instructor] : 未定/TBD

曜日・講時 [Day/Period] : 後期集中 その他 連講

対象学年 [Eligible Participants] : 2年

科目ナンバリング [Course Numbering] : EAC-LAW644J, 単位数 [Credit(s)] : 2

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class] :

本講義では、各自が前期までに行ってきた準備を基にして、法人税法に関するリサーチ・ペーパーを作成し、完成させる。
In this course, each student will create and complete a research paper on corporation tax law based on the preparations they have made up to the previous term.

2. 学修の到達目標 [Goal of study] :

リサーチ・ペーパーを提出しない学期の履修生（主に10月入学生）は先行研究のレビュー、判例分析等による考察に基づきリサーチ・ペーパーの執筆を進める。

リサーチ・ペーパーを提出する学期の履修生（主に4月入学生）は研究をとりまとめリサーチ・ペーパーを完成させる。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class] :

第1回～第15回

講義は、リサーチ・ペーパーの進捗状況に応じて、受講者と相談しながら進めていく。

Lectures will be held in consultation with the student, depending on the progress of the research paper.

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

○

5. 使用言語 [Language Used in Course] :

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method] :

リサーチ・ペーパーを提出しない学期（標準的履修の場合、4月入学者はa、10月入学者はb）のプロジェクト研究については、リサーチ・ペーパーの準備状況にもとづいて評価する。

リサーチ・ペーパーを提出する学期（標準的履修の場合、4月入学者はb、10月入学者はa）のプロジェクト研究は、提出されたリサーチペーパーに対する会計大学院運営委員会が指名する教員2名による審査及び最終試験にもとづいて評価する。詳細については「会計大学院における履修・課程修了についての補足規定」を確認すること。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references] :

租税法〔第24版〕	金子宏	弘文堂	2021	978-4-335-31555-8	参考書
税法の読み方判例の見方改訂第三版	伊藤義一	TKC出版	2014	978-4-905467-15-1	参考書
租税法修士論文の書き方	細川健	白桃書房	2020	978-4-561-45181-5	参考書

8. 関連URL [URL] :

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

<予習>

・参考文献等を自ら探し、それを基に考察し、リサーチペーパーの執筆を進める。

<復習>

・指導事項等を再確認し、その後の取組みに適切に反映させる。

10. その他 [In addition] :

この講義を受講するために必要となる知識等:

・本講義は会計リサーチコースに所属しており、「プロジェクト調査（法人税法）a・b」を受講済であることが履修の状況となる

・講義は、受講生がその時点でのリサーチ・ペーパーの進捗状況・内容を報告し、教員がコメント、アドバイスをを行うという形で進める。各受講者の具体的な報告日程については、随時相談の上で決定する。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroomコード等については、会計大学院学内掲示 (<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>) 内の講義関連情報にある「授業方法一覧（シラバス補遺）」にて確認すること（要 東北大 ID）

会計・監査実務／Accounting and auditing practice

担当教員 [Instructor]: 木村 史彦／FUMIHIKO KIMURA

曜日・講時 [Day/Period]: 後期 木曜日 7 講時

対象学年 [Eligible Participants]: 全学年

科目ナンバリング [Course Numbering]: EAC-ACC513J, 単位数 [Credit(s)]: 1

1. 授業の目的と概要 [Object and summary of class]:

公認会計士として必要とされる財務会計・管理会計・監査に関する基礎的な知識を学ぶ。

The purpose of this class is to learn the basic knowledge of financial accounting, management accounting, and auditing necessary to CPA.

2. 学修の到達目標 [Goal of study]:

公認会計士として必要とされる財務会計・管理会計・監査に関する基礎的な知識を獲得する。

3. 授業内容・方法と進捗予定 [Contents and progress schedule of the class]:

第1回: 連結会計 (第1回) / Consolidated Accounting 01

連結会計がなぜ世界に先駆けて米国において生成・発展したのかについて講義する。

第2回: 連結会計 (第2回) / Consolidated Accounting 02

連結基礎概念に基づく会計処理について、それぞれの考え方の基礎にある考え方について講義する。

第3回: 連結会計 (第3回) / Consolidated Accounting 02

国際会計基準と日本の連結会計基準との相違について講義する。

第4回: 財務報告の概念フレームワーク (第1回) / Conceptual Framework of Financial Report 01

アメリカにおける FASB の活動などを題材として、基準設定における概念フレームワークの発展過程を考察する

第5回: 財務報告の概念フレームワーク (第2回) / Conceptual Framework of Financial Report 02

IFRS における概念フレームワークについて考察する

第6回: 財務報告の概念フレームワーク (第3回) / Conceptual Framework of Financial Report 03

ASBJ が 2006 年に公表した「討議資料 財務会計の概念フレームワーク」の内容及び特徴点を検討する。

第7回: 管理会計総論 (第1回) / General Remarks of Management Accounting 01

管理会計とは何か、その領域と体系、財務会計との相違点などについて講義を行う。

第8回: 管理会計総論 (第2回) / General Remarks of Management Accounting 02

ERP の原価計算の内容について説明する。

第9回: 管理会計総論 (第3回) / General Remarks of Management Accounting 03

年次の利益計画と予算管理について講義を行う

第10回: 監査規範 (第1回) / Norms of Audit 01

わが国における証券取引法監査導入前の流れについて検討する

第11回: 監査規範 (第2回) / Norms of Audit 02

わが国における証券取引法監査導入後の流れについて検討する。

第12回: 監査規範 (第3回) / Norms of Audit 03

リスク・アプローチの導入と拡充について学習する

第13回: 会計倫理 (第1回) / Accounting Ethics 01

会計倫理の基本的枠組みについて学習する

第14回: 会計倫理 (第2回) / Accounting Ethics 02

会計倫理に関する制度的な枠組みとして、わが国の公認会計士協会の「倫理規則」を中心に概説する

第15回: 会計倫理 (第3回) / Accounting Ethics 03

違法行為と品質管理にかかる規則等の適用について学習する

4. 実務・実践的授業 [Practical business]

5. 使用言語 [Language Used in Course]:

日本語

6. 成績評価方法 [Evaluation method]:

オンライン動画視聴 (出席) を単位認定の【前提】とし、そのうえでアサインメント (100%) で評価する。

7. 教科書および参考書 [Textbook and references]:

8. 関連 URL [URL]:

クラスルームを通じて動画を配信します。

<https://classroom.google.com/c/NzQ5MjQ5OTk00TU5?cjc=fndzsz7>

9. 授業時間外学修 [Preparation and Review] :

第1回

予習: 講義資料の該当箇所を目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第2回

予習: 講義資料の該当箇所を目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第3回

予習: 講義資料の該当箇所を目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第4回

予習: 講義資料の該当箇所を目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第5回

予習: 講義資料の該当箇所を目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第6回

予習: 講義資料の該当箇所を目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第7回

予習: 講義資料の該当箇所を目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第8回

予習: 講義資料の該当箇所を目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第9回

予習: 講義資料の該当箇所を目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第10回

予習: 講義資料の該当箇所を目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第11回

予習: 講義資料の該当箇所を目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第12回

予習: 講義資料の該当箇所を目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第13回

予習: 講義資料の該当箇所を目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第14回

予習: 講義資料の該当箇所を目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

第15回

予習: 講義資料の該当箇所を目を通し, 不明な点を明らかにする.

復習: 講義中に指定される課題に取り組む.

10. その他 [In addition] :

- ・会計大学院協会と会計教育研究機構が共同で作成した「教材」をオンラインで学習する。
(担当はすべて本学以外の教員によるオンデマンド動画である)
- ・本科目は【1単位】科目であり、また【関連科目】となるので注意してほしい。
- ・この講義を受講すると公認会計士試験合格後の実務補修が一部免除される。ただし、1コマでも受講しない場合には、実務補修の一部免除が受けられなくなる。
- ・教材が会計大学院協会と会計教育研究機構から提供されるため、シラバスの内容が変更される可能性がある。変更が行われる場合には随時説明をしていく。
- ・連携機関と共同で実施する講義であることから、受講方法等について変更となる可能性もある。

授業方法の詳細、オフィスアワー、Classroom コード等については、会計大学院学内掲示
(<https://www2.econ.tohoku.ac.jp/%7Etuasad/keiji.html>)内の講義関連情報にある「授業方法一覧(シラバス補遺)」にて確認すること(要 東北大 ID)